このたびは、スズキ　スイフト　を
お買い求めいただきありがとうございます。

ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お車の取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよくお読みいただき、いつまでも快適なカーライフをお楽しみください。

- 本書は、お車の取扱いや万一のときの処置などについて説明しています。
- 「**必読！ 安全なドライブのために**」は、とくに重要な項目です。しっかりお読みください。
- 本書では、次の記号を使用しています。
  ⚠警告 、⚠注意 、注 記 、アドバイス は、とくにしっかりお読みください。

⚠警告	**取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害につながるおそれがある内容です。**
⚠注意	**取扱いを誤ると、傷害につながるおそれがある内容です。**
注 記	**取扱いを誤ると、物的損害につながるおそれがある内容です。**
アドバイス	お車を使ううえで知っておいていただきたい、または知っておくと便利な内容です。

- イラストの中で「✕」の記号があるときは、図示されている行為の禁止を示しています。

- 保証や点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。本書とあわせてお読みください。
- 本書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管してください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書とメンテナンスノートをお車につけてお渡しください。
- 限定車の装備品や、スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 車の仕様などの変更により、本書の内容やイラストとお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご不明な点は、担当セールススタッフにおたずねください。

ご愛車に関するメモ

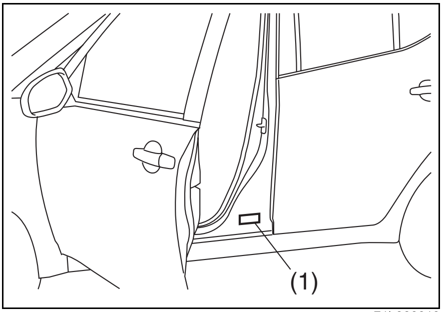
記入される記号・番号は、車検証、IDプレートをご覧ください。

ご　愛　車　の　メ　モ	
車名および車両型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	□K12B型 □M16A型
車体色記号	
営業機種記号	
トランスミッション	□マニュアルミッション □オートマチックミッション(※)
ナンバープレート(自動車登録番号)	
ご購入年月日	年　月　日

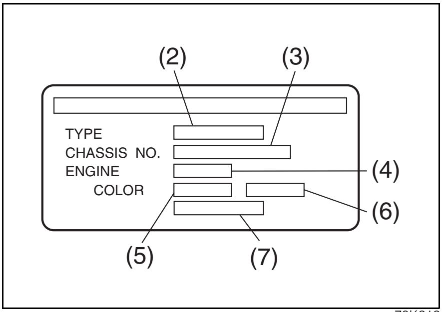
※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

IDプレート（1）

助手席ドアを開いた所に貼付してあります。



71L020010



70K212

(2) 車両型式　(3) 車台番号
(4) エンジン型式　(5) 車体色記号
(6) 車体色と内装色の組み合せコード
(7) 営業機種記号（補助記号）

総　合　目　次

1　イラストもくじ

イラストもくじ …………………… 1-2

警告ブザーが鳴ったときは …………………… 1-9

2　必読！安全なドライブのために

必読！ 安全なドライブのために …………………… 2-2

3　運転する前に

ドアの開閉 …………………… 3-2

警報装置 …………………… 3-15

ウインドーの開閉 …………………… 3-18

各部の調節 …………………… 3-22

シートの調節 …………………… 3-25

シートベルト …………………… 3-34

SRSエアバッグ …………………… 3-47

メーター …………………… 3-59

スイッチの使いかた …………………… 3-74

4　運転するときは

エンジン始動 …………………… 4-2

パーキングブレーキ …………………… 4-12

チェンジレバー …………………… 4-13

オートマチック車 …………………… 4-14

クルーズコントロール …………………… 4-25

ABS …………………… 4-28

ESP® …………………… 4-31

アイドリングストップシステム …………………… 4-35

5 装備の取扱い

エアコン、ヒーター …… 5-2
オーディオ …… 5-10
その他の装備 …… 5-43

6 お車との上手なつきあいかた

お手入れ …… 6-2
寒冷時の取扱い …… 6-7

7 万一のとき

パンク …… 7-2
バッテリーあがり …… 7-18
ヒューズ切れ …… 7-20
電球切れ …… 7-25
オーバーヒート …… 7-31
その他 …… 7-32

8 サービスデータ

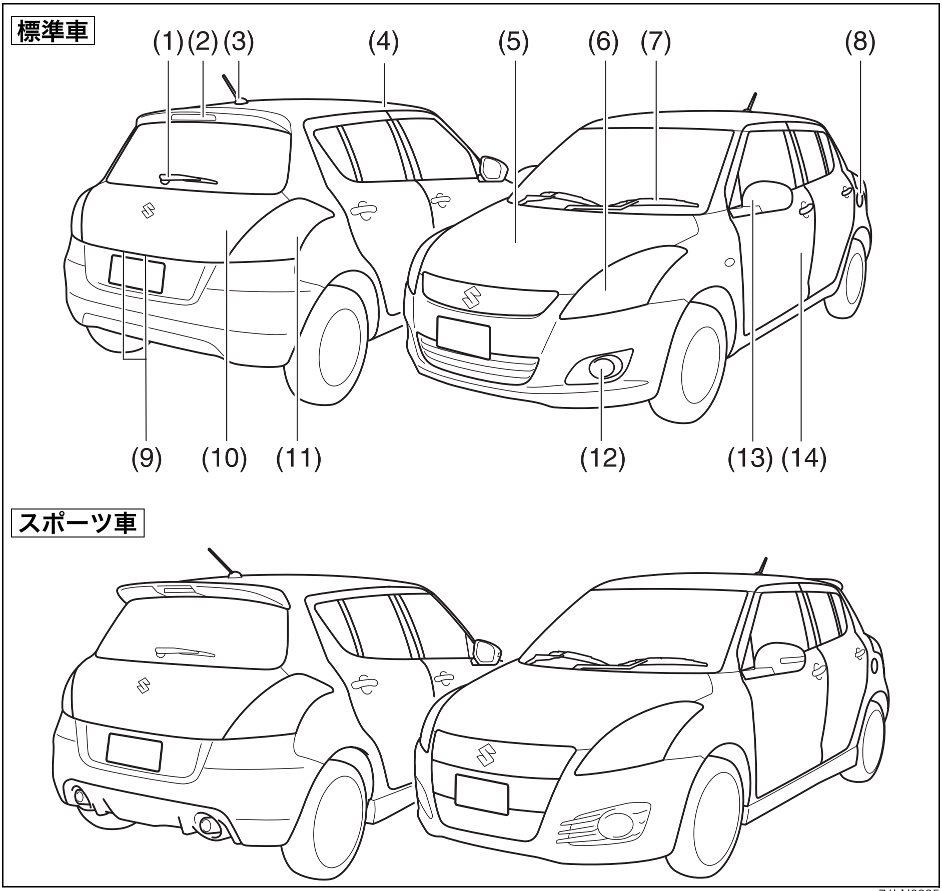
サービスデータ …… 8-1

9 さくいん

さくいん …… 9-1

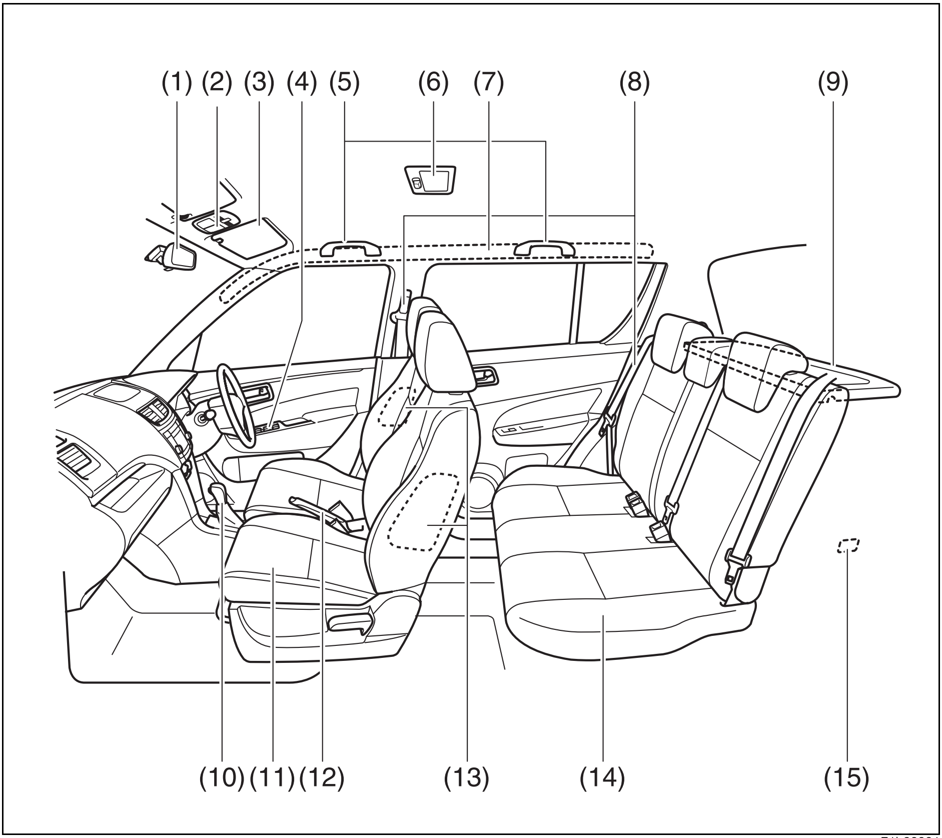
イラストもくじ

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。



71LN0005

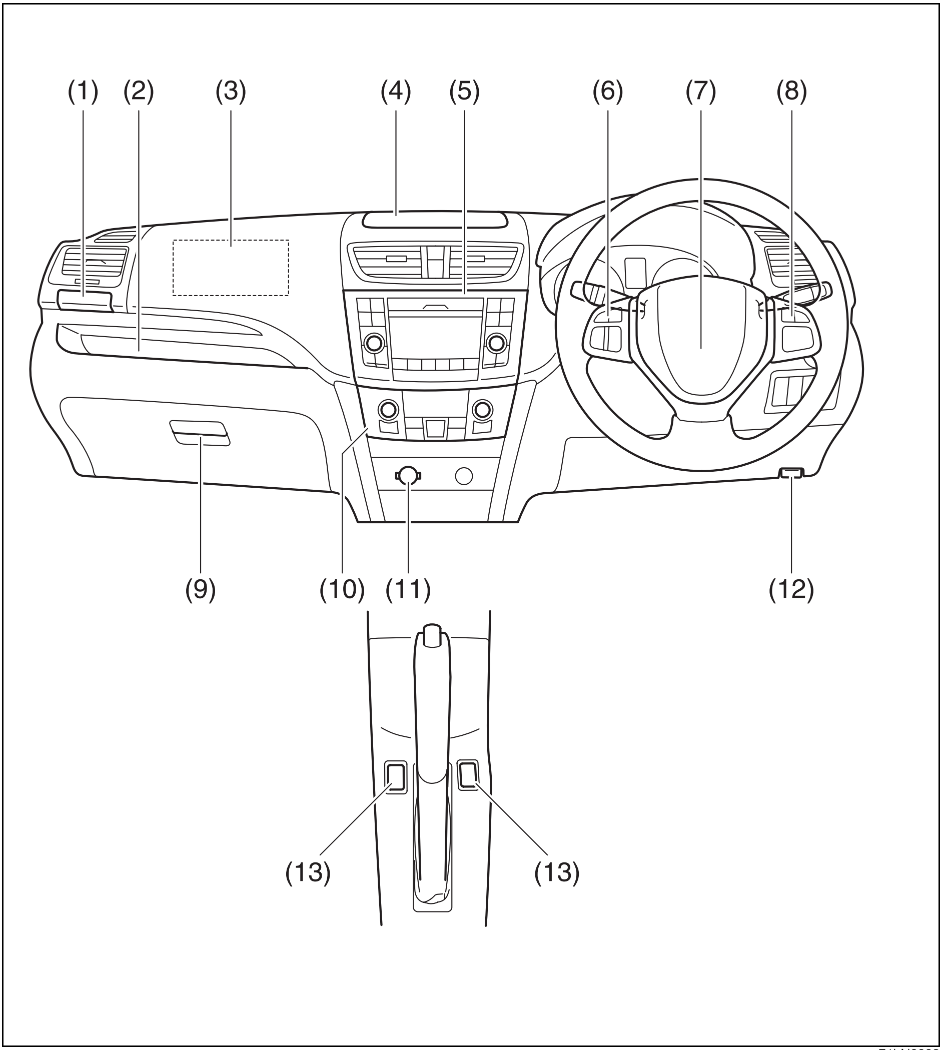
(1)　リヤワイパー・・・・・・・・・・・・3-80
(2)　ハイマウントストップランプ・・・・・・・・・・・・・・・・7-30
(3)　アンテナ　・・・・・・・・・・・・・・5-11
(4)　ルーフモールカバー　・・・・5-59
(5)　ボンネット　・・・・・・・・・・・・5-44
(6)　ヘッドライト・・・・・ 3-74、7-26
(7)　フロントワイパー・・・・・・・3-80
(8)　燃料給油口（フューエルリッド）・・・・・5-43
(9)　番号灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-29
(10) バックドア ・・・・・・・・・・・・・ 3-4
(11) リヤコンビネーションランプ ・・・・・・・・・・・・・・ 7-29
(12) フォグランプ ・・・・ 3-77、7-27
(13) ドアミラー ・・・・・・・・・・・・ 3-22
(14) ドア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-3



71L20001

(1)　ルームミラー ･･････････3-22
(2)　フロントマップランプ ･･5-49
(3)　サンバイザー ･･････････5-46
(4)　ドアミラー角度調節
　　スイッチ ････････････3-22
　ドアミラー格納スイッチ ･･･3-23
　パワーウインドー
　　スイッチ ････････････3-18
(5)　アシストグリップ ･･････5-56
(6)　室内灯 ････････････････5-47
(7)　SRSカーテン
　　エアバッグ ･･････････3-48
(8)　シートベルト ･･････････3-34
(9)　ラゲッジシェルフ
　　（荷室カバー）････････ 5-58
(10) セレクトレバー
　　（オートマチック車）････ 4-14
　チェンジレバー
　　（マニュアル車）･･･････ 4-13
　クラッチスタートシステム
　　（マニュアル車）･････････4-9
(11) 前席シート ･･･････････ 3-25
(12) パーキングブレーキ ････ 4-12
(13) SRSサイドエアバッグ ･･ 3-47
(14) 後席シート ･･･････････ 3-28
(15) ラゲッジルームランプ ･･ 5-48

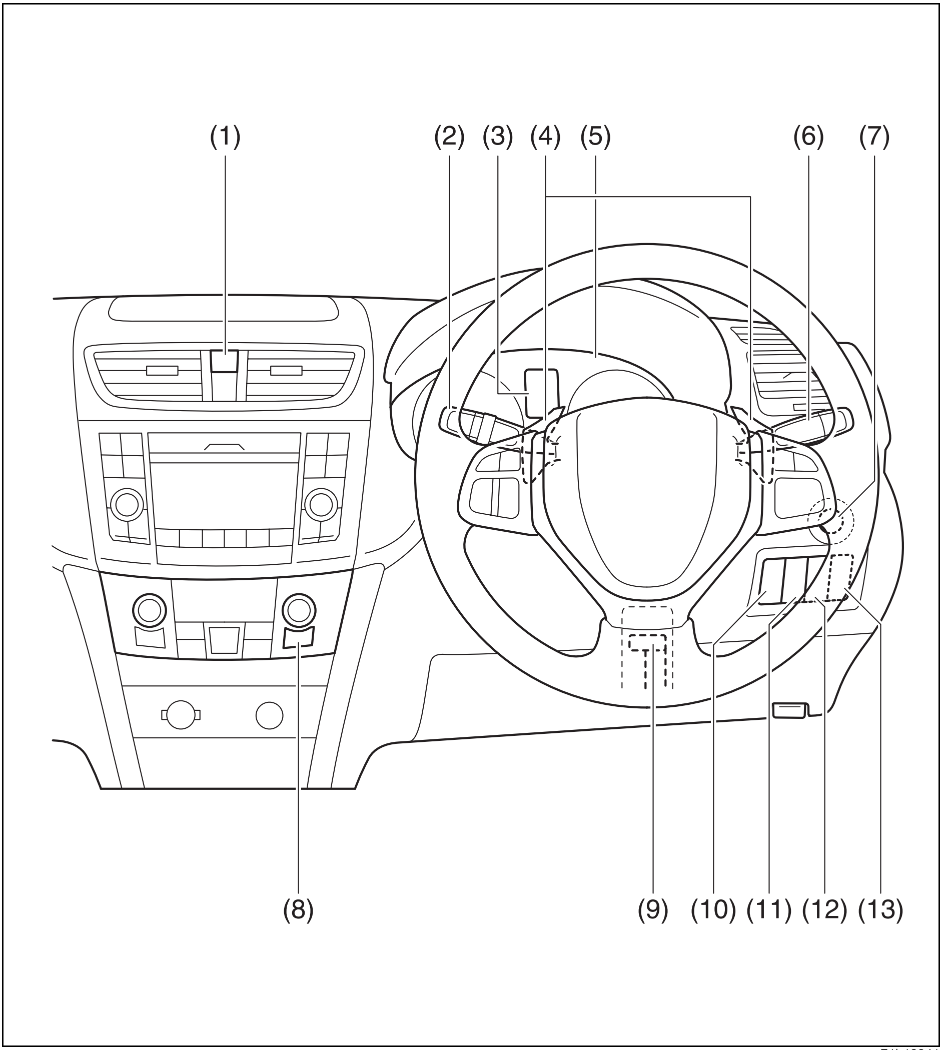
お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。



（1）　助手席ドリンクホルダー
（プッシュ式）･････････5-52
（2）　インパネトレー
（助手席）･････････････5-51
（3）　助手席SRSエアバッグ ･･3-47
（4）　インパネアッパー
ボックス ･････････････5-50
（5）　オーディオ ･････････････5-10
（6）　ステアリングオーディオ
スイッチ ･････････････5-41
（7）　運転席SRSエアバッグ･･ 3-47
ホーンスイッチ ･･････ 3-81
（8）　クルーズコントロール
スイッチ ･････････････4-26
（9）　グローブボックス ･････ 5-51
（10）エアコン、ヒーター ･･････5-2
（11）アクセサリーソケット ･･ 5-49
（12）ボンネットオープナー ･･ 5-44
（13）シートヒーター
スイッチ ････････････ 3-27

1

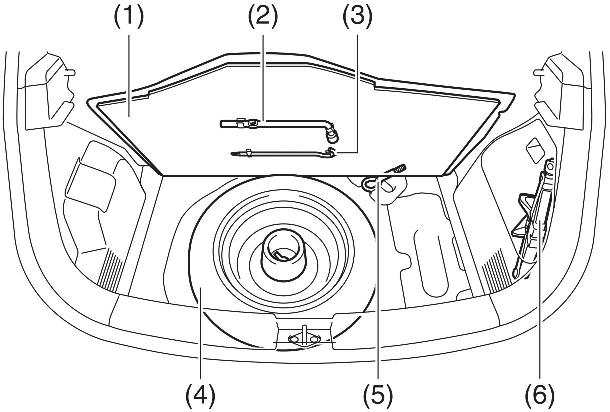
お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。



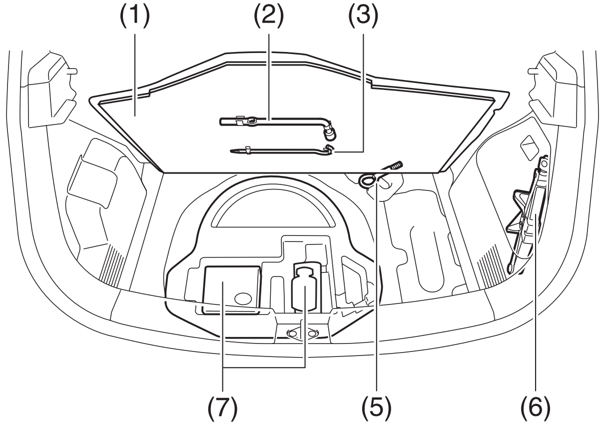
（1） 非常点滅表示灯
スイッチ ･････････････3-79
（2） ワイパー／ウォッシャー
スイッチ ･････････････3-79
（3） インフォメーション
ディスプレイ ･････････3-69
（4） パドルシフトスイッチ ･･4-17
（5） メーター ･･･････････････3-59
警告灯･表示灯 ･･････････3-61
（6） ライトスイッチ ･････････3-74
方向指示器スイッチ ････3-78
（7） エンジンスイッチ ････････ 4-2
（8） リヤデフォッガースイッチ
･･････････････････････ 3-81
ドアミラーヒータースイッチ
･･････････････････････ 3-24
デアイサースイッチ ････3-82
（9） テレスコピック＆チルト
ステアリング ･････････ 3-24
（10）ESP® OFFスイッチ ････ 4-33
（11）ENG A-STOP OFF
スイッチ ･････････････ 4-39
（12）フォグランプ
スイッチ ･････････････ 3-77
（13）光軸調整ダイヤル ･････ 3-77

下のイラストは、フロアボードを持ち上げた状態です。

標準車



スポーツ車

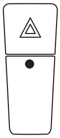
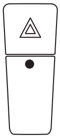


71LN0004

(1)　フロアボード・・・・・・・・・・・・・7-2
(2)　ホイールナットレンチ・・・・7-2
(3)　ジャッキバー・・・・・・・・・・・・・7-2
(4)　応急用スペアタイヤ・・・・・・7-3
(5)　けん引フック ・・・・・・7-2、7-34
(6)　ジャッキ ・・・・・・・・・・・・ 7-2、7-6
(7)　タイヤパンク応急
　　　修理セット ・・・・・・・・・・・ 7-11

警告ブザーが鳴ったときは

■ 全車共通

いつ	ブザー音	メーター／インパネ	原因と対処方法
いずれかのドアを開けたとき	ピー、ピー、（約10秒間、室内ブザー）	 2秒間隔で点滅	セキュリティアラームの警報が作動しています。エンジンスイッチを ON にすると、警報を途中で停止できます。 →　**3-15ページ（セキュリティアラーム）**
エンジンスイッチを ON にしたとき	ピー、ピー、（4回、室内ブザー）	 約8秒間小刻みに点滅	駐車時にセキュリティアラームの警報が作動したことを示しています。盗難にあっていないか車の中を確認してください。 →　**3-15ページ（セキュリティアラーム）**
エンジンスイッチが ON のとき	ポーン（1回、室内ブザー）	点灯	燃料の残量が少なくなっています。すみやかに給油してください。 →　**3-63ページ（燃料残量警告灯）**
エンジンをかけようとしたとき	ピー、ピー、（約2秒間、室内／車外ブザー）	点滅	携帯リモコンが車内にない、またはリモコンの電池切れが考えられます。リモコンを車内にもどすか、リモコンをエンジンスイッチにあててください。 →　**4-7ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）** →　**4-8ページ（エンジンのかけかた）**
すべてのドアを閉めたとき			

警告ブザーが鳴ったときは

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
走行中	ピー、ピー、(約95秒間、室内ブザー)	 点滅	運転者がシートベルトを着用していません。安全な場所に停車して、ベルトを着用してください。 → **3-35ページ (シートベルト警告ブザー)**
	ピピピッ、ピピピッ、(室内ブザー)	 点灯	パーキングブレーキが解除されていません。パーキングブレーキを解除してください。 → **4-13ページ (パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー)**
	ポーン(1回、室内ブザー)	 点灯	いずれかのドアが完全に閉まっていません。安全な場所に停車して、完全に閉めてください。 → **3-67ページ（半ドア警告灯）**
運転席ドアを開けたとき	ピーーー(室内ブザー)	–	ヘッドライトや車幅灯が点灯しています。これらを消してください。 → **3-75ページ (ライト消し忘れ警告ブザー)**
	ピッ、ピッ、(室内ブザー)	–	故障などで、エンジンスイッチを LOCK (OFF) にもどしていずれかのドアを開けてもハンドルがロックされていません。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → **4-12ページ (ハンドルロック未作動警告ブザー)**
	ピー、ピー、(室内ブザー)	ACC 点灯	エンジンスイッチが ACC になっています。LOCK （OFF）にもどしてください。 → **4-12ページ (エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー)**
リクエストスイッチを押したとき	ピー(約2秒間、車外ブザー)	ACC ON いずれか点灯	エンジンスイッチが ACC または ON になっています。LOCK （OFF）にもどしてください。 → **3-13ページ (リクエストスイッチ未作動警告ブザー)**
		–	携帯リモコンが車内にあります。リモコンを車外に持ち出してください。
		 点灯	いずれかのドアが完全に閉まっていません。完全に閉めてください。

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
携帯リモコンのロックスイッチを押したとき	ピー (約2秒間、車外ブザー)	 点灯	いずれかのドアが完全に閉まっていません。完全に閉めてください。 → **3-8ページ(キーレスエントリー)**

■ オートマチック車のみ

いつ	ブザー音 (室内ブザー)	メーター	原因と対処方法
停車中/後退中	ピー、ピー、	 表示	セレクトレバーが R に入っています。セレクトレバーの位置を確認してください。 → **4-20ページ(R (リバース)ポジション警告ブザー)**

■ マニュアルモード付CVT車のみ

いつ	ブザー音 (室内ブザー)	メーター	原因と対処方法
パドルシフトスイッチを操作したとき	ピピッ	—	走行性能を確保するため、またはトランスミッション保護のため、希望するギヤポジションに変速されていません。適切な車速に調節してください。

■ アイドリングストップシステム装備車のみ

→ **4-35ページ（アイドリングストップシステム）**

いつ	ブザー音（室内ブザー）	メーター	原因と対処方法
エンジンの自動停止中	ピー、ピー（2回）	ENG A-STOP オレンジ色に点灯	本システムの異常を検出したので、安全のため通常のエンジン停止状態（※）になりました。エンジンは自動再始動しませんので、エンジンスイッチを操作して再始動し、スズキサービス工場で点検を受けてください。
		–	ボンネットが開いたので、安全のため通常のエンジン停止状態になりました。エンジンは自動再始動しませんので、次の手順で対処してください。 ①ボンネットを完全に閉める ②エンジンスイッチを操作して再始動する
	ピー、ピー、	点灯	運転席シートベルトを外し、運転席ドアを開けています。ドアを閉め、ベルトを着用してください。

※通常のエンジン停止状態になると、上記以外にも次の警告灯が点灯します。

- パワーステアリング警告灯、油圧警告灯、充電警告灯

→ **3-61ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

2. 必読！
安全なドライブのために

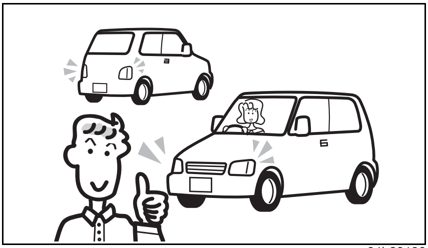
とくに重要な項目ですのでしっかりお読みください。

安全運転が第一
お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

出発の前に（お車の確認）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-2
荷物を積むときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-4
お子さまを乗せるときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-5
運転席に座って・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-9
エンジンをかけるときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-11
走行するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-12
駐車するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-17
給油するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-20
オートマチック車を運転するときは・・・・・・・・・・・・・・ 2-21
SRSエアバッグ車を運転するときは・・・・・・・・・・・・・・ 2-23
4WD車を運転するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-25
こんなことにも注意して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-26
エコドライブをしましょう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-30

出発の前に（お車の確認）

日常点検を確実に

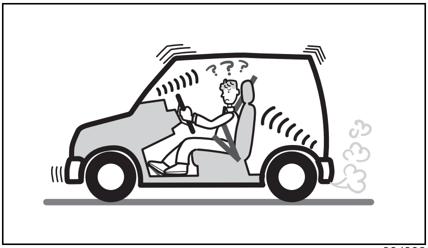


64L20180

車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。

→　**メンテナンスノート（日常点検）**

こんな症状に気づいたときは



80J009

⚠注意

次のような場合はスズキサービス工場で点検を受けてください。

- **地面に油や液の漏れたあとが残っている**
- **ブレーキ液が不足している**
- **いつもと違うにおい、音、振動がある**
- **ハンドルやブレーキを操作したときの感じがいつもと違う**

車検を受けるときの注意

ESP® 装備車をテスターに載せる場合は、次のことをお守りください。

- ESP® OFFスイッチを操作して、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールを作動停止の状態にします。

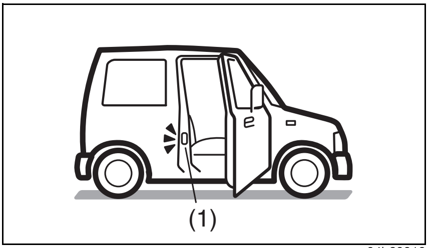
  →　**4-33ページ（ESP® OFFスイッチ）**

詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

タイヤの空気圧をチェック

- 定期的に点検・調整してください。この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」（1）で確認できます。

  →　**メンテナンスノート（日常点検）**

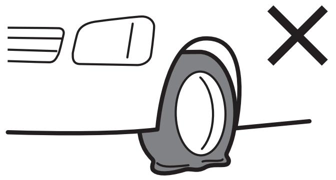


64L20010

- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。
- 偏平タイヤ（185/55R16 83V, 195/45R17 81W）は、見た目では空気圧の不足がわかりにくいので注意が必要です。

⚠警告

空気圧が極端に低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。



⚠注意

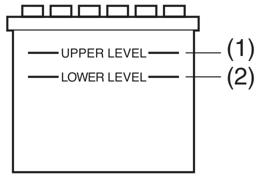
指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。

- **走行安定性が悪化する**
- **ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる**
- **ABSおよびESP®（タイプ別装備）の場合、正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって正常に作動しなくなる**
- **4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえる**

バッテリーの液面を点検する

液面が下限（2）より下にあるときは、バッテリー補充液を上限（1）まで補給してください。バッテリー液が不足すると、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。

→　**メンテナンスノート（日常点検）**



⚠警告

バッテリー液が不足すると、発熱や爆発のおそれがあります。

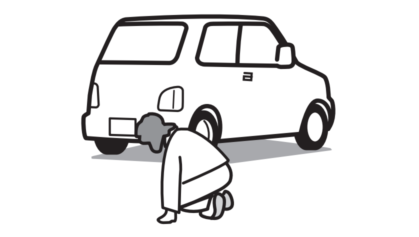
注 記

アイドリングストップシステム装備車は、非装備車に比べて高性能な専用のバッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。守らないとアイドリングストップシステムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。

- **バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）**
  →　8-2ページ（サービスデータ）
- **バッテリー端子から直接電気製品の電源をとらない**

2

排気管も点検



80J011

排気管に穴やひび割れがないか、ときどき点検してください。

警告

排気管に漏れがあると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒のおそれがあります。異常を感じたときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

荷物を積むときは

荷物の積み過ぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

警告

- **燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まないでください。引火や爆発のおそれがあります。**

80J021

- **インパネの上に物を置かないでください。運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故で助手席SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、助手席 SRS エアバッグがふくらんだときにとばされたりして、けがのおそれがあります。**

80J070

注意

- **車内に荷物を積み重ねないでください。また、ラゲッジシェルフに物をのせないでください。視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

80J022

- **動物を乗せるときは、動きまわらないように注意してください。運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。**

お子さまを乗せるときは

いつもより慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さまは後席に乗せる

51K0188

できるだけ大人が隣にすわり、お子さまを見守ってください。助手席に乗せるとお子さまの不意の動作が気になったり、お子さまがいたずらしたりして、運転のさまたげになるおそれがあります。

→ **2-6 ページ（お子さま用シートの使用について）**

警告

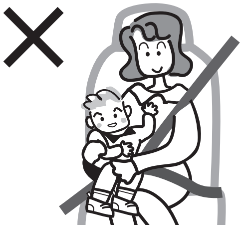
- 後席のお子さまが走行中にドアを開けないように、チャイルドプルーフをご使用ください。
→ 3-7ページ
（チャイルドプルーフ）
- お子さま用シートを必要としないお子さまをやむをえず助手席に乗せるときは、次のことをお守りください。
  - 助手席をいちばん後ろに下げてください。助手席を前に出していると、助手席 SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - SRSサイド/カーテンエアバッグ（タイプ別装備）が作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないようにしてください。

80J062

お子さまもシートベルトを着用

⚠警告

- ひざの上にお子さまを抱かないでください。しっかり抱いていても、衝突のときなどに十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



80J081

- 必ずシートベルトを着用させてください。
- 一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。
- シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをご使用ください。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

80J082

- 首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまには、ベビーシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。

シートベルトで遊ばせない

80J028

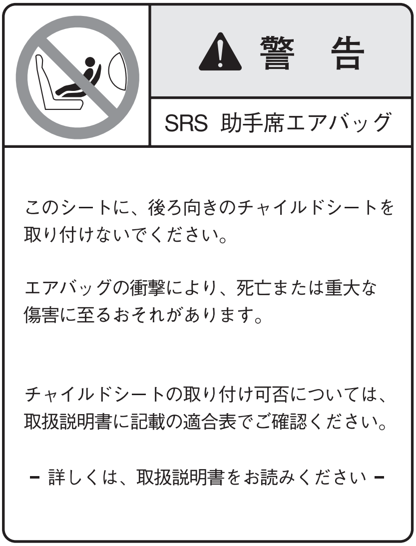
⚠警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。

お子さま用シートの使用について

- 次のようなお子さま用シートは、助手席で使用することができません。後席に取り付けてください。
  - ベビーシートなど後ろ向きしか使用できないお子さま用シート
  - ジュニアシート
- 安全のため、チャイルドシートも後席に取り付けてください。

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
  → **3-42ページ（お子さま用シートの選択について）**
- 助手席サンバイザーの両面には、次の警告ラベルが貼られています。ご使用の前に、必ずお読みください。



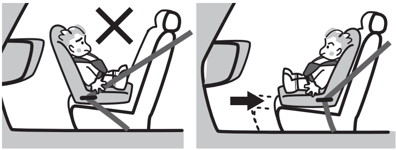
85K20020

※警告ラベルで使用される「チャイルドシート」は、本書で使用される「お子さま用シート」のことを表わします。

- この車には、次のタイプのお子さま用シートを取り付けることができます。
  - シートベルトで固定するタイプのお子さま用シート
    → **3-40ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**
  - ISOFIXタイプのお子さま用シート
    → **3-29 ページ（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用金具）**
- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けられないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。
- お子さま用シートには、スズキ純正品をお勧めします。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- お子さま用シートを使用していても、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにして、安全運転に心がけてください。

⚠警告

- **助手席には、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらむと、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席をいちばん後ろに下げ、前向きに取り付けてください。**



80J027

- **SRSサイド／カーテンエアバッグ（タイプ別装備）が作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないようにしてください。**

⚠警告

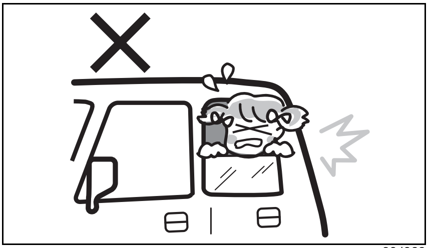
- 走行する前に、お子さま用シートが確実に固定され、ガタつき、ゆるみなどがないことを確認してください。
- お子さま用シートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。お子さま用シートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 万一の事故でお子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用しないでください。いざというときに性能を十分発揮できないおそれがあります。

⚠注意

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、荷室に収納してください。シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物に当たるおそれがあります。

ドアやウインドーの開閉、シートの調節は大人が行なう

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉や調節を行なってください。

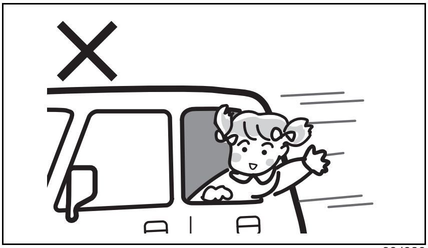


80J029

⚠警告

パワーウインドーは、お子さまが自分で操作しないように、ウインドーロックスイッチをご使用ください。
→　3-19ページ
（ウインドーロックスイッチ）

窓から顔や手を出さない



80J030

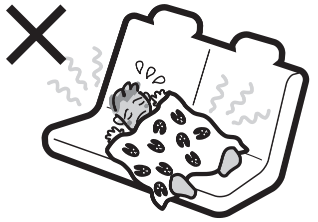
⚠警告

お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。急ブレーキで重大な傷害を受けたり、転落したりするおそれがあります。また、車外の物などに当たって重大な傷害を受けるおそれがあります。

車から離れるときは

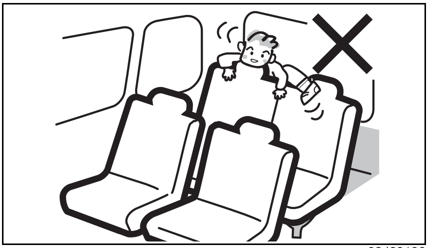
警告

車から離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。
- お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。
- 炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱射病にかかるおそれがあります。エアコンをつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。



80J032

お子さまを荷室に乗せない



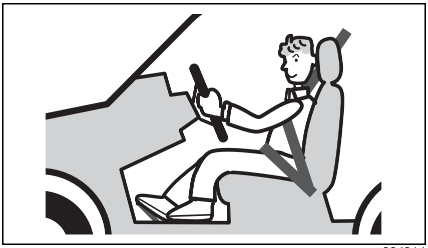
63J20180

警告

荷室は人が乗る構造になっていません。お子さまを乗せないでください。急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。
道路上での停車中も、お子さまを荷室で遊ばせないでください。

運転席に座って

ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に



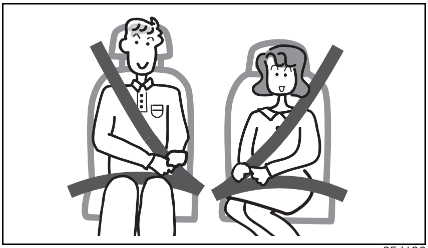
80J014

2

⚠警告

- 走行中にハンドルの調節やシートの調節、ルームミラーやドアミラーの調節をしないでください。ハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  → 3-24 ページ（テレスコピック&チルトステアリング）
  → 3-25ページ（前席シート）
  → 3-22ページ（ルームミラー、ドアミラー）
- 背もたれを必要以上に倒さないでください。ヘッドレストやシートベルトが本来の機能を発揮できません。

シートベルトは正しく着用

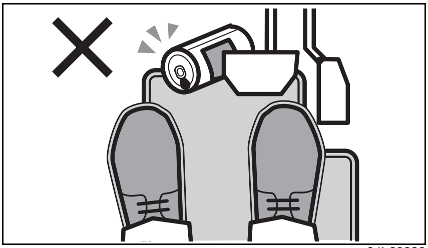


65J106

⚠警告

- 走行前にシートベルトを正しく着用してください。
- 助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。
  → 3-34ページ（シートベルトについて）

運転席の足元付近に物を置かない

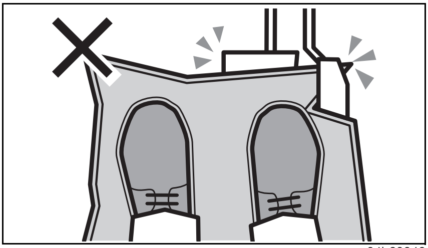


64L20030

⚠警告

空き缶などを足元に放置しないでください。ペダル操作ができなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットを適切に使用する

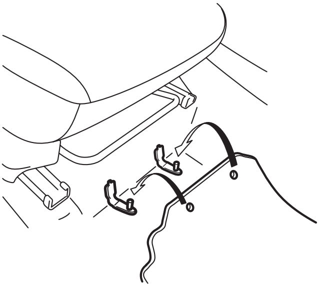


64L20040

⚠警告

ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。
- 足元の形に合わないフロアマットを使わない
- フロアマットを重ねて敷かない
- フロアマットは固定具などで確実に固定する

スズキ純正フロアマットの例



71L20020

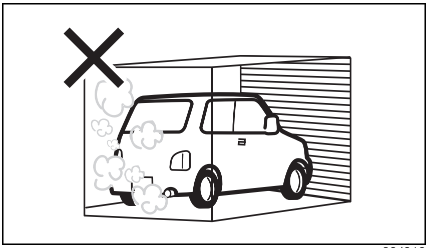
※運転席側のフロア（カーペット下）には、スズキ純正フロアマットに付属する固定具を取り付ける穴があります。

アドバイス

この車専用のスズキ純正フロアマットのご使用をおすすめします。

エンジンをかけるときは

換気が悪いところでエンジンをかけたままにしない



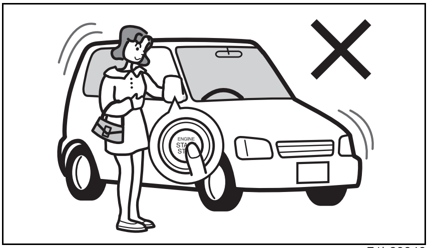
80J010

⚠警告

- 車庫の中など、換気が悪いところでエンジンをかけたままにすると、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入します。
- 車内で排気ガスのにおいがしたときは、すべての窓を全開にし、エアコン、ヒーターの内外気切替えを外気導入に切り替え、ファンを強にして換気します。換気してもにおいが消えないときは、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

2

窓越しのエンジンスイッチ操作はしない



71L20040

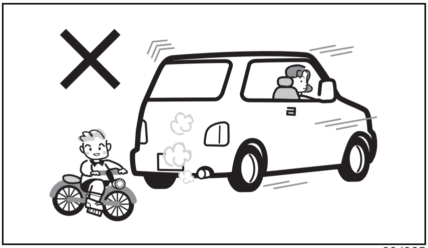
運転席にすわり、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。

⚠警告

窓越しのエンジンスイッチ操作はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
→　4-8ページ(エンジンのかけかた)

走行するときは

周囲をよく確認してから発進する

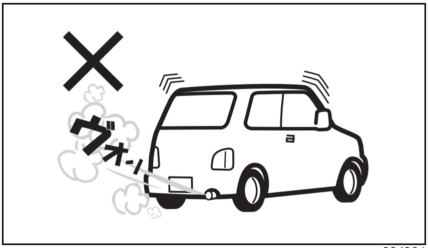


80J025

⚠注意

- 周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。
- バックミラーだけでは後方の安全が十分に確認できません。車を後退させるときは、車からおりて自分の目で後方を確認してください。

エンジン始動直後の空ぶかし、急加速をしない



80J064

注記

エンジンが暖まっていないので、暖機が完了するまでは空ぶかしや急加速をしないでください。エンジン故障の原因となります。

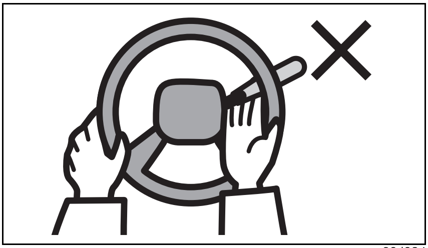
携帯電話やカーナビゲーションなどに気を取られないで

85K2114

⚠警告

- 運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話などを使用しないでください。会話や電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は、走行中にテレビを見たり、カーナビゲーションやオーディオなどを操作したりしないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない



80J034

⚠警告

ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

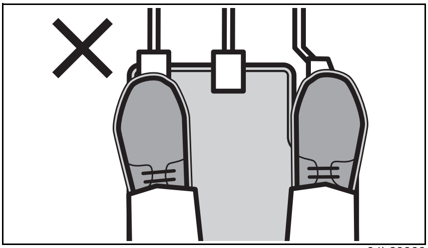
ブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

⚠注意

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

クラッチペダルに足をのせたまま走行しない

マニュアル車



64L20060

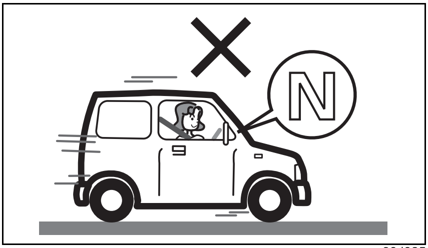
⚠注意

クラッチが早く摩耗したり過熱したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行なわないでください。

2

走行中はニュートラルにしない



80J035

⚠注意

緊急時以外は、走行中にチェンジレバーまたはセレクトレバーをニュートラルにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

こんなときどうする？

- **警告灯が点灯したら？**
  ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。
  →　**3-61ページ**
  （警告灯・表示灯の見かた）
- **床下に強い衝撃を受けたら？**
  ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料が漏れていないか、排気管などに異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
- **タイヤが突然パンクしたら？**
  ハンドルをしっかり握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
  →　**7-2ページ（パンク）**
- **ブレーキペダルが重く感じたら？**
  車には、エンジンの負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減するブレーキ倍力装置がついています。エンジンの負圧が低下していると、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じることがありますが、異常ではありません。そのままペダルを強く踏んでください。
- **ブレーキから金属音（キーキー音）が聞こえたら？**
  すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。ディスクブレーキのパッド（スズキ純正部品）には、走行中に金属音が発生することで使用限度（交換時期）近くまで摩耗したことを警報する機能があります。

⚠警告

金属音が発生したまま走行を続けないでください。ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する

長い下り坂ではエンジンブレーキ（※）を併用してください。アクセルペダルから足をはなし、走行速度に合わせて次のようにします。

■ マニュアル車

ギヤを1速ずつシフトダウンします。
→　**4-13ページ**
（チェンジレバーの操作）

■ マニュアルモードなしCVT車

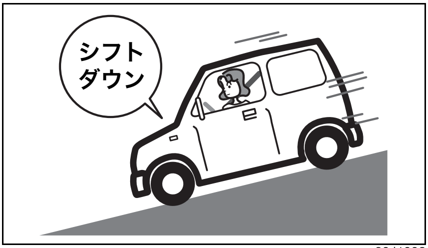
S（スポーツ）モードスイッチをONにするか、セレクトレバーを L にシフトダウンします。

■ マニュアルモード付CVT車

パドルシフトスイッチ（ー側）を操作して、適切なギヤポジションにシフトダウンします。

→ **4-14ページ**
（セレクトレバーの操作）

※エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルから足をはなしたときに起こるブレーキ効果のことをいいます。エンジンブレーキは低速ギヤほどよく効きます。

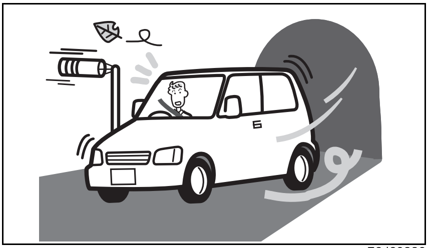


80J1003

⚠警告

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

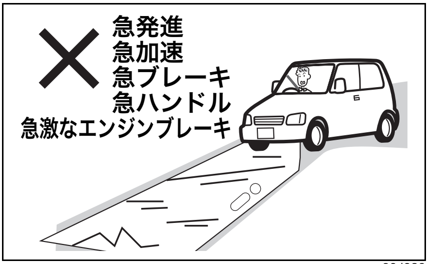
横風が強いときは



72J20330

トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通り過ぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。

滑りやすい路面ではゆっくり走る



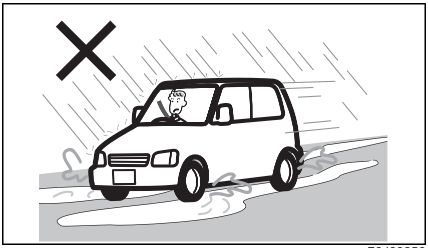
80J039

⚠注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。スリップ事故につながるおそれがあります。

2

水たまりを高速で通り抜けない

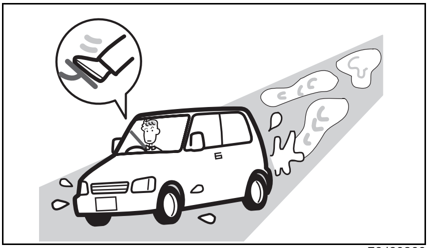


72J20350

⚠注意

水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

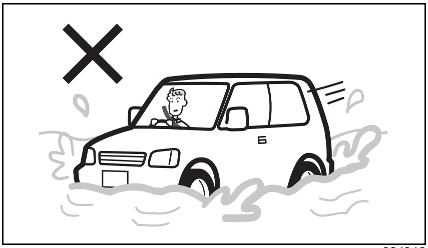
水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認



72J20360

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冠水した場所は走行しない



80J042

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
- ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良

注記

冠水した場所や、深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。

スタック（立ち往生）したときは

- ぬかるみや砂地などで、駆動輪が空転して脱出できなくなることをスタックといいます。

- 前進と後退を繰り返すときは、駆動装置などが損傷するおそれがあるため、次のことに注意してください。
  - オートマチック車 は、セレクトレバーを確実に入れてからアクセルを軽く踏んでください。
  - 数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してください。
- タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。
- ESP®装備車では、トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。そのようなときは、ESP® OFFスイッチを操作して、トラクションコントロールを作動停止の状態にしてください。

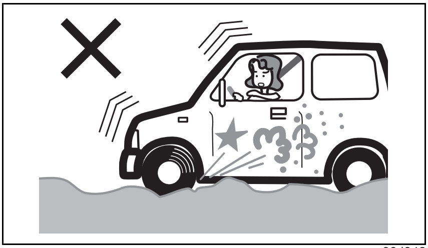
→ **4-31ページ**
（ESP®装備車の取扱い）

⚠警告

脱出しようとする前に、周囲の安全を十分に確認してください。勢いよく発進して事故を起こすおそれがあります。

注 記

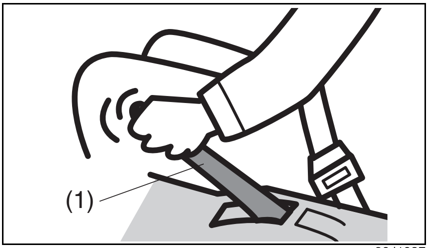
タイヤを高速で空転させないでください。タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。



80J043

駐車するときは

パーキングブレーキをしっかりとかけて



80J1037

(1) パーキングブレーキレバー

- オートマチック車 は、セレクトレバーを P に入れてください。
- マニュアル車 は、チェンジレバーをR（リバース）または1速に入れてください。
- 坂道で駐車するときは、次のことをお守りください。

1. パーキングブレーキをしっかりとかけ、車が動き出さないことを確認してください。
2. マニュアル車 は、下り坂ではチェンジレバーをR、上り坂では1速に入れてください。
3. 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

⚠警告

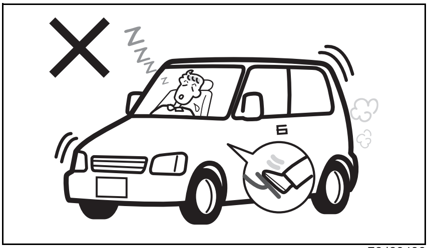
急な坂道には駐車しないでください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車を移動するときはエンジンをかけて

⚠注意

坂道を利用して惰性で車を移動しないでください。ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンをかけたまま仮眠しない

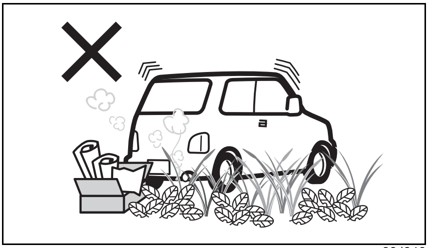


72J20400

⚠警告

- 周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 無意識にセレクトレバーやチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が過熱して火災のおそれがあります。

燃えやすい物の近くに駐車しない

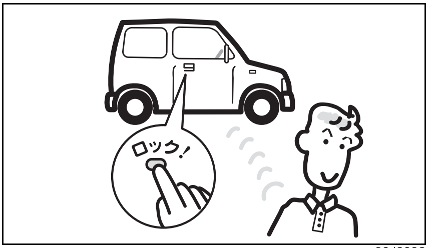


80J046

⚠警告

枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの可燃物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスが高温になるため、火災のおそれがあります。

車から離れるときはエンジンを止めてドアを施錠



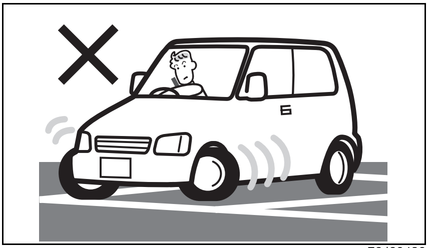
80J3093

少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

⚠警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない



72J20430

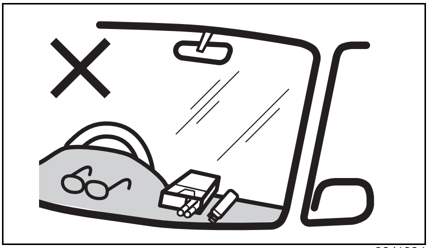
注 記

駐車するときや車庫入れのとき、ハンドルをいっぱいにまわして力をかけた状態を長く続けないでください。パワーステアリング装置が損傷する原因となります。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

ライターやメガネなどを放置しない



80J1004

⚠警告

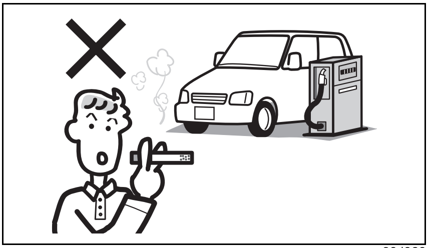
- **炎天下で駐車するときは、車内にライターやスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CD ケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。**
- **操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。**

2

給油するときは

→　5-43ページ（燃料給油口）

火気に気をつけて



80J020

⚠警告

必ず次のことをお守りください。
- エンジンを止めてください。
- 給油中はドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

セルフスタンドで給油するときは

⚠警告

セルフスタンドで給油するときは必ず次のことをお守りください。
- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。
  また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。
- 給油口には、静電気除去を行なった方以外の人を近づけないでください。

  ※空気が乾燥すると、身体に多くの静電気が帯電します。また、かさね着をすると、繊維の摩擦により静電気が発生します。とくに乾燥する季節は注意してください。

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気が抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 給油口に給油ノズルを止まるところまで確実に差し込んでください。ノズルを確実に差し込まないと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引いてください。

- 給油ノズルの自動停止（オートストップ）機能が作動したら、給油を終了してください。自動停止後に継ぎ足し給油をすると、燃料があふれ出るおそれがあります。

80J1005

※給油機によっては、早期に自動停止機能が作動して給油できない場合があります。スタンド従業員の指示に従ってください。

- 燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちに柔らかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 給油後は、給油ノズルを確実にもとの位置にもどし、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
- 燃料は人体に有害な物質を含んでいます。気化した燃料を吸い込まないでください。
- その他、スタンドに掲示されている注意事項をお守りください。

無鉛ガソリン以外は使用しない

注 記

- 有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他の燃料（アルコール系、軽油など）を使用すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。
- スポーツ車は、無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）を使用してください。万一、無鉛プレミアムガソリンが入手できないときは、一時的に無鉛レギュラーガソリンも使用することができますが、継続的な使用はエンジンに悪影響をあたえるおそれがあります。

オートマチック車を運転するときは

オートマチック車には特有の操作上の注意があります。**4-14ページ**の「**オートマチック車**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

注意

- **セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。**
- **エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。**

アドバイス

CVT車もクリープ現象があります。

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

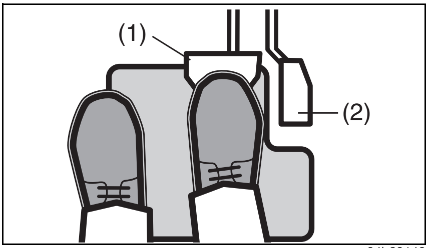
ペダルの踏み間違いに注意

警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながります。

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

ブレーキペダルは右足で踏む



(1) ブレーキペダル
(2) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。

● 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

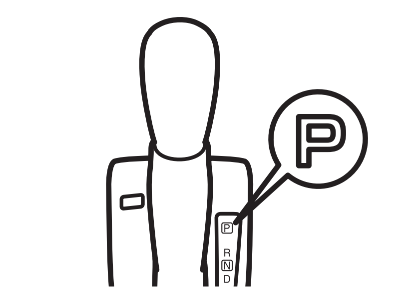
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままでセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



71L20010

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRS エアバッグシステムの効果を発揮させるために、**3-47 ページ**の「**SRS エアバッグ**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

シートベルトは必ず着用

65J106

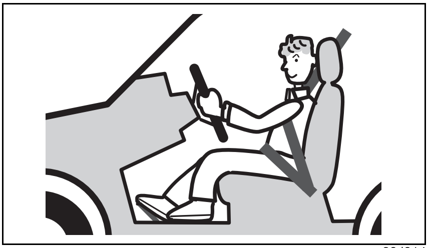
⚠ 警告

SRSエアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

着座姿勢

瞬時にふくらむ運転席・助手席 SRS エアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出し過ぎないようにシートの位置を調節してください。

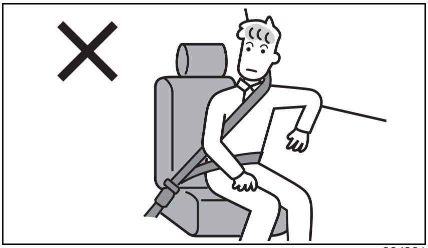
2



80J014

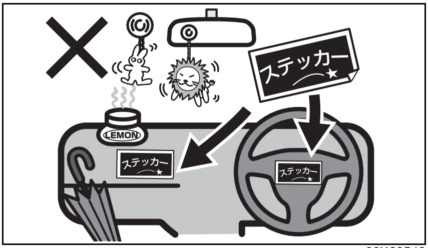
⚠警告

- ハンドルやインパネに、顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRSサイド／カーテンエアバッグ（タイプ別装備）が作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないでください。また、後席に乗るときは、前席の背もたれを抱えないでください。



80J061

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために

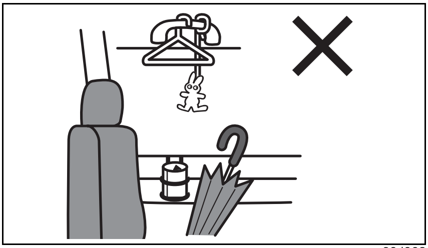


66K20540

⚠警告

- ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーでおおうなどの改造をしないでください。
- インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。
- フロントガラスやルームミラーにアクセサリー(スズキ純正用品を除く)などを取り付けないでください。
- SRS サイドエアバッグ装備車の場合、前席にシートカバーを取り付けるときは、専用のスズキ純正シートカバーを使用してください。純正の専用品以外の物を使用すると、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

●SRSサイド／カーテンエアバッグ（タイプ別装備）が作動したときに、物が飛散したり正常にふくらまなくなったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。ドア付近にカップホルダーやハンガーなどのアクセサリー用品を取り付けたり、傘などを立てかけたりしないでください。



80J063

お子さま用シートの取付け

→ 2-6ページ（お子さま用シートの使用について）
→ 3-42ページ（お子さま用シートの選択について）

4WD車を運転するときは

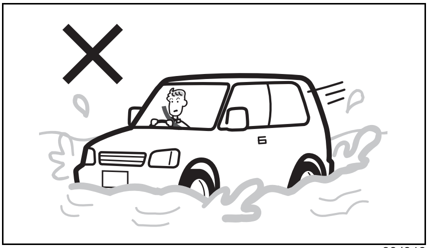
4WD車には特有の操作上の注意があります。正しい取扱いをしてください。

路面の状況に注意して走行する

⚠注意

4WD車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。次のことをお守りください。

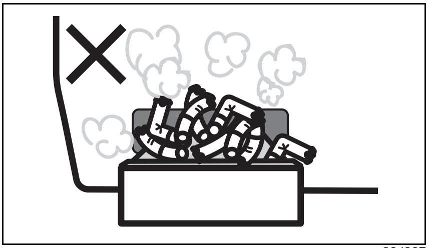
- 砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD車と同様に慎重に行なってください。
- 渡河走行や水中走行をしないでください。



80J042

こんなことにも注意して

マッチ、タバコの火は確実に消す



80J067

警告

- マッチ、タバコの火は確実に消し、吸いがらを入れた灰皿（別売り）は完全に閉めてください。
- 灰皿（別売り）の中に吸いがらをため過ぎたり、紙など燃えやすい物を入れたりしないでください。

外装部品に力をかけすぎない

注 記

スポイラー、リヤバンパー、サイドスカートなどに強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

段差などに注意して

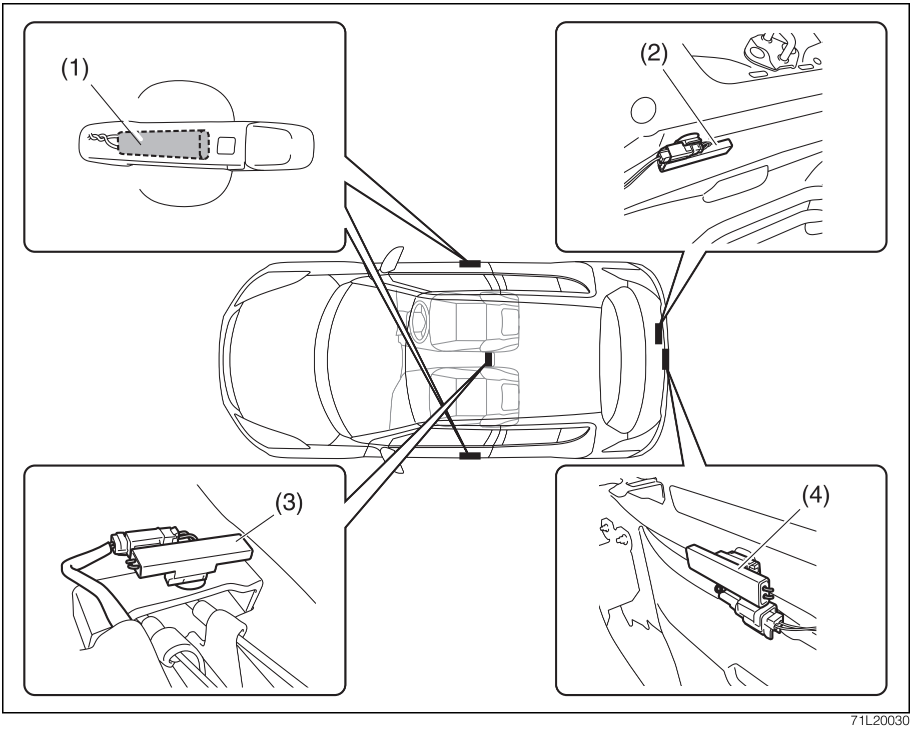
注 記

次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。
- 路肩など段差がある場所への乗り入れ
- わだちやくぼみなどがある道路の走行

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

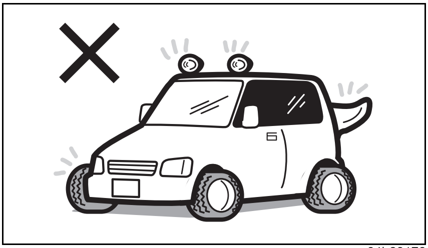
⚠警告

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、キーレスプッシュスタートシステム装備車の各発信機（下図参照）から約22 cm以内の範囲に、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）が近づかないようにしてください。電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療用電気機器を使用している方は、キーレスプッシュスタートシステム装備車の電波が医療用電気機器の作動に影響をあたえる場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。
- 詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。



(1) 前席ドア車外発信機（ドアハンドル内）（※イラストは助手席ドア側）
(2) 荷室発信機（テールエンドトリム内）
(3) 車室内発信機（リヤ側ドリンクホルダー下）
(4) バックドア車外発信機（ナンバープレート取付け部奥）

不正改造はしない



64L20170

⚠警告

- この車に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線をしたりしないでください。思いがけない火災や事故を起こしたり、不正改造になったりすることがあります。
- 無線機、オーディオ、ETC 車載器などの電気製品の取付け、取外しをするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。また、バッテリー端子から直接電気製品の電源をとったり、アース線を直接つなげたりしないでください。電子部品の働きをさまたげたり、火災、故障、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。
- ホイール、ホイールナットは指定のスズキ純正品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、燃費や走行安定性が悪化したり、故障の原因となったりします。

注 記

ディスチャージヘッドライト装備車では、次のような改造をするとオートレベリング機能（自動光軸調整機能）が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- サスペンションの改造（車高やサスペンションの硬さ変更
- 指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着

部品の取付け、取外し、修理をするときは

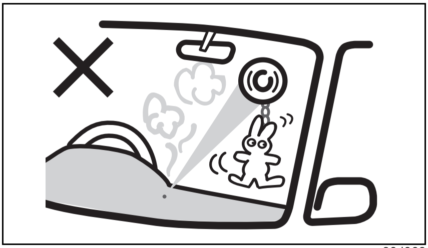
⚠警告

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなかったりすることがあります。

次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- ハンドルの取外し、ハンドルまわりの修理など
- インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- 前席シートの交換およびシートまわりの修理
- フロントピラー、バックピラーおよびルーフサイドまわりの修理
- センターピラーまわりの修理

アクセサリーの取付けに気をつけて


80J069

⚠警告

窓ガラスにアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーがとんでけがのおそれがあります。

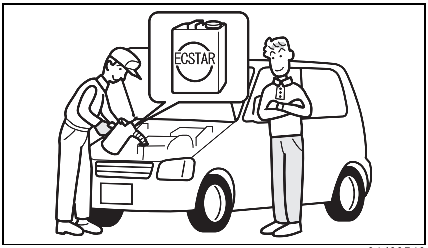
エンジンオイルを交換するときは

■ 定期的に交換する

- 標準的な使用方法では、エンジンオイルは**15,000 km**ごと、または**12か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは**15,000 km**ごとに交換してください。
- 指定のエンジンオイルを使ってください。
  →　**8-1ページ（サービスデータ）**
- 厳しい条件（シビアコンディション）で使用した場合は、標準的な場合より早めの交換が必要です。
  →　**メンテナンスノート**

注 記

交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。



81J20540

2

■ エンジンオイルの規格/粘度

次の表に従って適切なものを使ってください。

API規格(※1)	SAE粘度(※2)
SLまたはSM	5W-30
	0W-20

※1 API規格とは、アメリカ石油協会が定めた規格で、エンジンオイルの品質グレードを表しています。

※2 SAE 粘度とは、潤滑油の粘度を定めた規格です。左側の数字（W の付く数字）は低温時の粘度を意味し、この数字が小さいほど寒さに強くエンジンの始動性が良いことを示します。右側の数字は高温時の粘度を意味し、この数字が大きいほど熱に強くエンジンの保護性能に優れています。

アドバイス

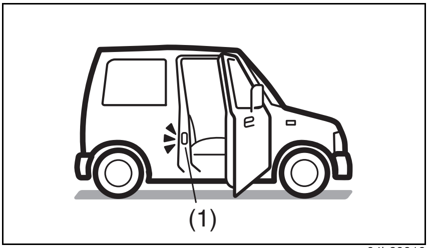
- 1.2 L 車の場合、外気温が－15℃以下となる寒冷時は、0W-20 を使ってください。エンジンの始動性が悪くなります。
- 0W-20 は新車時に充填されている燃費性能に優れたオイルです。

エコドライブをしましょう

→ **3-69ページ**
（エコドライブインジケーター）

タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」（1）で確認のうえ、調整してください。



64L20010

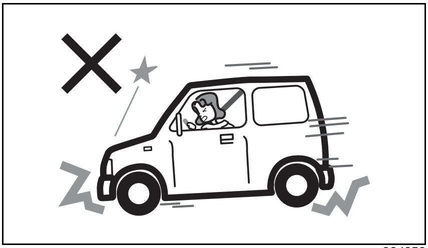
不要な荷物は積まない

燃費が悪化したりタイヤが早く摩耗したりするなど、車に悪影響があります。

暖機運転は適切に

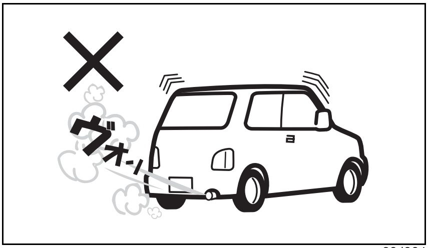
長期間、車を使用しなかったときや極低温のときは、数十秒の暖機運転を行なってから走行を開始してください。それ以外の場合はエコドライブのため、エンジンを始動したら、すみやかに走行を開始してください。

急発進、急加速、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない



80J259

空ぶかしをしない



80J064

燃料を消費するだけで、何の効果もありません。

車速に応じたギヤで走行する

低速ギヤを使って高いエンジン回転で走行すると燃費が悪くなります。走行速度に応じた正しいギヤをお使いください。

3. 運転する前に

● ドアの開閉

キー ･････････････････････････････････ 3-2
ドア ･････････････････････････････････ 3-3
キーレスエントリー ･･･････････････････････ 3-8
携帯リモコン ･･････････････････････････････ 3-10

● 警報装置

セキュリティアラーム（警報装置） ････････････ 3-15

● ウインドーの開閉

パワーウインドー ･････････････････････････ 3-18

● 各部の調節

ルームミラー ･････････････････････････････ 3-22
ドアミラー ･･･････････････････････････････ 3-22
テレスコピック＆チルトステアリング ･････････ 3-24

● シートの調節

前席シート ･･･････････････････････････････ 3-25
後席シート ･･･････････････････････････････ 3-28

● シートベルト

シートベルトについて ･･････････････････････ 3-34
シートベルトの着用のしかた ･････････････････ 3-36
シートベルトの取扱いとお手入れ ･････････････ 3-38
シートベルトプリテンショナー（前席のみ） ･･･ 3-39
シートベルト可変フォースリミッター
（前席のみ） ･･････････････････････････････ 3-40
お子さま用シートのシートベルトによる固定 ･･･ 3-40
お子さま用シートの選択について ･････････････ 3-42

運転する前に

● SRSエアバッグ

SRSエアバッグ車を運転するときは ············ 3-47
SRSエアバッグシステムの取扱い ·············· 3-51
SRSエアバッグシステムの作動 ················ 3-53
SRSエアバッグ警告灯 ························ 3-57
廃棄と廃車 ·································· 3-57
イベントデータレコーダー（EDR)とは ········ 3-58

● メーター

メーターの見かた ···························· 3-59
警告灯・表示灯の見かた ······················ 3-61
インフォメーションディスプレイ ·············· 3-69

● スイッチの使いかた

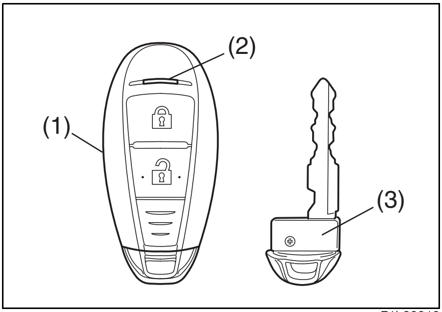
ライトスイッチ ······························ 3-74
フォグランプスイッチ ························ 3-77
光軸調整ダイヤル ···························· 3-77
方向指示器スイッチ ·························· 3-78
非常点滅表示灯スイッチ ······················ 3-79
ワイパー／ウォッシャースイッチ ·············· 3-79
ホーンスイッチ ······························ 3-81
リヤデフォッガースイッチ ···················· 3-81
デアイサースイッチ ·························· 3-82

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

キー

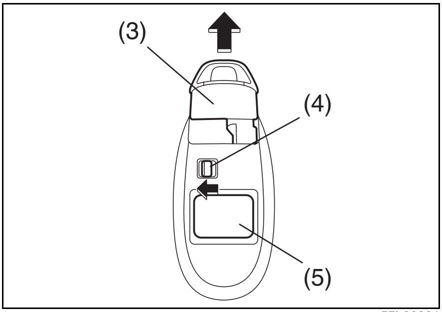
- キーはドアの施錠・解錠に使えますが、エンジンの始動・停止には使えません。エンジンの始動・停止には携帯リモコンをご使用ください。
  →　**4-8ページ（エンジンのかけかた）**
- キーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。
- 携帯リモコン（1）が2個、リモコンに格納可能なキー（3）が2本付いています。
  →　**3-10ページ（携帯リモコン）**



71L30010

(2) 作動表示灯

- リモコンに格納されているキー（3）は、ロック解除レバー（4）を ⬅ 方向に引きながら取り出します。



57L30001

(5) 適合証明マーク

⚠ 警告

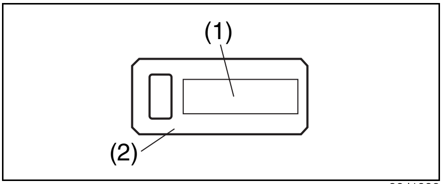
リモコンキーを航空機内へ持ち込む場合は、機内で操作ボタンを押さないでください。また、バッグなどに入れるときは、簡単に操作ボタンが押されないように収納してください。操作ボタンが押されると、電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。
※リモコンキーは、航空機内での使用が制限される電子機器に該当します。

アドバイス

- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- 盗難などを防ぐため、キーを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- キーのご購入については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

キーナンバープレート

キーナンバープレート（2）には、キー作成時に必要なキーナンバー（1）が打刻されています。



80J1008

アドバイス

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないよう、キーナンバープレートは車両以外の場所に、大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有される方のために、キーナンバープレートをお車のキーとともにお渡しください。

ドア

⚠警告

- **ドアを閉めるときは、シートベルトや荷物などをはさまないようにしてください。半ドア状態になって、走行中にドアが開くおそれがあります。**
- **エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。**

⚠注意

- **ドアの開閉は、お子さまではなく大人が行ない、手、足、頭などをはさまないように気をつけてください。**
- **ドアを開けるときは、後ろからの車に注意してください。とくに風が強い日は注意してください。**
- **バックドアを開けるときは、完全に開けてください。開けかたが不十分な場合、思わぬときに閉まって、けがのおそれがあります。**
- **エンジンがかかっているときは、排気管の真後ろでバックドアを開閉しないでください。やけどなどのおそれがあります。**

アドバイス

セキュリティアラームのセット状態およびドアの開けかたによっては、警報が作動する場合があります。
→ **3-15ページ**
(セキュリティアラーム)

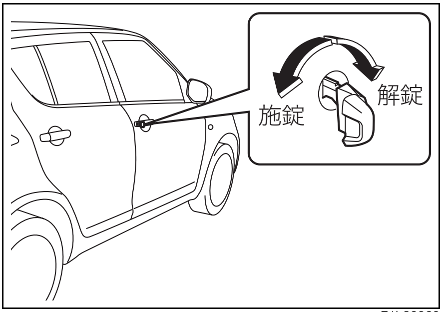
3

キー操作による車外からの施錠・解錠

→　3-8ページ（キーレスエントリー）
→　3-10ページ（携帯リモコン）

■ 運転席ドア

キーを差し込んで時計方向にまわすと解錠、反時計方向にまわすと施錠できます。

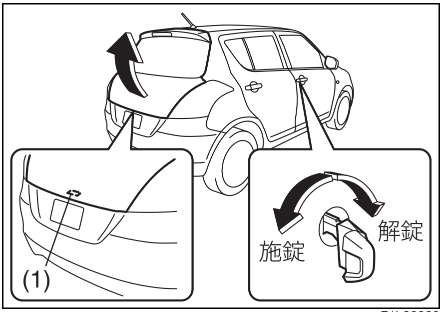


71L30020

■ バックドア

運転席ドアにキーを差し込んで、時計方向にまわすと解錠、反時計方向にまわすと施錠できます。

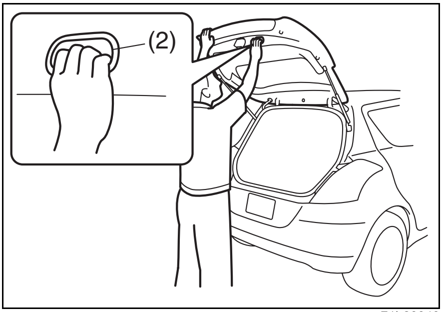
- バックドアを開けるときは、解錠後、バックドアオープナースイッチ（1）を押しながらドアを持ち上げます。



71L30030

バックドアを閉めるときは

ドア下面右側の手かけ部（2）を持って引き下げます。最後はドアを外側から手で、少し勢いをつけて押しつけます。



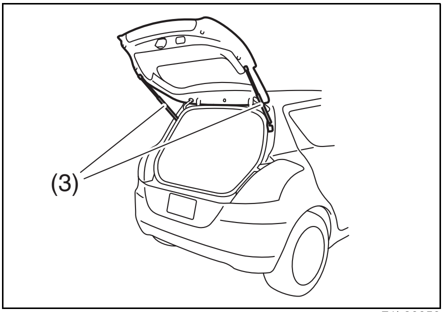
71L30040

- バックドアオープナースイッチを押したあと、ドアを少し開け、すぐに閉めた場合、完全に閉まらず半ドア状態になります。もう一度バックドアを開け、しばらくしてから閉め直してください。

⚠注意

バックドアを支えているダンパーステー（3）の損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。ステーが円滑に動かなくなったり、バックドアを開けたときに保持できなくなったりするおそれがあります。

- **ステーのロッド部（ドア開閉時に摺動する棒部分）に傷をつけたり、泥やビニール片、テープなどの異物を付着させたりしないでください。**
- **ステーに手をかけたり、物をかけたりしないでください。**

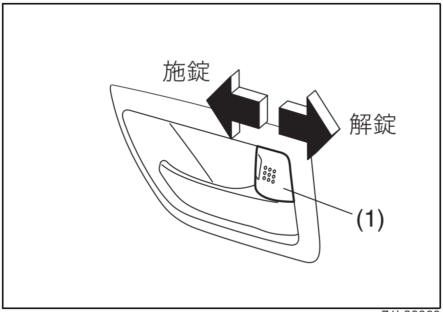


71L30050

車内からの施錠・解錠

■ 前席ドア、後席ドア

ドアを閉めてロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にすると施錠、解錠側（車の後ろ方向）にすると解錠できます。



71L30060

アドバイス

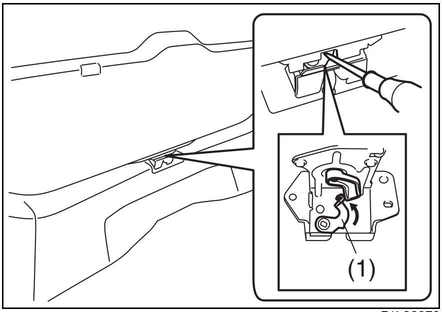
- 解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。
- 運転席ドアのロックレバーには、パワードアロック機能がありません。
  →　**3-6ページ（パワードアロック）**

■ バックドア

故障やバッテリーあがりなどでバックドアが解錠できないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。
緊急を要するときは、次の手順で解錠してください。

1. 後席の背もたれを倒すなどして、作業スペースを確保します。
   →　**3-32ページ**
   （背もたれの倒しかた）

2. ジャッキバーの先端やマイナスドライバー（市販品）など先が細く平たいもので、エマージェンシーレバー（1）を押したままバックドアを内側から押し開きます。
   バックドアを閉めると、再び施錠されます。



71L30070

⚠注意

- **エマージェンシーレバーを指などで操作しないでください。けがのおそれがあります。**
- **バックドアを内側から押し開くときは、車の後ろに人がいないことや物がないことを確認してください。バックドアが勢いよく開き、人や物にあたるおそれがあります。**

3

キーを使わない施錠

アドバイス

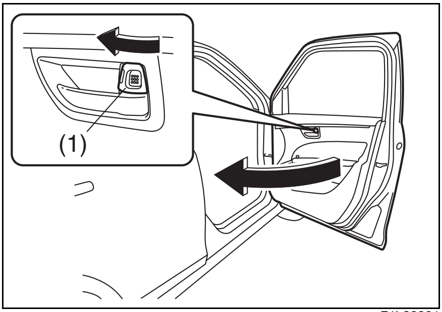
- 「**キーを使わない施錠**」をするときは、キーが手元にあるか確認してください。キーを閉じ込むおそれがあります。
- 次のような状況では、「**キーを使わない施錠**」ができない場合があります。
  - 携帯リモコンが車内にある
  - エンジンスイッチが ACC または ON のとき

→ **3-14 ページ（携帯リモコン閉じ込み防止機能）**

■ 前席ドア、後席ドア

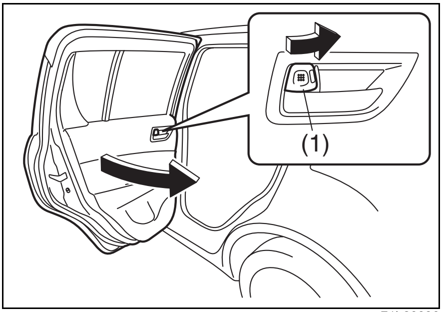
ロックレバー（1）を施錠側（車の前方向）にして、ドアを閉めると施錠できます。

前席ドア



71L30081

後席ドア



71L30090

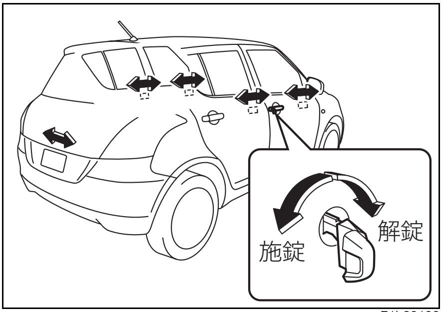
アドバイス

「**キーを使わない施錠**」は、ドアを閉めるときにドアハンドルを引く必要がありません。

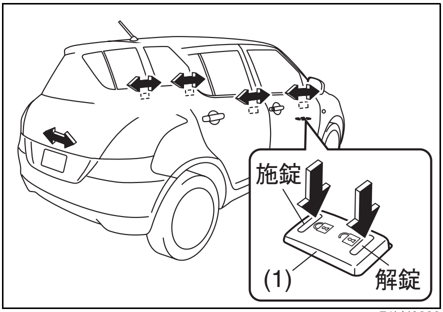
キーまたはパワードアロックスイッチ操作によるパワードアロック

→ **3-8ページ（キーレスエントリー）**
→ **3-10ページ（携帯リモコン）**

運転席ドアをキーまたはパワードアロックスイッチ（1）操作で施錠・解錠すると、助手席／後席／バックドアも同時に施錠・解錠します。



71L30100



71LN0303

アドバイス

エンジンスイッチが ON のときは、キー操作で助手席／後席ドアの施錠ができません。

■ ドアロック解除機能

衝突などで SRS エアバッグが作動すると、自動的にすべてのドアロックを解除します。

- SRS サイド／カーテンエアバッグ（タイプ別装備）が作動したときも、ドアロック解除機能が作動します。

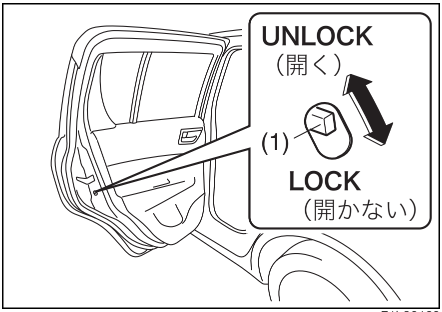
アドバイス

エアバッグが作動したときでも、ドアロックモーターの配線やモーター自体が損傷した場合は、ドアロック解除機能が作動しません。

チャイルドプルーフによる施錠・解錠

車内から後席ドアが開かないようにできます。後席乗員（とくにお子さま）によるドア誤開放を防止するために使用してください。

- 後席ドアにあるレバー（1）を **LOCK**（開かない）の位置にして、ドアを閉めます。ロックレバーの位置に関係なく、車内からはドアが開きません。
- ドアを開けるときはロックレバーを解錠側（車の後ろ方向）にして、外からドアハンドルを引きます。



71L30120

アドバイス

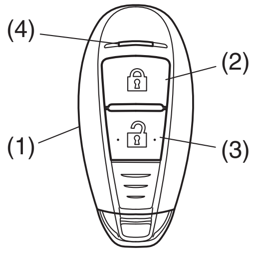
万一、車内から開ける場合は、窓から手を出して外側のドアハンドルをご使用ください。

3

キーレスエントリー

車から約2 m以内の範囲で、携帯リモコンのロックスイッチ・アンロックスイッチを押すと、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



71L30140

(1) 携帯リモコン
(2) ロックスイッチ
(3) アンロックスイッチ
(4) 作動表示灯

⚠警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めてドアを施錠してください。

アドバイス

- 次のようなときは、キーレスエントリーが作動しません。
  - いずれかのドアが開いていると、施錠できません。（解錠はできます）車外ブザーが“ピー”と約2秒間鳴ります。
  - エンジンスイッチが ACC または ON のとき。
- キーレスエントリーの作動距離は、周囲の影響で変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しないことがあります。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- 携帯リモコンでドアの施錠・解錠ができないときは、キーを使って施錠・解錠をしてください。
- キーレスエントリーが正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
  → **6-6ページ（携帯リモコンの電池交換）**
- 携帯リモコンを必要以上に操作すると、電池の消耗が早まります。

アンサーバック機能

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を知らせる機能です。

アンサーバック機能	初期設定（工場出荷時）		設定切替え時	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
非常点滅表示灯	1回点滅	2回点滅		
室内灯（スイッチがDOOR位置）		約15秒間点灯	2回点滅	約15秒間点灯
車外ブザー	1回吹鳴	2回吹鳴		

- キーレスエントリーの作動と同時に室内灯を点灯または点滅させたい場合は、室内灯スイッチをDOOR位置にします。
- 室内灯が約 15 秒間点灯したあとは、徐々に減光しながら消灯します。
→　**5-47ページ（室内灯）**

アドバイス

- アンサーバック機能の設定切替え（カスタマイズ）については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- リクエストスイッチで施錠・解錠したときにも、アンサーバック機能が作動します。

タイマーロック機能

盗難防止のため、自動的にドアを施錠する機能です。

- キーレスエントリーで解錠したあと、約 30 秒以内にいずれのドアも開けなかったときに自動的にドアを施錠します。
- タイマーロック機能が作動すると、セキュリティアラームが自動的にセットされます。（**警報なしモード**を除く）
→　**3-15ページ（セキュリティアラーム）**

アドバイス

リクエストスイッチで解錠したときにも、タイマーロック機能が作動します。

3

携帯リモコン

すべてのドアが閉まっているときに、前席ドアまたはバックドアにあるリクエストスイッチを押すと、所持している携帯リモコンが車両と電波で通信を開始し、照合がとれるとドアの施錠・解錠が可能となります。
また、その他に次の機能があります。

- キーレスエントリー
  → **3-8ページ（キーレスエントリー）**
- エンジンスイッチによる始動および電源の切り替え
  → **4-4 ページ（キーレスプッシュスタートシステム）**
- イモビライザー（車両盗難防止装置）
  → **4-3ページ（イモビライザーシステム）**

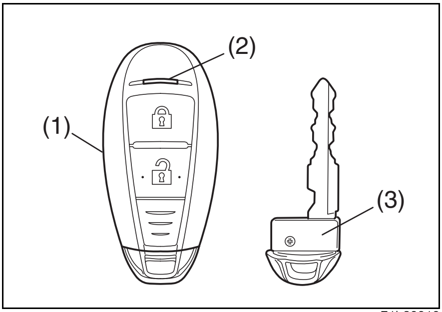
注 記

携帯リモコンが発信する電波が、携帯電話や他のリモコンなどの無線通信機器に影響をあたえることがあります。必要以上に携帯リモコンやリクエストスイッチ、エンジンスイッチの操作をしないでください。

アドバイス

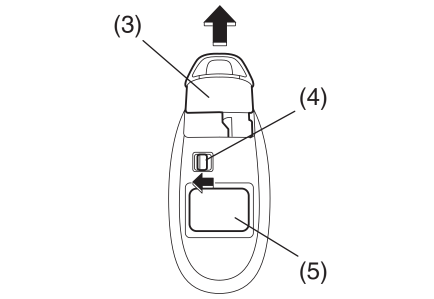
- 携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。車内にリモコンを置き忘れないでください。
- 盗難などを防ぐため、携帯リモコンを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンは車両と通信するとき、外的影響を受けやすい微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では、正常に作動しないことがあります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備がある
  - 携帯電話、無線機などの無線通信機器やノートパソコンなどと一緒に所持している
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 近くで他車のキーレスエントリーが使用されている
  - コインパーキングに駐車している（車両検出用の電波の影響があるため）

携帯リモコン（1）が 2 個、リモコンに格納可能なキー（3）が 2 本ついています。



(2) 作動表示灯

- リモコンに格納されているキー（3）は、ロック解除レバー（4）を ⬅ 方向に引きながら取り出します。



(5) 適合証明マーク

⚠注意

携帯リモコンの分解（電池交換時を除く）や修理、改造をしないでください。発火や感電、けがのおそれがあります。また、法律により処罰されることがあります。

注 記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**
- **磁気をおびたキーホルダーなどをつけない**
- **テレビやオーディオなど磁気をおびた機器の近くに置かない**
- **電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない**

アドバイス

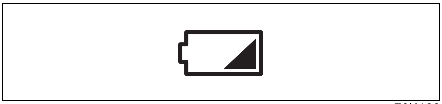
- 適合証明マークの消去、改ざんをしないでください。法律により処罰されることがあります。
- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- 1 台の車両で、4 個の携帯リモコンまで登録できます。
- 電池の寿命は使用状況によりますが約2年です。

→　**6-6ページ**
（携帯リモコンの電池交換）

- 携帯リモコンは、車両と通信するために常時受信動作をしています。強い電波を受信し続けたとき、電池を著しく消耗することがあります。（テレビやパソコンなどの強い電波を発信する電化製品の近くに置いたときなど）
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

3

■ 携帯リモコン電池消耗警告灯



70K122

メーターパネル内にあります。

- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに約 15 秒間点灯します。電池を交換してください。

→ **3-61ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）
→ **6-6ページ**
（携帯リモコンの電池交換）

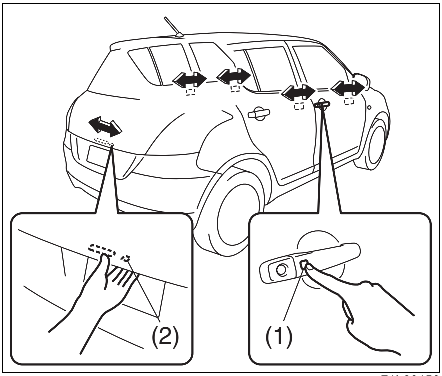
アドバイス

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、点灯しなくすることもできます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠

すべてのドアが閉まっているときに、所持している携帯リモコンが「**リクエストスイッチの作動範囲**」（**3-13 ページ**参照）に入っていると、リクエストスイッチを押すごとに、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



71L30150

(1) 前席ドアのリクエストスイッチ
(2) バックドアのリクエストスイッチ

⚠ 警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

アドバイス

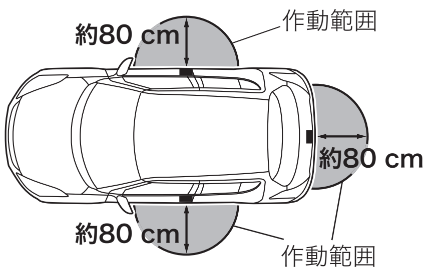
- 次のようなときは、リクエストスイッチが作動しません。
  - いずれかのドアが開いている
  - エンジンスイッチが ACC または ON のとき
- リクエストスイッチでドアの施錠・解錠をすると、アンサーバック機能やタイマーロック機能が作動します。

→ **3-9ページ**
（アンサーバック機能）
→ **3-9ページ**
（タイマーロック機能）

- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。

リクエストスイッチの作動範囲（車外）

前席ドアまたはバックドアのリクエストスイッチ付近から半球状に周囲約80 cm以内です。



71L30160

アドバイス

- 「**リクエストスイッチの作動範囲**」で携帯リモコンを所持していても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチが作動しない場合があります。
  - 携帯リモコンの電池が消耗している
  - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 携帯リモコンがドアに近づきすぎている
  - 携帯リモコンが地面の近くや高い位置にあったり、お尻のポケットの中などにあったりして、リクエストスイッチから離れている
- リクエストスイッチの作動は、携帯リモコンが作動範囲にあるドアのみとなります。例えば、運転席ドアの作動範囲にリモコンがあると、運転席ドアにあるリクエストスイッチは作動しますが、助手席ドアおよびバックドアにあるリクエストスイッチは作動しません。
- 車内に予備の携帯リモコンがあると、そのリモコンが検知され、リクエストスイッチが正常に作動しなくなるおそれがあります。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー

次のようなときは車外ブザーが“ピー”と約２秒間鳴って、リクエストスイッチが未作動であることを警告します。

- エンジンスイッチが ACC または ON の状態で、すべてのドアを閉め、リクエストスイッチを押したとき
- エンジンスイッチを LOCK（OFF）にしたあと、次のような状況でリクエストスイッチを押したとき
  - 携帯リモコンを車内に置き忘れている
  - いずれかのドアが開いている
    →　**3-67ページ（半ドア警告灯）**

エンジンスイッチを LOCK（OFF）にして携帯リモコンを車外に持ち出し、すべてのドアを完全に閉めたことを確認してから、再度リクエストスイッチを押してください。

携帯リモコン閉じ込み防止機能

「**キーを使わない施錠**」（**3-6 ページ**参照）で、携帯リモコンを閉じ込んでしまうのを防止する機能です。

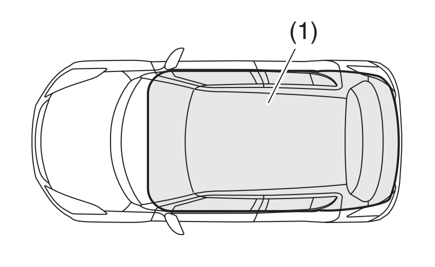
- 携帯リモコンを車内に置き忘れた状態で、次のような施錠操作をすると自動的にすべてのドアが解錠されます。
  - 運転席または助手席のドアを開けて、運転席ドアのパワードアロックスイッチで施錠操作をしたとき
  - 運転席ドアを開けて、運転席ドアのロックレバーで施錠操作をしたとき
  - 助手席ドアを開けて、助手席ドアのロックレバーで施錠操作をしたとき

アドバイス

- 「**キーを使わない施錠**」をするときは、携帯リモコンが手元にあるか確認してください。リモコンを閉じ込むおそれがあります。
- エンジンスイッチが ACC または ON のときは、携帯リモコンの位置に関係なく、携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動します。
- バッテリーが完全にあがっているときや接続されていないときは、携帯リモコン閉じ込み防止機能は作動しません。

リクエストスイッチ未作動警告ブザー／携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）

「**車内の検知範囲**」（1）は、インパネの上などを除く車室内です。



71L30170

アドバイス

- 「**車内の検知範囲**」に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
  - 携帯リモコンの電池が消耗している
  - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 携帯リモコンが次のような小物入れの中にある
    - ・グローブボックス
    - ・ドアポケット
    - ・インパネアッパーボックス
    - ・コンソールボックス
    - ・インパネボックス
    - ・インパネトレー（助手席）
  - 携帯リモコンがメーターパネルの手前やサンバイザー、床や荷室（ラゲッジシェルフの上を含む）にある
- 「**車内の検知範囲**」に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動する場合があります。
  - 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
  - 携帯リモコンがインパネの上にある

セキュリティアラーム（警報装置）

セキュリティアラームは、ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで施錠すると、約 20 秒後にセットされます。
セット状態にて、リクエストスイッチまたはキーレスエントリー以外のもの（※）で解錠し、いずれかのドアを開けると、警報が作動して周囲に異常を知らせます。

※キーやロックレバー、パワードアロックスイッチを含む

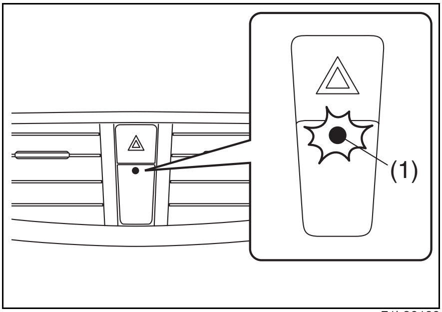
- 工場出荷時は、＜**警報モード**＞になっています。任意で＜**警報なしモード**＞に切り替えてください。
  →　**3-16ページ（モード設定の切替えのしかた）**
- 警報を誤作動させたときは
  →　**3-16ページ（警報の停止のしかた）**

アドバイス

- セキュリティアラームは、一定の条件下で警報を発する機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- アラームのセット中は、ドアを必ずリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで解錠してください。キーを使ってドアを解錠すると、警報が作動します。
- 車を貸すときや、セキュリティアラームを知らない方が運転するときは、作動についてよく説明するか、アラームを＜**警報なしモード**＞に切り替えてください。誤って警報を作動させると、周囲への迷惑になります。
- アラームをセットしていても、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

セキュリティアラームのセットのしかた（警報モード時）

ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで施錠してください。セキュリティアラームインジケーター（1）が小刻みに点滅し、約20秒後にアラームがセットされます。
セット中は、セキュリティアラームインジケーターが約2秒間隔で点滅します。



71L30180

アドバイス

- 警報の思わぬ作動を防ぐため、車内に人が残っているときはアラームをセットしないでください。車内の人がロックレバーやパワードアロックスイッチで解錠し、いずれかのドアを開けた場合にも警報が作動します。
- すべてのドアをキーまたはロックレバー、パワードアロックスイッチで施錠すると、アラームがセットされません。
- タイマーロック機能が作動すると、アラームが自動的にセットされます。（**警報なしモード**時を除く）
  →　**3-9ページ（タイマーロック機能）**

3

セキュリティアラームの解除のしかた

ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで解錠してください。アラームが解除され、セキュリティアラームインジケーターが消灯します。

警報の停止のしかた

警報を誤作動させたときは、エンジンスイッチを ON にしてください。警報を途中で停止できます。

アドバイス

- 警報を停止した場合でも、ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで施錠すると、約20秒後にアラームが再びセット状態となります。
- アラームセット状態または警報作動状態でバッテリー端子を外すと、警報が停止します。ただし、再度バッテリー端子を接続すると、警報が作動します。
- 警報が終了しても、アラームの解除をせずにいずれかのドアを開けると、再び警報が作動します。

駐車時に警報が作動した場合

盗難などにより警報が作動した場合、エンジンスイッチを ON にすると、セキュリティアラームインジケーターが約8秒間小刻みに点滅し、室内ブザーが4回鳴ります。盗難にあっていないか車の中を確認してください。

セキュリティアラームモード

＜**警報モード**＞と＜**警報なしモード**＞の2つのモードがあります。警報の作動は次のようになります。

＜**警報モード**＞（工場出荷時）
非常点滅表示灯が約40秒間点滅するとともに、室内ブザーが約10秒間断続的に鳴ります。室内ブザーが鳴り終えると、ホーンが約30秒間断続的に鳴ります。

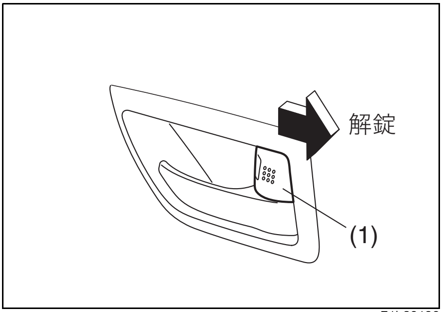
＜**警報なしモード**＞
警報は作動しません。

※＜**警報モード**＞では、セキュリティアラームインジケーターも点滅します。

モード設定の切替えのしかた

次の手順で切り替えてください。

1. すべてのドアを閉め、エンジンスイッチを ON にします。
2. ロックレバー（1）を解錠側（車の後ろ方向）にし、ライトスイッチをOFFの位置にします。



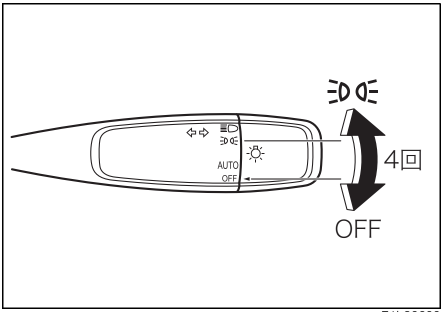
71L30190

アドバイス

解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。

※次の[3]から[4]までの一連の手順は、15秒以内に完了してください。

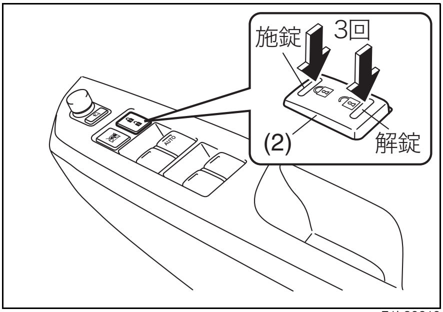
[3] ライトスイッチを の位置にします。ライトスイッチを再びOFFの位置にします。これらの操作を４回行ない、最後にライトスイッチをOFFの位置にします。



71L30200

- 上図のスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。

[4] パワードアロックスイッチ（2）の施錠側（車の前方向）を押して施錠します。パワードアロックスイッチの解錠側（車の後ろ方向）を押して解錠します。これらの操作を３回行ない、最後に施錠状態にします。



71L30210

(2)パワードアロックスイッチ

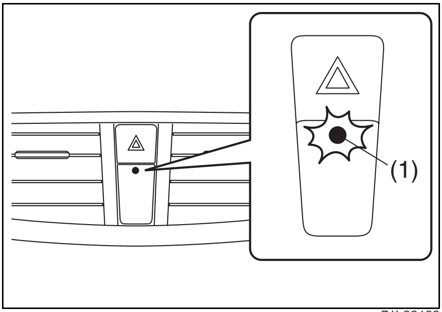
前記の手順を行なうと、モード設定が次表の順で切り替わります。また、設定確認ブザーの回数によって設定状態が確認できます。

モード設定状態	設定確認ブザー
警報なしモード	1回
警報モード	4回

アドバイス

- アラームがセット状態のときは、モード設定の切替えはできません。
- [3]から[4]までの手順を 15 秒以内にできなかったときは、はじめからやりなおしてください。
- モード設定を切り替えるときは、すべてのドアを閉めたまま行なってください。

セキュリティアラーム インジケーター（1）



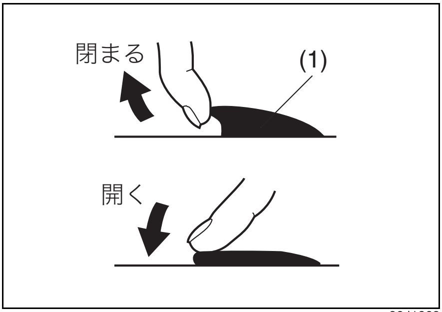
71L30180

3

- セキュリティアラームが＜**警報モード**＞のときに、ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで施錠すると、小刻みに点滅して約 20 秒後にセキュリティアラームがセットされます。
  セット中は、2秒間隔で点滅します。
- 駐車時に警報が作動していると、エンジンスイッチを ON にしたときに約8秒間小刻みに点滅します。
- 車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに約15秒間、1秒間隔で点滅します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

パワーウインドー

エンジンスイッチが ON のときに、パワーウインドースイッチ（1）を操作すると、ウインドーの開閉ができます。



80J1268

⚠警告

- **パワーウインドーは強い力で開閉します。閉めるときは手や首をはさまないように注意してください。**
- **窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作しないでください。手や首をはさむおそれがあります。**

⚠注意

ウインドーガラスを開閉するときは、ガラスにふれないでください。巻き込まれるおそれがあります。

注 記

バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときにウインドーを開閉してください。

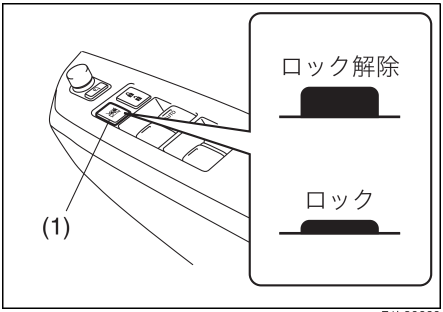
アドバイス

走行中に後席ウインドーだけを開けていると、耳を圧迫するような音が発生する場合があります。これは開いているウインドー周辺の気圧変動にともなう現象で、異常ではありません。空のビンなどの口に、横から息を吹きかけたときに音が鳴る現象と同じです。
後席ウインドーを開けたままでこの音を軽減したい場合は、次のような方法があります。
- 前席ウインドーも開ける。
- 後席ウインドーの開き具合を変える。例えばウインドーが全開なら半開にする。

■ ウインドーロックスイッチ

運転席ドアにあるウインドーロックスイッチ（1）を押し込むと、助手席／後席ウインドーの開閉ができなくなります。

- ロックを解除するときは、スイッチをもう一度押します。



71L30220

⚠ 警告

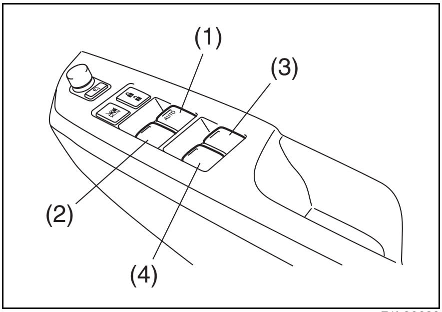
お子さまにはパワーウインドースイッチを操作させないでください。お子さまが誤って操作すると、重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ウインドーロックスイッチを ロック 位置にしてください。

アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときでも、運転席ウインドーは開閉できます。

運転席での開閉

各席のウインドーの開閉ができます。



71L30230

(1) 運転席ウインドースイッチ（オート機構付）
(2) 助手席ウインドースイッチ
(3) 右後席ウインドースイッチ
(4) 左後席ウインドースイッチ

■ 運転席ウインドーの開閉（オート機構付）

- ウインドースイッチを軽く操作すると、操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
- ウインドースイッチを強く操作すると、オート機構が作動してスイッチから手を離しても自動で全開または全閉します。
  途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。

3

■ 運転席ウインドーのオフディレイタイマー機能

運転席ウインドーは、エンジンスイッチを ON の位置から ACC または LOCK（OFF）にしたあとでも、30 秒以内は開閉が可能です。

アドバイス

- 30 秒以内でも、運転席ドアを開けて閉めると、運転席ウインドーの開閉ができません。
- 運転席ウインドーの開閉が可能な間は、運転席ウインドースイッチの“AUTO”の文字が点灯しています。

■ 助手席／後席ウインドーの開閉

ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。

■ はさみ込み防止機構

運転席ウインドーには安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で閉めているときに、異物をはさみ込むなどしてウインドーに一定以上の負荷がかかると、ウインドーの動く方向が反転し、少し開いて停止します。（過負荷検知方式）

⚠警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行なってください。

⚠注意

はさみ込み防止機構は、スイッチを引き上げ続けた状態では作動しません。また、閉まり切る直前は、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように気をつけてください。

アドバイス

- ウインドーの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、運転席ウインドースイッチを引き上げ続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中にウインドーを自動で閉めると、衝撃や荷重がウインドーに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ はさみ込み防止機構の初期設定のしかた

バッテリー端子やヒューズ（**7-20 ページ**参照）を外すなどして、パワーウインドーシステムへの電源供給を一度絶ってしまうと、運転席ウインドーが自動で開かなくなるとともに自動で閉めたときに、はさみ込み防止機構が作動しなくなってしまいます。
この場合、次の手順ではさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。また、運転席ウインドーが自動で開くことも閉めることもできなくなった場合も、同様に初期設定を行なってください。

3

1 エンジンを始動します。

2 運転席ウインドースイッチを押し続け、ウインドーを完全に開けます。

3 運転席ウインドースイッチを引き上げ続け、ウインドーを完全に閉めます。

4 そのままスイッチを2秒以上引き上げ続けます。

5 運転席ウインドーが自動開閉できるようになったか確認します。

⚠警告

はさみ込み防止機構は、必ず初期設定してください。初期設定が完了するまでは、はさみ込み防止機構が作動しません。

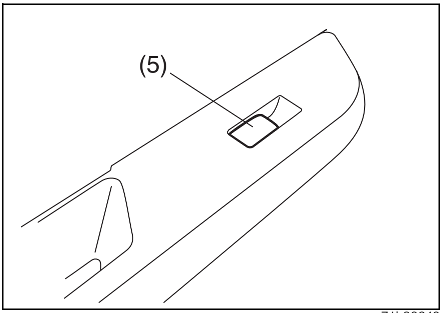
- 手順1～4を何度繰り返しても運転席ウインドーが自動開閉できない場合、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

助手席、後席での開閉

自席のウインドーだけ開閉できます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
- お子さまを乗せているときは、運転席ドアのウインドーロックスイッチを ロック 位置にしてください。

→ **3-19ページ**
（ウインドーロックスイッチ）



(5) 助手席／後席ウインドースイッチ（※）

※イラストは助手席ドアを代表しています。

アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときは、助手席／後席ウインドーの開閉ができません。

ルームミラー

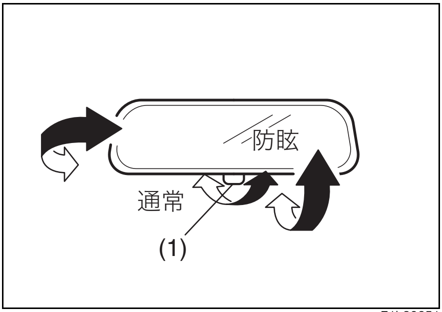
ミラー全体を動かして、角度を調節します。

⚠ 警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

防眩式ルームミラー

通常はレバー（1）を車の前方向に押した状態で使用し、角度の調節もこの位置で行ないます。後続車のライトがまぶしいときは、レバーを手前に引くとライトの反射が弱まります。



71L30251

ドアミラー

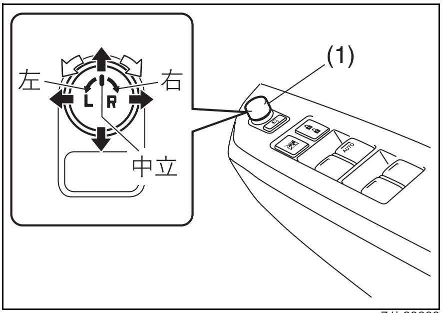
角度の調節

■ ドアミラー角度調節スイッチ

エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用できます。

1 角度調節スイッチ（1）を、調節したいミラーの側へまわします。

2 角度調節スイッチを操作して、上下左右にミラーを動かします。



71L30260

⚠ 警告

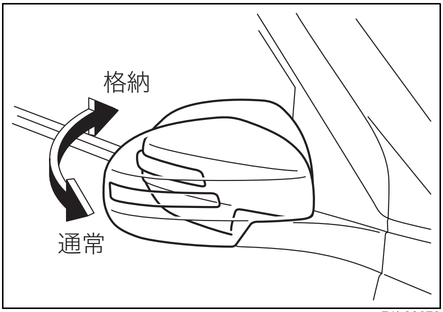
必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

調節後は、角度調節スイッチを中立の位置へもどしてください。

格納

狭い場所で駐車するときなどに、ドアミラーを車の後ろ方向に倒すことができます。



71L30270

- 上図のドアミラーは代表例です。お車のタイプにより異なります。

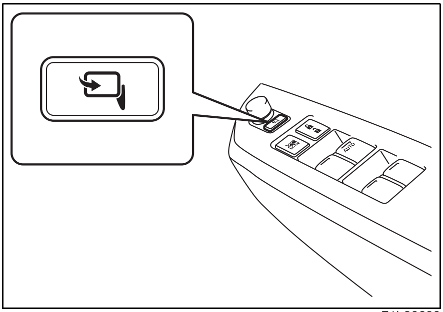
⚠注意

- **ドアミラーを倒したまま走行しないでください。後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。**
- **ドアミラーは車体より張り出しています。ドアミラーを車外の人や物にあてないように気をつけてください。**

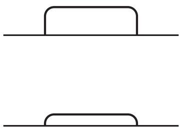
■ ドアミラー格納スイッチ

エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用できます。

- 格納スイッチを押すごとに、格納と通常の位置に切り替わります。



71L30280



80J1023

⚠注意

- **動いているドアミラーに触れないでください。手などをはさんでけがのおそれがあります。また、ドアミラー故障の原因となります。**
- **格納スイッチでドアミラーを格納したときは、手でドアミラーを通常の位置にもどさないでください。ドアミラーの固定が不完全になるため、走行中の振動や走行風などでドアミラーが動くおそれがあります。**
  その場合は、スイッチを通常の位置に押して、確実にドアミラーを固定してください。

注 記

エンジンスイッチが ACC または ON の位置にあるときは、手でドアミラーを操作しないでください。ドアミラー故障の原因となります。

アドバイス

- ドアミラーを手で動かすと、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーが動き出すことがあります。
- 格納スイッチが通常の位置で、ドアミラーが車の前方向に倒れていると、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーがさらに車の前方向に倒れてしまいます。ドアミラーをもとの状態にもどすときは、一度格納操作をしてください。

ドアミラーヒータースイッチ

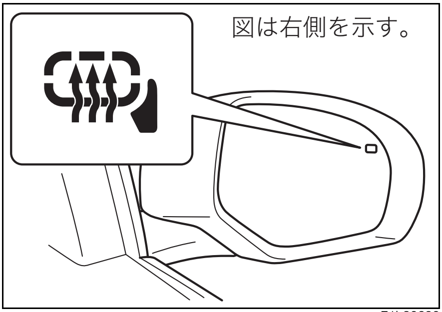
タイプ別装備

ドアミラーヒーターは、リヤデフォッガーと連動します。

→ 3-81ページ
（リヤデフォッガースイッチ）

アドバイス

ドアミラーヒーター装備車には、左右のドアミラー鏡面にマークが付いています。



71L30290

テレスコピック&チルトステアリング

ハンドルの前後・高さ調節

→ 2-9 ページ（ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に）

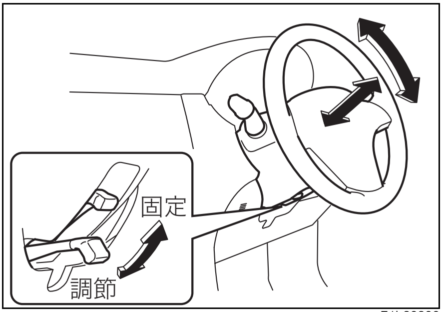
1 ハンドルの固定を解除します。

- 片手でハンドルをささえながら、ハンドル下のレバーを押し下げます。

2 ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置に調節します。

3 調節後は、ハンドルを固定します。

- その位置でハンドルを押さえたまま、レバーをもとの位置まで確実にもどします。



71L30300

⚠ 注意

調節後はハンドルを前後・上下にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

前席シート

→　5-56ページ（アームレスト）

⚠注意

- **シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体にあてたりしないように気をつけてください。**
  →　2-9 ページ（ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に）
- **シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。**

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。

- 背もたれと腰の間にすき間のないようにシートに深くすわります。
- ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。
- 背中を背もたれに軽くつけ、ハンドルを握ったときにひじが軽く曲がる程度に背もたれの角度を調節します。

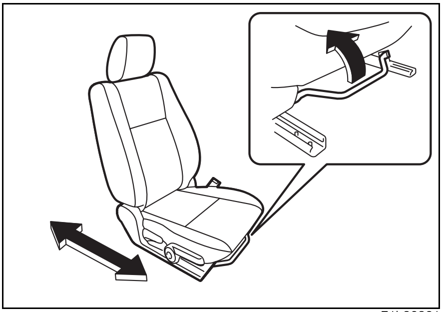
80J177

⚠警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

前後位置の調節

スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。



71L30321

- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

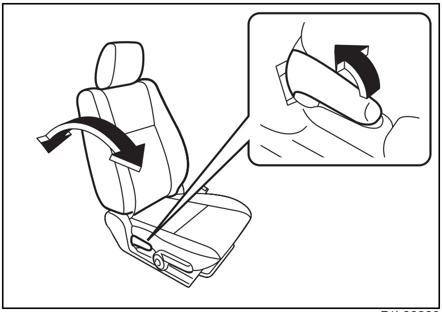
⚠警告

シートの下に物を置かないでください。物がはさまって、シートが固定されないおそれがあります。（シートアンダートレー内を除く）

3

背もたれの角度調節

- 後方へ倒すときは、リクライニングレバーを引き上げたまま、背中で軽く押します。
- 前方へ起こすときは、背中を少し浮かせて、リクライニングレバーを引き上げます。



71L30330

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトやSRSエアバッグシステムが本来の効果を発揮できません。

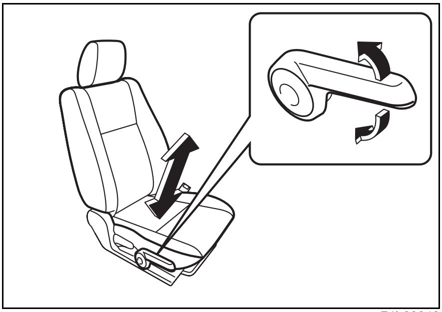
⚠注意

背もたれから離れてリクライニングレバーを操作すると、背もたれが急に起きあがって前方に倒れることがあります。手などをそえて操作してください。

高さ調節（運転席のみ）

運転席シート右横のレバーをくりかえし操作します。

- レバーを引き上げると、シート全体が高くなるとともに前方に動きます。
- レバーを押し下げると、シート全体が低くなるとともに後方に動きます。



71L30340

ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け

■ 高さの調節

走行前に、ヘッドレスト中央の高さが耳の位置になるように調節し、しっかりと固定します。背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

- 高くするときは、ヘッドレストを手で持ち上げます。
- 低くするときは、ロックボタン（1）を押したままヘッドレストを押し下げます。

■ 取外しかた

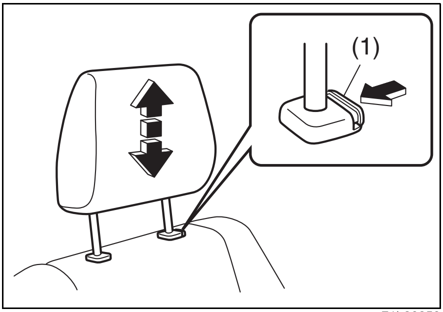
ロックボタン（1）を押したまま引き抜きます。

⚠警告

ヘッドレストを外したまま、走行しないでください。

■ 取付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。



(1) ロックボタン

⚠警告

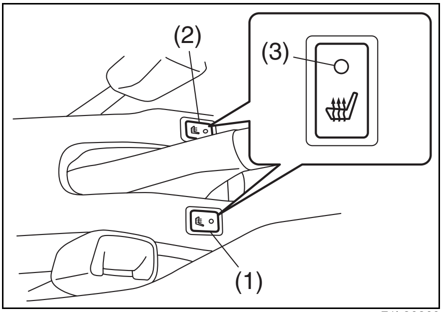
ヘッドレストは、しっかりと固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。
ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

運転席・助手席シートヒータースイッチ

タイプ別装備

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

- スイッチを押すと、シート内にあるヒーターが作動して、スイッチ内の表示灯（3）が点灯します。
  もう一度押すとヒーターが切れます。
- シートが適温になったら、スイッチを切ってください。
- アームレスト（タイプ別装備）がスイッチ操作や表示灯の点灯確認のさまたげになる場合があります。必要に応じて、アームレストを収納してください。
  →　**5-56ページ（アームレスト）**



(1) 運転席シートヒータースイッチ
(2) 助手席シートヒータースイッチ

⚠注意

- **長時間ヒーターを使用すると、低温やけど（水ぶくれなど）の原因になります。**
- **毛布や座ぶとんなど、保温性の高いものをシートにかけないでください。過熱の原因となります。**

注 記

- **シートの上に重い荷物を置いたり、針やくぎなどをシートに刺したりしないでください。**
- **シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの溶剤を含む洗浄液を使用しないでください。シート表面やヒーターが損傷する原因となります。**
  →　**6-4ページ（内装のお手入れ）**
- **水やジュースなどをこぼしたときは、すみやかに柔らかい布などでふきとり、十分に乾かしてからご使用ください。**
- **バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときに使用してください。**

アドバイス

ヒーターには、自動的にスイッチが切れるタイマー機能がありません。
また、スイッチを切らないと、エンジンスイッチを ON にするたびにヒーターが自動的に入ります。

3

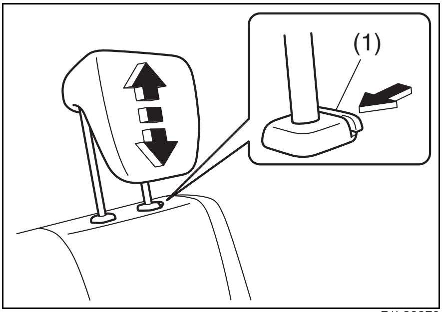
後席シート

ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け

■ 使用時の高さ調節

使用時の高さ調節は、前席シートと同様です。**3-26ページ**をお読みください。

使用時



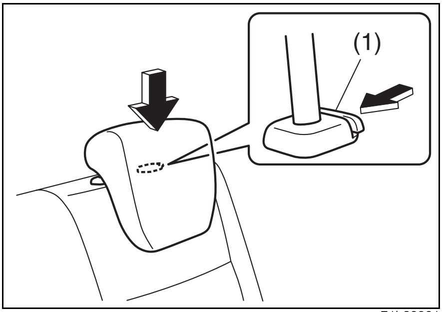
71L30370

(1) ロックボタン

■ 収納時の位置

収納するときは、ロックボタン（1）を押したままヘッドレストを一番下まで押し下げます。

収納時



71L30861

■ 取外しかた

背もたれを前方へ少し倒し、ロックボタンを押したまま引き抜きます。
→　**3-32ページ**
　（背もたれの倒しかた）

警告

ヘッドレストを外したまま、後席に人を乗せないでください。

注意

取り外したヘッドレストは、客室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 取付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

⚠警告

- **ヘッドレストは、しっかり固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。**
  ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。
- **お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストに当たるのを防ぐため、ヘッドレストを固定できる範囲で一番高い位置に調節するか取り外してください。**
  ヘッドレストが当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用金具

後席の左右席には、ECE R44（※1）の基準に適合したISOFIX（※2）タイプのお子さま用シート（別売り）を固定するための専用金具が装備されています。

- 座面と背もたれのすき間にある金具が、ISOFIX対応チャイルドシート固定用アンカー（以下ISOFIXアンカーと略す）です。
- 背もたれの裏側にある金具が、チャイルドシート固定用テザーアンカー（以下テザーアンカーと略す）です。

※1 ECE R44とは、お子さま用シートに関する国際法規です。
※2 ISOFIX とは、お子さま用シートの固定装置の大きさや取付け方法を統一した国際標準化機構【ISO（※3）】の規格です。
※3 ISO とは、International Organization for Standardization（インターナショナル オーガニゼイション フォー スタンダーディゼイション）の略です。

<スズキ純正用品の場合>

	ISOFIXアンカー	**テザーアンカー**
ISOFIXタイプのベビーシート（後ろ向きに固定）	○（使用）	○（使用）
ISOFIXタイプのチャイルドシート（前向きに固定）	○（使用）	○（使用）

3

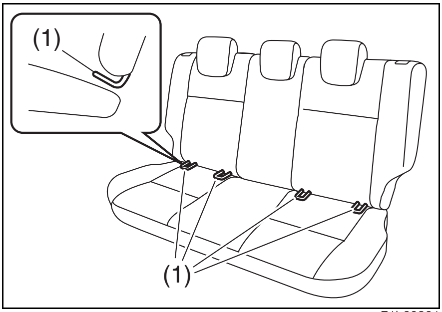
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
  → **3-42 ページ（お子さま用シートの選択について）**
- ISOFIXタイプのお子さま用シートは、シートベルトで固定する必要がありません。
- シートベルトで固定するお子さま用シートを取り付けるときは、**3-40 ページ**の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。

■ 固定のしかた

1 ラゲッジシェルフを外します。
→ **5-58ページ（ラゲッジシェルフ）**

2 ISOFIX アンカー(1) の位置を確認します。

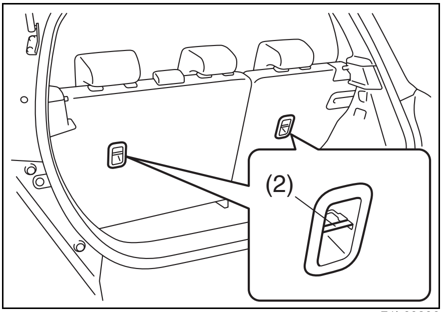
- 座面と背もたれのすき間にあります。



(1) ISOFIXアンカー

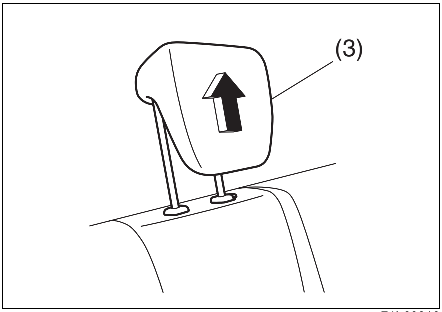
3 テザーアンカー(2) の位置を確認します。

- 背もたれの裏側にあります。



(2) テザーアンカー

4 後席のヘッドレスト (3) は、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。
→ **3-26 ページ（ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け）**



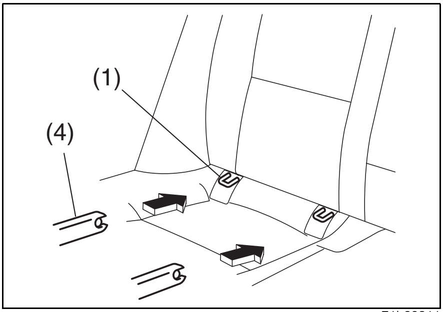
⚠ 警告

ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

5 リクライニング機構付後席の場合、背もたれを前側で固定します。

6 座席が確実に固定されているか確認します。

7 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、お子さま用シートのコネクター(4)をISOFIX アンカー(1)へ差し込みます。



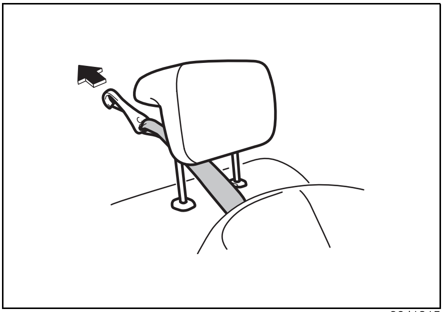
71L20311

- 上図のシートは代表例です。お車のタイプにより異なります。

8 テザーベルトを使用する場合、次のようにしてテザーアンカーへ取り付けます。

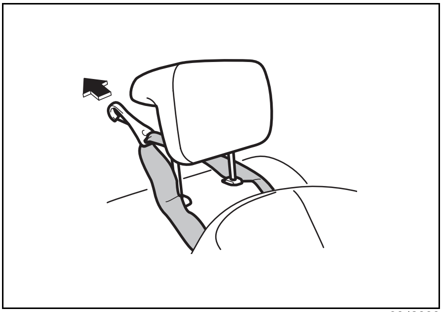
- ヘッドレストを取り付けているときは、図（代表例）のように持ち上げたヘッドレストと背もたれの間を通す

テザーベルト1本の場合



80J1315

テザーベルト2本の場合



80J3080

9 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に取り付けられているか確認します。

10 ラゲッジシェルフをもとにもどします。

⚠警告

- **お子さま用シートを取り付けるときは、ISOFIXアンカーやテザーアンカー周辺にシートベルトや異物などがないか確認してください。シートベルトなどがかみ込むと、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **荷物の固定などに、ISOFIXアンカーやテザーアンカーを使用しないでください。アンカーが曲がったり損傷したりすると、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

3

背もたれの倒しかた

背もたれを前へ倒すと、荷室が広く使えます。

⚠警告

倒した背もたれの上や荷室に人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されてけがのおそれがあります。

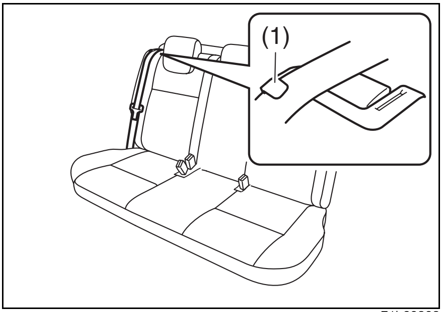
⚠注意

背もたれを動かすときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。

■ 倒しかた

1 ヘッドレストは一番低い位置へ調節します。

2 後席左右のシートベルトを図のようにベルトガイド（1）にかけ、背もたれを動かすときに、ベルトをかみ込まないようにします。



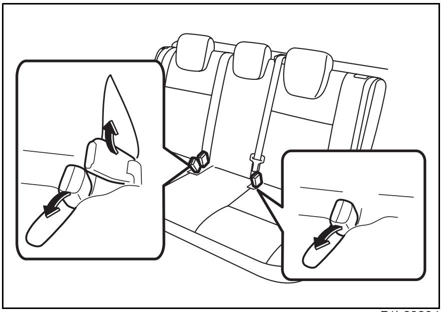
71L20303

- 上図のベルトガイドは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

シートベルトの傷つき防止のため、シートベルトはベルトガイドにかけてください。

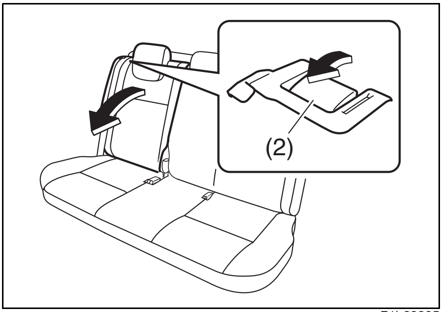
3 シートベルトのバックルは、背もたれを倒すときのじゃまにならないよう、図のようにホルダー内に収納します。



71L20304

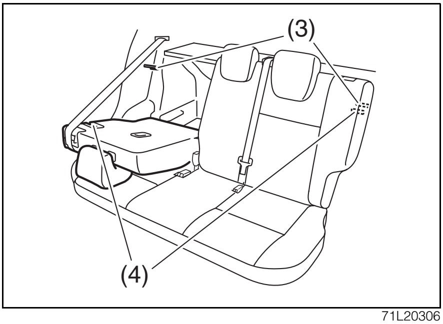
4 背もたれ肩部のロックレバー（2）を引いたまま、背もたれを前方へ倒します。

- 背もたれを倒すときに、後席のヘッドレストが前席に当たる場合は、前席を前に動かしてください。



71L20305

- 上図のロックレバーは代表例です。お車のタイプにより異なります。



(3)背もたれ固定用フック
(4)ロック部品

⚠注意

- **背もたれ裏のロック部品に指などを入れないでください。けがのおそれがあります。**
- **荷物の固定などに、背もたれ裏のロック部品や背もたれ固定用フックを使用しないでください。また、ロック部品やフックに砂などの異物を付着させないでください。ロック部品が損傷したりフックが曲がったりして、背もたれが固定できなくなるおそれがあります。**

■ 起こしかた

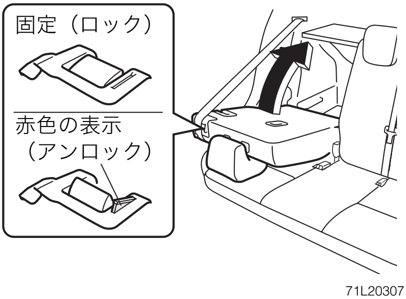
背もたれを起こし、固定される位置まで背もたれを車の後ろ方向へ押し付けます。

- 背もたれ肩部のロックレバー横に赤色の表示が出ていないことを確認します。

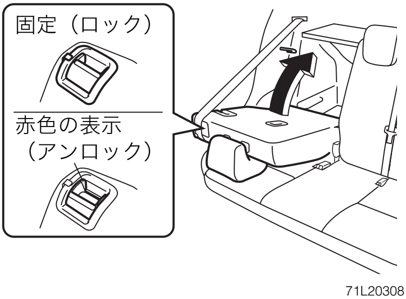
⚠注意

- **ロックレバー横に赤色の表示が出ている状態では、背もたれはロックされていません。**
- **背もたれを起こしたあとは、背もたれを前後にゆすったり、背もたれを一度前に倒し再び起こしたりして、背もたれが確実に固定されているか確認してください。背もたれの固定が不確実な場合、走行中に突然背もたれが前に倒れ、思わぬけがをするおそれがあります。**

リクライニング機構付後席



リクライニング機構なし後席



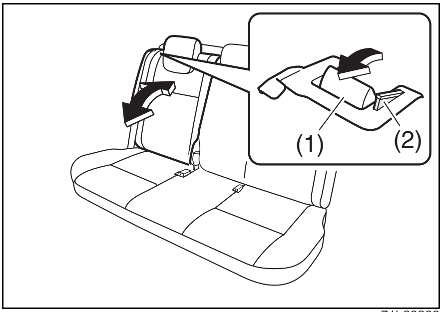
背もたれの角度調節

タイプ別装備

2段階に調節できます。

- 後方へ倒すときは、ロックレバー（1）を引いたまま、背もたれを押します。
- 前方へ起こすときは、ロックレバーを引いたまま、背もたれを前に引きます。

調節後は、ロックレバー横に赤色の表示（2）が出ていないことを確認します。



71L20309

⚠注意

- **ロックレバー横に赤色の表示が出ている状態では、背もたれはロックされていません。**
- **調節後は背もたれを前後にゆするなどして、背もたれが確実に固定されているか確認してください。背もたれの固定が不確実な場合、走行中に突然背もたれが前に倒れ、思わぬけがをするおそれがあります。**

シートベルトについて

正しい姿勢でシートにすわり、正しくシートベルトを着用しないと、シートベルトが本来の効果を発揮できません。シートベルトを着用するときは、次のことに注意してください。

- シートを正しい位置に調節し、上体を起こして奥深くすわります。
- ベルトがねじれないように着用します。
- 腰ベルトは、腰のできるだけ低い位置にかけます。
- 肩ベルトは、首と肩先の中央にかけます。
- ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

→ **3-25ページ（正しい運転姿勢）**

70K216

⚠警告

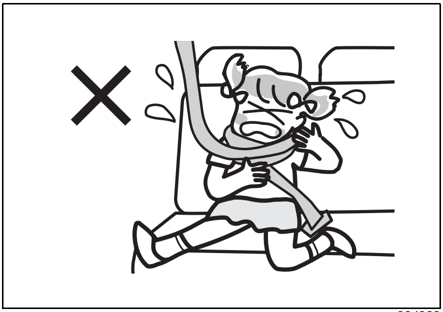
- **走行前にシートベルトを正しく着用してください。走行中に着用したり調節したりすると、思わぬ事故を起こすおそれがあります。**
- **背もたれを必要以上に倒さないでください。また、洗たくばさみやクリップなどでベルトをたるませないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。**
- **助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。**

お子さまもシートベルトを着用

→　2-5ページ(お子さまを乗せるときは)

⚠警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。



80J028

妊娠中や疾患のある方は

⚠警告

- **妊娠中の方、疾患がある方もシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときに局部的に強く圧迫されるおそれがありますので、医師に相談して注意事項を確認してください。**
- **妊娠中の方は、腰ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけます。肩ベルトは、首と肩先の中央から腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。**

80J075

シートベルト警告ブザー

運転席のシートベルト着用忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していないと、メーター内のシートベルト警告灯が点灯から点滅に切り替わるとともに、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴ります。
  →　3-62ページ(シートベルト警告灯)

アドバイス

- 運転者がベルトを着用すると、警告灯は消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がベルトを着用しなくても、約95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK (OFF)にするまで消灯しません。

3

シートベルトの長さ調節

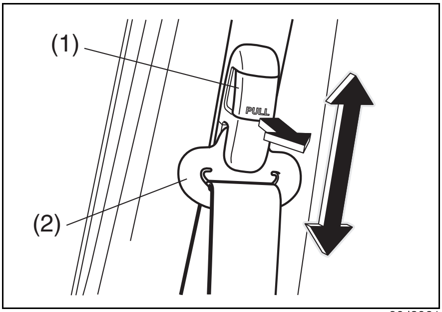
3 点式シートベルトは、長さ調節が必要ありません。身体の動きにあわせてベルトが伸縮し、強い衝撃を受けたときは自動的にベルトがロックされて身体を固定します。

肩ベルトの高さ調節

前席のみ

身体の大きさにあわせて、ショルダーアンカー（2）の高さ調節ができます。

- 上に調節するときは、アンカーをそのまま適切な位置まで持ち上げます。
- 下に調節するときは、ロックレバー（1）を引いたままアンカーを下げ、適切な位置でレバーをはなします。
- 調節後は、アンカーを下に引いて固定されているか確認します。



80J3021

シートベルトの着用のしかた

■ 着用のしかた

1 タングプレート（1）とシートベルトをつかみ、ベルトをゆっくりと引き出します。
ベルトのねじれを取ります。

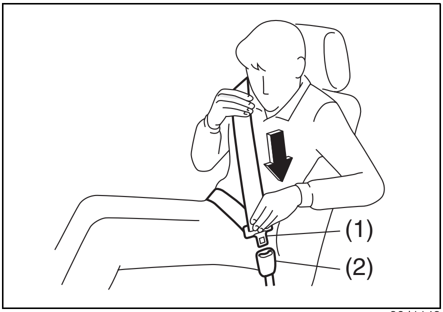
80J1147

アドバイス

ベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

2 タングプレート (1) をバックル (2) の差し込み口にまっすぐになるように合わせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。

- 右側後席用のバックルとの間違い防止のため、後席中央席のシートベルトのバックルには、**CENTER**の表示があります。



80J1148

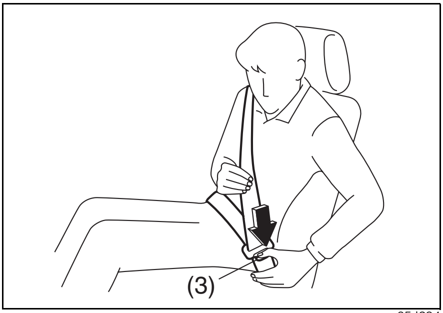
3 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。

4 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。

5 ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

■ 外すときは

バックルのボタン (3) を押します。シートベルトが自動的に巻きもどされますので、ベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。



65J294

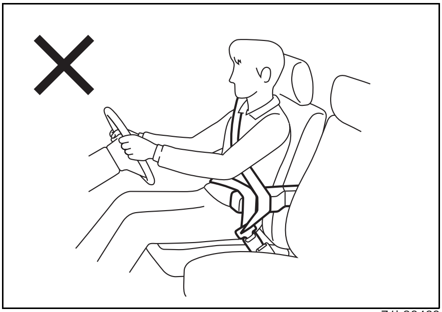
アドバイス

ベルトがねじれていると、ベルトを外したときに巻き取られないことがあります。ベルトにたるみがなく巻きもどされていることを確認してください。

シートベルトを正しく着用する

⚠警告

- **シートベルトにねじれやたるみがあると、衝撃を受けたときに局部的に圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが腹部にかかっていると、衝撃を受けたときに強く圧迫されるおそれがあります。**
- **3点式シートベルトが肩にしっかりとかかっていないと、衝撃を受けたときに前に投げ出されるおそれがあります。**
- **アームレスト（タイプ別装備）にベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。ベルトは、アームレストの下をとおしてください。**

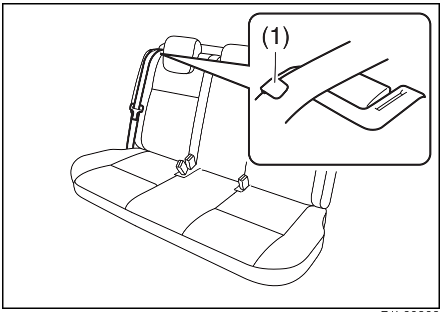


71L30460

シートベルトの取扱いとお手入れ

取扱い

後席に人を乗せないときは、シートベルトをベルトガイド（1）にかけてください。



71L20303

- 上図のベルトガイドは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

- **シートベルトにほつれや擦り傷、切り傷があるときは、ベルトを交換してください。**
- **バックルが正常に動かないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **衝突などでベルトに強い力がかかったときは、外観に異常がなくても、機能が損なわれていることがあります。ベルトを交換してください。**
- **バックルの内部に異物が入ったり、飲み物をこぼしたりしたときは、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがありますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **ベルトをドアにはさまないでください。ドアを閉める前に、ベルトがたるみなく巻きもどされているか確認してください。**
- **ベルトを改造したり、取り外したりしないでください。**

お手入れ

お手入れの方法は、布地などと同様です。

→ **6-4ページ（布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ）**

⚠警告

漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となり、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー（前席のみ）

シートベルトプリテンショナーとは

エンジンスイッチが ON のときに、次のような状況になると、肩ベルトを瞬時に巻き取ります。

- 車の前方向から強い衝撃を受けたとき。運転席・助手席SRSエアバッグシステムと連動しています。
- 車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けたとき。SRSサイド／カーテンエアバッグシステム（タイプ別装備）と連動しています。
  →　**3-53ページ（SRSエアバッグシステムの作動）**

80J1018

> **⚠注意**
> **プリテンショナーが一度でも作動すると、ベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなります。スズキサービス工場で交換してください。**

正常に機能させるために

シートベルトプリテンショナーの機能に影響をあたえる部品に手を加えないでください。シートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られなくなったりすることがあります。
→　**2-28 ページ（部品の取付け、取外し、修理をするときは）**

SRSエアバッグ警告灯

80J111

メーターパネル内にあります。

- シートベルトプリテンショナー、SRSエアバッグの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  →　**3-61ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

廃棄や廃車

作動していないシートベルトプリテンショナーは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

> **⚠注意**
> **プリテンショナーを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**

3

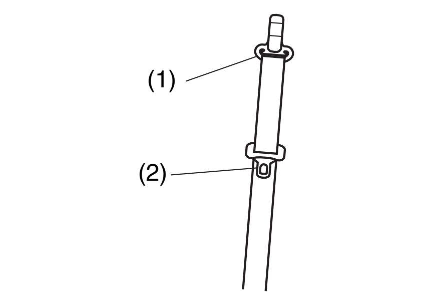
シートベルト可変フォース リミッター（前席のみ）

車の前方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻取り装置内のシートベルト可変フォースリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを2段階に繰り出して、衝撃を緩和します。

80J1039

⚠警告

強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部（1）およびタングプレート部（2）の樹脂が強いまさつで溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できません。スズキサービス工場で交換してください。



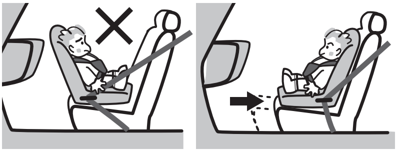
82K179

お子さま用シートの シートベルトによる固定

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
  → **3-42 ページ（お子さま用シートの選択について）**
- ISOFIXタイプのお子さま用シート（別売り）を取り付けるときは、**3-29ページ**の「**ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具**」をお読みください。

⚠警告

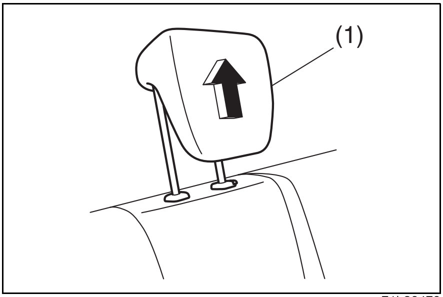
- **助手席には、ベビーシートなどの後ろ向きお子さま用シートを取り付けないでください。助手席 SRS エアバッグがふくらむと、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席をいちばん後ろに下げ、前向きに取り付けてください。**


80J027

固定のしかた

1 ヘッドレスト(1)は、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。

→ **3-28 ページ（ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け）**



71L30470

⚠警告

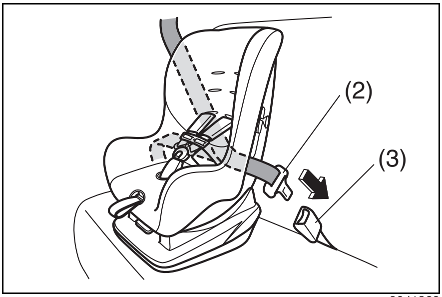
ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

2 リクライニング機構付後席の場合、お子さま用シートと背もたれの間にすき間ができないように背もたれの角度を調節します。

3 座席が確実に固定されているか確認します。

4 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、所定の部位にシートベルトを通します。

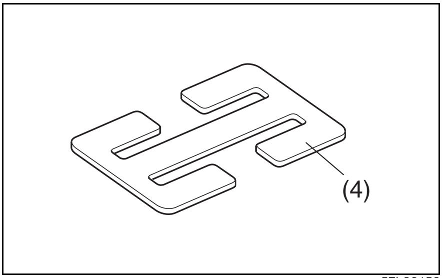
5 カチッと音がするまで、タングプレート（2）をバックル（3）にしっかりと差し込みます。



80J1329

- 上図のお子さま用シートは代表例です。

6 お子さま用シートにシートベルト固定機構もロッキングクリップ (4) もそなわっていない場合は、別売りのロッキングクリップを使用してしっかりと固定します。



57L30152

- 上図のロッキングクリップ（別売り）は代表例です。

⚠警告

シートベルト固定機構またはロッキングクリップでお子さま用シートを確実に固定しないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

3

7 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に固定されているか確認します。

- 確実に固定できない場合は、お子さま用シートに付属の取扱説明書をご確認いただくか、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

⚠警告

お子さま用シートは、確実に固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さま用シートの選択について

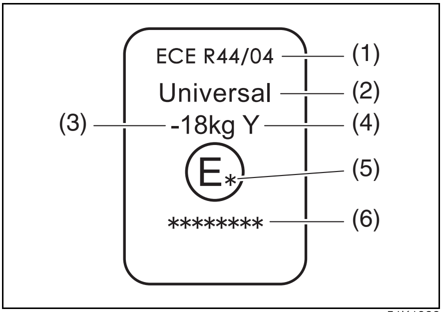
お子さま用シートは、この項目をよく読んだうえで、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。

- **2-5 ページ**の「**お子さまを乗せるときは**」もよくお読みください。
- この車は、2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具（ISOFIXアンカーおよびテザーアンカー）を装備しています。

→ **3-29ページ（ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具）**

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの認証マークについて

ECE R44 (※1)の基準に適合するお子さま用シートには、次のような認証マークが表示されています。



51K1022

(1) 法規番号
(2) お子さま用シートのカテゴリー (※2)
(3) 対象となるお子さまの体重範囲
(4) 装置の仕様
(5) お子さま用シートを認可した国番号
(6) お子さま用シートの認可番号

- 上図の認証マークは代表例です。

※1 ECE R44とは、お子さま用シートに関する国際法規です。

※2 上図の「**Universal**」は、汎用カテゴリーの認可であることを表します。

アドバイス

この車のスズキ純正お子さま用シートは、ECE R44 の基準に適合しています。

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表の見かた

→ **3-45ページ（ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表）**

■ 質量グループについて

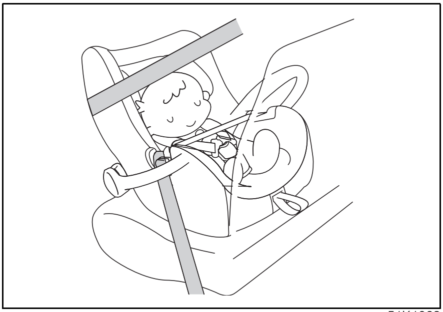
- ECE R44の基準に適合するお子さま用シートは、次の 5 種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

- 代表的なお子さま用シートには、次のようなものがあります。

ベビーシート

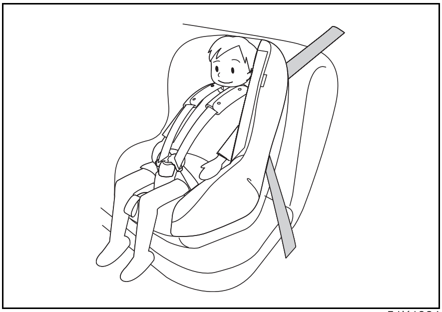
後ろ向き、または横向き装着のお子さま用シートで、首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループ**0**、**0+**に相当します。



51K1023

チャイルドシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループ**Ⅰ**に相当します。



51K1024

ジュニアシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループ**Ⅱ**、**Ⅲ**に相当します。

51K1025

3

■ ISOFIXタイプのお子さま用シートの、サイズ等級について

サイズ等級は、お子さま用シートに表示される分類記号です。次の一覧表をご覧ください。

サイズ等級		説明
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (ISO/F2とは別形状)
C	ISO/R3	大型後ろ向き幼児用チャイルドシート
D	ISO/R2	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート
E	ISO/R1	後ろ向き乳児用チャイルドシート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート(キャリコット※)
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート(キャリコット※)

※キャリコットとは、お子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることができるベビーシートの一つです。
詳しくは、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表

■ シートベルトによる固定

質量グループ	着席位置		
	助手席	後席外側	後席中央
グループ0 （10kgまで）	X	U	U
グループ0＋ （13kgまで）	X	U	U
グループ I （9～18kg）	UF	U	U
グループ II （15～25kg）	X	UF	UF
グループ III （22～36kg）	X	UF	UF

＜上表に記入する文字の説明＞

U　：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのお子さま用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きお子さま用シートに適しています。

X　：お子さま用シートの取付けには適していません。

- シートベルトを使用してお子さま用シートを取り付けるときは、**3-40 ページ**の**「お子さま用シートのシートベルトによる固定」**をお読みください。
- ISOFIX　タイプのお子さま用シートの種類によっては、上表の質量グループでの使用に適していても、取り付けができない場合があります。詳しくは、次ページの「**ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具による固定**」をお読みください。

アドバイス

- 表に記載されていないお子さま用シートを使用する場合は、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。
- 取り付けるときは、お子さま用シートに付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

■ ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具による固定

質量グループ	サイズ等級		チャイルドシート固定専用金具の位置		
			助手席	後席外側	後席中央
キャリコット	F	ISO/L1	N.A.	X	N.A.
	G	ISO/L2	N.A.	X	N.A.
グループ0（10kgまで）	E	ISO/R1	N.A.	IL 注1）	N.A.
グループ0+（13kgまで）	E	ISO/R1	N.A.	IL 注1）	N.A.
	D	ISO/R2	N.A.	X	N.A.
	C	ISO/R3	N.A.	X	N.A.
グループⅠ（9～18kg）	D	ISO/R2	N.A.	X	N.A.
	C	ISO/R3	N.A.	X	N.A.
	B	ISO/F2	N.A.	IUF 注1）	N.A.
	B1	ISO/F2X	N.A.	IUF 注2）	N.A.
	A	ISO/F3	N.A.	IUF 注1）	N.A.
グループⅡ（15～25kg）			N.A.	X	N.A.
グループⅢ（22～36kg）			N.A.	X	N.A.

＜上表に記入する文字の説明＞

IUF ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX対応前向きお子さま用シートに適しています。

IL ：この質量グループでの使用を許可された準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの「スズキ純正ベビーシート」に適しています。

X ：ISOFIX対応お子さま用シートの取付けには適していません。

N.A.：この位置にはチャイルドシート固定専用金具が装備されていないため、ISOFIXタイプのお子さま用シートを取り付けることはできません。

注1） お子さま用シートを取り付ける座席のヘッドレストを使用時の高さに調節します。

注2） お子さま用シートを取り付ける座席のヘッドレストを固定できる範囲で一番高い位置に調節します。

→ **3-28ページ（ヘッドレストの高さ調節と 取外し・取付け）**

● チャイルドシート固定専用金具を使用してお子さま用シートを取り付けるときは、**3-29ページ**の**「ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具」**をお読みください。

アドバイス

●表に記載されていないお子さま用シートを使用する場合は、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。

●取り付けるときは、お子さま用シートに付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

SRSエアバッグ車を運転するときは

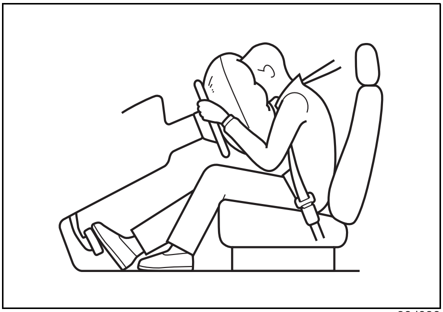
SRSエアバッグシステムとは

SRS とは Supplemental Restraint System（サプリメンタル　レストレイント　システム）の略で、補助拘束装置の意味です。

■ 運転席・助手席 SRS エアバッグシステム

エンジンスイッチが ON の場合に、車の前方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していてもハンドルや助手席側インパネに顔面があたるような強い衝突のときに、運転席・助手席 SRS エアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

- 運転席・助手席SRSエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS エアバッグがクッションの役割をして、顔面への衝撃を軽減する効果があります。



80J090

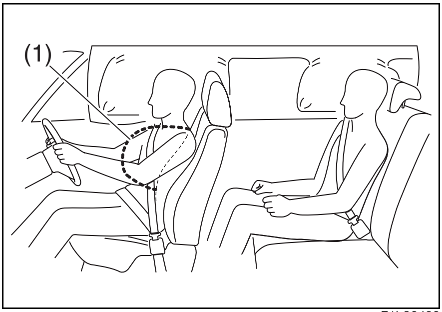
- シートベルトは必ず着用してください。
  →　**3-36ページ**
  （シートベルトの着用のしかた）

■ SRSサイドエアバッグシステム

タイプ別装備

エンジンスイッチが ON の場合に、車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けて、ドアと前席乗員の胸部などが衝突するようなときに、衝撃を受けた側（運転席側または助手席側）のSRSサイドエアバッグがSRSカーテンエアバッグと連動して瞬時にふくらむ構造となっています。

- SRS サイドエアバッグシステムは、ふくらんだSRSサイドエアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した前席乗員の主に胸部にかかる衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。
  →　**3-36ページ**
  （シートベルトの着用のしかた）



71L30480

(1)SRSサイドエアバッグ

- 上図は、運転席側が作動したときを代表しています。

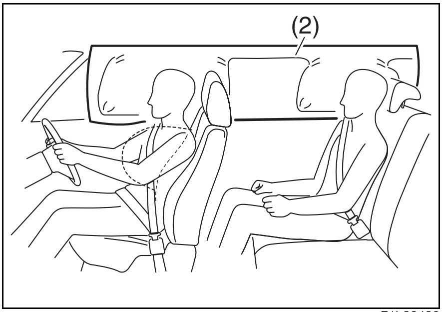
3

■ SRSカーテンエアバッグシステム

タイプ別装備

エンジンスイッチが ON の場合に、車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けて、ドアと前席および後席外側乗員の頭部などが衝突するようなときに、衝撃を受けた側（運転席側または助手席側）のSRSカーテンエアバッグがSRSサイドエアバッグと連動して瞬時にふくらむ構造となっています。

- SRS カーテンエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS カーテンエアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した前席および後席外側乗員の主に頭部にかかる衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。
  → **3-36ページ**
  （シートベルトの着用のしかた）



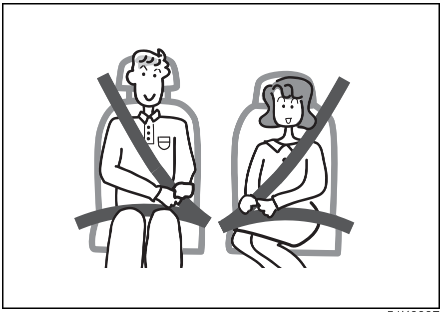
71L30490

(2)SRSカーテンエアバッグ

- 上図は、運転席側が作動したときを代表しています。

⚠ 警告

- **SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。**
- **シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。シートベルトを正しく着用しないと、SRS エアバッグの効果が十分発揮できません。**



51K0007

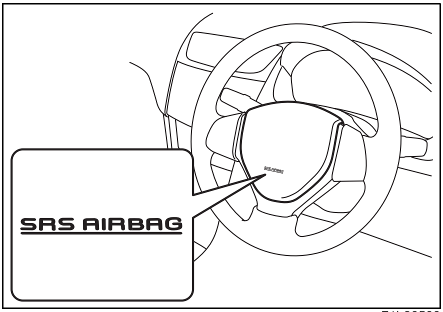
アドバイス

- 助手席 SRS エアバッグは、助手席に乗員がいなくても、運転席 SRS エアバッグと同時にふくらみます。
- SRSサイド／カーテンエアバッグ装備車の場合、乗員の有無に関係なく、衝撃を受けた側の SRS サイド／カーテンエアバッグがふくらみます。

表示と収納場所

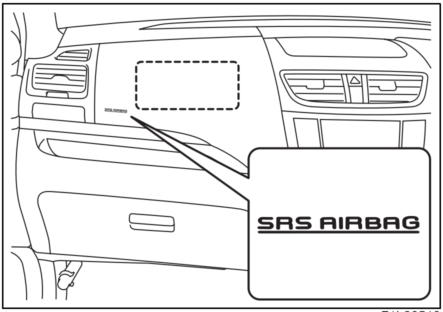
“SRS AIRBAG”の表示がある付近に収納されています。

■ 運転席SRSエアバッグ



71L30500

■ 助手席SRSエアバッグ

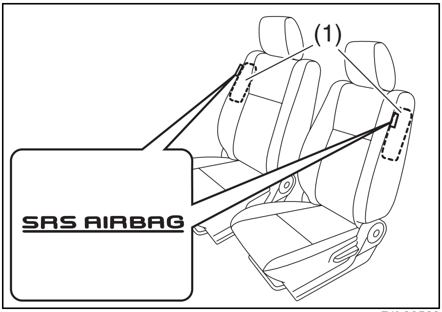


71L30510

■ SRSサイドエアバッグ

タイプ別装備

前席背もたれのドア側に収納されています。装備車の前席シートには、図のようなタグがついています。



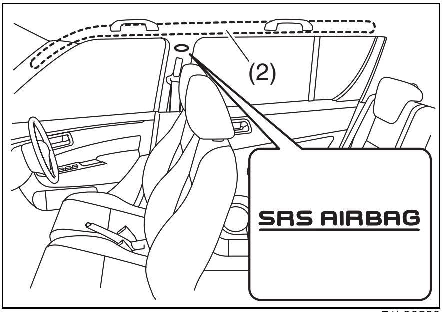
71L30520

(1) SRSサイドエアバッグ

■ SRSカーテンエアバッグ

タイプ別装備

運転席側および助手席側のルーフサイドに収納されています。また、装備車のピラーには図（運転席側を代表）のような表示がついています。



71L30530

(2) SRSカーテンエアバッグ

3

⚠警告

- エアバッグの収納部分に傷がついていたり、ひび割れがあったりするときは、スズキサービス工場で交換してください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- エアバッグの収納場所を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。また、前席ドアを窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり誤ってふくらんだりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

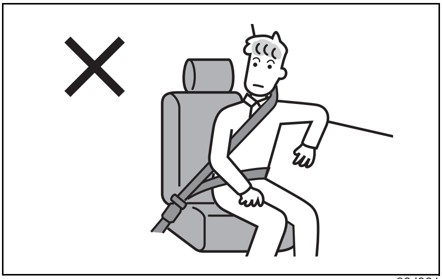
着座姿勢

運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出し過ぎないようにシートの位置を調節してください。
とくに助手席の同乗者は、後席の同乗者のさまたげにならない位置までシートを後方に移動し、助手席SRSエアバッグからできるだけ離れてすわってください。
→ **3-25ページ（正しい運転姿勢）**

80J177

⚠警告

SRSサイド／カーテンエアバッグ（タイプ別装備）が作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないでください。
また、後席に乗るときは、前席の背もたれを抱えないでください。とくにお子さまには注意してください。



80J061

80J062

お子さま用シートの取付け

→ **2-6 ページ（お子さま用シートの使用について）**
→ **3-40 ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**
→ **3-42 ページ（お子さま用シートの選択について）**

SRSエアバッグシステムの取扱い

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために

SRSエアバッグがふくらむ範囲に物があると、物が飛ばされたりSRSエアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。

⚠ 警告

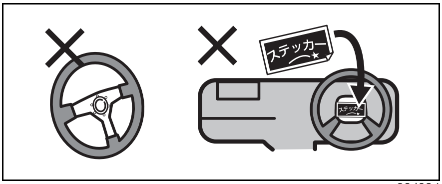
- サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、SRS エアバッグの誤作動の原因になります。
- 車両前部にグリルガードなどを装着するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。車両前部を改造すると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。無線機の電波などがSRS エアバッグのコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあります。
- SRS エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故後はスズキサービス工場で点検を受けてください。システム本来の機能が損なわれていると、万一のときにSRS エアバッグの効果が十分に発揮できないおそれがあります。
- SRS エアバッグは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときにふくらんだり、必要なときに正常に作動しなくなったりすることがあります。次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
  - ハンドルの取外し、ハンドルまわりの修理など
  - インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
  - オーディオ用品などの取付け
  - ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
  - 前席シートの交換およびシートまわりの修理
  - フロントピラー、バックピラーおよびルーフサイドまわりの修理
  - センターピラーまわりの修理

3

■ 運転席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

- ハンドルにもたれかかるなどして、SRS エアバッグ収納部に手や顔、胸などを近づけないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーでおおうなどの改造をしないでください。万一のときにSRSエアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。



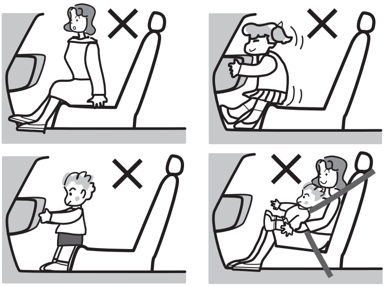
80J094

3

■ 助手席SRSエアバッグについて

⚠警告

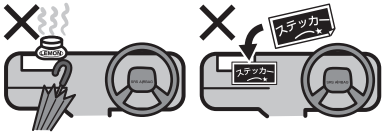
●助手席に乗車するときや、お子さまを乗せるときは、必ず次のことをお守りください。守らないと SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- インパネのSRSエアバッグ収納部に手足を置いたり、顔や胸などを近づけたりしないでください。
- お子さまを SRS エアバッグ収納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわったりしないでください。お子さまは後席に乗せて、シートベルトを着用させてください。



80J095

- シートベルトを正しく着用できないお子さまは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートに乗せてください。

●インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。



80J096

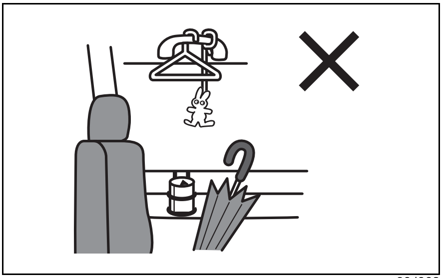
●フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（スズキ純正用品を除く）などを取り付けないでください。

■ SRSサイド／カーテンエアバッグ（タイプ別装備）について

⚠警告

●前席にシートカバーを取り付けるときは、SRS サイドエアバッグ装備車専用のスズキ純正シートカバーを使用し、付属の取扱説明書をよくお読みください。正しい向きと位置に取り付けないと、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、純正の専用品以外の物を使用すると、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなる原因となります。

●ドア付近にカップホルダーやハンガーなどのアクセサリー用品を取り付けたり、傘などを立てかけたりしないでください。SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときに、これらの物が飛散したり正常にふくらまなくなったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。



80J063

SRSエアバッグシステムの作動

作動したとき

- エアバッグは、高温のガスで瞬時にふくらみます。事故の発生状況や乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだエアバッグは、すぐにしぼむ構造になっています。

⚠警告

エアバッグが作動したあとは、エアバッグの構成部品に触れないでください。作動直後は構成部品が熱くなり、やけどのおそれがあります。

⚠注意

エアバッグが作動すると大きな音がして白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

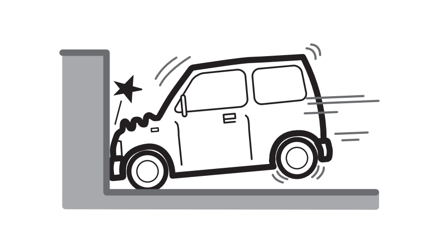
アドバイス

エアバッグは再使用できません。
スズキサービス工場で交換してください。

こんなとき作動します

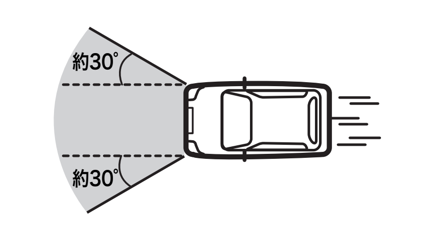
■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

- 衝突しても変形や移動をしない構造物（コンクリートの壁など）に、約25 km/h以上の速度で正面衝突したとき



80J097

- 車両の前方約30゜以内の方向から、上図と同等の強い衝撃を受けたとき

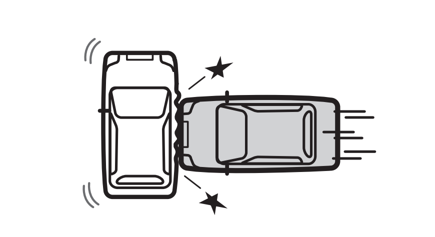


80J098

■ SRSサイド／カーテンエアバッグ

タイプ別装備

自車と同等の車が約25 km/h以上の速度で横方向から客室部に衝突したとき、またはそれと同等以上の衝撃を受けたとき



80J119

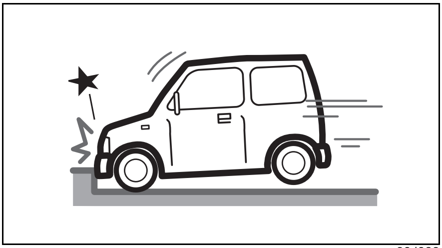
3

こんなとき作動することがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

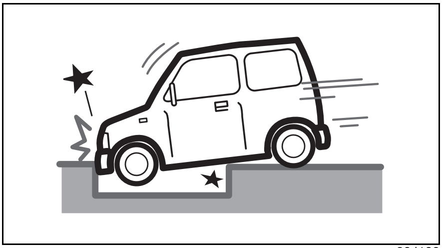
車体下部に強い衝撃を受けると、多くの場合作動します。

● 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



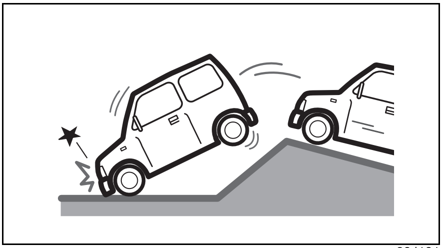
80J099

● 深い穴や溝などに落ちたとき



80J100

● ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき



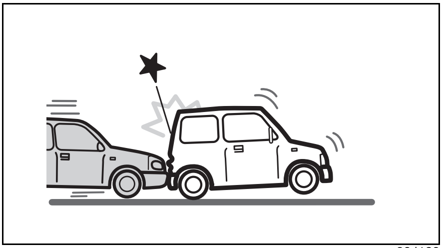
80J101

こんなとき、衝撃が強いと作動する場合もあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

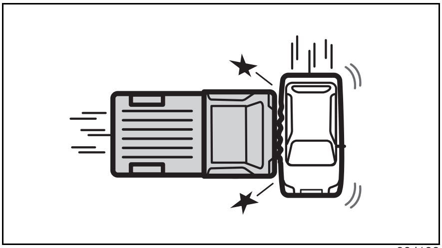
後方、横方向からの衝突、横転などでは基本的に作動しませんが、衝撃が強いとまれに作動する場合があります。

● 後方からの衝突



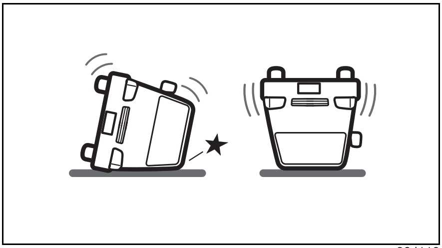
80J120

● 横方向から衝突されたとき



80J109

● 横転や転覆をしたとき

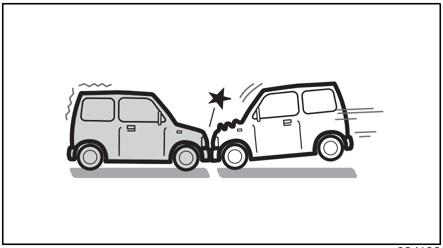


80J110

■ SRSサイド／カーテンエアバッグ

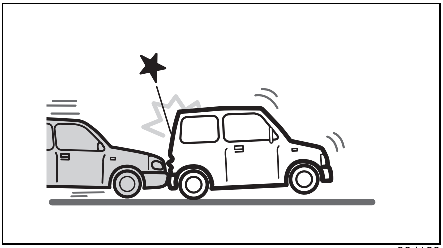
タイプ別装備

- 前方からの衝突



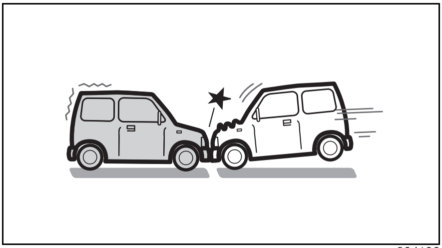
80J102

- 後方からの衝突



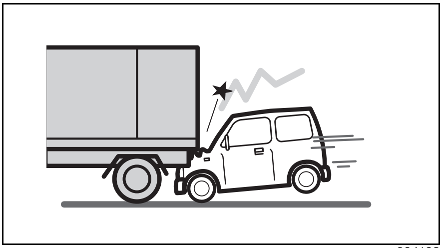
80J120

- 停車している同程度の重さの車に、50 km/h程度、もしくはそれ以下の速度で正面から衝突したとき



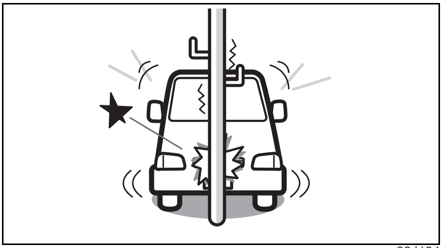
80J102

- トラックの荷台の下などへもぐり込んだとき



80J103

- 電柱や立木などに衝突したとき



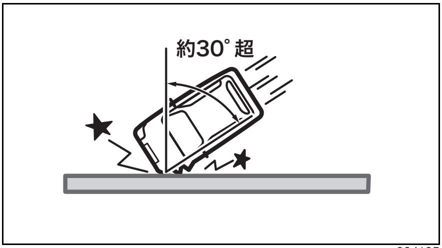
80J104

こんなとき作動しないことがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

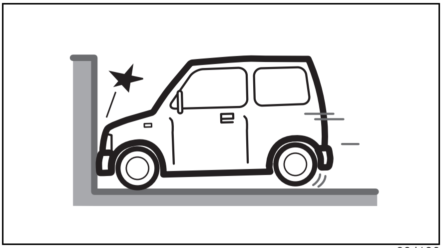
衝突の相手が移動したり、車体が大きく変形したりして衝撃が吸収されたときや、衝突の角度が前方約30°を超えるとき、多くの場合は作動しません。

- 前方約30°を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



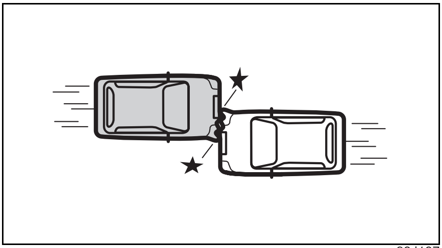
80J105

- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約25 km/h以下のとき



80J106

- 衝突の方向が車両の中心からずれたとき（オフセット衝突）

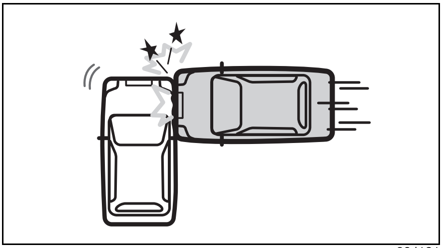


80J107

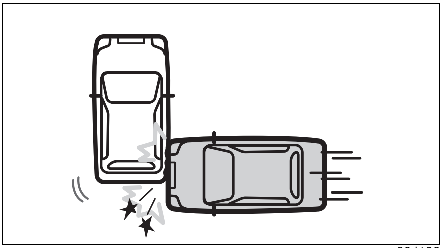
■ SRSサイド／カーテンエアバッグ

タイプ別装備

- 客室部以外（エンジンルームや荷室部）に側面から衝突されたとき

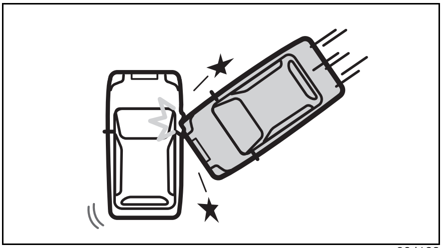


80J121



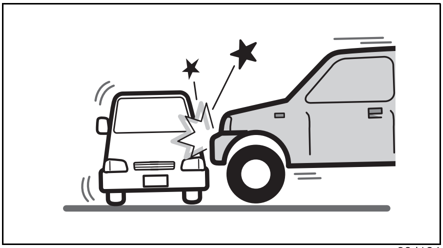
80J122

- 側面の斜め方向から衝突されたとき



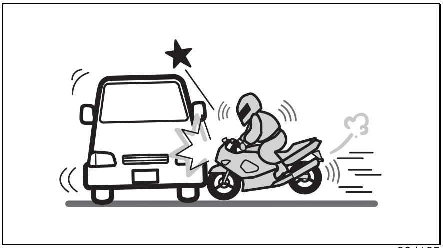
80J123

- 車高の高い車に側面から衝突されたとき



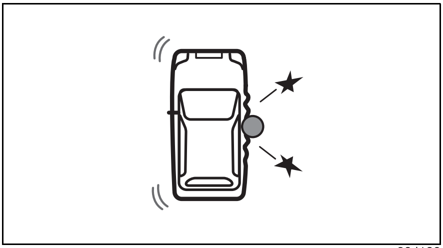
80J124

- 二輪車に側面から衝突されたとき



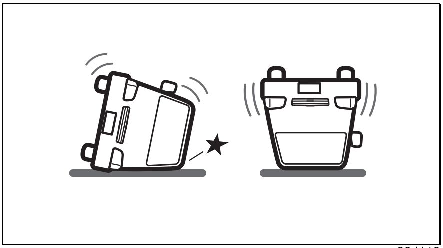
80J125

- 電柱、立ち木などに衝突したとき



80J126

- 横転または転覆したとき



80J110

SRSエアバッグ警告灯

80J111

メーターパネル内にあります。

- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

→ **3-61ページ**
(警告灯・表示灯の見かた)

廃棄と廃車

作動していないエアバッグを廃棄するときは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

80J112

⚠注意

エアバッグを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。正しく取り扱わないと、エアバッグが思いがけないときにふくらんで、けがをすることがあります。

イベントデータレコーダー(EDR)とは

この車は、SRSエアバッグシステムを制御するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターは、SRSエアバッグシステムが正常に作動しているかどうかを常に診断するとともに、エアバッグが作動するような事故のときに、衝突時点やその前後の車両データを記録するイベントデータレコーダー(EDR) システムを備えています。

EDRに記録するデータ

- SRS エアバッグシステムの故障診断情報
- SRSエアバッグ作動に関する情報
- 車速
- アクセルペダルの踏み込み具合
- ブレーキ作動の有無
- 運転席シートベルトの着用有無　等

アドバイス

- お車のタイプなどにより、記録されるデータは異なります。
- EDRは、一般的なデータレコーダーとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

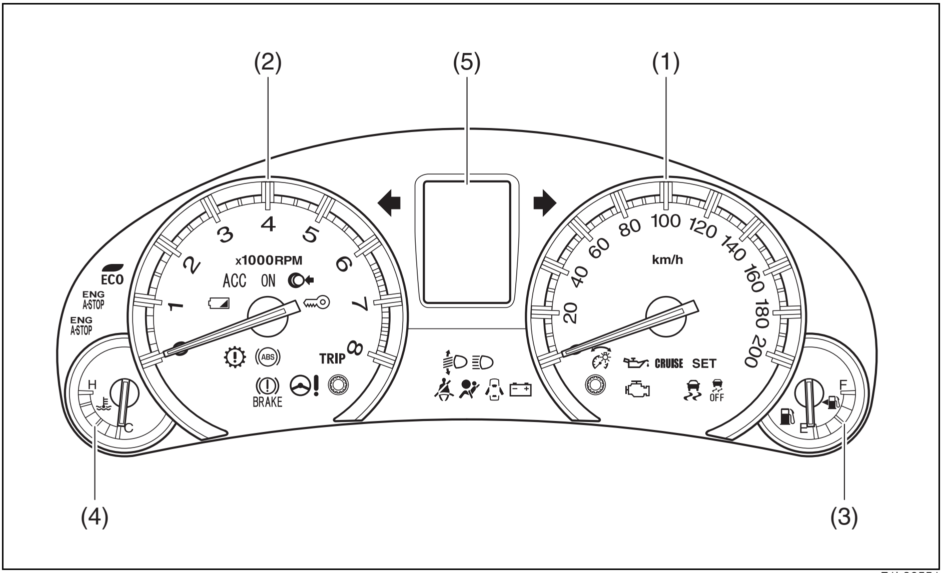
EDRデータの開示について

スズキおよびスズキが委託した第三者は、EDRに記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、スズキおよびスズキが委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令その他法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

メーターの見かた

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



71L30551

(1) スピードメーター(速度計)
(2) タコメーター(エンジン回転計)
(3) 燃料計
(4) 水温計
(5) インフォメーションディスプレイ

→ **3-69 ページ(インフォメーションディスプレイ)**

(1) スピードメーター(速度計)

走行速度がkm/hで示されます。

(2) タコメーター(エンジン回転計)

1 分間あたりのエンジン回転速度(回転数)が示されます。

注 記

- **エンジン保護のため、指針がレッドゾーン(※)に入らないように運転してください。**

  ※エンジンの許容回転を超えていることを示す赤色表示範囲

- **シフトダウンすると、エンジン回転が上がります。とくに注意してください。**

  → 4-13ページ(シフトダウンの上限速度)

(3) 燃料計

エンジンスイッチが ON のとき、燃料残量の目安が示されます。

- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。
→　**3-63ページ（燃料残量警告灯）**

アドバイス

- 給油後は、エンジンスイッチを ON にしてから指針が正しい量を示すまでに、少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- ⛽ の左にある ◀ 印は、給油口（フューエルリッド）が助手席側車両後方にあることを示します。

(4) 水温計

エンジンスイッチが ON のときに、エンジン冷却水の温度が示されます。

注記

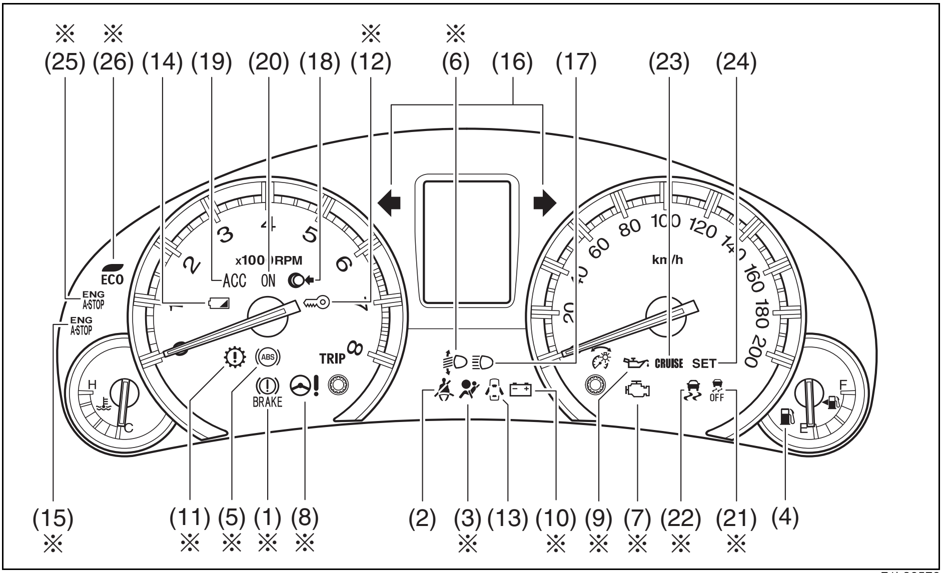
指針が H 側に近づいたときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。
→　7-31ページ（オーバーヒートしたときは）

メーターの照明

メーターの照明は、ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。
→　**3-74ページ（メーターの明るさ調節）**

警告灯・表示灯の見かた

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



(1)　ブレーキ警告灯(※)
(2)　シートベルト警告灯
(3)　SRSエアバッグ警告灯(※)
(4)　燃料残量警告灯
(5)　ABS警告灯(※)
(6)　オートレベリング警告灯(※)
(7)　エンジン警告灯(※)
(8)　パワーステアリング警告灯(※)
(9)　油圧警告灯(※)
(10) 充電警告灯(※)
(11) トランスミッション警告灯(※)
(12) イモビライザー警告灯(※)
(13) 半ドア警告灯
(14) 携帯リモコン電池消耗警告灯
(15) ENG A-STOP警告灯
(オレンジ色)(※)
(16) 方向指示器表示灯
(17) ヘッドライト上向き
(ハイビーム)表示灯
(18) プッシュ表示灯
(19) ACC表示灯
(20) IG ON表示灯
(21) ESP® OFF表示灯(※)
(22) ESP®作動表示灯(※)
(23) CRUISE表示灯
(24) SET表示灯
(25) ENG A-STOP表示灯(緑色)(※)
(26) エコドライブインジケーター
(※)

- ※印の警告灯・表示灯は、エンジンスイッチを ON にしたときに初期点灯するのが正常です。点灯しない場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- アイドリングストップシステム装備車には、特有の点灯条件があります。
→ **4-35ページ**
(アイドリングストップシステム)

(1) ブレーキ警告灯

80J220

- 次のような状況になると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  - ブレーキ液が不足している
  - パーキングブレーキをかけている
  - ブレーキシステムに異常がある
- システムが正常で、パーキングブレーキを完全に解除しているときは、エンジンスイッチを ON にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ正常です。

⚠警告

- **次のようなときはただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**
  - **パーキングブレーキを完全に解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したとき。ブレーキの効きが悪くなっていることがあります。ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。**
  - **ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したままのとき。ABS に異常が発生しているだけでなく、ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。**
- **パーキングブレーキの解除忘れにご注意ください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。また、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。**
  → 4-13ページ（パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー）

(2) シートベルト警告灯

80J221

運転者がシートベルトを着用していないと、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
また、エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していない場合、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴るとともに、警告灯が点灯から点滅に切り替わります。

- 運転者がシートベルトを着用しても、点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 運転者がシートベルトを着用すると消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がシートベルトを着用しなくても、約95秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK （OFF）にするまで消灯しません。

(3) SRSエアバッグ警告灯

80J111

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約6秒間点灯したあと消灯します。

⚠警告

次のような場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
- **運転中に点灯**
- **エンジンスイッチを ON にしても点灯しない**
- **エンジンスイッチを ON にしたあと、約6秒間たっても消灯しない**

(4) 燃料残量警告灯

80J225

- 燃料の残量が少なくなると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。すみやかに給油してください。
  - 点灯すると、警告ブザーが“ポーン”と１回鳴ります。また、そのまま給油しないでいると、エンジンスイッチを ON にするごとに警告ブザーが鳴ります。
- システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点滅します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

→ **3-60ページ（燃料計）**

アドバイス
- 坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため、早めに点灯することがあります。
- 走りかたによって、点灯・消灯が繰り返されることがあります。

(5) ABS警告灯

80J127

ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中はABSが作動しません。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。ABS に異常が発生しているだけでなく、ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。

アドバイス

点灯中はABSは作動しませんが、通常のブレーキとして使用することができます。

(6) オートレベリング警告灯

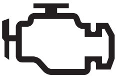
タイプ別装備

80J217

ディスチャージヘッドライト装備車では、オートレベリング（自動光軸調整）システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。
  再びエンジンスイッチを ON にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯すれば、そのまま使用できます。
  消灯せず再び点灯する場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

(7) エンジン警告灯



80J222

- エンジンの電子制御システムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。
- エンジンの失火を検知すると、エンジン回転中に点灯または点滅します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯・点滅したときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

点滅したときは、すみやかに停車しエンジンを止めてください。触媒装置が溶損するおそれがありますので、次のことに注意してください。

- **枯れ草などの燃えやすいものがない安全な場所に停車する**
- **やむをえず走行する場合はアクセルを大きく踏み込む走行をしないで、低速で走行する**

(8) パワーステアリング警告灯

80J408

電動パワーステアリングシステムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

⚠注意

電動パワーステアリングシステムに異常があると、電動パワーステアリングシステムの機能が停止し、ハンドル操作が重くなります。通常より大きな力で操作することは可能ですが、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

すばやいハンドル操作を行なうと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

(9) 油圧警告灯

80J223

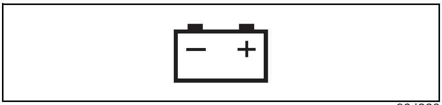
エンジン回転中に、エンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジンオイルの量は、オイルレベルゲージで点検してください。点検方法は、「**メンテナンスノート**」を参照してください。
- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

注 記

点灯したまま走行を続けないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

(10) 充電警告灯

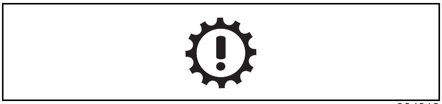

80J226

充電系統に異常があると、エンジン回転中に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯したときは、ベルト切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、バッテリー保護のためエンジンを止めて、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

(11) トランスミッション警告灯

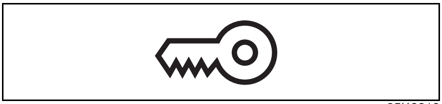
オートマチック車


80J219

CVTのシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

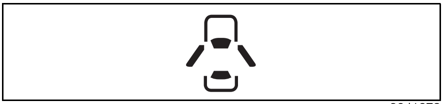
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

(12) イモビライザー警告灯


85K2210

→ **4-3ページ**
（イモビライザーシステム）

(13) 半ドア警告灯



80J1273

いずれかのドアが完全に閉まっていないと点灯します。

- 点灯したままにしていると、走行するごとに警告ブザーが“ポーン”と１回鳴ります。

⚠警告

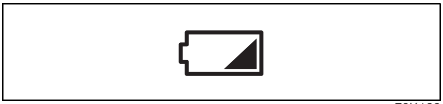
警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが完全に閉まっていない半ドア状態のときは、走行中にドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）

- エンジンスイッチが LOCK （OFF）の位置
- 点灯したまま15分が経過

(14) 携帯リモコン電池消耗警告灯



70K122

携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、約15 秒間点灯します。電池を交換してください。

→　**6-6ページ**
（携帯リモコンの電池交換）

(15) ENG A-STOP警告灯（オレンジ色）

タイプ別装備

68LM271

→　**4-35ページ**
（アイドリングストップシステム）

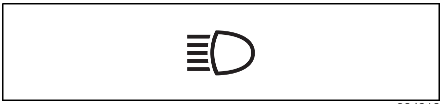
(16) 方向指示器表示灯

80J211

- 方向指示器／非常点滅表示灯を作動させると点滅します。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

→　**7-25ページ**
（電球を交換するときは）

(17) ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

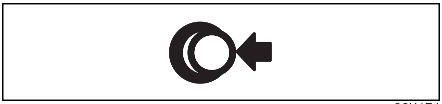


80J212

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

3

(18) プッシュ表示灯



82K174

→ 4-4 ページ（キーレスプッシュスタートシステム）

(19) ACC表示灯

82K097

エンジンスイッチが ACC 位置にあると点灯します。

→ 4-5ページ（電源の切替えのしかた）

アドバイス

バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたして約 60 分が経過すると、自動的に消灯してエンジンスイッチが LOCK （OFF）位置に戻ります。

- ブレーキペダルが踏まれていない
- すべてのドアが閉まっている
- オートマチック車 は、セレクトレバーが P 位置

(20) IG ON表示灯

82K098

エンジン停止状態で、エンジンスイッチが ON 位置にあると点灯します。

→ 4-5ページ（電源の切替えのしかた）

(21) ESP® OFF表示灯

ESP®装備車

57L30045

→ 4-31ページ（ESP®装備車の取扱い）

(22) ESP®作動表示灯

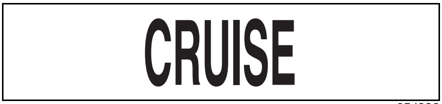
ESP®装備車

79K019

→ 4-31ページ（ESP®装備車の取扱い）

(23) CRUISE表示灯

クルーズコントロール装備車



65J308

→ 4-25ページ（クルーズコントロール）

(24) SET表示灯

クルーズコントロール装備車

65D474

→ 4-25ページ（クルーズコントロール）

(25)ENG A-STOP表示灯(緑色)

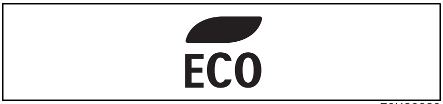
タイプ別装備

68LM271

→ **4-35ページ
(アイドリングストップシステム)**

(26)エコドライブインジケーター

タイプ別装備



70K30030

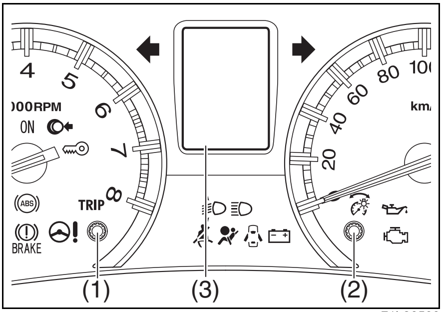
燃費効率が良い運転をしていると判定されると点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

アドバイス

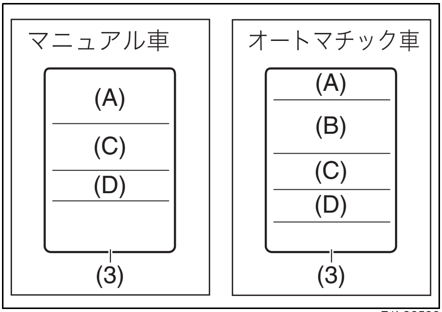
- 車速約 10 km/h 未満では点灯しません。
- アイドリングストップシステム装備車の場合、エンジンの自動停止中も点灯します。
- 設定の切替え(カスタマイズ)をすると、点灯しなくすることができます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

インフォメーションディスプレイ



71L30580

(1)トリップノブ
(2)表示切替えノブ
(3)インフォメーションディスプレイ



71L30590

● エンジンスイッチが ON のときに、インフォメーションディスプレイ（3）の各表示位置に次のいずれかが表示されます。

表示位置	表示される内容
(A)	● 外気温 → **3-70ページ**
(B)	● セレクトレバー位置／ギヤポジション／Mモード／Sモード表示 → **3-71ページ**
(C)	● トリップメーター、瞬間燃費、平均燃費、航続可能距離 → **3-71ページ**
(D)	● オドメーター → **3-73ページ** ● メーターの明るさ調節 → **3-74ページ**

外気温

°Cまたは °F単位で表示されます。

● 外気温が氷点下近くになると、フリーズマーク（雪の結晶マーク）が表示されます。路面が凍結しているおそれがありますので、とくに慎重に運転してください。
→ **6-9ページ**
（雪道を走行するとき）

図の値は表示例です

71L30600

(4)フリーズマーク

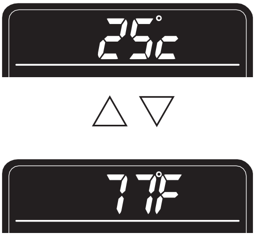
アドバイス

●停車中や低速走行中に外気温が上昇すると、センサーがエンジンの熱の影響を受けていると判断して値を更新せず、正しい外気温を表示できない場合があります。
●エンジンスイッチを ON にした直後やセンサー異常時は、外気温が表示されない場合があります。

■ 単位の切替えのしかた

航続可能距離の表示中に、トリップノブ（1）を押したまま、表示切替えノブ（2）を左右にまわすと、次のように単位が切り替わります。

図の値は表示例です



摂氏温度（初期状態）

華氏温度

71L30610

アドバイス

バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、切替え操作をやり直す必要があります。

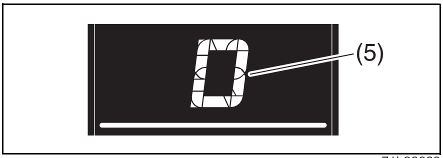
セレクトレバー位置／ギヤポジション／Ｍモード／Ｓモード表示

オートマチック車

■ セレクトレバー位置表示

エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（B）に表示されます。（マニュアルモード付CVT車のマニュアルモード時を除く）

→ **4-14 ページ（セレクトレバーの各位置のはたらき）**



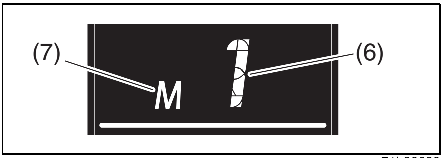
(5) セレクトレバー位置表示

■ ギヤポジション／Ｍ（マニュアル)モード表示

マニュアルモード付CVT車

マニュアルモードのときに、表示位置（B）に表示されます。

→ **4-17ページ（マニュアルモードの使いかた）**



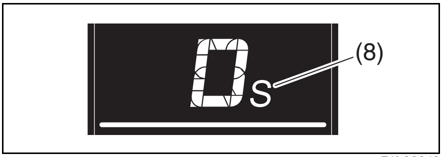
(6) ギヤポジション表示
(7) M(マニュアル)モード表示

■ S（スポーツ）モード表示

マニュアルモードなしCVT車

S（スポーツ）モードスイッチがONのときに、表示位置（B）に表示されます。

→ **4-16ページ（S（スポーツ）モードスイッチ）**



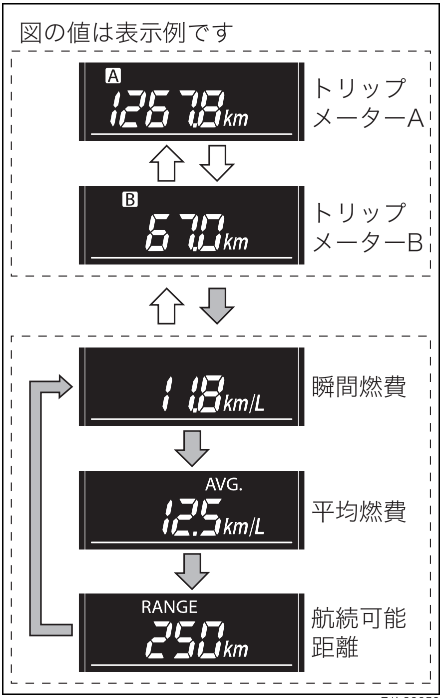
(8) S(スポーツ)モード表示

トリップメーター、瞬間燃費、平均燃費、航続可能距離

エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（C）に次のいずれかが表示されます。

- トリップメーター（区間距離計）
- 瞬間燃費
- 平均燃費
- 航続可能距離

トリップノブ（1）または表示切替えノブ（2）を押すごとに、次のように表示が切り替わります。



71L30650

⇧⇩	トリップノブ（1）を押します。
⬆⬇	表示切替えノブ（2）を押します。

⚠警告

走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気をとられて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 表示は、ノブをはなしたときに切り替わります。
- 表示される燃費や航続可能距離は目安です。実際とは異なる場合があります。
- 走行中にメーター内のエンジン警告灯が点灯すると、燃費が正しく表示されない場合があります。
→　**3-65ページ（エンジン警告灯）**

■ トリップメーター

リセット後の走行距離がkm単位で表示されます。（次にリセットするまで距離計測は継続されます）

- A および B の2種類の走行距離を同時に計測できます。

＜使いかたの例＞

A：出発時にリセットして、出発後の距離を計測

B：給油時にリセットして、給油後の距離を計測

- リセットするときは、表示が「0.0」になるまでトリップノブ（1）を長押しします。

アドバイス

トリップメーターの最大値は9999.9で、そのあと0.0にもどります。（距離計測は継続されます）

■ 瞬間燃費

走行中に表示されます。

アドバイス

- 停車中は値が表示されません。
- 最大表示値は30.0です。下り坂などで燃料カット制御が作動しているときでも、それ以上の値は表示されません。
- 燃費が大きく変化する走行をすると、表示に遅れが発生します。
- 平均燃費の単位を切り替えると、瞬間燃費の単位も切り替わります。

■ 平均燃費

バッテリー接続後、またはリセット後の値が表示されます。

- リセットするときは、平均燃費の表示中に表示切替えノブ（2）を長押しします。

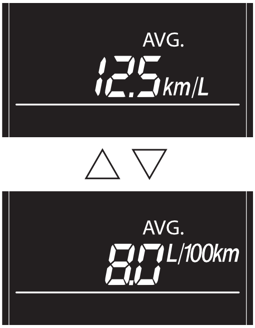
アドバイス

バッテリー接続後またはリセット後しばらくは、値が表示されません。

単位の切替えのしかた

平均燃費の表示中に、トリップノブ（1）を押したまま、表示切替えノブ（2）を左右にまわすと、次のように単位が切り替わります。

図の値は表示例です



（初期状態）

71L30660

アドバイス

- 平均燃費の単位を切り替えると、瞬間燃費の単位も切り替わります。
- バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、切替え操作をやり直す必要があります。

■ 航続可能距離

燃料残量と平均燃費から算出した値が5km単位で表示されます。

アドバイス

- 給油直後の値は、給油前の走行状況に左右されますので、給油ごとに値が異なる場合があります。
- エンジンスイッチを ON のままにして給油すると、正しい値が表示されない場合があります。
- 次のような場合は値が表示されません。
  - エンジンスイッチを ON にしたあと少しの間
  - バッテリー接続後しばらくの間
  - 燃料残量警告灯の点灯中
    → **3-63ページ（燃料残量警告灯）**

オドメーター（積算距離計）

エンジンスイッチが ON のときに、表示位置（D）に新車時（またはメーター交換時）からの走行距離の累計がkm単位で表示されます。（リセットはできません）

図の値は表示例です。

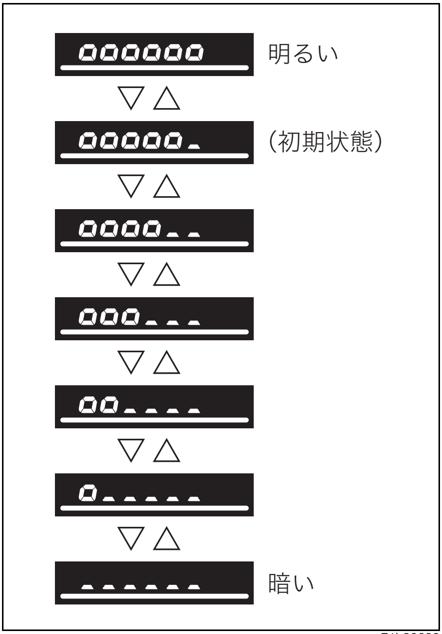
71L30670

(9) オドメーター

メーターの明るさ調節

ヘッドライトや車幅灯が点灯しているときの明るさは、7段階に調節できます。

- エンジンスイッチが ON のときに、ヘッドライトや車幅灯を点灯させたあと、表示切替えノブ（2）を左右にまわします。調節の状態は、表示位置（D）に表示されます。
- 連続して調節するときは、ノブをまわしたままにします。



71L30680

⚠ 警告

走行中は明るさ調節をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

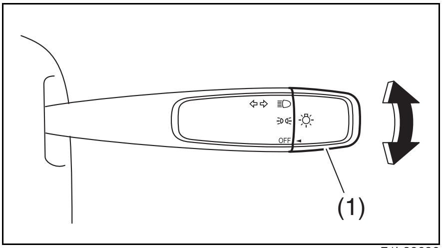
- 調節中に、表示切替えノブを5秒以上まわさないでいると、オドメーターの表示に切り替わります。
- バッテリーを外すと記憶が消去され、初期状態にもどります。再度、明るさ調節をしてください。

ライトスイッチ

ライトの点灯・消灯

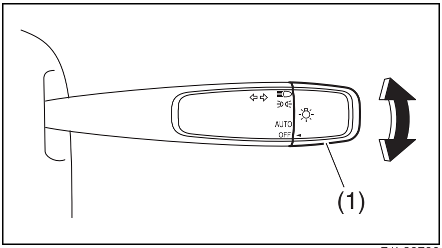
エンジンスイッチの位置に関係なく使用でき、ライトスイッチのツマミ（1）をまわすと次のように点灯・消灯します。

オートライトシステム非装備車



71L30690

オートライトシステム装備車



71L30700

ライトスイッチの位置	ヘッドライト（前照灯）	車幅灯、尾灯、番号灯、計器照明灯
≡D	点灯	点灯
≡D D≡	消灯	点灯
AUTO	自動点灯・消灯（※）	
OFF	消灯	消灯

※ オートライトシステム（タイプ別装備）は、エンジンスイッチが ON のときだけ作動します。

注 記

エンジン停止中に、長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

■ オートライトシステム

タイプ別装備

エンジンスイッチが ON のときに使用でき、車外の明るさに応じてヘッドライトや車幅灯が自動的に点灯・消灯します。エンジンスイッチを ACC または LOCK (OFF) にすると、自動的に消灯します。

- ライトスイッチのツマミを AUTO の位置にまわすと、次のように点灯・消灯します。

車外の明るさ	ヘッドライト（前照灯）	車幅灯、尾灯、番号灯、計器照明灯
明るいとき	消灯	消灯
薄暗いとき	消灯	点灯
暗いとき	点灯	点灯

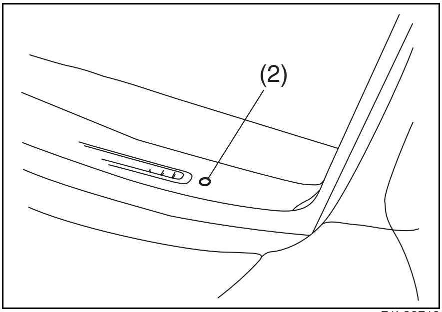
注 記

AUTO 位置のままエンジンスイッチを ON にしていると、エンジンがかかっていなくても、車外が暗くなるとともにライトや車幅灯が点灯します。そのまま長時間点灯させると、バッテリーあがりの原因となりますのでご注意ください。

アドバイス

オートライトセンサー（2）の上や周囲に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。センサーの感度が低下し、正常に点灯・消灯しなくなります。

インパネ助手席側



71L30710

ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライトや車幅灯の消し忘れを防止するため、次のようなときに運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピーーー”と連続して鳴ります。

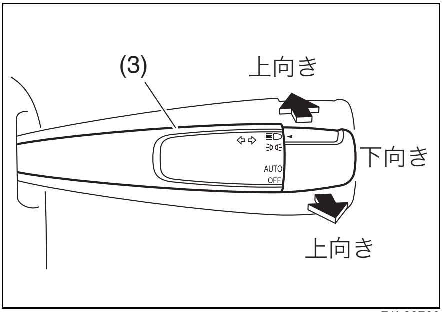
- エンジンスイッチを LOCK（OFF）にしたあとも、ライトや車幅灯が点灯している

ライトおよび車幅灯を消すと、室内ブザーは止まります。

ライトの上向き、下向きの切替え

ヘッドライトを上向き（ハイビーム）に切り替えると、遠くまで照らすことができます。

- ライトが点灯しているときに、レバー（3）を車の前方向に押すと上向きになります。もとの位置にもどすと、下向きになります。
- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きにライトが点灯します。
- ライトを上向きにすると、メーター内のヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。
  → **3-67ページ（ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯）**



71L30720

- 上図のスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

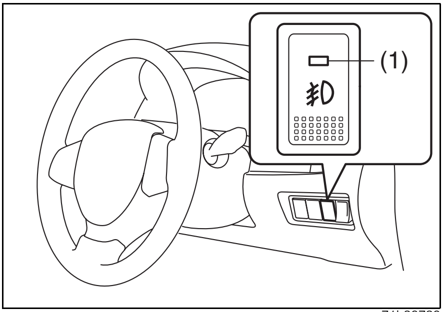
対向車や先行車があるときは、ライトを下向きにしてください。

フォグランプスイッチ

タイプ別装備

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すと消灯します。



71L30730

注 記

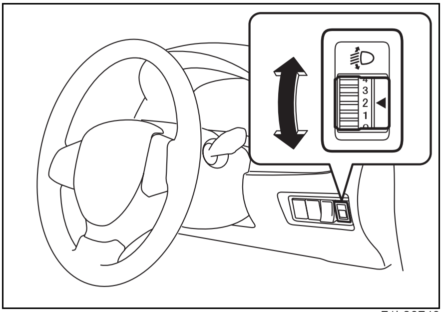
バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

光軸調整ダイヤル

タイプ別装備

ハロゲンヘッドライト装備車は、ライトを点灯して光軸調整ダイヤルをまわすと、ライトの光軸が調整できます。
荷物や同乗者を乗せてライトの光軸が上向きになると、対向車や先行車の迷惑となります。ダイヤルを操作して、光軸を下向きに調整してください。

- ダイヤル操作は、ライトが下向き（ロービーム）に点灯しているときに行なってください。ライトが上向き（ハイビーム）に点灯している、または点灯していないときは、光軸が適切に調整できているか判断できません。
- ダイヤルの目盛りは **0** ～ **4** まであり、光軸が5段階に調整できます。
- ダイヤルの目盛りを大きくすると、光軸が下向きになります。



71L30740

- 荷物や同乗者ののせかたによって変わりますが、次表の数値を参考に適切な位置に調整してください。

〈ダイヤル位置の目安〉

条件	ダイヤル位置
運転席のみ乗車	0
運転席および助手席に乗車	0
5名乗車	1〜2
5名乗車で荷室満載	2
運転席のみ乗車で荷室満載	2〜3

⚠警告

走行中はダイヤル操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

車検などで基本の光軸を調整するときは、ダイヤルを0の位置にしてください。0以外の位置で基本光軸を調整すると、ライトの光軸が基準より上向きになるなど、安全上問題となるおそれがあります。

アドバイス

- ダイヤルを操作すると、ライトの下向き（ロービーム）と上向き（ハイビーム）の光軸が同時に調整されます。
- ディスチャージヘッドライト装備車の場合、光軸が自動調整されます。
→ **3-64ページ（オートレベリング警告灯）**

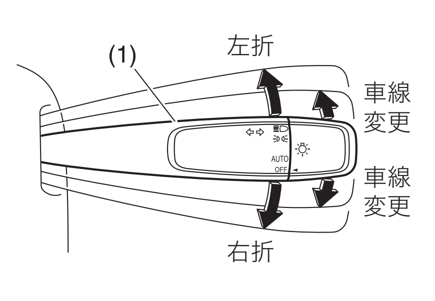
方向指示器スイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

右折・左折をするとき

左折時：レバー（1）を押し上げます。
右折時：レバーを押し下げます。

- 同時に方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとにもどすと、レバーが自動的にもどり、方向指示器と表示灯が消灯します。



71L30750

- 上図のスイッチは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

ハンドルを切る角度が小さいと、レバーが自動的にもどらないことがあります。レバーを手でもどしてください。

車線変更をするとき

レバーを車線変更しようとする方向に軽く押さえます。

- 押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。

■ レーンチェンジ機能

操作したレバーをすぐもどしても、方向指示器と表示灯が3回点滅します。

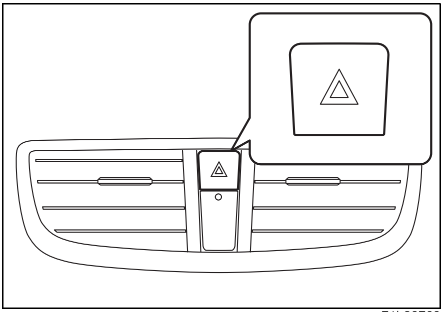
アドバイス

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、点滅回数を変更（1回～4回）できます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

非常点滅表示灯スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。故障などでやむをえず路上駐車するときや非常時に使用します。

- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- もう一度押すと消灯します。



71L30760

注 記

エンジン停止中に長時間点滅させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー／ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

⚠注意

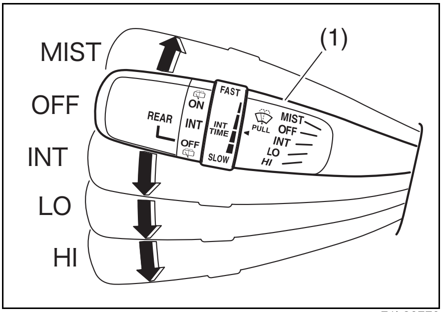
寒冷時は、ガラス面に吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなることがあります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。
→ 5-8ページ（デフロスター）

注 記

- **ウインドーが乾いているときは、ウインドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつくおそれがあります。**
- **ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。**
- **ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャーポンプが故障する原因となります。**

フロントワイパースイッチ

レバー（1）を上下に操作します。

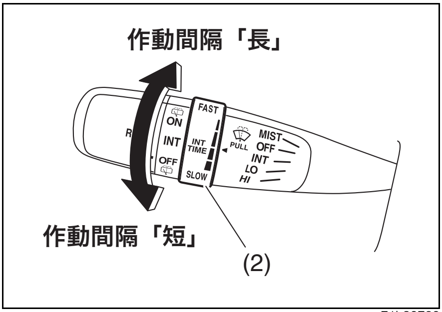


71L30770

MIST	レバーを押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

■ 間欠ワイパーの時間調節のしかた

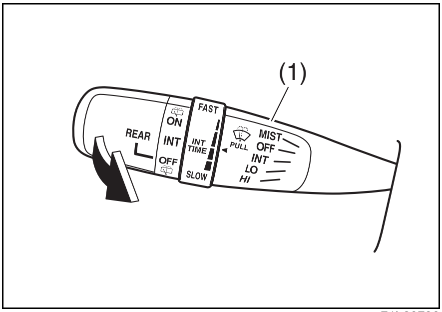
INT のときにリング（2）をまわすと、作動間隔を調節できます。



71L30780

フロントウォッシャースイッチ

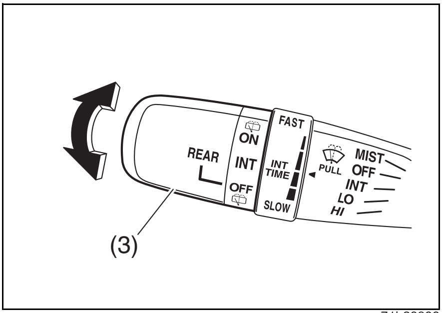
レバー(1)を手前に引くと、ウォッシャー液が噴射されワイパーが数回動きます。



71L30790

リヤワイパースイッチ

ツマミ（3）をまわします。

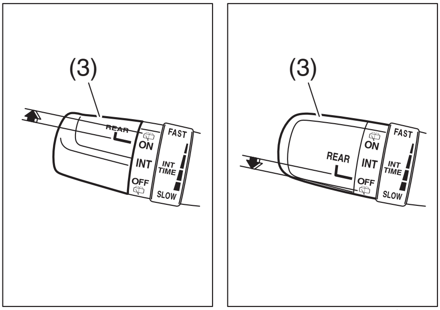


71L30800

ON	連続作動
INT	間欠作動
OFF	停止

リヤウォッシャースイッチ

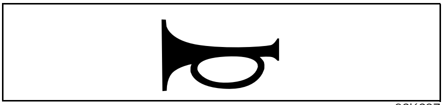
- 図の ⬆ 方向にツマミ（3）をまわし、ON の上にある （ウォッシャー）にあわせるとウォッシャー液が噴射し、同時にリヤワイパーも連動して動きます。
  ツマミから手を離すと ON にもどります。
- 図の ⬇ 方向にツマミ（3）をまわし、OFF の下にある （ウォッシャー）にあわせるとウォッシャー液が噴射し、同時にリヤワイパーも連動して動きます。
  ツマミから手を離すとOFFにもどります。



71L30810

ホーンスイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。ハンドルのホーンマークがついている部分を押すと、ホーンが鳴ります。

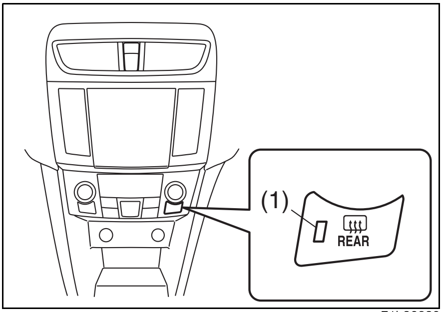

82K297

リヤデフォッガースイッチ

エンジン回転中またはエンジンの自動停止中（アイドリングストップシステム装備車）に使用でき、バックウインドーガラスの内側のくもりを取ります。

→ **4-35ページ**
（アイドリングストップシステム）

- スイッチを押すとバックウインドーガラスが暖められ、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すとスイッチが切れます。
- 約 15 分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。
- 使用中にエンジンスイッチを ACC または LOCK （OFF）にすると、エンジンを再始動しても自動的にスイッチは入りません。
- ドアミラーヒーター装備車では、同時にドアミラーも暖められ、ミラーについたくもりを取ります。
  → **3-24ページ**
  （ドアミラーヒータースイッチ）
- デアイサー装備車では、同時にフロントウインドーガラスも暖められ、ガラスの下側にたまった雪を取り除きやすくします。



71L30830

注 記

- **バッテリー保護のため、くもりや雪が取れたらすみやかにスイッチを切ってください。**
- **雪を溶かしたり、雨水を乾燥させたりすることには使用しないでください。**
- **バックウインドーガラスやフロントウインドーガラスの室内側をふくときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿ってふいてください。**

アドバイス

エンジン停止中はスイッチが入りません。（アイドリングストップシステム装備車のエンジン自動停止中を除く）

デアイサースイッチ

タイプ別装備

デアイサーは、リヤデフォッガーと連動します。

→ **3-81ページ**
（リヤデフォッガースイッチ）

4. 運転するときは

● エンジン始動
エンジンスイッチの各位置のはたらき ·········· 4-2
イモビライザーシステム ······················ 4-3
キーレスプッシュスタートシステム ············ 4-4
エンジンのかけかた ·························· 4-8

● パーキングブレーキ
パーキングブレーキの操作 ···················· 4-12

● チェンジレバー
チェンジレバーの操作 ························ 4-13

● オートマチック車
セレクトレバーの操作 ························ 4-14
オートマチック車の特性 ······················ 4-19
オートマチック車を運転するとき ·············· 4-20
オートマチック車の運転のしかた ·············· 4-21

● クルーズコントロール
クルーズコントロール ························ 4-25

● ABS
ABS装備車の取扱い ·························· 4-28

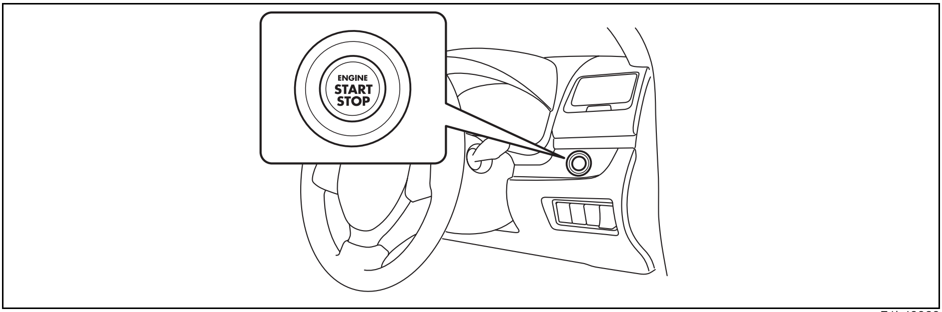
● ESP®
ESP®装備車の取扱い ························· 4-31
ヒルホールドコントロール ···················· 4-34

● アイドリングストップシステム
アイドリングストップシステム ················ 4-35

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

エンジンスイッチの各位置のはたらき



71L40020

位置	エンジンの状態	はたらき
LOCK (OFF)	停止	駐車するときの位置です。エンジンスイッチを LOCK （OFF）にもどしていずれかのドアを開けると、ハンドルロックがかかります。
ACC	停止	エンジンをかけずにオーディオやドアミラー、アクセサリーソケットなどの電装品（タイプ別装備）を使用するときの位置です。メーター内のACC表示灯が点灯します。
ON	停止	エンジンをかけずにパワーウインドーやワイパーなどの電装品を使用するときの位置です。メーター内のIG ON表示灯などが点灯します。
	回転中	すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。 IG ON表示灯は点灯しません。
START	始動	次の条件をみたしているときにエンジンスイッチを押すと、自動的に始動します。 ● 携帯リモコンを所持する ● マニュアル車 は、クラッチペダルを踏む ● オートマチック車 は、セレクトレバーを P にしてブレーキペダルを踏む

注 記

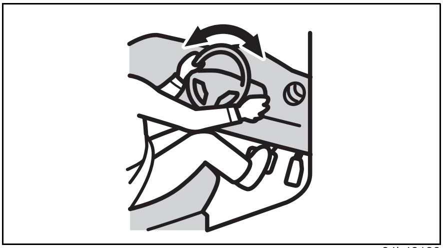
エンジンを止めているときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたままにしないでください。また、その状態で長時間ラジオ（タイプ別装備）などを聞かないでください。バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

- ハンドルロックは通常、エンジンスイッチを LOCK（OFF）から ACC または ON にしたときに解除されます。
- 強い電波やノイズの影響を受けると、メーター内のプッシュ表示灯 が点滅して、電源の切替えやエンジンの始動ができない場合があります。

ハンドルロックが解除できないときは

エンジンの始動ができません。ハンドルを左右に軽く動かしながら、エンジンスイッチを押してください。

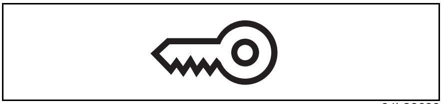


64L40180

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムは盗難防止のため、携帯リモコンが電波で車両と通信することによって、あらかじめ登録されたリモコン以外ではエンジンを始動できないようにするシステムです。

イモビライザー警告灯



64L30690

メーターパネル内にあります。

→ **3-61ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）

- エンジンの始動が可能な場合は、エンジンをかけるときに、約2秒間点灯したあと消灯します。点滅または約5秒間点灯すると、エンジンがかからない場合があります。携帯リモコンの場所を確認し、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどしてから、操作をやりなおしてください。

  → **4-10 ページ（プッシュ表示灯が点滅してエンジンがかからないときは）**

- 携帯リモコン車外持ち出し警告が作動したときにも点滅します。

  → **4-7 ページ（携帯リモコン車外持ち出し警告）**

キーレスプッシュスタートシステム

所持している携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-7 ページ**参照）に入っていると、エンジンスイッチによる始動および電源の切替えが可能となります。
また、その他に次の機能があります。

- キーレスエントリー
  → **3-8ページ（キーレスエントリー）**
- リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠
  → **3-10ページ（携帯リモコン）**
- イモビライザー（車両盗難防止装置）
  → **4-3ページ（イモビライザーシステム）**

ACC表示灯

ACC

82K097

メーターパネル内にあります。

- エンジンスイッチが ACC 位置にあると点灯します。
  → **3-61ページ（警告灯・表示灯の見かた）**
  → **4-5ページ（電源の切替えのしかた）**

IG ON表示灯

ON

82K098

メーターパネル内にあります。

- エンジン停止状態で、エンジンスイッチが ON 位置にあると点灯します。
  → **3-61ページ（警告灯・表示灯の見かた）**
  → **4-5ページ（電源の切替えのしかた）**

プッシュ表示灯

82K174

メーターパネル内にあります。

- 次のときに点灯すると、通常エンジンの始動が可能です。
  - マニュアル車 は、クラッチペダルを踏んでいるとき
  - オートマチック車 は、ブレーキペダルを踏んでいるとき

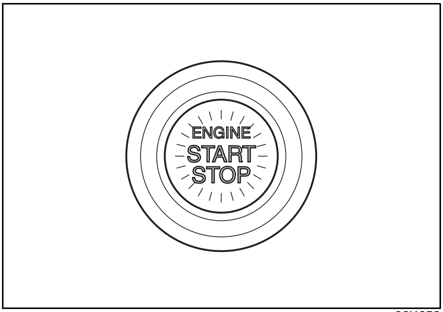
  ただし、始動できず点滅したときは、**4-10 ページ**の「**プッシュ表示灯が点滅してエンジンがかからないときは**」をお読みください。
- 次のときにエンジンスイッチを押して点滅したときは、**4-6 ページ**の「**プッシュ表示灯が点滅して電源が切り替わらないときは**」をお読みください。
  - マニュアル車 は、クラッチペダルを踏んでいないとき
  - オートマチック車 は、ブレーキペダルを踏んでいないとき

エンジンスイッチ照明

次のような場合に点灯します。

- 運転席ドアを開けている間（エンジン停止中のみ）
- 運転席ドアを閉めたあと約15秒間（エンジン停止中のみ）
- ヘッドライトや車幅灯が点灯中

消灯するときは、徐々に減光します。



82K253

アドバイス

バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）
- ヘッドライトや車幅灯が消灯
- 運転席ドアを開けたまま15分が経過

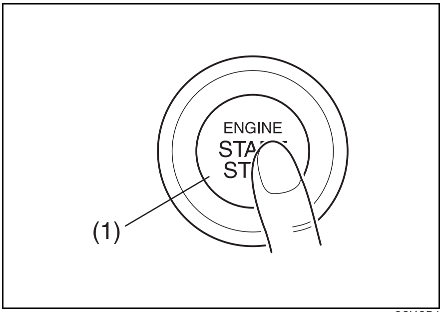
電源の切替えのしかた

エンジンをかけずに電装品の使用やメーターの確認をしたいときは、次のようにしてエンジンスイッチの位置を切り替えます。
なお、この切り替えのことを「**電源の切替え**」といいます。

1. 携帯リモコンを所持して運転席に座ります。

2. マニュアル車 は、クラッチペダルを踏まずにエンジンスイッチ (1) を押します。

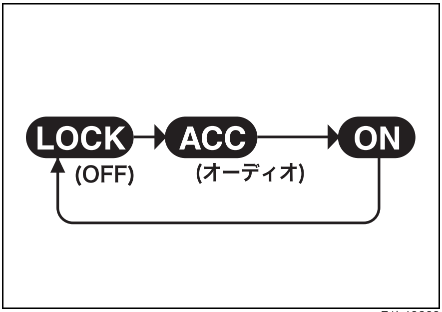
   オートマチック車 は、ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ（1）を押します。



82K254

- 押すごとに次のようにエンジンスイッチの位置が切り替わります。

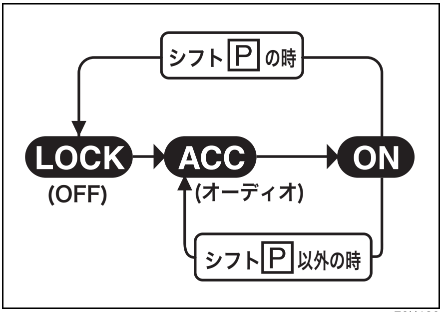
マニュアル車



71L40260

4

オートマチック車



70K130

アドバイス

- オートマチック車 は、セレクトレバーが P 以外の位置にあると、LOCK（OFF）にはもどせません。
- ハンドルロックの故障などで、エンジンスイッチを LOCK（OFF）にもどせないことがあります。
  → **4-11 ページ（エンジンスイッチをもどすときは）**

■ プッシュ表示灯 が点滅して電源が切り替わらないときは

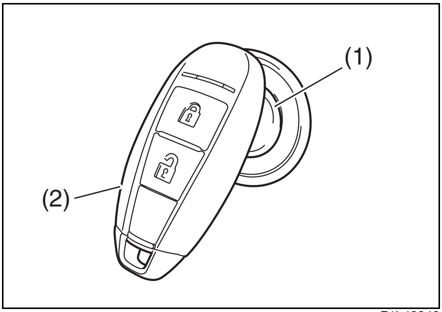
携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-7 ページ**参照）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、メーター内のプッシュ表示灯 の消灯後、操作をやり直してください。それでも切り替わらないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順で切り替えてください。

1 マニュアル車 は、クラッチペダルを踏まずにエンジンスイッチ（1）を押します。

オートマチック車 は、ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ（1）を押します。

2 メーター内のプッシュ表示灯 が点滅している約 10 秒以内に、携帯リモコン（2）の先端（ロックスイッチ側）をエンジンスイッチに約2秒間あてます。

- プッシュ表示灯 の点滅中に、イモビライザー警告灯が約 5 秒間点灯します。



71L40040

※前記の手順を何度繰り返しても切り替わらないときは、バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

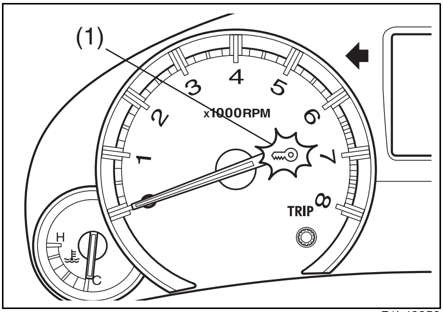
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、メーター内の携帯リモコン電池消耗警告灯が約15秒間点灯します。

→ **3-12ページ**
（携帯リモコン電池消耗警告灯）
→ **6-6ページ**
（携帯リモコンの電池交換）

携帯リモコン車外持ち出し警告

次のような場合、室内／車外ブザーが約2秒間断続的に鳴るとともに、メーター内のイモビライザー警告灯が点滅し、携帯リモコンの車外持ち出しを警告します。

- エンジン回転中、またはエンジンスイッチが ACC または ON 位置にある状態で、いずれかのドアを開け、そのあとすべてのドアを閉めたときに携帯リモコンが車内にない場合
- エンジンスイッチが ACC または ON 位置にある状態で、エンジンをかけようとしたときに携帯リモコンが車内にない場合



71L40050

(1) イモビライザー警告灯（点滅）

警告が作動したときは、すみやかに携帯リモコンを車内にもどしてください。

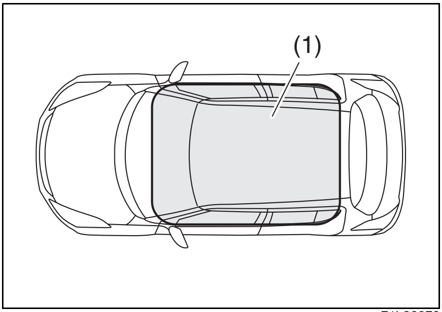
- 警告の作動中は、エンジンの再始動ができません。
- イモビライザー警告灯の点滅は、通常、携帯リモコンが車内にもどってきてから少しすると消灯します。消灯しない場合は、一度エンジンスイッチを LOCK （OFF）にもどしてから再操作してください。

アドバイス

携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。

エンジン始動／電源切替え／携帯リモコン車外持ち出し警告の作動範囲（車内）

「**車内の作動範囲**」（1）は、インパネの上や荷室などを除く車室内です。



71L30870

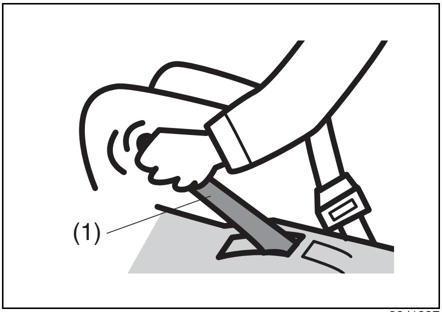
アドバイス

- 「**車内の作動範囲**」に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、エンジン始動や電源切替えができない場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動する場合があります。
  - 携帯リモコンの電池が消耗している
  - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - 携帯リモコンが次のような小物入れの中にある
    ・グローブボックス
    ・ドアポケット
    ・インパネアッパーボックス
    ・コンソールボックス
    ・インパネボックス
    ・インパネトレー（助手席）
  - 携帯リモコンがメーターパネルの手前やサンバイザー、床にある
- 「**車内の作動範囲**」に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、エンジン始動や電源切替えができる場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動しない場合があります。
  - 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
  - 携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

エンジンのかけかた

2-11 ページの「**エンジンをかけるときは**」もあわせてお読みください。

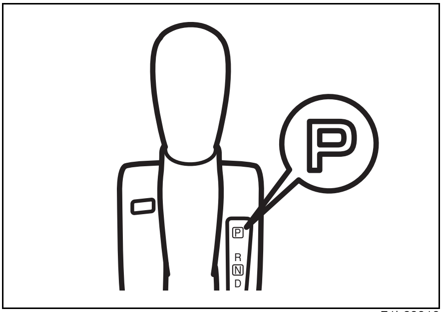
1 パーキングブレーキ（1）がしっかりかかっていることを確認します。



80J1037

2 マニュアル車 は、チェンジレバーがN（ニュートラル）になっていることを確認します。

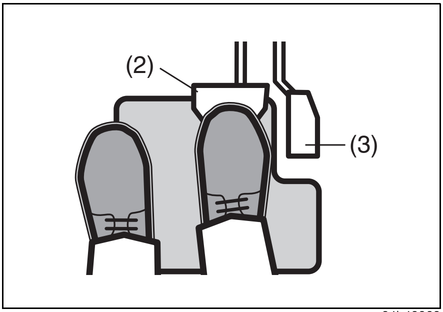
オートマチック車 は、セレクトレバーが P になっていることを確認します。



71L20010

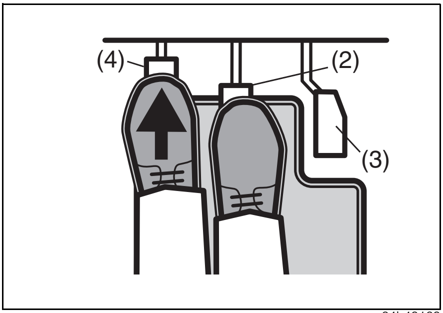
3 右足でブレーキペダル（2）をしっかり踏み続けます。

- アクセルペダル（3）は踏まないでください。



64L40060

4 マニュアル車 は、左足でクラッチペダル（4）をいっぱいまで踏み込みます。



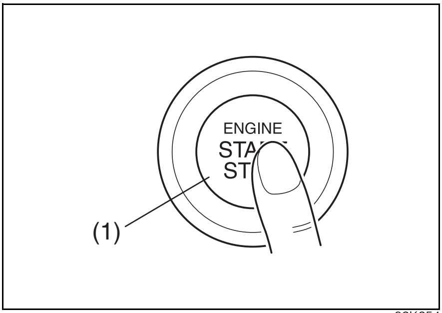
64L40160

(2) ブレーキペダル
(3) アクセルペダル

■クラッチスタートシステム
マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとスターターがまわらず、エンジンを始動できません。

5 メーター内のプッシュ表示灯 が点灯したら、エンジンスイッチ（1）を押します。エンジンがかかったら、スターターは自動的に停止します。

- エンジンがかからなくても、スターターはしばらくすると自動的に停止します。自動停止後またはシステム異常時は、エンジンスイッチを押している間だけ、スターターがまわります。



82K254

アドバイス

- ヘッドライトやエアコンなどのスイッチを切った方が、エンジンはかかりやすくなります。
- ハンドルロックが解除できなくて、エンジンの始動ができない場合があります。
  → **4-3 ページ（ハンドルロックが解除できないときは）**

4

■ プッシュ表示灯 [icon] が点滅してエンジンがかからないときは

携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」（**4-7ページ**参照）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、メーター内のプッシュ表示灯 [icon] の消灯後、操作をやり直してください。それでもエンジンがかからないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順を行なってください。

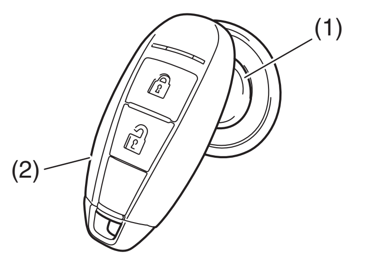
1 マニュアル車 は、チェンジレバーがN（ニュートラル）になっていることを再確認し、ブレーキペダルとクラッチペダルをしっかり踏み続けます。

オートマチック車 は、セレクトレバーが P にあることを再確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み続けます。

2 メーター内のプッシュ表示灯 [icon] が点灯したら、エンジンスイッチ（1）を押します。

3 メーター内のプッシュ表示灯 [icon] が点滅している約 10 秒以内に、携帯リモコン（2）の先端（ロックスイッチ側）をエンジンスイッチに約2秒間当てます。

- プッシュ表示灯 [icon] の点滅中に、イモビライザー警告灯が約 5 秒間点灯します。



71L40040

※前記の手順を何度繰り返してもエンジンがかからないときは、バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを ON にしたときに、メーター内の携帯リモコン電池消耗警告灯が約15秒間点灯します。
→ **3-12ページ（携帯リモコン電池消耗警告灯）**
→ **6-6ページ（携帯リモコンの電池交換）**

エンジンを止めるときは

車両の状態	エンジン停止方法
停車中	エンジンスイッチを押す
走行中（緊急時）	エンジンスイッチを3秒以上長押しする

- 停車中にエンジンを停止できないときは、エンジンスイッチを3秒以上長押ししてください。この場合、システムの異常が考えられますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

緊急時以外は、走行中にエンジンを止めないでください。
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になります。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、ハンドルが重くなります。**
- **ABS、ESP®（タイプ別装備）が作動しません。**

注 記

走行中にエンジンを止めると、オートマチックトランスミッション（タイプ別装備）が損傷するおそれがあります。

エンジンスイッチをもどすときは

エンジンスイッチを LOCK （OFF）にもどしていずれかのドアを開けると、ハンドルロックがかかります。

- ハンドルロックの故障などで、エンジンスイッチを LOCK （OFF）にもどせないことがあります。スズキサービス工場で点検を受けてください。なお、点検前には次の作業をしてください。
  - 盗難を防ぐため、キー操作にてドアを施錠してください。（リクエストスイッチやキーレスエントリーでは施錠できません）
  - バッテリーあがりを防ぐため、バッテリーのマイナス端子を外してください。（10 mm スパナなどの市販工具が必要です）

■ マニュアル車

エンジンスイッチを押して LOCK （OFF）にもどします。

■ オートマチック車

1. セレクトレバーを P 位置に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。
   → **4-14ページ（セレクトレバーの操作）**

2. エンジンスイッチを押して LOCK （OFF）にもどします。

- 誤操作防止のため、次の条件をみたしているときだけエンジンスイッチを LOCK （OFF）にもどせます。
  - セレクトレバーが P 位置
  - セレクトレバーのボタンから手を離している
- 誤操作防止のため、次のようなときはエンジンスイッチを LOCK （OFF）にもどせません。
  - セレクトレバーの位置が P 以外
  - セレクトレバーの位置が P にあっても、セレクトレバーのボタンを押しているとき
  → **4-24ページ（駐車）**

■ エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー

エンジンスイッチのもどし忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンスイッチを ACC にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
- マニュアル車 は、エンジンスイッチを２回押して LOCK (OFF) にもどすと、室内ブザーが止まります。
- オートマチック車 は、セレクトレバーを P 位置に入れ、セレクトレバーのボタンから手をはなします。エンジンスイッチを2回押して LOCK （OFF）にもどすと、室内ブザーが止まります。

4

LOCK （OFF）にもどさないと、リクエストスイッチや携帯リモコンでドアが施錠できません。

■ ハンドルロック未作動警告ブザー

故障などで、エンジンスイッチを LOCK (OFF) にもどしていずれかのドアを開けてもハンドルがロックされない場合、運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピッ、ピッ、”と断続的に鳴ります。スズキサービス工場で点検を受けてください。

パーキングブレーキの操作

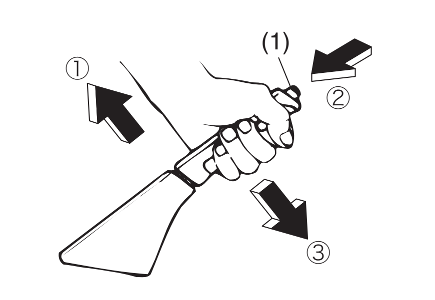
パーキングブレーキは後輪にかかります。駐車するときはパーキングブレーキをしっかりとかけてください。

駐車するときは

ボタン（1）を押さずにパーキングブレーキレバーをいっぱいに引き上げます。

解除するときは

- レバーを少し引き上げながら（①）レバー先端のボタン（1）を押し込み（②）、そのまま下まで完全におろします（③）。
- 坂道発進するときは、パーキングブレーキをかけたまま右足でアクセルペダルを慎重に踏み、車が動きだす感触を確認しながらパーキングブレーキを解除してください。



71L40081

⚠警告

パーキングブレーキを解除したときは、メーター内のブレーキ警告灯が消灯しているか確認してください。
万一、パーキングブレーキをかけたまま走行した場合、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。
→　3-62ページ （ブレーキ警告灯）

■ パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー

パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。

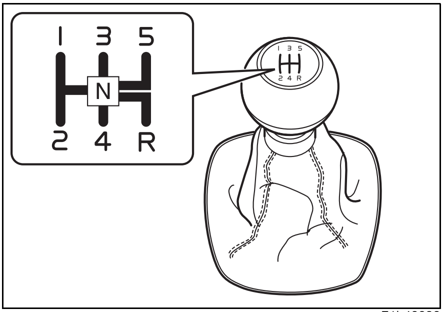
チェンジレバーの操作

マニュアル車

チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏みます。

■ 5MT車

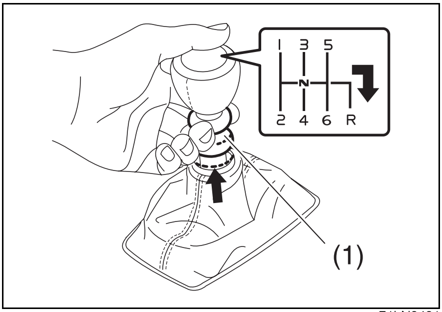
誤操作防止のため、5速からR（リバース）に直接入れることはできません。一度N（ニュートラル）に入れてからRへ操作してください。



71L40090

■ 6MT車

誤操作防止のため、リング(1)を引き上げないとR（リバース）に入れることはできません。一度N（ニュートラル）に入れてからリングを引き上げ、Rへ操作してください。



71LN0401

シフトダウンの上限速度

エンジンの過回転を防ぐため、次の表に示す上限速度以下でシフトダウンしてください。

シフトダウン	上限速度（km/h）	
	標準車	スポーツ車
2速 → 1速	45	50
3速 → 2速	85	90
4速 → 3速	125	125
5速 → 4速	165	165
6速 → 5速	-	210

※走行条件やお車のタイプにより、この上限速度に達しない場合があります。

注 記

上限速度を超えた速度でシフトダウンしないでください。エンジンの回転が上がり過ぎて、エンジンが故障する原因となります。
→　3-59ページ（タコメーター）

4

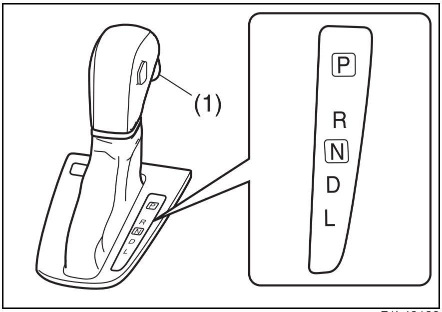
セレクトレバーの操作

オートマチック車

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合は、「CVT車」を示しています。

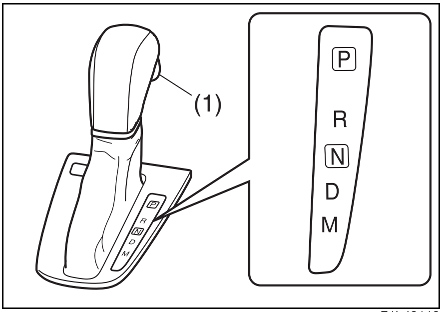
セレクトレバーの各位置のはたらき

マニュアルモードなしCVT車



71L40100

マニュアルモード付CVT車



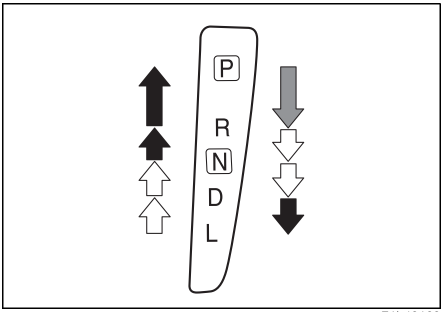
71L40110

(1) ボタン

P パーキング	駐車するとき、エンジンを始動・停止するときの位置 ●駆動輪（前輪）が固定されます。
R リバース	車を後退させるときの位置 ●室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。
N ニュートラル	エンジンの動力が伝わらない状態の位置 ●エンジンを始動できますが、安全のため P の位置で始動してください。
D ドライブ	通常走行の位置 ●車の速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。
L ロー (マニュアルモードなしCVT車)	強力なエンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●急な下り坂を走行するときなどに使用します。
M マニュアル (マニュアルモード付CVT車)	マニュアルモードで走行するときの位置 ●マニュアル感覚で走行したいとき、坂道や山間路を走行するときなどに使用します。 → **4-17ページ（マニュアルモードの使いかた）**

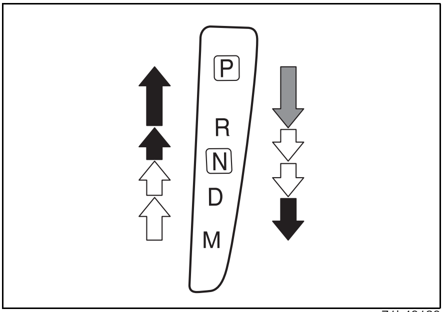
セレクトレバーの動かしかた

マニュアルモードなしCVT車

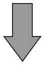
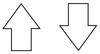


71L40120

マニュアルモード付CVT車



71L40130

	ブレーキペダルを踏み、ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。
	ボタンを押さずにセレクトレバーを動かします。
	ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。

⚠注意

運転席および助手席にお乗りの方の乗車姿勢によっては膝などがあたって、セレクトレバーを動かしてしまうことがあります。

注 記

完全に停車させてから、セレクトレバーを R に入れてください。車が動いていると、トランスミッションが故障する原因となります。なお、トランスミッション保護のため、前進車速が約10 km/h以上のときは変速されません。（ニュートラルのまま）

アドバイス

⇧⇩ の操作は、セレクトレバーのボタンを押さない習慣を付けてください。常にボタンを押して操作していると、間違って次の位置へ入れてしまうおそれがあります。

- マニュアルモードなしCVT車は、P R L
- マニュアルモード付CVT車は、P R M

■ シフトロックシステム

発進するときなどに、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んでいるときだけ、セレクトレバーを P から他の位置に動かせます。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK（OFF）のときは、ブレーキペダルを踏んでいても、セレクトレバーを P から他の位置に動かせません。

- セレクトレバーのボタンを押してから、ブレーキペダルを踏まないでください。シフトロックが解除されないことがあります。
- 万一、エンジンスイッチを ON にして、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを P から他の位置へ動かせない場合、次の手順でシフトロックを解除してください。
  この場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにスズキサービス工場で点検を受けてください。

4

⚠注意

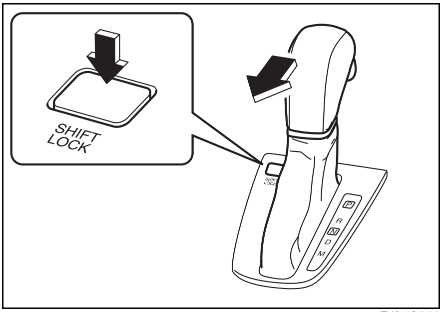
発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままセレクトレバーを操作してください。

■ シフトロックの解除のしかた

シフトロックシステムの故障やバッテリーあがりなどで、セレクトレバーを P から他の位置へ動かせないときは、次の手順でシフトロックを解除します。

1 安全のため、パーキングブレーキをしっかりとかけ、ブレーキペダルを踏んだ状態にします。

2 セレクトレバーパネルにあるシフトロック解除ボタンを押しながら、セレクトレバーを操作します。



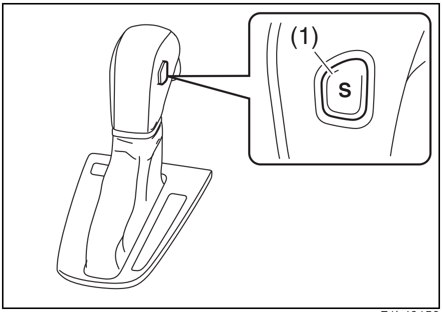
71L40141

- 上図のセレクトレバーは代表例です。お車のタイプにより異なります。

S（スポーツ）モードスイッチ

マニュアルモードなしCVT車

- スイッチを押すごとに、ON と OFF が切り替わります。
- ONのとき、メーター内のインフォメーションディスプレイに S（スポーツ）モード表示が表示されます。
- S（スポーツ）モードスイッチは、エンジン始動時にはOFF状態にもどります。



71L40150

(1) S（スポーツ）モードスイッチ

■ スイッチがONのとき

坂道や山間路の走行に適しています。

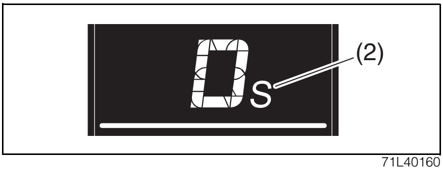
- 下り坂では、エンジンブレーキがかかります。
- 上り坂や山間路ではエンジン回転数を高く保ち、エンジン回転の変化が少ない力強くなめらかな走行ができます。

■ スイッチがOFFのとき

通常走行に適しています。

- 燃費性能と静粛性の高い走行ができます。

■ S（スポーツ）モード表示



(2) S(スポーツ)モード表示

メーター内のインフォメーションディスプレイにあります。

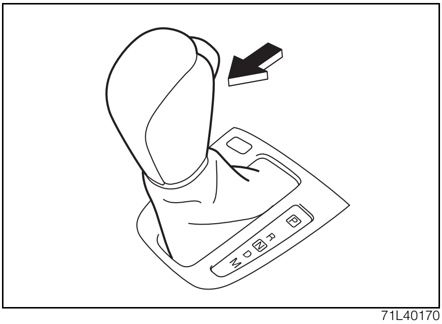
- S（スポーツ）モードスイッチがONのときに表示されます。
  → **3-69 ページ（インフォメーションディスプレイ）**

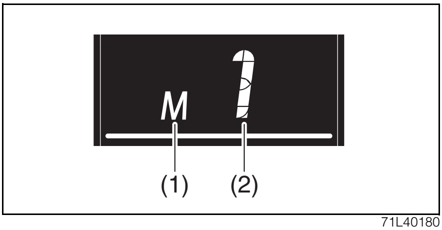
マニュアルモードの使いかた

マニュアルモード付CVT車

CVT 車は自動的に無段階に変速しますが、マニュアルモード（手動変速モード）にすると、任意に変速することができます。マニュアルモードにするときは、セレクトレバーを D から M に動かします。

- メーター内のインフォメーションディスプレイに、M（マニュアル）モード表示（1）と現在のギヤポジションが表示されます。
- セレクトレバーを D から M に動かした直後のギヤポジションは、D のときに自動的に選択されていたギヤポジションです。





(2) ギヤポジション表示

- セレクトレバーを M に動かさなくても、走行中 D のままパドルシフトスイッチを手前に引くと、一時的にマニュアルモードにすることができます。
  → **4-19 ページ（一時的にマニュアルモードにするときは）**

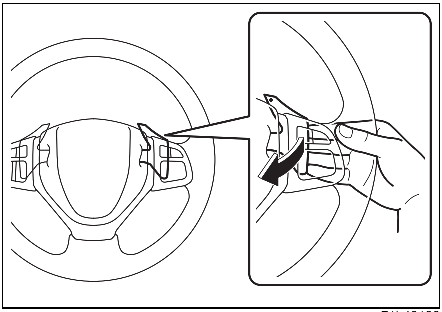
■ マニュアルモード時のシフト操作

ギヤポジションは、走行速度に応じて1速から7速まで選択できます。

- エンジンおよびトランスミッション保護のため、シフト操作をしなくてもエンジンが高回転になると、自動的にシフトアップします。
- シフト操作をしなくても車のスピードが低下すると、自動的にシフトダウンし、停車するとギヤポジションは **1** になります。
- アクセルペダルを大きく踏み込むと、マニュアルモード時でもキックダウンすることがあります。
  → **4-19ページ（キックダウン）**

シフトアップしたいとき

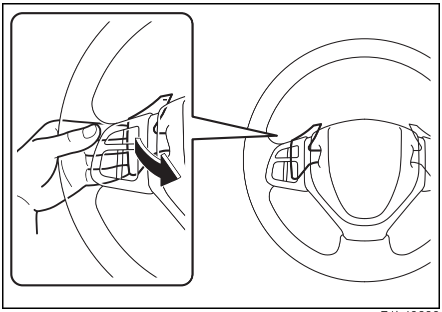
ハンドルの右側にあるパドルシフトスイッチ（**+**側）を手前に引きます。手を離すと、スイッチは自動的にもとの位置にもどります。



71L40190

シフトダウンしたいとき

ハンドルの左側にあるパドルシフトスイッチ（**－**側）を手前に引きます。手を離すと、スイッチは自動的にもとの位置にもどります。



71L40200

アドバイス

- 連続して変速したいときは、パドルシフトスイッチから手をはなしてから、スイッチを引き直す必要があります。スイッチを引いた状態のままでは、連続して変速できません。
- 左右のパドルシフトスイッチを同時に操作すると、変速しないことがあります。

■ マニュアルモードシフト警告

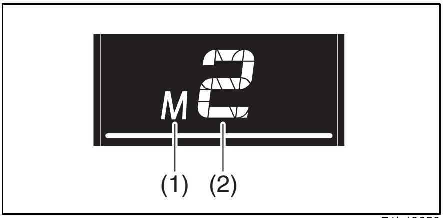
走行性能を確保するため、またはトランスミッションの保護のため、シフト操作をしても希望するギヤポジションに変速されない場合があります。
このようなときは、警告ブザーが「ピピッ」と鳴ります。

■ マニュアルモードを解除するときは

セレクトレバーを M から D にもどすと、マニュアルモードが解除されます。

■ 一時的にマニュアルモードにするときは

[D] で走行中（低車速時を除く）に、パドルシフトスイッチを手前に引きます。メーター内のインフォメーションディスプレイに、M（マニュアル）モード表示（1）と現在のギヤポジションが表示されます。



71L40250

(2) ギヤポジション表示

- 次のような操作または状況になると、マニュアルモードが自動的に解除され、もとの制御にもどります。
  - 変速しないで、一定時間アクセルペダルを踏み続けたとき
  - 低車速になったとき

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤチェンジから解放されて運転操作が楽になりますが、オートマチック車特有の現象や操作上の注意があります。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが [P] [N] 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

- **セレクトレバーを [P] [N] 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。**
- **エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。**

アドバイス

CVT車もクリープ現象があります。

キックダウン

走行中（低車速時を除く）にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的にシフトダウンしてエンジン回転が上昇して、力強い加速ができます。これをキックダウンといいます。

- 追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンして力強い加速が得られます。

⚠注意

通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。いっぱいに踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速のおそれがあります。

登降坂変速制御

セレクトレバーが D の位置で作動する制御です。

- 登坂中と判断するとシフトダウンしてエンジン回転数を高く保ち､少ないアクセル操作でなめらかな走行ができます。
- 降坂中と判断するとシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

オートマチック車を運転するとき

トランスミッション警告灯

80J219

メーターパネル内にあります。

- CVT のシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **3-61ページ**
  (警告灯・表示灯の見かた)

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R(リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

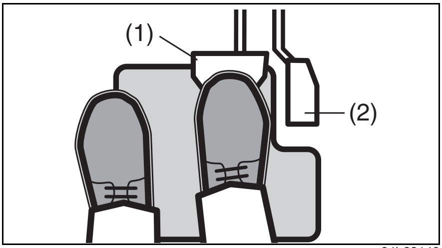
ペダルの踏み間違いに注意

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

⚠警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキペダルは右足で踏む



64L20140

(1) ブレーキペダル
(2) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。

● 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

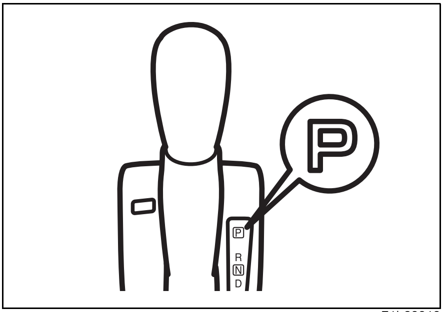
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



71L20010

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

オートマチック車の運転のしかた

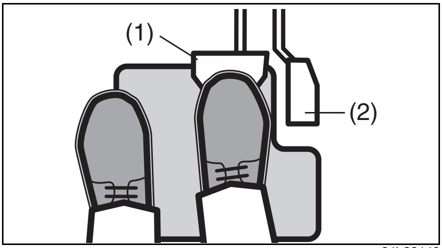
4-14 ページの「**セレクトレバーの操作**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

運転席にすわって

1 ペダルが確実に踏めて、ハンドル操作が楽に行なえる位置にシートを調節し、ハンドルを調節します。

→ **3-25ページ（前席シート）**
→ **3-24 ページ（テレスコピック＆チルトステアリング）**

2 アクセルペダル（2）とブレーキペダル（1）の位置を右足で確認します。



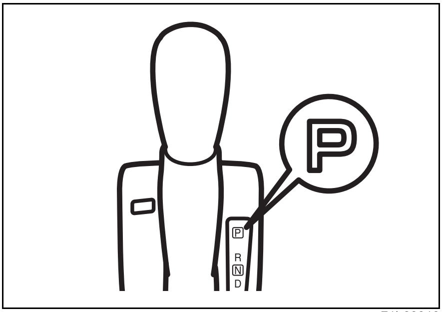
64L20140

エンジンの始動

エンジンのかけかたの詳細は、**4-8 ページ**の「**エンジンのかけかた**」をお読みください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

2 セレクトレバーが P にあるか確認します。



71L20010

アドバイス
セレクトレバーが N の位置でもエンジンがかかりますが、安全のため P でエンジンをかけてください。

3 ブレーキペダルを右足で踏みます。

4 エンジンを始動します。

発進

■ 通常の発進

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。

2 前進時は D 、後退時は R にセレクトレバーを入れ、レバーの位置を目で確かめます。

3 パーキングブレーキを解除し、メーター内のブレーキ警告灯の消灯を確認します。

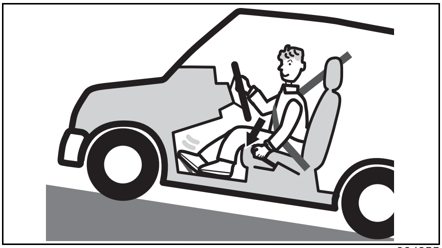
4 ブレーキペダルからゆっくりと足をはなし、アクセルペダルをゆっくり慎重に踏んで発進します。

■ 急な上り坂での発進

1、2 は「**通常の発進**」と同じ操作です。

3 ブレーキペダルからゆっくりと右足をはなし、アクセルペダルを慎重に踏みます。

4 車が動きだす感触を確認しながら、パーキングブレーキレバーを解除して発進します。


80J255

アドバイス
ヒルホールドコントロール装備車の場合、急な上り坂での発進時に車が後退することを一定時間防ぐ機能があります。
→ **4-34ページ**
（ヒルホールドコントロール）

走行

■ 通常走行

セレクトレバーを D に入れて発進すると、走行速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。

⚠注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを N にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

■ 急加速走行

追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
キックダウンして力強い加速が得られます。

■ 上り坂走行

上り坂を D で走行しているときに、スピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジンの回転が急に上がることがあります。

マニュアルモードなしCVT車

坂の勾配に応じて、あらかじめ S（スポーツ）モードスイッチを ON にしておくと、エンジン回転の変化が少ない力強くなめらかな走行ができます。

■ 下り坂走行

下り坂を D のままで走行すると、エンジンブレーキの効きが弱くてスピードが出すぎてしまうことがあります。

マニュアルモードなしCVT車

- 坂の勾配に応じて、あらかじめ S（スポーツ）モードスイッチを ON にしてエンジンブレーキを併用します。
- 急な下り坂で、強力なエンジンブレーキが必要なときには L に入れます。

マニュアルモード付CVT車

坂の勾配に応じて、あらかじめパドルシフトスイッチ（−側）を操作して適切なギヤポジションにして、エンジンブレーキを併用します。

⚠警告

急な下り坂や長い下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

一時停止

1. セレクトレバーは走行位置のままで停車し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。
   - 急な坂道で一時停止するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
   - 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N に入れます。

2. 再発進するときに間違えないよう、セレクトレバーの位置とパーキングブレーキの解除を目で確かめます。

⚠警告

一時停止しているときに、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

上り坂などで、アクセル操作でバランスをとるなどして車を停止させようとしないでください。トランスミッションオイルが過熱し、故障の原因となります。

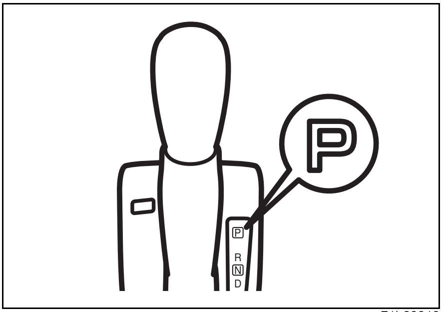
駐車

1 車を完全に止めます。

2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。

3 セレクトレバーを P に入れてからエンジンを止め、ブレーキペダルからゆっくりと足をはなします。

- セレクトレバーが P の位置になっているか目で確かめます。



71L20010

⚠ 警告

駐車するときは、必ずセレクトレバーを P に入れてからエンジンを止めてください。P 以外の位置ではシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 エンジンスイッチを LOCK (OFF) にもどします。

→ **4-11 ページ(エンジンスイッチをもどすときは)**

後退

■ 正しい運転姿勢

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

■ 前進や後退を繰り返すとき

車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、完全に停車させてから、次の前進あるいは後退の操作を行なってください。

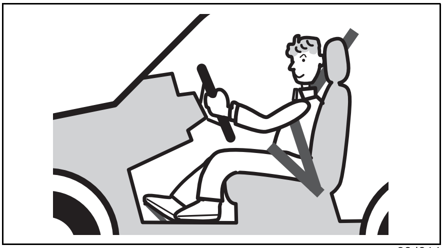
アドバイス

前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れていたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。

こんなことにも気をつけて

■ 車を少し移動させるとき

少しだけ移動するときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。



80J014

⚠注意

坂道などで、セレクトレバーを前進の位置（※）にしたまま惰性で後退したり、後退の位置（ R ）にしたまま惰性で前進したりしないでください。エンストしてブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因になります。
※マニュアルモードなしCVT車の
D L
マニュアルモード付CVT車の
D M

■ 停車するとき

注 記

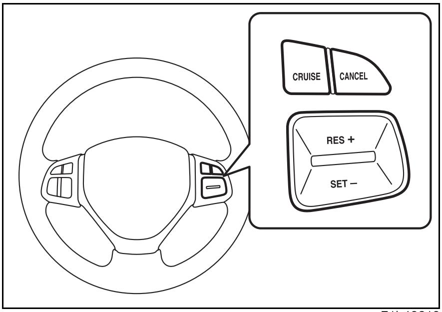
車が少しでも動いているときは、セレクトレバーを P に入れないでください。トランスミッションが故障する原因となります。

クルーズコントロール

タイプ別装備

アクセルペダルから足を離しても、一定の車速で走行できます。加減速の繰り返しの少ない高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

- 目標車速は、約45〜約100 km/hの間でセットできます。
- オートマチック車 は、セレクトレバーが D または M の位置で使用できます。ただしマニュアルモード時は、ギヤポジションが**3**以上のときだけ使用できます。
  → **4-14ページ**
  （セレクトレバーの操作）
- マニュアル車 は、チェンジレバーが3速、4速、5速または6速のときに使用できます。

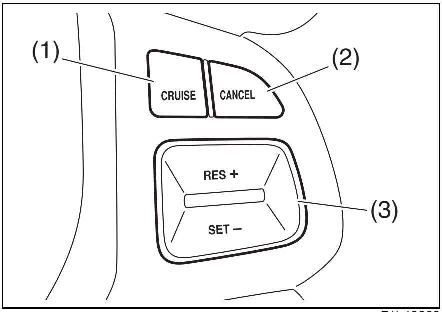


71L40210

⚠警告

次のような場所では使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **交通量の多い道。**
- **急カーブのある道。**
- **凍結や積雪などで滑りやすい道。**
- **急な下り坂。エンジンブレーキが十分に効かず、セットした目標車速を超えることがあります。**

クルーズコントロールスイッチ



71L40220

(1) クルーズスイッチ
(2) キャンセルスイッチ
(3) 車速設定スイッチ

セット（定速走行）のしかた

1 クルーズスイッチ（1）を押します。
- メーター内のCRUISE表示灯が点灯すると、目標車速がセットできる状態（待機状態）になります。

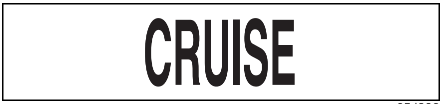
2 アクセルペダルの加減で、希望の車速に調節します。

3 車速設定スイッチ（3）の**SET −**側を押します。
- メーター内のSET表示灯が点灯すると、アクセルペダルから足を離しても定速走行ができます。

⚠警告

クルーズコントロールを使用しないときは、クルーズスイッチ（1）を押してCRUISE表示灯を消灯させてください。誤ってクルーズコントロールを作動させると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

CRUISE表示灯



65J308

メーターパネル内にあります。
- クルーズスイッチ（1）を押して、目標車速がセットできる状態（待機状態）になると点灯します。

→ **3-61ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）

SET表示灯

SET

65D474

メーターパネル内にあります。

- 目標車速がセットされると点灯します。
  →　**3-61ページ**
  （警告灯・表示灯の見かた）

一時的に加減速したいときは

■ 加速したいとき

アクセルペダルを踏んでください。通常走行と同様に加速できます。

- アクセルペダルから足を離すと、自動的にもとの定速走行にもどります。

■ 減速したいとき

ブレーキペダルを踏んでください。定速走行が解除され、SET表示灯が消灯します。（待機状態）

もとの定速走行にもどすときは

車速設定スイッチ（3）の**RES ＋**側を押して、SET表示灯を再点灯させてください。

⚠注意

オートマチック車 のマニュアルモード時は、シフトダウンしてもギヤポジションが3以上のときは定速走行が解除されないため、エンジンブレーキが効きません。ブレーキペダルまたは車速設定スイッチの操作で減速してください。

目標車速の変えかた

■ アクセルペダルを使って

希望の車速まで加速し、車速設定スイッチ（3）の**SET －**側を押します。

■ ブレーキペダルを使って

希望の車速まで減速し、車速設定スイッチ（3）の**SET －**側を押します。

アドバイス

ブレーキペダルを踏んでから再セットするまでは、SET表示灯が消灯します。（待機状態）

■ 車速設定スイッチを使って

- 加速するときは、車速設定スイッチ（3）の**RES ＋**側を押し続けます。
- 減速するときは、車速設定スイッチ（3）の**SET －**側を押し続けます。

希望の車速になったら、スイッチから手を離します。

アドバイス

スイッチを短押しすると、目標車速の微調整（約1.6 km/h）ができます。

定速走行の解除のしかた

■ 一時的な解除

同時にSET表示灯が消灯します。（待機状態）

- キャンセルスイッチ（2）を押す
- ブレーキペダルを踏む
- 目標車速より、車速が 2 割程度以上低下したとき
- 車速が約40 km/h以下になったとき
- マニュアル車 は、クラッチペダルを踏む
- オートマチック車 のマニュアルモード時は、シフトダウンしてギヤポジションが**2**以下になったとき
- ESP® 装備車の場合、車が横すべりしそうになったとき（ESP® 作動時を含む）

もとの定速走行にもどすときは

車速設定スイッチ（3）の**RES ＋**側を押して、SET 表示灯を再点灯させてください。

■ システムの解除

同時にCRUISE表示灯が消灯します。

- クルーズスイッチ（1）を押す
- メーター内のエンジン警告灯が点灯または点滅したとき
  → **3-65ページ（エンジン警告灯）**

ABS装備車の取扱い

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ブレーキをかけたときのタイヤのロックを自動的に防止することで、走行安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

⚠警告

- **常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ABS による制御には限界があります。**
- **ABS は、タイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（※）が起こったりした場合は効果を発揮できません。**

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

4

制動距離について

ABSは制動距離を短くするものではありません。

⚠注意

- **急ブレーキをかけたときや、滑りやすい路面でブレーキをかけたときの制動距離は、ABS がついていない車と同等です。**
- **次のようなときは、ABS のついていない車より制動距離が長くなることがあります。スピードを控えめにして、車間距離を十分にとってください。**
  - **凸凹道や石だたみなどの悪路**
  - **じゃり道、新雪路**
  - **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき**
  - **マンホールなど鉄板の上を通過するとき**
  - **タイヤチェーンの装着時**
- **急ブレーキ時には、ポンピングブレーキ（※）をせずに、ブレーキペダルを思い切り強く踏み込んでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。**

  ※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけかた
- **路面の状況によりますが、約10 km/h以下ではABSが作動しません。**

ABS作動時の振動や音

ブレーキペダルを強く踏むと、ブレーキペダル、ハンドル、車体の小刻みな振動を感じることがあります。これはABSの作動によるもので、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

アドバイス

エンジンをかけて発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で、異常ではありません。

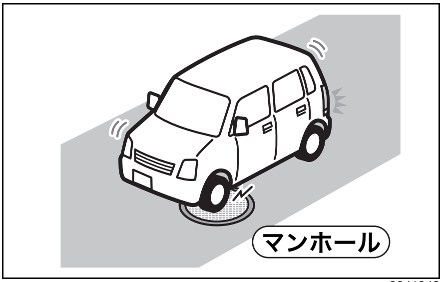
タイヤについて

⚠警告

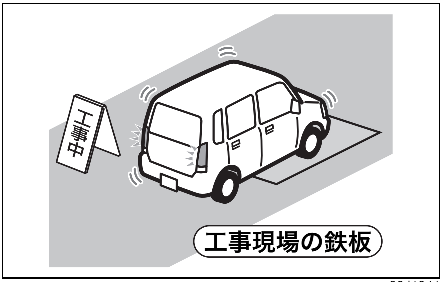
ABSは、各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着してください。また、著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しないでください。正確な回転速度が検出できなくなって ABS が正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABS は、こんな場合にもブレーキをかけると作動することがあります

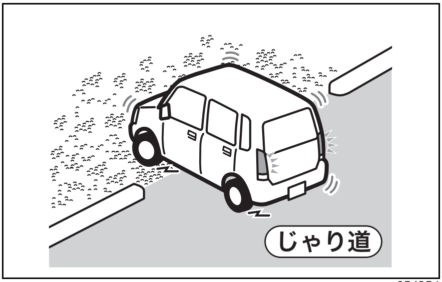
- 滑りやすい路面を走行しているとき



80J1040

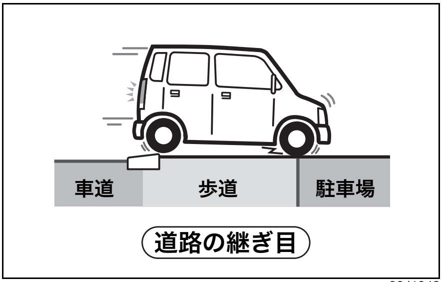


80J1041

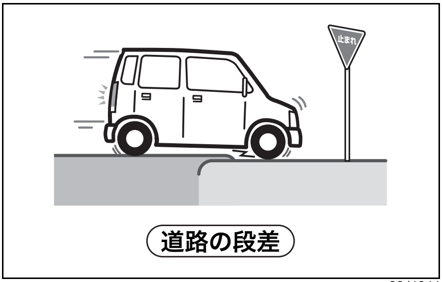


65J354

- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

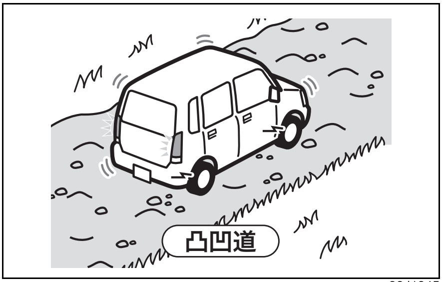


80J1043

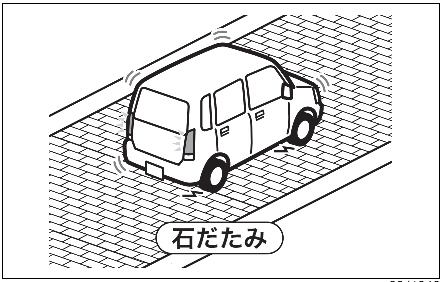


80J1044

- 悪路を走行しているとき

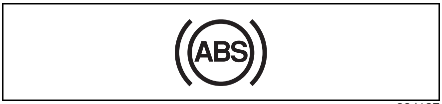


80J1045



80J1046

ABS警告灯



80J127

メーターパネル内にあります。

- ABSの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。

→ **3-61ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）

ブレーキアシスト

ブレーキ踏力を補助する装置です。急ブレーキをかけたときに、ABSの効果が十分に発揮されるまでの時間を短縮します。

- しっかりとブレーキペダルを踏まないと、ブレーキアシストは作動しません。
- ブレーキアシストは、本来のブレーキ性能を超えた制御をする装置ではありません。

ESP®装備車の取扱い

タイプ別装備

ESP®（※）は、ABS、ブレーキアシスト、トラクションコントロール、スタビリティコントロール（横滑り防止機能）などを総合的に制御して、車両の走行安定性を補助しようとするシステムです。

※ESP®は、Electronic Stability Program（エレクトロニック スタビリティ プログラム）の略で、Daimler AGの登録商標です。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

4-28ページをお読みください。

■ ブレーキアシスト

ABSのブレーキアシストと同様です。

■ トラクションコントロール

滑りやすい路面での発進時や加速時に起こる駆動輪の過度の空転を、ブレーキ制御およびエンジン出力制御により防ぎ、適切な駆動力を確保しようとする補助機能です。

■ スタビリティコントロール（横滑り防止機能）

急激なハンドル操作をしたり、滑りやすい路面で旋回したりするときの車の横滑りなどを抑制することで、車両の走行安定性を補助しようとする機能です。

⚠警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ESP®による制御には限界があります。

⚠注意

- **次のことをお守りください。守らないとESP®が正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。**
  - **タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する**
    →　8-5ページ（タイヤの空気圧）
  - **タイヤ交換時は指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着する**
  - **著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない**
  - **サスペンションやブレーキを改造しない（車高やサスペンションの硬さ変更など）**
  - **サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない**
  - **エンジンを改造しない（マフラーの改造など）**
  - **LSD（リミテッドスリップデフ）を装着するなどの改造をしない**
- **タイヤチェーンや応急用スペアタイヤを装着したときなどには、ESP®が正常に作動しない場合があります。**

> **アドバイス**
>
> ●次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。
> - エンジンスイッチを ON にしたとき
> - ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを ON にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
> - エンジンをかけたとき
> - エンジンをかけ、最初の発進時
>
> ●エンジン回転が高いときにESP®が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。

ESP®作動表示灯

79K109

メーターパネル内にあります。

→　**3-61ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）

● ESP®の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中は次のようになりますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しません。
- ABSは作動します。
- ブレーキアシストは、故障状況によっては作動しない場合があります。

● 次のような状況になると、0.2秒間隔で小刻みに点滅します。
- 発進時や加速時にトラクションコントロールが作動している
- 急ハンドル時や旋回時にスタビリティコントロールが作動している

● システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠注意

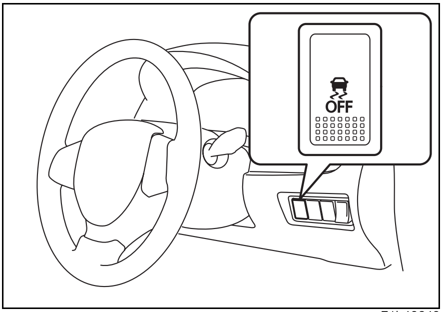
小刻みに点滅したときは、滑りやすい路面で、車がスタックまたは横滑りしやすい状態になっています。とくに慎重に運転してください。

アドバイス

点灯中はトラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しませんが、ABSは使用することができます。

ESP® OFFスイッチ

- 次のようなときは、メーター内のESP® OFF表示灯が点灯するまでESP® OFFスイッチを押し続けてください。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動しなくなります。
  - 車検を受けるときなどテスターに載せる場合。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールを作動停止の状態にする必要があります。
  - スタックからの脱出などの場合。トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。
- 次のような操作をすると、ESP® OFF表示灯が消灯し、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動可能な状態にもどります。
  - もう一度ESP® OFFスイッチを押す
  - 一度エンジンを止め、再始動する



71L40240

アドバイス

- 安全のため、ESP® OFFスイッチを操作しても、ABSおよびブレーキアシストは作動停止の状態になりません。
- スタックからの脱出などのあとに通常走行するときは、ESP® OFFスイッチを再度押してESP® OFF表示灯を消灯させ、もとの状態にもどしてください。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは自動復帰しません。（一度エンジンを止め、再始動したときを除く）

4

ESP® OFF 表示灯

57L30045

メーターパネル内にあります。

→　**3-61ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）

- エンジンスイッチが ON のときに、ESP® OFF スイッチを長押しすると点灯します。
  - 点灯中は、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しません。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

ヒルホールドコントロール

タイプ別装備

ヒルホールドコントロールは、急な上り坂での発進時に、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に車が後退することを一時的に（約２秒間）防ぎ、スムーズな発進を補助するシステムです。

- ヒルホールドコントロールは、坂道で車を停止させるシステムではありません。

⚠警告

- **常に周囲の状況を確認して、必要に応じてブレーキペダルを操作して安全運転に努めてください。ヒルホールドコントロールによる制御には限界があります。**
- **極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るときや、積載重量によっては、発進時に車両が後退する場合があります。**
- **ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行なってください。ブレーキペダルから足を離したまま２秒以上たつとヒルホールドコントロールが解除されるため、勾配によっては自重で坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、エンストしてブレーキを踏むときに強い力が必要になったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。**

■ ヒルホールドコントロールの作動条件

ヒルホールドコントロールは、次の条件をすべてみたしているときに、ブレーキペダルから足を離すと約２秒間、車が後退することを防ぎます。

- セレクトレバーが前進または後退の位置に入っている
- パーキングブレーキを解除している
- 進行方向が坂の上りである

アイドリングストップシステム装備車の場合、前記条件をみたしていなくても、エンジン自動停止後の再始動時ならヒルホールドコントロールが作動します。

→　**4-35ページ**
（アイドリングストップシステム）

アドバイス

作動中にエンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アイドリングストップシステム

タイプ別装備

アイドリングストップシステム（ENG A-STOP システム）は、信号待ちや渋滞などで停車した際に、自動的にエンジンを停止・再始動させるシステムです。排出ガスの低減、燃費向上、エンジン騒音低下に役立ちます。

- 本システムは一定の条件のもとでブレーキペダルを踏んでいる間に限りエンジンを停止させるものです。長時間停車するときや車から離れるときは、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止してください。
- ヒルホールドコントロールが装備されています。
  →　**4-34ページ**
  （ヒルホールドコントロール）

注 記

本システム装備車は、非装備車に比べて高性能な専用のバッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。守らないと本システムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。

- **バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）**
  →　**8-2ページ（サービスデータ）**
- **バッテリー端子から直接電気製品の電源をとらない**

■ ENG A-STOP表示灯（緑色）

68LM271

メーターパネル内にあります。

→　**3-61ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）

- 走行中に、エンジンが自動停止する条件（スタンバイ条件）をみたすと点灯します。
- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

■ ENG A-STOP警告灯（オレンジ色）

68LM271

メーターパネル内にあります。

→　**3-61ページ**
（警告灯・表示灯の見かた）

4

- 次のような状況になると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - 本システムに異常があるとき
  - エンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期であるとき
- 本システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

アドバイス

点灯すると、アイドリングストップシステムは作動しない場合があります。

4

エンジンの自動停止

■ エンジン自動停止のスタンバイ条件

エンジンが自動停止するには、事前に次のような条件をみたしている必要があります。条件をみたすと、ENG A-STOP表示灯（緑色）が点灯します。

- バッテリーが十分に充電されていて、バッテリー内部が所定温度内にある
- エンジンが十分に暖まっていて、エンジン冷却水やCVTオイルが所定温度内にある
- 運転席シートベルトを着用している
- 運転席ドアが完全に閉まっている
- ボンネットが完全に閉まっている
- ボンネットが完全に閉まった状態でエンジン始動をしている
- ENG A-STOP OFF スイッチを操作して、本システムを停止状態にしていない
  → **4-39ページ（ENG A-STOP OFFスイッチ）**
- セレクトレバーが D または N 位置
- S（スポーツ）モードスイッチがOFF
  → **4-16ページ（S（スポーツ）モードスイッチ）**
- ESP 作動表示灯やブレーキ警告灯、ABS警告灯が点灯していない
- エンジン自動停止に関わる車体の電子制御システムが正常なとき

〈オートエアコン装備車〉

- 吹出し口温度が冷房時は十分に冷えていて、暖房時は十分に暖まっているとき
- デフロスタースイッチがOFF
  → **5-4ページ（オートエアコン）**

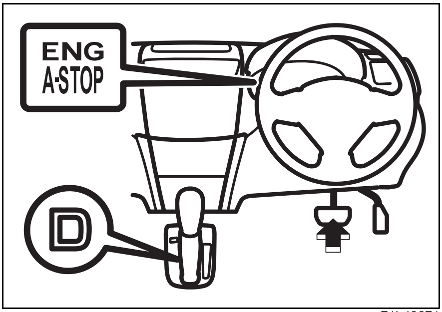
アドバイス

車を長期間使用しなかったときなどでバッテリーが放電しているときは、スタンバイ状態になるまでに時間がかかることがあります。

■ エンジン自動停止の条件

前記のスタンバイ条件に追加して、次のような条件をみたすと、停車時にエンジンが自動停止します。このときENG A-STOP表示灯（緑色）は点灯したままです。

- 5 km/h以上で走行後の停車時
- ブレーキペダルを踏んでいる
- アクセルペダルを踏んでいない
- ハンドルがほぼ直進状態で、ハンドル操作をしていない



71L40271

エンジンの自動停止中に運転席シートベルトを外し、運転席ドアを開けると室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。ドアを閉め、ベルトを着用してください。

アドバイス

- エンジンの自動停止中でもオーディオなどの電装品は使用できますが、エアコンは送風に切り替わります。
- オートエアコン装備車の場合、冷暖房性能を長持ちさせるため、エンジン自動停止中の風量（自動制御時のみ）に制限がかかります。

■ エンジンが自動停止しないとき

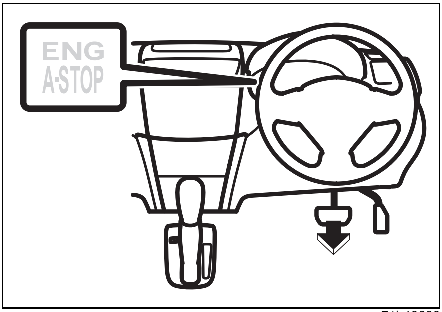
前記の条件をみたしていても、次のような場合は停車時にエンジンが自動停止しません。

- 急な坂道での停車時
- ブレーキ倍力装置の負圧が低い
- ブレーキペダルの踏みかたが弱い
- ABSが作動して、停止したとき

エンジンの自動再始動

エンジンの自動停止中に次のいずれかの操作をすると、エンジンが自動的に再始動します。このときENG A-STOP表示灯（緑色）が消灯します。

- ブレーキペダルから足を離す
- アクセルペダルを踏む
- ハンドル操作をする
- セレクトレバーを P R または L に入れる
- セレクトレバーを N に入れたあと D にもどす
- S（スポーツ）モードスイッチをONにする
  → **4-16ページ**
  （S（スポーツ）モードスイッチ）
- ENG A-STOP OFF スイッチを操作して、本システムを停止状態にする
  → **4-39ページ**
  （ENG A-STOP OFFスイッチ）



71L40280

アドバイス

- ハンドル操作時のエンジン自動再始動条件は、操作量ではなく操舵力となります。このため、再始動するハンドル操作量は、路面状況や乗車人数によって変化する場合があります。
- オーディオの音量が大きいと、エンジンの再始動時に音が途切れることがありますが異常ではありません。

■ エンジン強制再始動の条件

エンジンの自動停止中に次のような状況になると、ブレーキペダルを踏んでいてもエンジンが自動的に再始動します。このときENG A-STOP表示灯（緑色）が点滅したあと消灯します。

- バッテリーの放電が進んだとき
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- 本システム以外の異常を検出したとき
- エンジンが自動停止してから、しばらく経過したとき（最長2分程度）
- 坂道などで車両が動き出したとき

〈オートエアコン装備車〉

- エンジン自動停止後、吹出し口温度が大きく変化し、冷暖房性能が十分でなくなったとき
- 温度調節ダイヤルを冷房時はCOOL側、暖房時はHOT側に大きくまわしたとき
- デフロスタースイッチをONにしたとき

→ **5-4ページ（オートエアコン）**

■ エンジンが自動再始動しないとき

エンジンの自動停止中に次のような状況になると、安全のため室内ブザーが２回鳴って通常のエンジン停止状態となります。

- ボンネットを開けたとき
- 本システムの異常を検出したとき（ENG A-STOP警告灯（オレンジ色）が点灯）

このとき、エンジンは自動始動しませんので、次の手順で対処してください。

1. ボンネットを完全に閉めます。
2. エンジンスイッチを操作して再始動します。

アドバイス

メーターパネル内の次の警告灯は、エンジンの自動停止中は点灯しませんが、通常のエンジン停止状態になると点灯します。

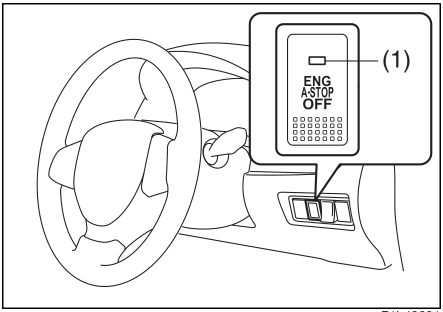
- パワーステアリング警告灯
- 油圧警告灯
- 充電警告灯
- ENG A-STOP警告灯（本システムの異常検出時）

→ **3-61ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

ENG A-STOP OFFスイッチ

本システムを停止状態にできます。

- システムを停止状態にするときは、スイッチを押してスイッチ内の表示灯（1）を点灯させます。
- システムを作動可能な状態にもどすときは、もう一度スイッチを押してスイッチ内の表示灯を消灯させます。
- 手動でエンジンを停止するたびに、システムは作動可能な状態にリセットされ、スイッチ内の表示灯は消灯します。



71L40291

アドバイス

エンジンの自動停止中にスイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、エンジンが自動再始動します。

MEMO

5. 装備の取扱い

● エアコン、ヒーター

吹出し口 …… 5-2
オートエアコン …… 5-4
エアコンの上手な使いかた …… 5-9

● オーディオ

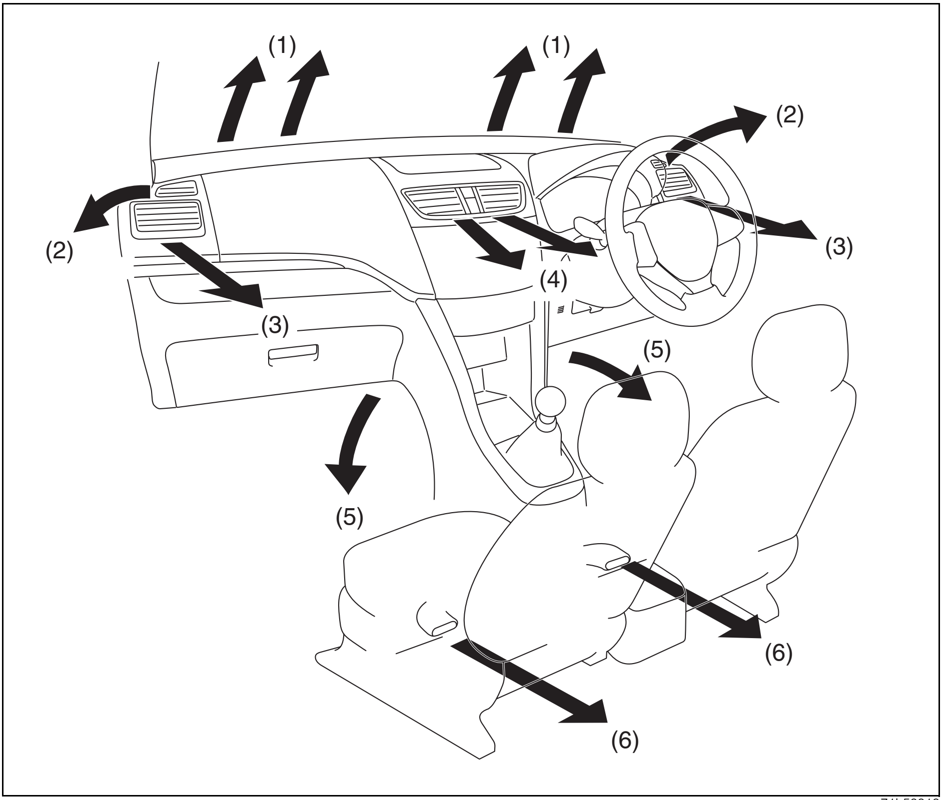
オーディオの上手な使いかた …… 5-10
アンテナ …… 5-11
CDプレーヤー …… 5-12
ステアリングオーディオスイッチ …… 5-41

● その他の装備

燃料給油口 …… 5-43
ボンネット …… 5-44
サンバイザー …… 5-46
室内灯 …… 5-47
ラゲッジルームランプ …… 5-48
フロントマップランプ …… 5-49
アクセサリーソケット …… 5-49
インパネアッパーボックス …… 5-50
インパネボックス …… 5-50
インパネトレー …… 5-51
グローブボックス …… 5-51
コンソールボックス …… 5-52
ドリンクホルダー …… 5-52
ドアポケット …… 5-53
シートアンダートレー …… 5-54
シートバックポケット …… 5-54
フットレスト …… 5-55
ショッピングフック …… 5-55
アームレスト（ひじ掛け） …… 5-56
可倒式アシストグリップ …… 5-56
ラゲッジボード …… 5-56
ラゲッジシェルフ（荷室カバー） …… 5-58
ルーフ …… 5-59

5

吹出し口

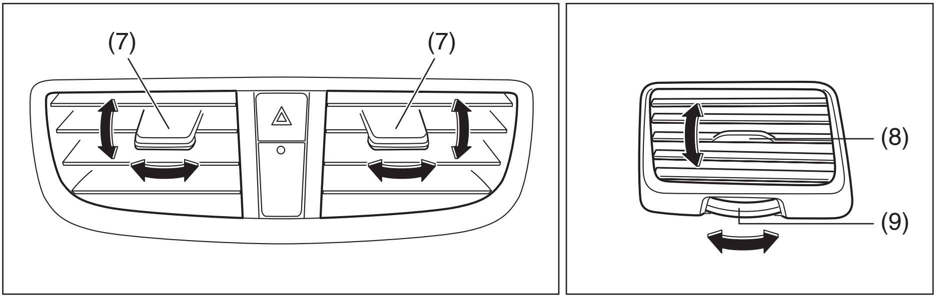


(1) デフロスター　(2) サイドデミスター　(3) サイド吹出し口
(4) 中央吹出し口　(5) 足元吹出し口
(6) 後席足元吹出し口（リヤヒーターダクト、タイプ別装備）

- 中央吹出し口（4）は、ノブ（7）を上下左右に動かすと、風の向きが調節できます。
- サイド吹出し口（3）は、ノブ（8）またはダイヤル（9）を上下または左右に動かすと、風の向きが調節できます。
- サイド吹出し口は、ノブ（8）を上下に動かすと開閉ができます。

中央吹出し口

サイド吹出し口

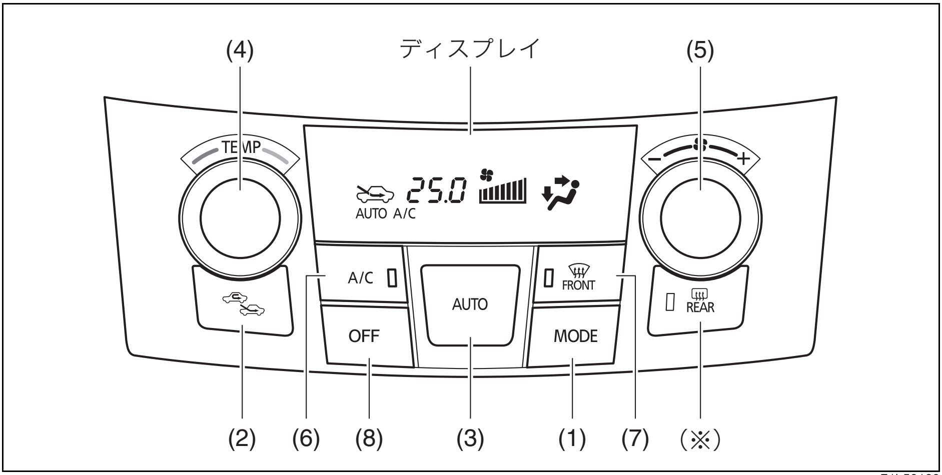


71L50020

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接あたるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

オートエアコン



71L50160

(1) モード(吹出し口)切替えスイッチ　(2) 内外気切替えスイッチ
(3) オートスイッチ　(4) 温度調節ダイヤル
(5) ファン(風量)調節ダイヤル　(6) エアコンスイッチ
(7) デフロスタースイッチ　(8) OFFスイッチ

※リヤデフォッガースイッチについては、**3-81ページ**をお読みください。

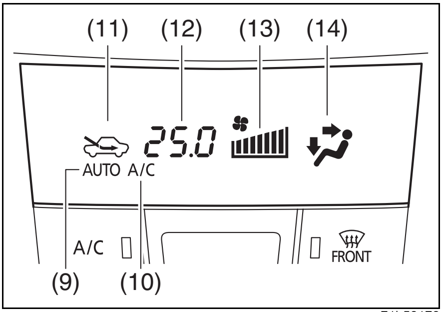
オートエアコンの使いかた

■ 通常の使いかた（自動で使うとき）

オートスイッチ（3）を押して温度調節ダイヤル（4）で希望の温度を設定すると、各機能（**5-7 ページ**参照）が自動制御されます。

→　**5-7ページ（オートスイッチ）**

1 エンジンをかけ、オートスイッチ（3）を押します。ディスプレイに次のように表示（代表例）されます。



71L50170

(9) **AUTO**表示　(10)**A/C**表示
(11)内外気切替え表示
(12)設定温度　(13)風量
(14)吹出し口

- 冷房や除湿をしないときは、エアコンスイッチ（6）を押してエアコンを止めてください。エンジンへの負荷が軽減され、燃費の向上につながります。ただし、エアコンを止めると、室内温度を外気温度以下にはできません。

2 温度調節ダイヤル（4）をまわして希望の温度を設定します。設定温度は LO 、18 ℃～32 ℃、 HI の間で、0.5℃間隔で設定できます。

- 25℃を基準に、希望の温度を設定してください。ただし、外気温によっては、希望の設定温度にならないことがあります。

3 作動を停止するときは、OFFスイッチ（8）を押します。

アドバイス

- エンジンを停止しても設定温度を記憶しています。
- AUTO作動中に、ファン調節ダイヤル（5）、モード（吹出し口）切替えスイッチ（1）のいずれかを操作すると、操作したダイヤルやスイッチの機能が優先されてディスプレイの **AUTO** 表示が消えます。ただし、操作したダイヤルやスイッチ以外は自動制御となります。
- AUTO作動中にデフロスタースイッチ（7）を押すと、ディスプレイの**AUTO**表示が消えて風量が増加し、外気導入となってエアコンが作動します。ただし外気温が低いと、エアコンが作動しないこともあります。
- 外気温が低くエンジンが冷えているときや、外気温が高いときは、冷風や熱風が吹き出すのを防ぐため、しばらくの間、風が少量しか吹き出さないことがあります。
- エンジンスイッチが ON のときに、ディスプレイの **AUTO** 表示が点滅したときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

■ 手動で使うとき

好みにあわせてダイヤルやスイッチを操作してください。

- AUTO 作動中でも、操作したダイヤルやスイッチの機能が優先され、操作したダイヤルやスイッチ以外は自動制御されます。
- すべての作動を AUTO にもどすときは、オートスイッチ（3）を押します。
- 止めるときは、OFFスイッチ（8）を押します。

アドバイス

手動で内気循環を選択しているときは、オートスイッチ（3）を押しても内気循環はそのままでAUTOにもどりません。ただし、それ以外の作動はAUTOにもどります。

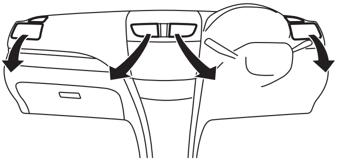
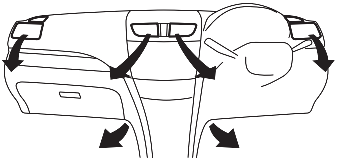
→ **5-7 ページ（内気循環／外気導入の自動制御）**

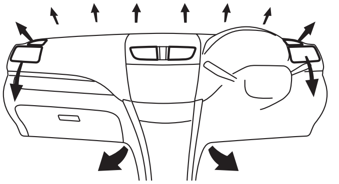
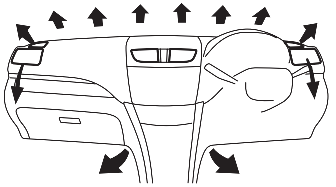
5

各スイッチ、ダイヤルの使いかた

(1) モード(吹出し口)切替えスイッチ

モード（吹出し口）切替えスイッチを押すごとに吹出し口が切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

目的	上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき（※）
表示		
吹出し口	 71L50050	 71L50070

目的	足元に送風したいとき（※）	足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき（※）
表示		
吹出し口	 71L50090	 71L50110

※後席足元吹出し口（タイプ別装備）からも風が出ます。

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接あたるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりがとれます。

(2) 内外気切替えスイッチ

内外気切替えスイッチを押すごとに、内気循環と外気導入が交互に切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

表　示	状　態
(外気導入)	外気を導入しています。 ● 通常はこの位置でお使いください。
(内気循環)	外気をしゃ断しています。 ● トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

アドバイス

- ●長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。
- ●外気と内気の温度差により、外気導入、内気循環のどちらかに固定される場合があります。必要に応じて、内外気切替えスイッチを押して切り替えてください。

(3) オートスイッチ

オートスイッチを押すと、ディスプレイに **AUTO A/C** が表示され、次の機能が自動制御されます。

- ● 吹出し風量の調節
- ● 吹出し口の切替え
- ● 内気循環／外気導入の切替え

内気循環／外気導入の自動制御

手動で内気循環を選択しているときは、オートスイッチを押しても内気循環はそのままで自動制御されません。内気循環／外気導入の切替えを自動制御にもどすには、次のようにします。

1 内外気切替えスイッチ（2）、またはデフロスタースイッチ（7）を押して外気導入に切り替えます。

2 オートスイッチを押します。

頭寒足熱暖房

AUTO 作動中、吹き出し口切替え表示が のときに、頭寒足熱暖房になります。

- ● 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風が吹き出します。
- ● エアコンを作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

(4) 温度調節ダイヤル

温度調節ダイヤルをまわすと、LO、18℃～32℃、HI の間で設定温度を変更できます。設定温度は、ディスプレイに表示されます。

- ● ダイヤルを 18 ℃から反時計方向にまわすと、ディスプレイに LO が表示され、最大冷房となります。また、ダイヤルを 32 ℃から時計方向にまわすと、ディスプレイに HI が表示され、最大暖房となります。

アドバイス

LO または HI が表示されているときは、急に風量が最大となったり、急に吹出し温度が変化したりする場合がありますが、異常ではありません。

(5) ファン(風量)調節ダイヤル

ファン調節ダイヤルをまわすと、風量が調節できます。風量はディスプレイに表示されます。

- ● ファンを停止するときは、OFF スイッチ（8）を押します。

5

(6) エアコンスイッチ

ファン作動中に使用できます。

- エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房・除湿機能）の作動と停止が交互に切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。
- エアコン作動中は、スイッチ内の表示灯が点灯します。

除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出して、ここちよい暖房になります。

アドバイス

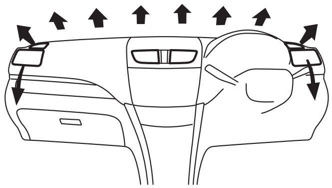
- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が0℃近くまで下がると、エアコンが切れます。このため、外気温が0℃近くまで下がっているときに外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを入れると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

(7) デフロスタースイッチ

デフロスタースイッチを押すと、自動的にエアコンが作動し、吹出し口が切り替わります。同時にスイッチ内の表示灯が点灯し、ディスプレイの表示も切り替わります。

もう一度押すと、デフロスタースイッチを押す前の制御にもどります。（オート制御の場合、吹出し口や内外気、風量の状態が変わることがあります）

- 内気循環になっているときは、外気導入に切り替わります。
- 風量が自動的に増加します。ファン調節ダイヤルを操作して、好みの風量にも調節できます。
- エアコンが必要ないときは、エアコンスイッチを押して停止してください。

目的	窓ガラスのくもりを取りたいとき
表示	
吹出し口	 71L50130

アドバイス

- 内気循環に切り替えると、くもりが取れにくくなります。
- 設定温度を低くすると、窓ガラスの外側に露がつくことがあります。
- 設定温度を高くすると、早くくもりが取れます。
- 外気温が低いときは、エアコンが作動しないこともあります。
- スイッチ内の表示灯は吹出し口がデフロスター位置にあると、ファンやエアコンを停止させた状態でも点灯します。
- 運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接あたるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりがとれます。

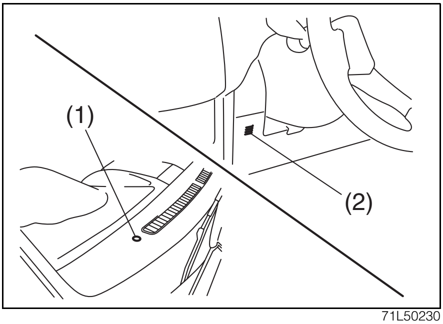
(8) OFFスイッチ

OFF スイッチを押すと、ファンが停止してエアコンも止まります。

エアコンの上手な使いかた

温度感知装置

オートエアコンは、日射センサー、室温センサー、外気温センサーなどによって周囲の状況を感知し、自動制御しています。



(1) 日射センサー（インパネ運転席側）
(2) 室温センサー

アドバイス

日射センサーの上や周囲に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。また、室温センサーにシールなどを貼って、ふさがないでください。センサー感度が低下し、正常に自動制御されなくなります。

エアコンガスを充てんするときは

エアコンガスは、必ず冷媒HFC134a（R134a）を使用してください。

- エアコンガスを充てんするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 地球環境を守るため、エアコンガスを大気中に放出しないでください。エアコンの修理や廃車時の処理は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 冷房性能が低下してきたと感じた場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

長期間使用しないときは

月に1回程度はエアコンを作動させ、エアコン装置の各部にオイルを循環させてください。油ぎれを防ぐことにより寿命をのばします。

炎天下に駐車したときは

長時間、炎天下に駐車すると、室内が高温になります。ドアや窓を開けて室内を換気しながら、冷房をしてください。

5

エアフィルターを交換するときは

エアコンを快適に使用するために、エアフィルターを取り付けています。エアフィルターは定期的に清掃、交換してください。

- エアフィルターの清掃と交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

地域	清掃時期の目安	交換時期の目安
寒冷地、粉じんの多い地域	**5,000 km** ごと、または **6か月**ごと	車検ごと
上記以外の地域	**10,000 km** ごと、または **12か月**ごと	車検ごと

オーディオの上手な使いかた

タイプ別装備

安全運転のさまたげにならない音量でお聞きください

- オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用すると、スピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがあります。これは故障ではありません。
- オーディオが不法電波の影響を受けると、正常に作動しないことがあります。
- オーディオの操作については、**5-12ページ**の「**CDプレーヤー**」またはオーディオに付属の取扱説明書をお読みください。

⚠警告

走行中はオーディオを操作しないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

注 記

エンジンを停止したまま長時間オーディオを使うと、バッテリーあがりの原因となります。

5

アンテナ

アドバイス

運転中にアンテナで受信できるラジオの電波は刻々と変わるため、ビルの谷間などでは良好な受信状態を保てないことがあります。

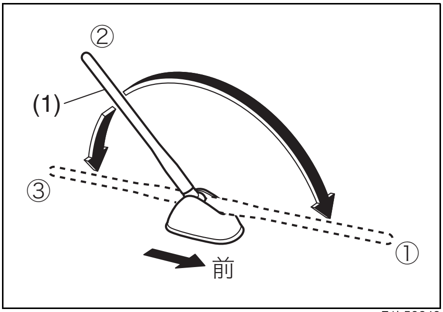
ルーフアンテナ

車両後部にあります。

■ アンテナの調節

アンテナ（1）の位置は3段階（①、②、③）に調節できます。

- 調節は手でアンテナを動かして行ないます。
- ラジオを聞くときは、②の位置に固定してください。アンテナが①または③の位置に倒れていると、ラジオの受信が正常にできないことがあります。



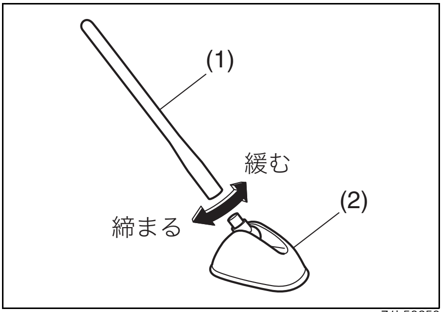
71L50240

注 記

車庫の天井などにアンテナがあたるときは、手でアンテナを①または③の位置に倒してください。

■ アンテナの脱着

- 取り外すときは、アンテナ（1）を反時計方向にまわします。
- 再び取り付けるときは手でアンテナをベース部（2）にねじ込み、しっかりと取り付けてください。



71L50250

注 記

次のようなときには、アンテナを取り外してください。アンテナを損傷するおそれがあります。

- **自動洗車機にかけるとき**
- **ボディカバーをかけるとき**
- **降雪時に長時間駐車するとき**

5

CDプレーヤー

タイプ別装備

CDの演奏について

- 車内が極度に冷えた状態で、ヒーターを入れてすぐに本機を使用すると、CD や本機内部の光学部品がくもって正常に再生できない場合があります。CD がくもっているときは、やわらかい布で拭いてください。光学部品がくもったときは、電源を入れた状態で 1 時間ほど放置すると自然にくもりがとれ、正常な状態にもどります。
- 悪路などで車体が激しく振動すると、CD が音飛びを起こすことがあります。

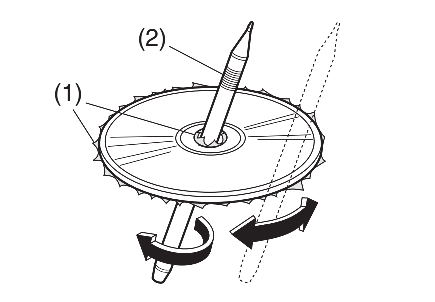
CDについて

下記マークのついた CD をご使用ください。ハート形や八角形など、特殊形状のCDは使用しないでください。

COMPACT disc DIGITAL AUDIO　COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT

82KC012

- CD-R/CD-RW は、音楽用 CD-R/CD-RW だけを使用してください。また、録音状態によっては再生できない場合があります。
- 各種コピーコントロールCDは、CD規格に合致しない特殊ディスクであり、再生できない場合があります。CD の発売元にお問い合わせください。
- 新しいディスクは、ディスクの周囲に「バリ」が残っていることがあります。このようなディスクを使用すると、再生できなかったり音飛びの原因となります。ディスクにバリがあるときは、ボールペンなどでバリを取り除いてからお使いください。



80J1168

(1) バリ　(2) ボールペン

■ 取扱上のご注意

注 記

- **CD-R/CD-RWは、通常の音楽CDに比べて高温多湿の環境に弱く、車両内に長時間放置すると、再生できない場合があります。**
- **記録面に、傷、指紋、ほこり、汚れなどをつけないでください。**
- **レーベル面（印刷面）や記録面にシール、シート、テープなどを貼らないでください。**
- **テープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、はがしたあとがあるCDは使用しないでください。そのまま CD プレーヤーに入れると、CDが取り出せなくなったり、故障の原因となります。**

■ CDは次のような場所には保管しない

- 直射日光のあたる場所
- 湿気やほこりの多い場所
- 暖房の熱が直接あたる場所

■ お手入れ

汚れたときは、内側から外側へ向かってやわらかい布でよく拭いてください。

注 記

レコードクリーナー液やアルコールなどで拭かないでください。

MP3/WMAについて

■ MP3とは

MPEG 規格のオーディオ・レイヤー3（MPEG audio layer3）に分類される音声圧縮方式で、パソコンユーザーの間で同方式は標準フォーマットとして浸透しています。
オリジナルの音声データを約 1/10 のデータ量にまで圧縮でき、さらに高音質なのが特長です。1 枚の CD-R/RW ディスクに、CD約10枚分に相当する音楽を収録することで、ディスク交換不要の長時間再生が可能です。

■ WMAとは

- 「**Windows Media Audio**」の略で、マイクロソフトが開発したオーディオファイルのことです。
- WMA の DRM（著作権保護）が ON のままのファイルを再生した場合は、音声が出力されません。タイトル表示部に「NO MUSIC」と点滅表示します。
- Windows MediaTM、およびWindows®ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標および登録商標です。

■ MP3/WMA　ディスク作成時のご注意

ファイル拡張子

- ファイル拡張子には、必ず半角文字で拡張子「**.MP3**」「**.WMA**」「**.mp3**」「**.wma**」を付けてください。それ以外の拡張子を付けた場合や拡張子を付けなかった場合には、再生できません。
- MP3/WMAデータでないファイルは再生できません。タイトル表示部に「NO MUSIC」と点滅表示します。

論理フォーマット(ファイルシステム)

- MP3/WMAファイルをCD-R/RWに記録する場合、ライティングソフトのフォーマット設定は「**ISO 9660(レベル 1, 2）、Joliet、Romeo**」を選択してください。他のフォーマットで記録した場合には正常に再生しない場合があります。
- MP3/WMA 再生ではフォルダ名、ファイル名、TAGをタイトルとして表示することが可能ですが、名称は、半角英数/記号(ASCII)までとなります。それ以外の文字を入力した名称は、正しく表示しない場合があります。
- 同一フォルダ内に、同じファイル名を付けないでください。

TAG表示について

- TAG のない MP3/WMA ファイルは「**NO TITLE**」が表示されます。
- MP3 の場合は、ID3-TAG　V2.4/2.3/2.2/1.1/1.0 に対応しています。TAG 表示は、V2.4/2.3/2.2を優先します。

フォルダ階層

- フォルダが 8 階層を超えたディスクについては、再生できません。

ファイル数/フォルダ数

- ファイル数は最大 512、フォルダ数は最大255までの再生が可能です。
- 曲の再生はディスクに記録した順番に行なわれます。(パソコン上で表示される順番通りに再生されるとは限りません。)
- 記録時のエンコーダーソフトによっては、若干ノイズが発生する場合があります。

■ 再生可能な MP3/WMA ファイルの規格について

フォルダ構造：最大8階層
ファイル数/フォルダ数：
　最大512/最大255
ファイル名/フォルダ名：
　最大64byte（1byte文字で64文字）
論理フォーマット：
　ISO9660レベル1,2/Joliet/Romeo

圧縮形式

MP3

- ビットレート
  MPEG1 Audio Layer III: 64 k - 320 kbps
  MPEG2 Audio Layer III: 64 k - 160 kbps
- サンプリング周波数
- MPEG1 Audio Layer III: 32 k／44.1 k／48 kHz
- MPEG2 Audio Layer III: 16 k／22.05 k／24 kHz

WMA(Ver.7, Ver.8)

- ビットレート CBR 48 k - 192 kbps
- サンプリング周波数 32 k／44.1 k／48 kHz

WMA(Ver.9*)

- ビットレート CBR 48 k - 320 kbps
- サンプリング周波数 32 k／44.1 k／48 kHz

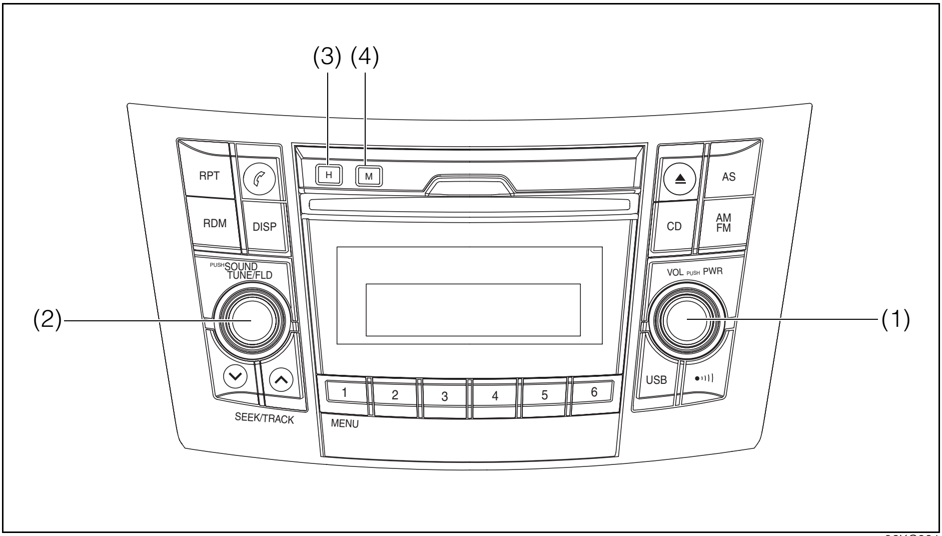
* WMA 9 Professional ／ LossLess ／ Voiceには対応しておりません。

5

MP3/WMA ファイルを CD に書き込む際の注意

- 1枚のディスクにCD-DAファイルとMP3/WMA ファイルの両方を書き込まないでください。1枚のディスクにCD-DAファイルと MP3/WMA ファイルの両方が混在していると、適切な順序で再生されない、またはファイルが再生されなくなる場合があります。
- 1 枚のディスクに MP3 ファイルと WMA ファイルの両方を書き込む場合は、それぞれ別のフォルダに分類してください。
- MP3/WMAファイル以外のファイルや不必要なファイルを書き込まないでください。
- 各ファイルには、ファイルフォーマットに準じて「.mp3」または「.wma」の拡張子を付けてください。
- 書き込みに使用するソフトウェアやレコーダーによっては、再生やテキスト情報の表示時、不具合が発生する場合があります。
- 本機はプレイリスト機能には対応しておりません。
- マルチセッションには対応しておりますが、Disc-at-Once方式での書き込みをおすすめします。

基本操作

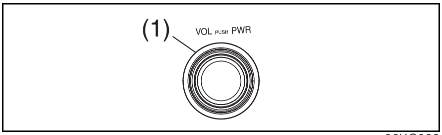


82KC001

(1) ボリュームノブ　(2) チューナーノブ　(3) Hボタン
(4) Mボタン

■ 電源を入れる

エンジンスイッチが `ACC` または `ON` のときに、ボリュームノブ（1）を押します。
電源をオンにすると、前回オフにする直前に使用していたモードで起動します。



82KC003

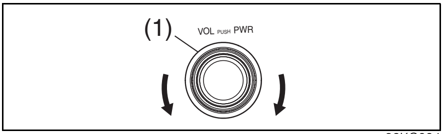
- 電源を入れると、前回の操作終了時のモードがディスプレイに表示されます。
- もう一度押すと、電源が切れます。

アドバイス

初期電源投入時、時計は“１２：００”が点滅表示します。

■ 音量を調節する

ボリュームノブ（1）をまわします。



82KC004

- 右にまわすと音量が大きくなり、左にまわすと小さくなります。

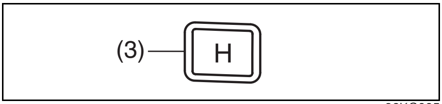
⚠注意

- **車外の音が聞こえる音量で使用してください。**
- **電源を切るときは、音量を小さくしてください。電源を入れたときに突然大きな音が出ると、聴力障害などの原因となります。**

■ 時計を合わせる

時の調整のしかた

H ボタン (3) を押して「時」を設定します。

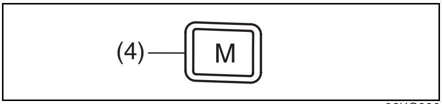


82KC005

- H ボタンを押し続けると、“時”を早送りします。

分の調整のしかた

M ボタン (4) を押して「分」を設定します。



82KC006

- Mボタンを押し続けると、“分”を早送りします。
- 3秒以上何も操作しないと、表示中の時刻で確定します。

時報の合わせかた

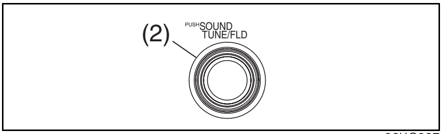
Hボタン(3)およびMボタン (4) を同時に押します。

- 分が00～29の場合、分を00に戻します。
  例：10:20→10：00
- 分が 30 ～ 59 の場合、時を進め、分を00にします。
  例：11:48→12：00

5

■ 音質（バス / トレブル）/ バランス/フェダーを調整する

1 チューナーノブ（2）を押します。

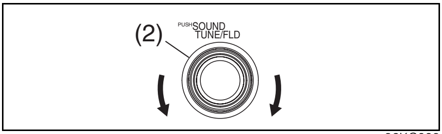


82KC007

- 押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

バス(低音)調整	(BASS 0)
↓	
トレブル(高音)調整	(TREBLE 0)
↓	
バランス調整	(BALANCE 0)
↓	
フェダー調整	(FADER 0)
↓	
AVC調整	(AVC LEVEL 2)

2 チューナーノブ（2）をまわして調整します。



82KC008

- バス調整では、右にまわすと低音が強調されます。
- トレブル調整では、右にまわすと高音が強調されます。
- バランス調整では、右にまわすと右のスピーカーの音が強調され、左にまわすと左のスピーカーの音が強調されます。
- フェダー調整では、右にまわすと前のスピーカーの音が強調され、左にまわすと後ろのスピーカーの音が強調されます。

アドバイス

ノブ操作が約５秒間なかった場合、自動的にもとのモードにもどります。

5

■ AVC（オートボリュームコントロール）を調整する

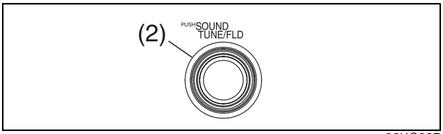
AVCとは

AVC（オートボリュームコントロール）は、車速に応じて自動的に音量を調整する機能です。車速が早いほど音量が大きくなり、車速が遅いほど音量は小さくなります。（車速連動式音量補正機能）

- AVCの調整レベルには4段階あります。（LEVEL OFF、1、2、3）
- LEVEL OFFがAVC機能なしの状態で、LEVEL の値が大きくなるほど、音量の変化量が大きくなります。

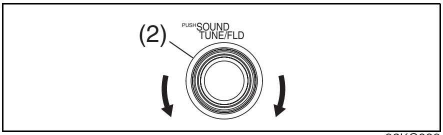
調整のしかた

1 チューナーノブ（2）を押して、AVC調整モードにします。



82KC007

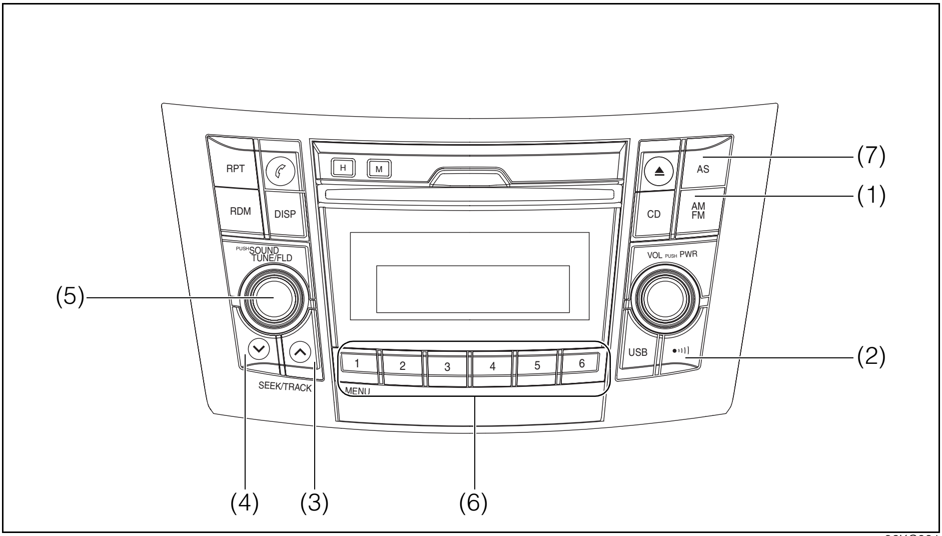
2 チューナーノブ（2）をまわして、AVCの調整レベルを設定します。



82KC008

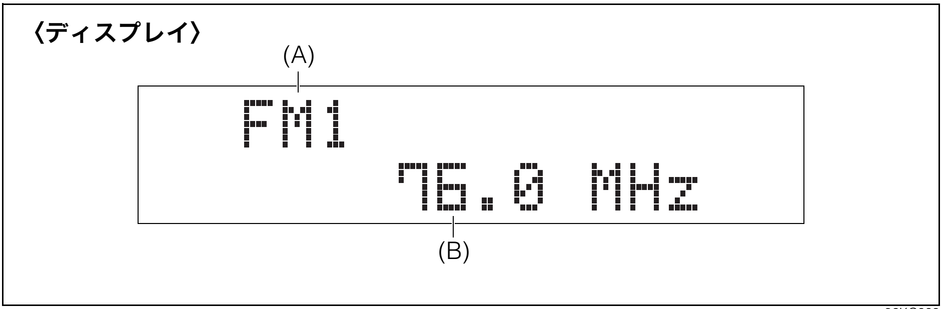
- 初期設定は、LEVEL2 です。右にまわすとレベルが上がり、左にまわすと下がります。

ラジオ放送を聴く



82KC001

(1) AM/FMボタン	(2) 交通情報ボタン	(3) アップボタン
(4) ダウンボタン	(5) チューナーノブ	(6) プリセットボタン(1～6)
(7) オートストアボタン		

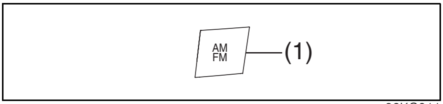


82KC009

(A) バンド　(B) 周波数

■ 受信バンドを選択する

AM/FMボタン(1)を押します。

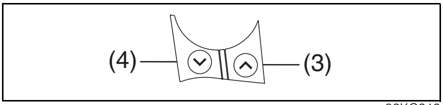


82KC011

押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

■ 自動選局する（シーク選局）

アップ/ダウンボタンを押します。



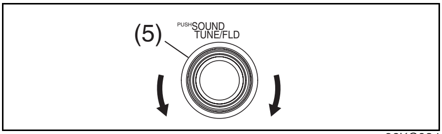
82KC010

(3) アップボタン
(4) ダウンボタン

- 放送局のあるところで、自動的に選局が止まります。
- 受信電波が弱いところでは、自動選局ができないことがあります。
- 自動選局を取り消したいときは、アップ / ダウンボタンをもう一度押してください。

■ 手動選局する（マニュアル選局）

チューナーノブ（5）をまわします。



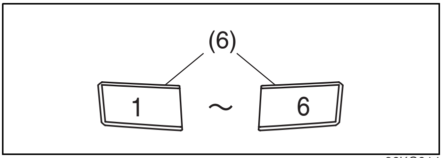
82KC034

- 受信している周波数がディスプレイに表示されます。

■ 放送局をメモリーする（プリセットメモリー）

1 メモリーしたい放送局を選びます。

2 メモリーしたいプリセットボタン 1～6 (6) を約2秒間押し続けます。



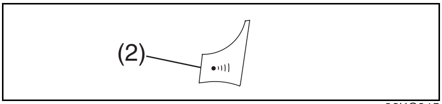
82KC014

- ビープ音が鳴り、ディスプレイのプリセットチャンネル番号が表示され、放送局がメモリーされます。
- プリセットメモリーできるのは、FM1、FM2、FM-AS、AM1、AM-AS各6局、合計で30局です。

5

■ 交通情報を聴く

交通情報ボタン（2）を押します。



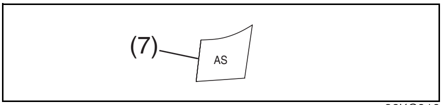
82KC015

- 交通情報放送局（AM1620kHz）を受信します。
- もう一度押すと、もとのモードにもどります。
- 交通情報の受信中は、他のチューナー操作（シーク受信など）は無効です。

■ 放送局を自動的にメモリーする（オートストア）

自動受信した放送局を、自動的にプリセットメモリーします。

オートストアボタン（7）を約 2 秒間押し続けます。

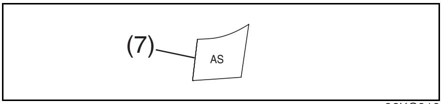


82KC016

- ディスプレイの「AS」が点滅表示して、オートストアを開始します。
- オートストアをした場合、受信感度の良い 6 局が、周波数の低い順序にプリセットメモリーにメモリーされます。
- オートストア実行中にオートストアボタン (7) を押すと、オートストアを中止できます。
- オートストアを実行すると、以前に登録されていた局はすべて上書きされます。
- 受信可能な局が 6 局なかった場合、受信可能な局の分だけプリセットボタン(6)に登録されます。
- オートストアでは、FM1/FM2 共通で6局、AMで6局の計12局を登録できます。

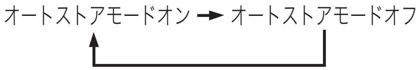
■ オートストアモードのオン／オフ

オートストアボタン(7)を押します

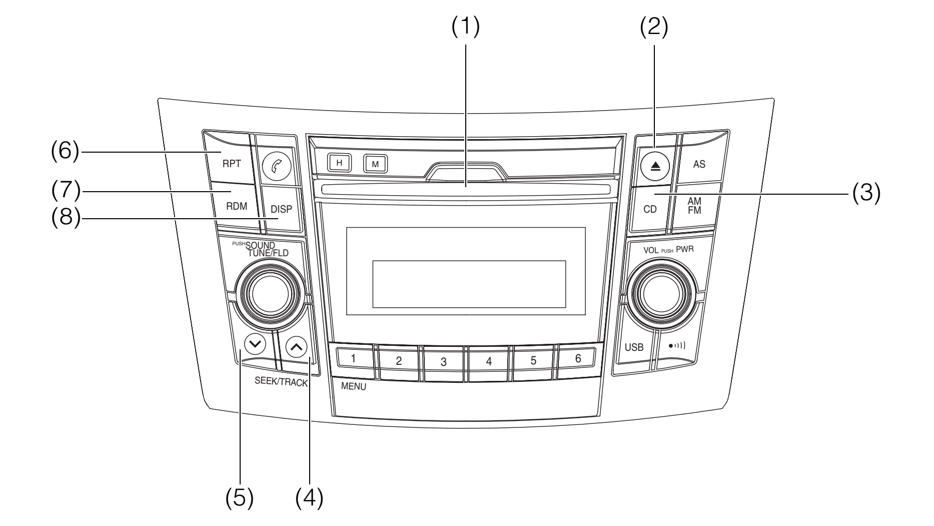


82KC016

押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。



CDを聴く



82KC001

(1) CD挿入口
(2) CDイジェクトボタン
(3) CDモードボタン
(4) アップボタン
(5) ダウンボタン
(6) リピートボタン
(7) ランダムボタン
(8) ディスプレイボタン

■ ディスクを入れる

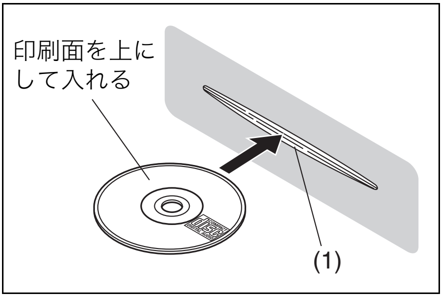
ディスク・イン・プレイ機能とは

本機の電源が入っていない状態でも、エンジンスイッチが ACC または ON であれば、CD を入れると自動的に電源が入って演奏が始まります。

⚠警告

CD 挿入口に手、指、異物を入れないでください。けがをしたり、火災や感電の原因となるおそれがあります。

CD挿入口（1）にCDを入れます。



80J1189

5

- CDを入れると、自動的に演奏が始まります。

アドバイス

- 本機は8 cm CDをサポートしていません。（「ミニシングル CD」、「3 インチ CD」、「CD3」と呼ばれるもの）
- CD-R、CD-RW、各種コピーコントロールCDは、再生できない場合があります。
- 下記マークのないCDやCD-ROMは、使用できません。

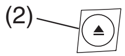
82KC017

■ ディスクを取り出す

バックアップイジェクト機能とは

本機の電源が入っていない状態でも、エンジンスイッチの位置に関係なくイジェクトボタンを押すと、CDを取り出せます。

CDイジェクトボタン（2）を押します。



82KC018

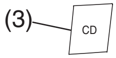
- CDがイジェクトされます。
- CD をイジェクトしたままにしておくと、約15秒後に本機内に引き込まれます。（オートリロード機能：エンジンスイッチが LOCK（OFF）のときのみ）

注記

オートリロード前に無理にCDを押し込むと、ディスク表面に傷がつくおそれがあります。

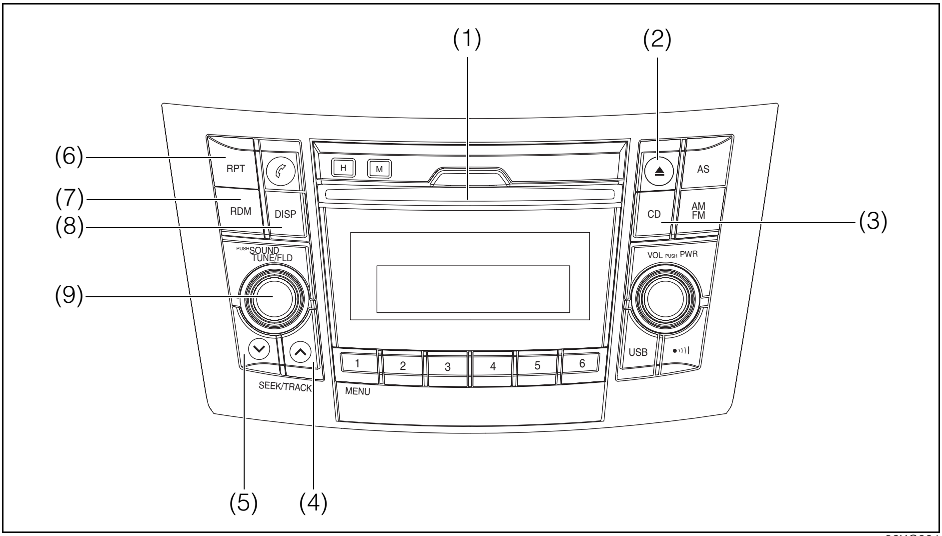
■ すでに入っているディスクを聴く

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、CDモードボタン（3）を押します。



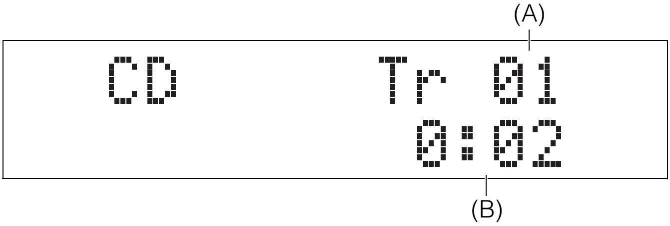
82KC019

- CD モードになると、自動的に演奏が始まります。

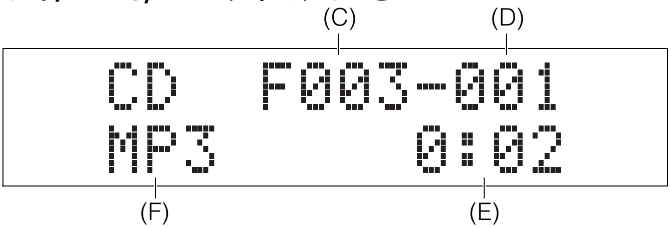


82KC001

(1) CD挿入口
(2) CDイジェクトボタン
(3) CDモードボタン
(4) アップボタン
(5) ダウンボタン
(6) リピートボタン
(7) ランダムボタン
(8) ディスプレイボタン
(9) チューナーノブ



82KC020

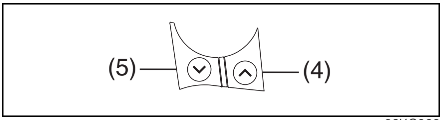


82KC021

(A) トラック番号
(B) 再生時間
(C) フォルダ番号
(D) トラック番号
(E) 再生時間
(F) MP3/WMAランプ

■ 曲を選ぶ

次の曲を聴くときは、アップボタン（4）を押します。
前の曲を聴くときは、ダウンボタン（5）を2回押します。



82KC022

(4) アップボタン（次の曲）
(5) ダウンボタン（前の曲）

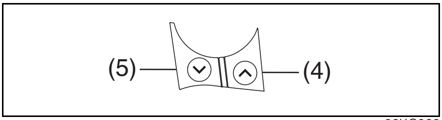
- アップボタン（4）を押すと、次の曲が演奏されます。また、押した回数だけ先の曲が演奏されます。
- ダウンボタン（5）を 1 回押すと、演奏中の曲が最初から演奏されます。さらに押すと、押した回数だけ前の曲が演奏されます。

アドバイス

曲の頭部分が演奏されているときにダウンボタンを 2 回押すと、2 曲前の曲へもどることがあります。

■ 早送り、早戻しする

早送りするときは、アップボタン（4）を押し続けます。
早戻しするときは、ダウンボタン（5）を押し続けます。

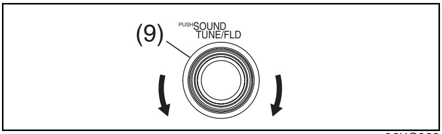


82KC022

(4) アップボタン（早送り）
(5) ダウンボタン（早戻し）

■ フォルダを選ぶ（MP3/WMAディスクの場合）

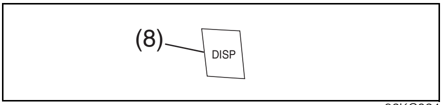
チューナーノブ（9）をまわしてフォルダを選択します。



82KC023

■ ディスプレイ表示を切り替える（CD-TEXTの場合）

ディスプレイ（8）を押します。



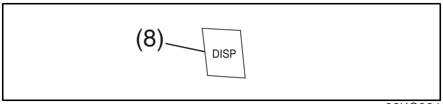
82KC024

- 押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

再生時間
↓
ディスクタイトル
↓
トラックタイトル
（→ 再生時間へ戻る）

■ ディスプレイ表示を切り替える（MP3/WMA ディスクの場合）

ディスプレイボタン（8）を押します。



82KC024

- 押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

再生時間
↓
フォルダ名
↓
ファイル名
↓
アルバム名（MP3のみ）
↓
トラックタイトル
↓
アーティスト名
（→ 再生時間に戻る）

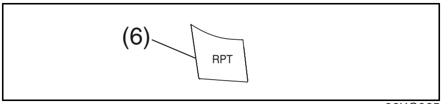
- タイトルが長く一度に表示できない場合（13 文字以上）は、タイトル表示中に 1 秒以上押してください。ビープ音が鳴り、ページを送ります。

アドバイス

- タイトルが記録されていないときは、「NO TITLE」と表示されます。
- 音楽 CD（CDDA）のときは、タイトルの切り替えはできません。

■ 曲を繰り返し聴く（リピート演奏）（音楽CDの場合）

リピートボタン（6）を押します。



82KC025

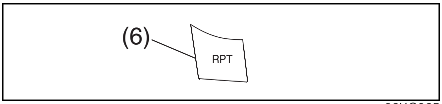
- 押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

オフ
↓
トラックリピート
（→ オフに戻る）

- トラックリピート
「RPT」ランプが点灯します。
現在の曲が繰り返し再生されます。

■ 曲を繰り返し聴く（リピート演奏）（MP3/WMAディスクの場合）

リピートボタン(6)を押します。



82KC025

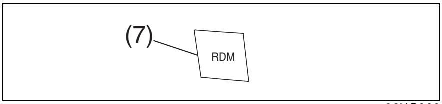
押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

オフ → ファイルリピート → フォルダリピート
↑（フォルダリピート → オフ）

- ファイルリピート
「RPT」ランプが点灯します。
現在の曲が繰り返し再生されます。
- フォルダリピート
「RPT.F」ランプが点灯します。
現在選択されているフォルダ内の曲が繰り返し再生されます。

■ 順不同に演奏を聴く（ランダム演奏）（音楽CDの場合）

ランダムボタン（7）を押します。



82KC026

- 押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

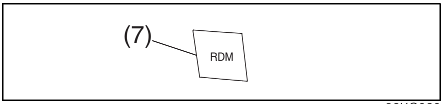
オフ → トラックランダム → オフ

- トラックランダム
「RDM」ランプが点灯します。
挿入されているディスク内の曲が順不同で再生されます。

5

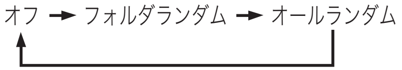
■ 順不同に演奏を聴く（ランダム演奏）（MP3/WMAディスクの場合）

ランダムボタン(7)を押します。



82KC026

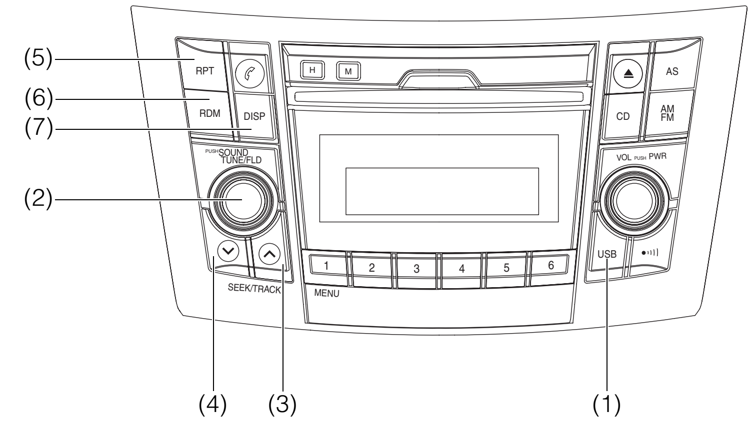
押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。



- フォルダランダム
  「RDM.F」ランプが点灯します。
  現在選択されているフォルダ内の曲が順不同で再生されます。
- オールランダム
  「RDM」ランプが点灯します。
  挿入されているディスク内の曲が順不同で再生されます。

USB機器を操作する

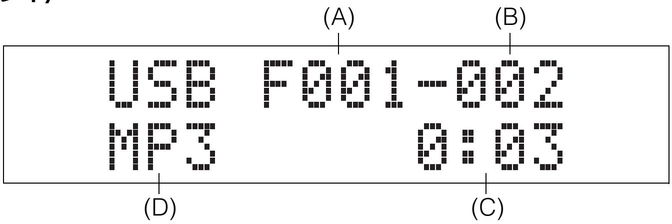
※ USB機器を操作するには、別売りのUSBソケットとケーブルが必要になります。



82KC001

(1) USBボタン　(2) チューナーノブ　(3) アップボタン
(4) ダウンボタン　(5) リピートボタン　(6) ランダムボタン
(7) ディスプレイボタン

〈ディスプレイ〉



82KC027

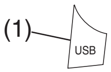
(A) フォルダ番号　(B) トラック番号　(C) 再生時間
(D) MP3/WMAランプ

⚠注意

USBメモリ、USBオーディオ以外のUSB機器を接続しないでください。また、USBハブなどを利用して複数のUSB機器を接続しないでください。消費電流が許容量を超え、過熱または発煙が発生する可能性があります。

■ USB機器モードを選択する

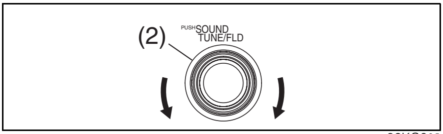
- USBボタン(1)を押します。



82KC028

■ フォルダを選択する

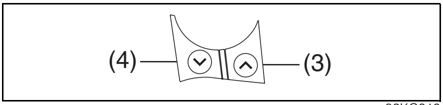
チューナーノブ (2) をまわして、フォルダを選択します。



82KC008

■ 選曲する

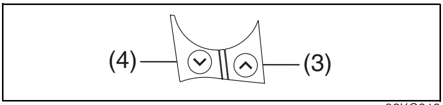
- 次の曲を聴くには、アップボタン(3)を押します。
- 前の曲を聴くには、ダウンボタン(4)を2回押します。
- 現在再生中の曲を最初から聴くには、ダウンボタン(4)を1回押します。



82KC010

■ 早送り／早戻しする

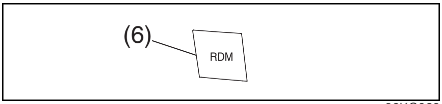
- 早送りするには、アップボタン(3)を押し続けます。
- 早戻しするには、ダウンボタン(4)を押し続けます。



82KC010

■ ランダムに再生する

ランダムボタン(6)を押します。



82KC029

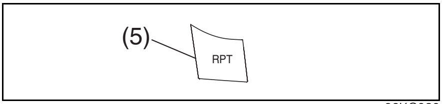
押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

オフ → フォルダランダム → オールランダム（→ オフに戻る）

- フォルダランダム
  「RDM.F」ランプが点灯します。
  現在のフォルダ内の曲が順不同で再生されます。
- オールランダム
  「RDM」ランプが点灯します。
  接続されているUSB機器内の曲が順不同で再生されます。

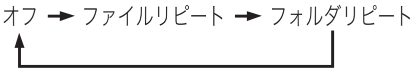
■ 繰り返し再生する（リピート再生）

リピートボタン(5)を押します。



82KC030

押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

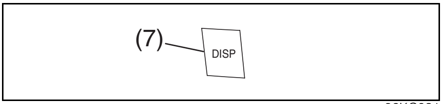


- ファイルリピート
  「RPT」ランプが点灯します。
  現在の曲が繰り返し再生されます。
- フォルダリピート
  「RPT.F」ランプが点灯します。
  現在のフォルダ内の曲が繰り返し再生されます。

5

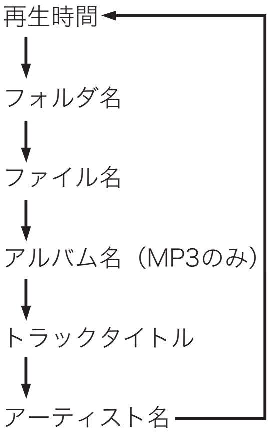
■ 表示を切り替える

ディスプレイボタン(7)を押します。



82KC031

押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。



- テキストが 13 文字以上ある場合、末尾に「>」が表示されます。
  ディスプレイボタン(7)を1秒以上押すと、次のページを表示することができます。

アドバイス

再生中のディスクにテキスト情報が収録されていない場合、「NO TITLE」が表示されます。

■ USB機器について

接続可能なUSB機器

- USB大容量記録装置
  ご使用のUSBメモリ／USBオーディオがUSB大容量記録装置に準拠しているかどうかは、各機器の製造会社までお問い合わせください。
- USB規格1.1／2.0 Full Speed準拠
- 対応ファイルシステム：FAT16／32
- 使用可能電力500 mA以下
- 容量4 GB以下(1パーテーション)

USB機器を接続する際の注意

- USB機器を接続するときは、端子を奥までしっかりと差し込んでください。
- 車内など、温度が高くなるような場所にUSB機器を長時間放置しないでください。
- 重要なデータはバックアップを取ってください。データ損失に関して当社は一切責任を負いません。
- MP3/WMA以外のファイルを含むUSB機器を接続しないでください。

■ MP3/WMA ファイルを USB 機器に書き込む際の注意

- USB機器や記録の状態によっては、再生や表示ができないことがあります。
- 接続するUSBメモリによっては、保存した順番と再生される順番が一致しない場合があります。

圧縮形式

MP3

- ビットレート
  MPEG1 Audio Layer III: 64 k - 320 kbps
  MPEG2 Audio Layer III: 64 k - 160 kbps
- サンプリング周波数
- MPEG1 Audio Layer III: 32 k／44.1 k／48 kHz
- MPEG2 Audio Layer III: 16 k／22.05 k／24 kHz

WMA(Ver.7, Ver.8)

- ビットレート CBR 48 k - 192 kbps
- サンプリング周波数 32 k／44.1 k／48 kHz

WMA(Ver.9*)

- ビットレート CBR 48 k - 320 kbps
- サンプリング周波数 32 k／44.1 k／48 kHz

* WMA 9 Professional ／ LossLess ／ Voiceには対応しておりません。

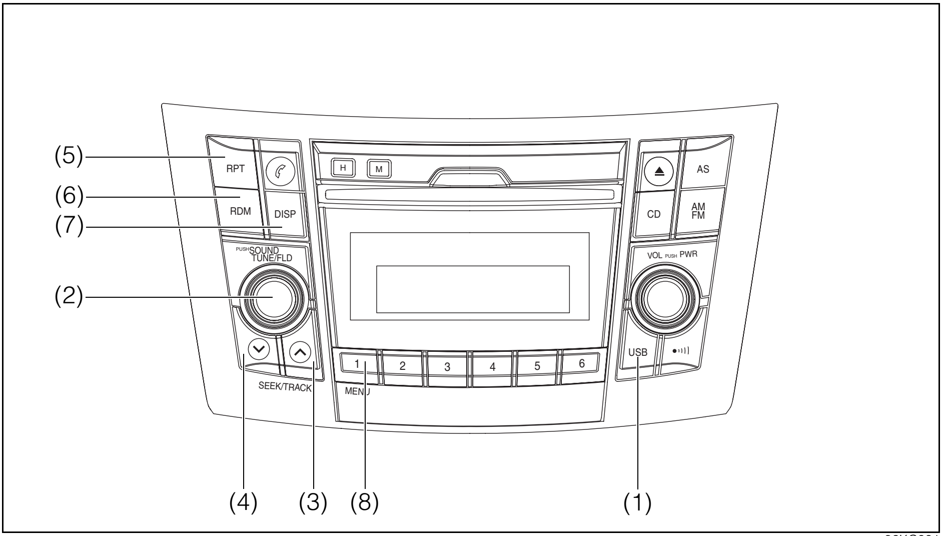
最大ファイル数／フォルダ数

- 最大ファイル数: 2500（ファイル+フォルダ)
- フォルダ内の最大ファイル数: 255
- 最大ツリー階層: 8
- 最大フォルダ数: 255（ルートフォルダを含む）

5

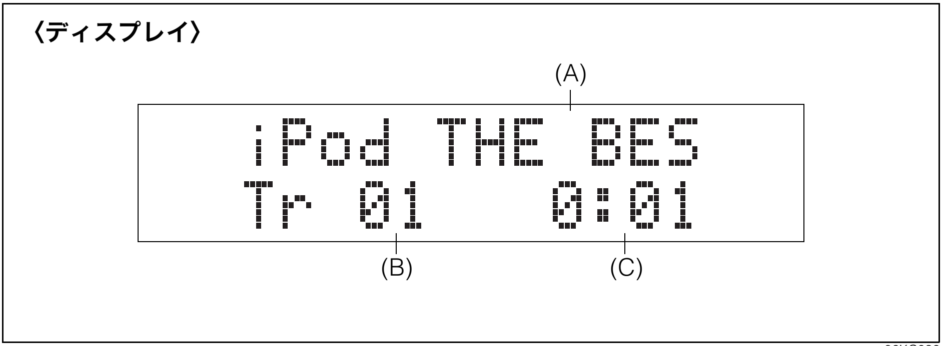
iPod®(*)を聴く

※ iPod®を聴くには、別売りのUSBソケットとケーブルが必要になります。



82KC001

(1) USBボタン　(2) チューナーノブ　(3) アップボタン
(4) ダウンボタン　(5) リピートボタン　(6) ランダムボタン
(7) ディスプレイボタン　(8) プリセットボタン1



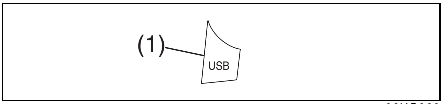
82KC032

(A) トラックタイトル　(B) トラック番号　(C) 再生時間

＊ iPod®は、Apple Inc.の商標です。

■ iPod®モードにする

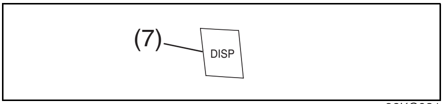
iPod® を接続した状態でUSB ボタン（1）を押します。



82KC028

■ ディスプレイ表示を切り替える

ディスプレイボタン（7）を押します。



82KC031

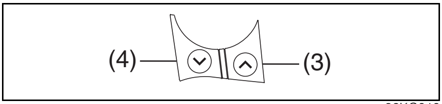
- 押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

プレイリスト名／トラックタイトル(プレイリストモードのみ)
↓
アーティスト名／トラックタイトル
↓
アルバム名／トラックタイトル
↓
トラックタイトル／再生時間
（→ プレイリスト名／トラックタイトルに戻る）

- テキストが 13 文字以上ある場合、末尾に「>」が表示されます。
  ディスプレイボタン(7)を1秒以上押すと、次のページを表示することができます。

■ 曲を選ぶ

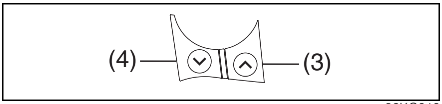
- 次の曲を聴くには、アップボタン(3)を押します。
- 前の曲を聴くには、ダウンボタン(4)を2回押します。
- 現在再生中の曲を最初から聴くには、ダウンボタン(4)を1回押します。



82KC010

■ 早送り／早戻しする

- 早送りするには、アップボタン (3) を押し続けます。
- 早戻しするには、ダウンボタン (4) を押し続けます。

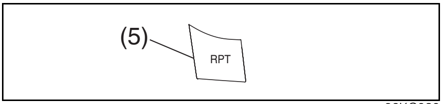


82KC010

5

■ 曲を繰り返し聴く（リピート演奏）

リピートボタン（5）を押します。



82KC030

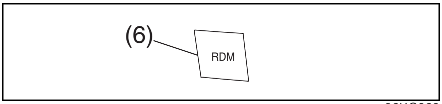
- 押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

オフ → ソングリピート → （オフに戻る）

- ソングリピート
  「RPT」ランプが点灯します。
  現在の曲が繰り返し再生されます。

■ 順不同に演奏を聴く（ランダム演奏）

ランダムボタン（6）を押します。



82KC029

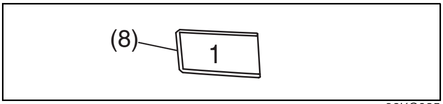
- 押すたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

オフ → ソングランダム → アルバムランダム → （オフに戻る）

- ソングランダム
  「RDM」ランプが点灯します。
  iPod® 内の曲が順不同で再生されます。
- アルバムランダム
  「D.RDM」ランプが点灯します。
  iPod® 内のアルバムが順不同で再生されます。

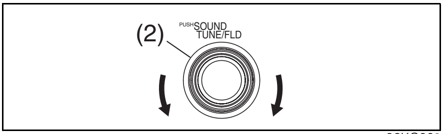
■ 再生モードを選択する

1 プリセットボタン1(8)を1秒以上押します。



82KC035

2 チューナーノブ(2)をまわします。



82KC008

- まわすたびに、ディスプレイ表示が次のように切り替わります。

PLAY LIST（プレイリスト）
↓
ARTIST（アーティスト）
↓
ALBUM（アルバム）
↓
SONGS（ソング）
↓
GENRE（ジャンル）→ PLAY LIST（プレイリスト）に戻る

3 チューナーノブ (2) を押して決定します。

- プリセットボタン1(8) を押すと、一つ前の表示に戻ります。

■ iPod®について

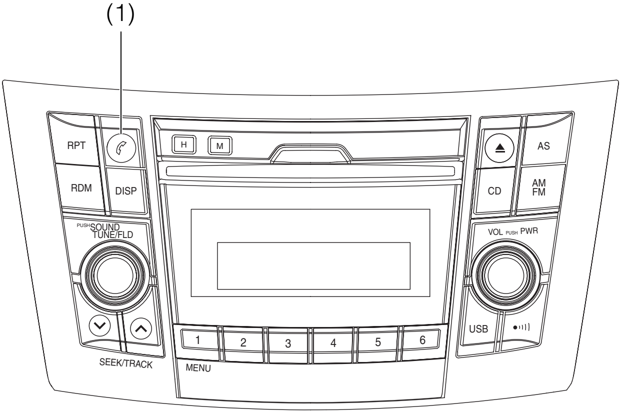
対応iPod®

- iPod® touch
- iPod® classic
- iPod® nano（第4世代）
- iPod® nano（第3世代）
- iPod® nano（第2世代）
- iPod® nano（第1世代）
- iPod®（第5世代）
- iPhone®
- iPhone® 3G
- iPod® の機種によって、使用できない機能があります。
- iPod® および iPhone® は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- Apple 社は本装置の動作ならびに安全および規制の基準に関する順守に対して責任を負いません。

iPod®接続時の注意

- エンジンスイッチを LOCK（OFF）にしてから、iPod® を取り外してください。
  接続したままの場合、シャットダウンされず、iPod® のバッテリーが消耗する可能性があります。
- 本機にiPod®を接続するときは、iPod®リモコンやヘッドフォンなどの付属品は接続しないでください。
  正常に動作しない可能性があります。

ハンズフリーで通話する



82KC001

(1) ハンズフリーフォンボタン

〈ディスプレイ〉

82KC033

- ハンズフリー通話には、専用のハンズフリーキット（別売り）が必要です。
- エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用でき、着信があったときにハンズフリーフォンボタンを長押しすると、電話の受信ができます。
- ハンズフリー通話の詳細については、専用のハンズフリーキット（別売り）の取扱説明書をお読みください。

⚠注意

ハンズフリー通話は安全な場所に停車してから使用してください。やむを得ず走行中に使用する場合は、まわりの安全を十分に確認して、手短に終了してください。

故障かなと思ったら

次のような症状は、故障ではなく、次のような原因による場合があります。修理を依頼される前に、もう一度次のことをお調べください。

	病状	原因	処置
共通	電源が入らない/音が出ない	配線が不完全	スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください
ラジオ	雑音が多い	放送局の周波数に合っていない	正しい周波数に合わせてください
	シーク受信ができない	十分な強さで受信できる局が存在しない。	手動で受信してください。
CD	音飛び、または雑音が発生する	ディスクが汚れている。	柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
		ディスクに大きなキズまたは歪みがある。	キズがなく、歪んでいないディスクに交換してください。
MP3/WMA	再生できない	本機での再生に対応していないデータが含まれている。	ファイル形式を確認してください。
		音飛び、または雑音が発生する。	VBR（Variable Bit Rate）形式のファイルは音飛びが発生する可能性があります。 VBR形式以外のファイルを再生してください。
USB	USB機器の接続後、再生が開始されない	本機での再生に対応した形式のファイルがない。	ファイル形式を確認してください。
		消費電流が500 mA以上に達した。	消費電流が500 mA以下の機器を接続してください。

5

エラー表示について

本機は、システム保護のため、各種の自己診断機能を備えています。次のようなエラーが表示されたときは、それぞれの対処方法にしたがってください。

	エラー表示	原因	対処方法
CD	ERROR 1	ディスクの読みとりが不可。	ラベル面を上にして挿入してください。 キズや歪みがないか確認してください。
CD	ERROR 3	原因不明のエラー	CDが挿入されている場合はイジェクトボタンを押してCDを取り出してください。
USB/iPod®	ERROR 1	原因不明のエラーにより操作できない。	いったんUSB/iPod®機器を取り外し、再度取り付けてください。
USB/iPod®	ERROR 2	USB機器と正しく通信できない。	いったんUSB/iPod®機器を取り外し、再度取り付けてください。 USB機器を確認してください。
USB/iPod®	ERROR 3	USB機器が切断された。	USB機器の接続を確認してください。
USB/iPod®	ERROR 4	消費電流が500 mA以上に達した。	USB機器を確認してください。

※上記の対処方法にしたがってもエラーが解消されない場合は、本機の電源を切り、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

5

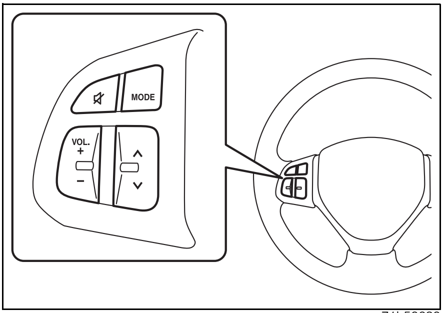
ステアリングオーディオスイッチ

タイプ別装備

CDプレーヤー（AM/FMラジオ付）

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、手元で CD プレーヤー（タイプ別装備）の操作ができます。

- オーディオ本体による操作については、**5-12ページ**の「**CDプレーヤー**」をお読みください。

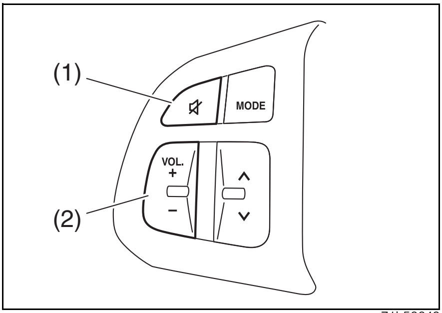


71L50630

■ 音量の調節

- 音量調節ボタン（2）を押すと、音量が調節できます。
  - 大きくするときは（+）を押します
  - 小さくするときは（−）を押します
  - 連続調節するときは長押しします

- ミュートボタン（1）を押すと、ラジオを消音できたり、CD の演奏を停止できたりします。
  もう一度押すと、消音が解除されたり、演奏が再開されたりします。



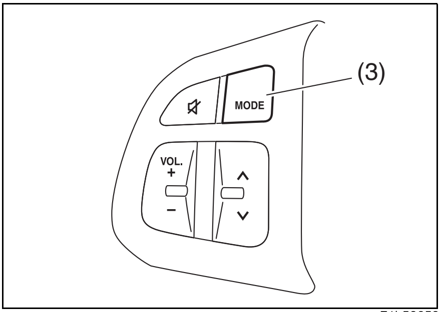
71L50640

5

■ モード切替え

モードボタン（3）を押すたびに、次のようにモードが切り替わります。

FM1（Radio）
↓
FM2（Radio）
↓
CD
↓
USB（iPod）
↓
AM（Radio）→ FM1（Radio）



71L50650

アドバイス

- CD が入っていないときは、CD モードは選択されません。
- USB（iPod®）が接続されていないときは、USB（iPod®）モードは選択できません。
- オーディオの電源が切れているときにモードボタンを押すと、電源が入ります。

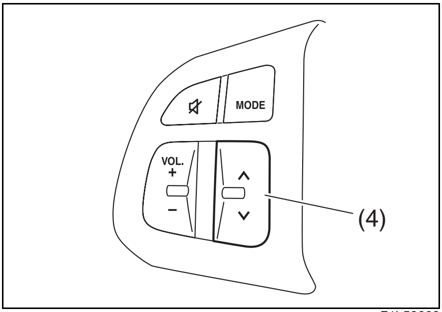
■ 選局（選曲）

選局（選曲）ボタン（4）を押すと、下表のようにオーディオの操作ができます。

使用モード	選局（選曲）ボタンの短押し	選局（選曲）ボタンの長押し
FM/AM	プリセット選局（P.CH）※	自動選局（SEEK）
CD USB iPod®	トラック（曲）選択	早送り 早戻し

※プリセットメモリー（放送局のメモリー）については、**5-21 ページ**をお読みください。

- 受信電波が弱いところでは、自動選局ができないことがあります。自動選局を取り消したいときは、選局ボタンをもう一度押してください。



71L50660

燃料給油口

2-20 ページの「**給油するときは**」もあわせてお読みください。

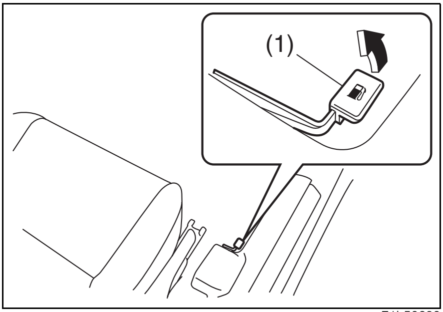
⚠ 警告

必ず次のことをお守りください。
- **エンジンを止めてください。**
- **給油中はドアや窓を閉めてください。**
- **ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。**

フューエルリッド

助手席側の車両後方にあります。

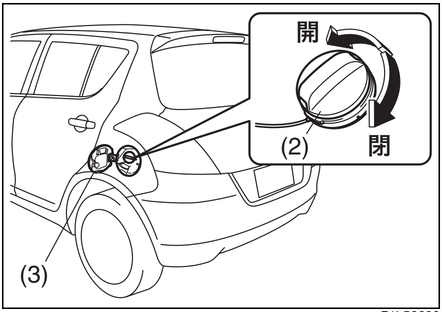
- 開けるときは、運転席足元のフューエルリッドオープナー（1）を引き上げます。
- 閉めるときは、フューエルリッドを手で押しつけます。



71L50280

フューエルキャップ

- 開けるときは、ゆっくり反時計方向にまわします。
- 閉めるときは時計方向にまわし、カチッという音が2回以上するまで締めます。



71L50290

(2) フューエルキャップ
(3) フューエルリッド

⚠ 警告

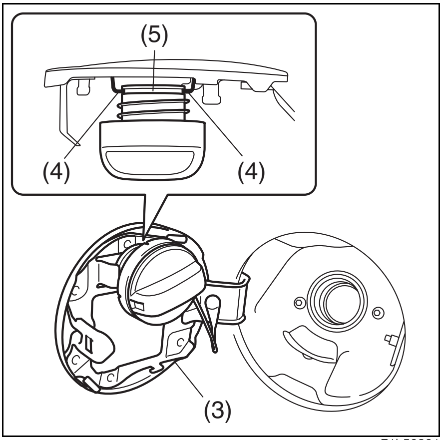
- **フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。**
- **燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちに柔らかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。**
- **給油後は、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。**
- **指定のスズキ純正フューエルキャップ以外は使用しないでください。燃料漏れのおそれがあります。**

5

キャップホルダー

フューエルリッド(3)の裏側にあります。

- 給油中は外したキャップが車体にあたらないように、キャップホルダー（4）に置いてください。
  このとき、キャップ先端の溝部（5）をホルダーへ差し込みます。



71L50301

アドバイス

キャップをホルダーに置くときは、溝部を差し込んでください。ねじ部ではキャップを保持できません。

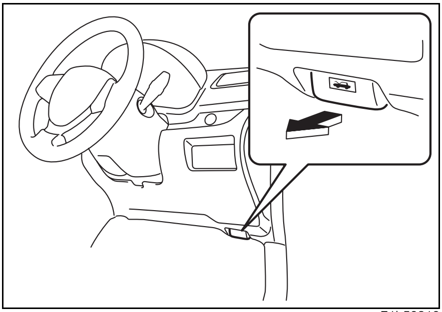
ボンネット

警告

- **お子さまにはボンネットを開閉させないでください。ボンネットは重いため、けがのおそれがあります。また、エンジンルーム内は高温になるため、やけどのおそれがあります。**
- **ボンネットを開けているときは、お子さまを近づけないでください。**
- **点検や清掃に使用した工具や布などは、エンジンルーム内に置き忘れないでください。故障の原因となったり、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながったりするおそれがあります。**

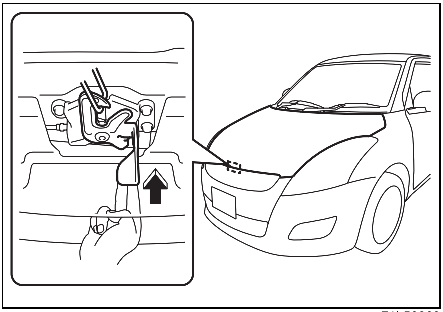
開けかた

1 運転席足元のボンネットオープナーを引くと、ボンネットの先端が少し浮き上がります。



71L50310

2 浮き上がったボンネットのすき間に手を入れ、ロックレバーを上側へ押しつけながら、ボンネットを持ち上げます。



71L50320

⚠注意

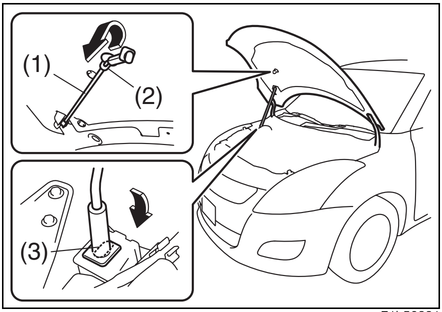
エンジン回転中や停止直後は、ロックレバーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ロックレバーを操作する前に必ず確認してください。

注 記

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。ワイパーアームやボンネットが傷つくおそれがあります。

3 ボンネットを固定します。

- ボンネット側にあるステー（1）をホルダー（2）から外し、車体側の固定穴（3）に差し込みます。



71L50331

⚠注意

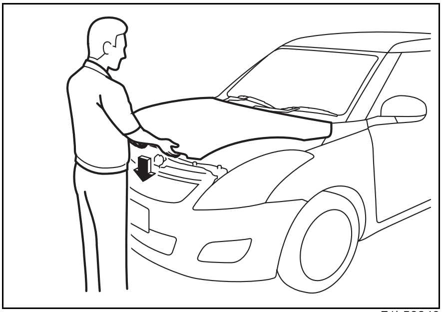
- **エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ステーを持つ前に必ず確認してください。**
- **ステーは固定穴に確実に差し込んでください。ステーが外れると、ボンネットに身体がはさまれることがあります。**
- **ボンネットが風にあおられて、ステーが外れることがあります。とくに風の強い日は注意してください。**

5

閉めかた

1 ボンネットを片手でささえながら、ステーを外して、もとのホルダーに固定します。

2 ボンネットを閉めます。
- ボンネットを20 cmぐらいの高さまでゆっくりと下げて、手を離します。



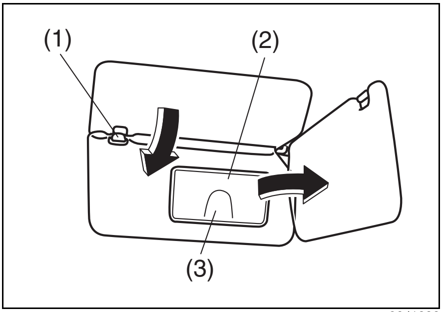
71L50340

⚠注意

- **ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように気をつけてください。また、強く押さえると、ボンネットがへこむおそれがあります。**
- **ボンネットが完全に閉まっているか確認してください。完全に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。**

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、フックから外して横にまわします。



80J1222

(1) フック
(2) ミラーカバー
(3) チケットホルダー

チケットホルダー

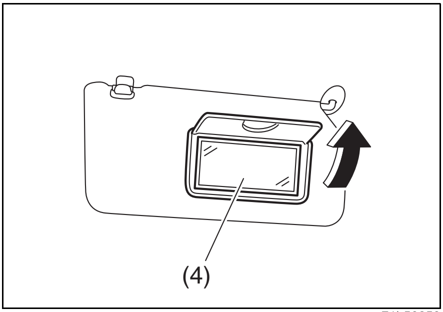
サンバイザーの裏側（ミラーカバーの外側）にあります。有料道路の通行券などがはさめます。

注 記

炎天下で駐車するときは、チケットホルダーなどにプラスチック素材のカードを放置しないでください。車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。
→ 2-19 ページ（ライターやメガネなどを放置しない）

バニティーミラー

ミラーカバーを開けた場所にあります。



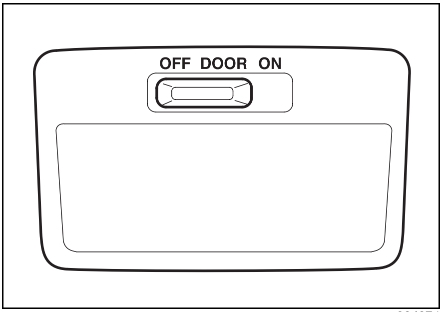
71L50350

(4) バニティーミラー

⚠警告

- **走行中はバニティーミラーを使用しないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **バニティーミラーを使用するときは、SRS エアバッグの収納場所に近づいたり、寄りかかったりしないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受けるおそれがあります。**

室内灯



80J274

ON

ドアの開閉に関係なく点灯します。

DOOR

いずれかのドアを開けると点灯します。

- すべてのドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。

また、点灯中であっても次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。

- エンジンスイッチを ACC または ON の位置にする
- リクエストスイッチ、キーレスエントリーまたはキーによる施錠

OFF

ドアの開閉に関係なく消灯します。

5

注 記

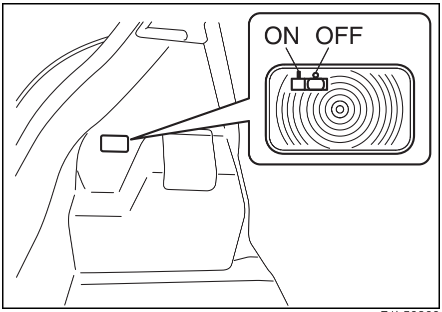
エンジン停止中に長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

- バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、室内灯が自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）
  - エンジンスイッチが LOCK (OFF) の位置
  - 室内灯スイッチがDOOR位置
  - 点灯したまま15分が経過
- 室内灯スイッチが DOOR 位置のときに、リクエストスイッチまたはキーレスエントリーを作動させると、室内灯が点灯または点滅します。
  → **3-9ページ（アンサーバック機能）**

ラゲッジルームランプ

- スイッチをONの位置（車の後ろ方向）にすると、バックドアを開けたときに点灯し、閉めると消灯します。
- スイッチをOFFの位置（車の前方向）にすると、バックドアの開閉に関係なく消灯します。



71L50360

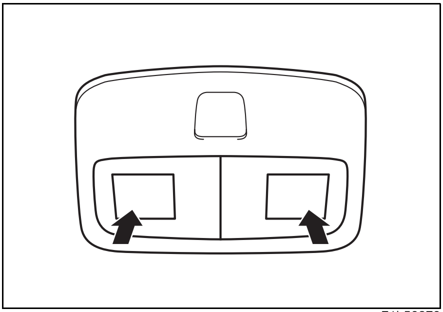
注 記

エンジン停止中に、長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

フロントマップランプ

タイプ別装備

ランプを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



71L50370

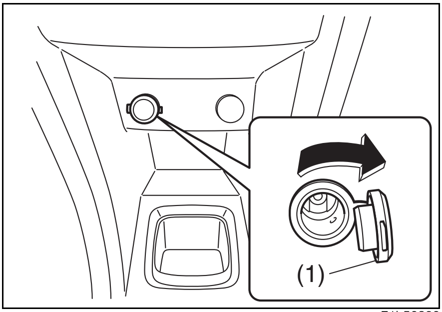
注 記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

アクセサリーソケット

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、電気製品の電源（規定容量 12 V 120 W 以下）として使用できます。

- 使用するときは、ふた (1) を開けます。



71L50380

⚠警告

- **使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。**
- **事故防止のため、スズキ純正用品以外の電気製品を使用しないでください。**

注 記

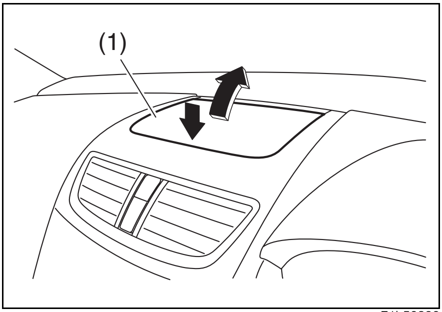
- **規定容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れることがあります。**
- **エンジン停止中に長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。**

5

インパネアッパーボックス

手回り品や小物などの収納にご使用ください。

- 開けるときは、ふた（1）の手前を押してから持ち上げます。



71L50390

- 物を出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。

⚠注意

ふたを開けたまま走行しないでください。視界をさえぎるばかりでなく、ブレーキや加速、衝突のときなどに、中の物が飛び出すおそれがあります。

注 記

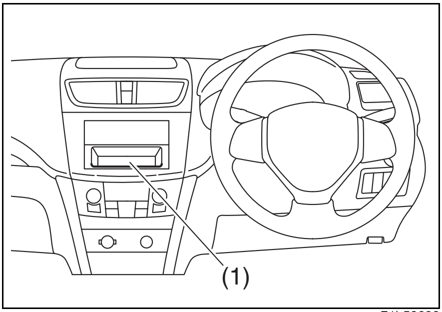
炎天下で駐車するときは、ボックス内などにCDケースなどのプラスチック製品を放置しないでください。車内が高温になるため、CDケースなどの変形やひび割れを起こすおそれがあります。

→　2-19ページ（ライターやメガネなどを放置しない）

インパネボックス

タイプ別装備

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



71L50680

(1) インパネボックス

⚠警告

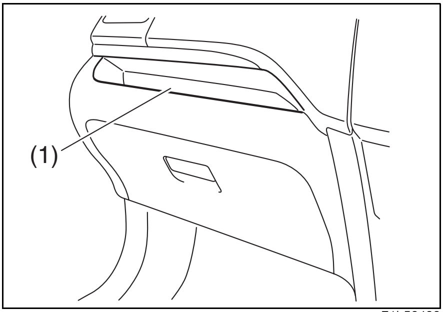
走行中にころがり落ちるような物を入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

5

インパネトレー

助手席

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



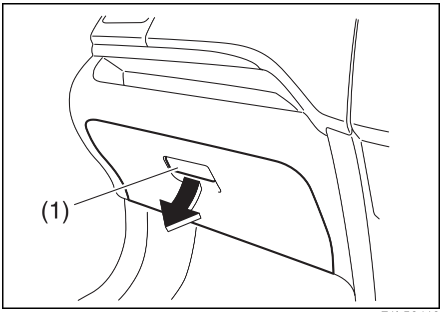
(1) インパネトレー

⚠警告

走行中にころがり落ちるような物を入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

グローブボックス

レバー（1）を手前に引いてふたを開けます。



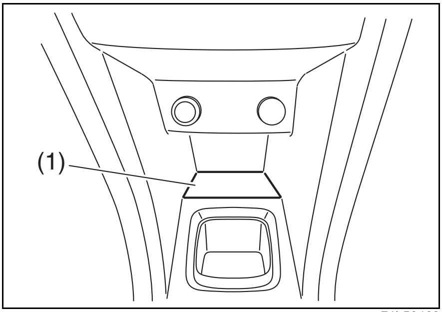
- 物を出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。

⚠注意

ふたを開けたまま走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、身体がふたにあたったり、中の物が飛び出したりするおそれがあります。

コンソールボックス

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



(1) コンソールボックス

⚠警告

走行中にころがり落ちるような物を入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

ドリンクホルダー

缶ジュースやカップが置けます。

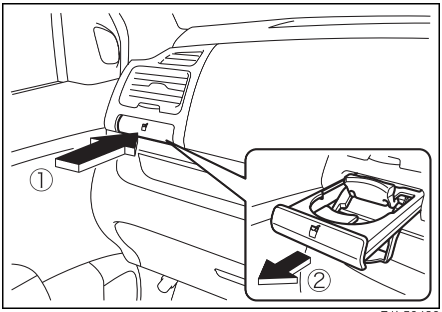
⚠警告

飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物がオーディオ（タイプ別装備）やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

助手席（プッシュ式）

使用するときは、次のようにして手前に引き出してください。

①ドリンクホルダーを押します。
②すべて自動でせり出してきます。



- 使用後は、押し込んで格納します。

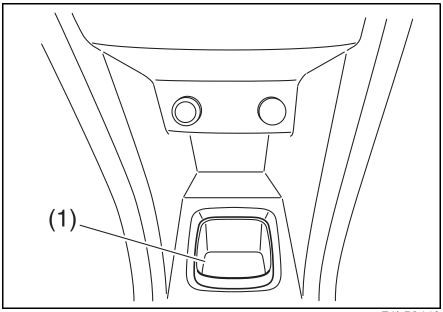
⚠警告

缶ジュースやカップ以外のものを置かないでください。走行中に落ちてけがをしたり、運転の妨げになったりするおそれがあります。

注 記

ドリンクホルダーを押さずに、格納された状態から無理に引き出そうとすると、破損するおそれがあります。

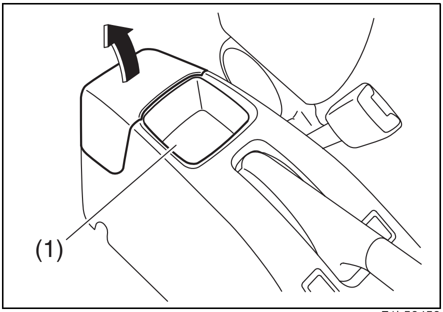
コンソールトップ



(1) ドリンクホルダー

コンソールエンド

ふたを開けると、もう一本缶ジュースやカップが置けます。



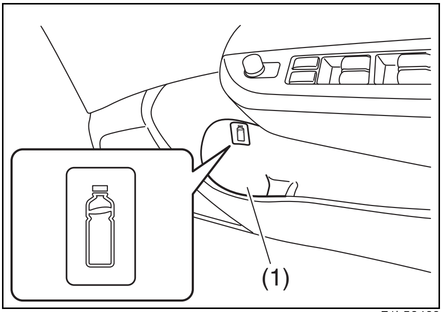
(1) ドリンクホルダー

● 使用後は、ふたを閉めておきます。

ドアポケット

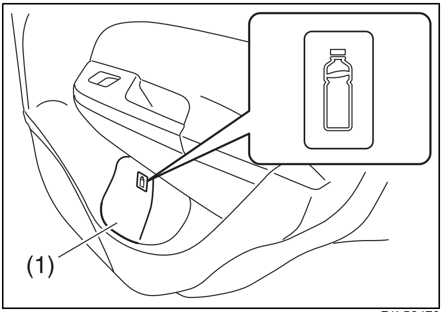
手回り品や小物などの収納にご使用ください。

前席ドア



(1) ドリンクホルダー

後席ドア



(1) ドリンクホルダー

ドリンクホルダー

ポケットの中にあります。

⚠警告

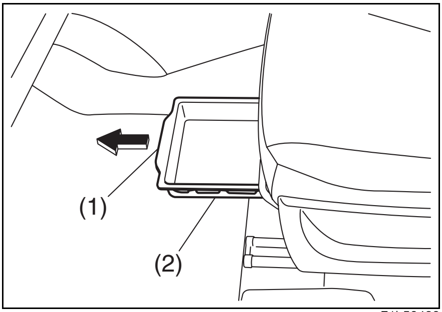
飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物がオーディオ（タイプ別装備）やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

シートアンダートレー

シートの下側にあります。
靴などの収納にご使用ください。

助手席

とっ手（1）を手前に引くと、トレー（2）が引き出せます。



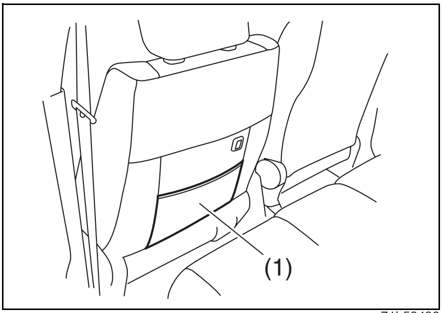
71L50480

- 物を出し入れしたあとは押し込んで格納し、トレーがしっかり固定されているか確認してください。

シートバックポケット

雑誌や手荷物などの収納にご使用ください。

助手席

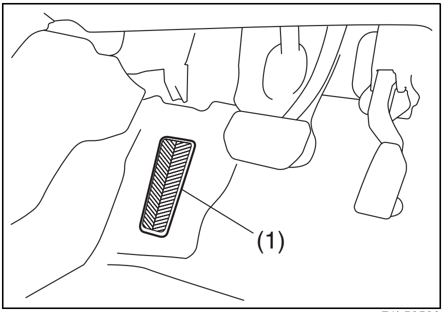


71L50490

(1) シートバックポケット

フットレスト

左足のささえとして使用します。



71L50500

(1) フットレスト

ショッピングフック

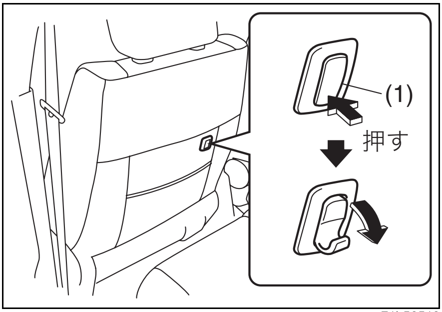
買い物袋などを引っかけるときにご使用ください。

注 記

フックにかける物は、次に示す荷重以下としてください。フックが破損するおそれがあります。
- **助手席シートバックのフックは3 kg以下**
- **荷室のフックは2 kg以下**

助手席シートバック

- 使用するときは、フック（1）の下部を押しながら回転させます。

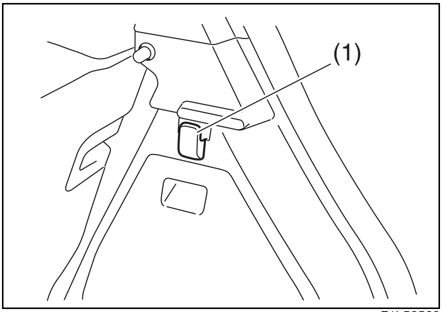


71L50510

- 使用後は、反転させてフックを格納します。

荷室

荷室の右側面にフック（1）があります。



71L50520

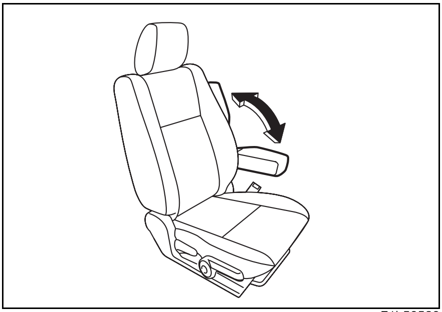
アームレスト（ひじ掛け）

運転席

タイプ別装備

手前に倒して使用します。

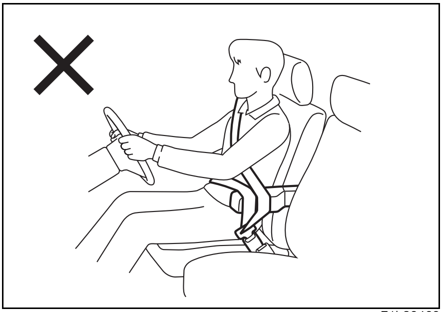
- 使用後は、持ち上げて収納します。



71L50530

警告

シートベルトは、アームレストの下をとおしてください。アームレストにベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。



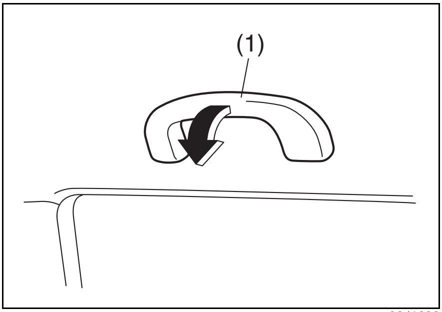
71L30460

注 記

アームレストに腰をかけたり、荷物をのせたりしないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

可倒式アシストグリップ

アシストグリップ（1）を手前に倒して使用します。

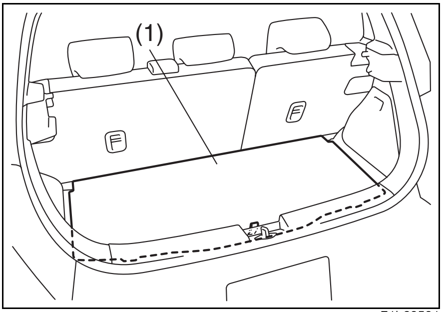


80J1233

ラゲッジボード

荷室にはラゲッジボード（1）が取り付けられています。

- ボードの下にも荷物が収納できます。
- ボードを取り外したり収納したりすると、背の高い荷物が積めます。



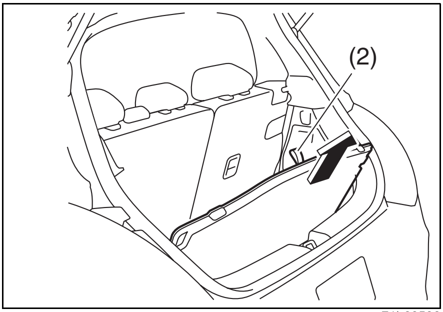
71L20501

注意

後席シートよりも背の高い荷物を積まないでください。後方視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキのときなどに荷物が飛び出して、身体にあたるおそれがあります。また、バックドアを閉めたときなどに、ドアや荷物が破損するおそれがあります。

取り外しかた

ストラップ（2）を引いて持ち上げてから取り出します。

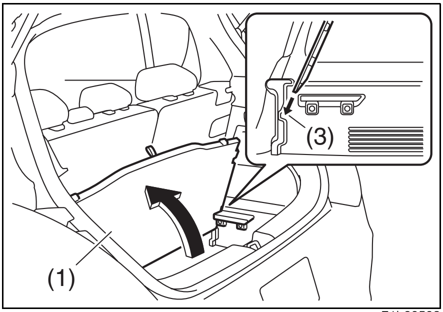


71L20502

持ち上げたままにするときは

ボード下の荷物を出し入れするときに便利です。

- ボード（1）を荷室前方の両側にある溝（3）に沿って差し込みます。



71L20503

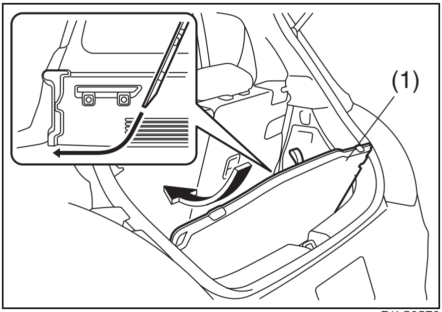
注 記

ボードを持ち上げたまま走行しないでください。ボードなどに傷がつくおそれがあります。

収納のしかた

荷室床に収納できます。

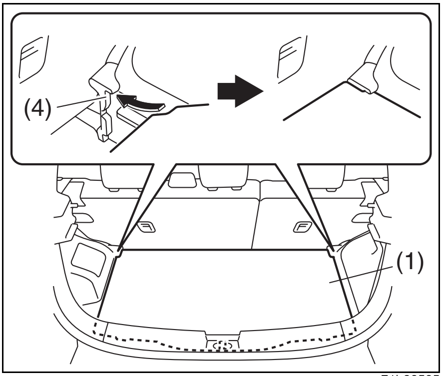
- ボード（1）を荷室後方より、前方へスライドさせます。



71L50570

もとにもどすときは

ボード（1）の左右先端を車体側のホルダー（4）に合わせます。



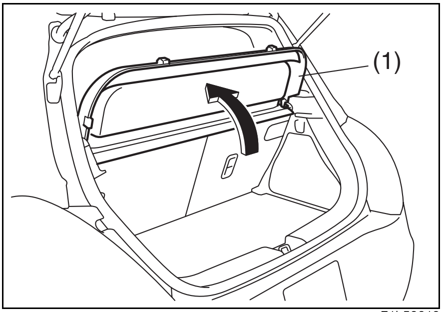
71L20505

5

ラゲッジシェルフ（荷室カバー）

後席の後ろにあります。

- ラゲッジシェルフ（1）は持ち上げた状態で固定できますが、次の手順で正しく取り付ける必要があります。



71L50610

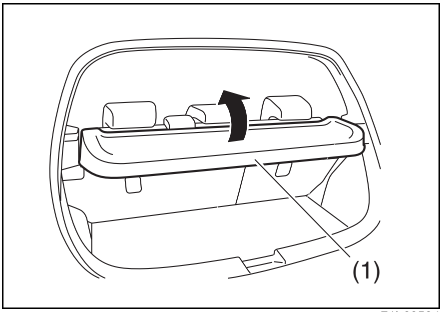
⚠注意

ラゲッジシェルフに物をのせないでください。後方視界をさまたげるばかりでなく、急ブレーキのときなどに物が飛び出して、身体にあたるおそれがあります。

取り外しかた

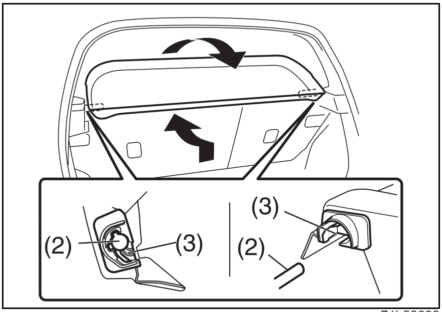
1 リクライニング機構付後席の場合、取外しのさまたげにならないように背もたれを起こします。
→ **3-34ページ（背もたれの角度調節）**

2 ヘッドレストを一番低い位置（収納時の位置）に調節したら、ラゲッジシェルフ（1）の後端部がヘッドレストにあたるまで持ち上げます。
→ **3-26 ページ（ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け）**



71L20504

3 ラゲッジシェルフを取り外します。
- 少し持ち上げながら前方にずらし、バー (2) からホルダー部 (3) を取り外します。



71L50600

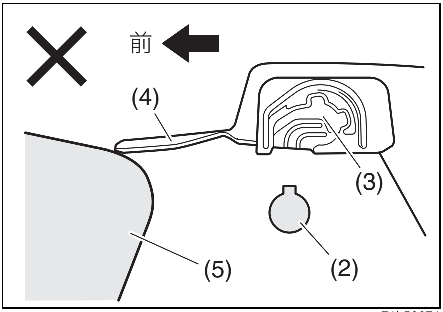
取付けかた

1 リクライニング機構付後席の場合、取付けのさまたげにならないように背もたれを起こします。
→ **3-34ページ（背もたれの角度調節）**

2 ラゲッジシェルフを取り付けます。
- ホルダー部（3）をバー（2）にはめ込みます。

注 記

取り付けるときに、ラゲッジシェルフの前端部（4）を背もたれ（5）に乗り上げないでください。ラゲッジシェルフが破損するおそれがあります。



71L50671

3 ヘッドレストを一番低い位置（収納時の位置）に調節したら、ラゲッジシェルフ（1）の後端部がヘッドレストにあたるまで持ち上げます。
→ **3-26 ページ（ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け）**

4 ラゲッジシェルフを水平位置へもどします。

ルーフ

スズキ純正のベースキャリアおよびアタッチメント（別売り）の場合、ルーフに積載できる最大重量は 30 kg（ベースキャリアおよびアタッチメントの重量を含む）です。取付けおよび使用上の注意についての詳細は、ベースキャリアおよびアタッチメントに付属の取扱説明書をお読みください。

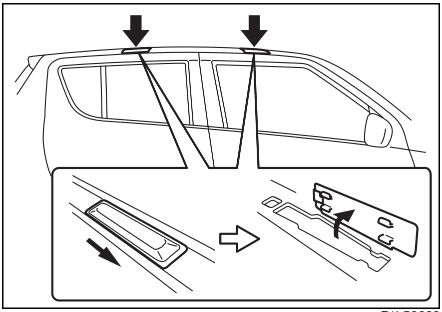
注 記

ルーフパネルの上に荷物を直接積まないでください。パネルが損傷するおそれがあります。

ルーフモールカバー

ルーフの左右にあるルーフモールカバー計４個を外すと、別売りのベースキャリアを固定するためのブラケットがあります。

- カバーを外すときは、矢印の方向にカバーをスライドさせてから持ち上げます。


71L50620

- もとにもどすときは、外すときの逆の手順で行ないます。

注 記

手順以外の方法で外したり、もとにもどしたりすると、カバーが破損するおそれがあります。

5

MEMO

6. お車との上手なつきあいかた

● お手入れ

外装のお手入れ …………………………… 6-2
内装のお手入れ …………………………… 6-4
タイヤの交換 ……………………………… 6-4
携帯リモコンの電池交換 ………………… 6-6

● 寒冷時の取扱い

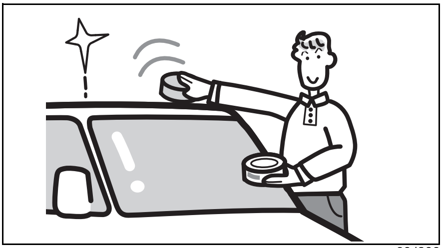
冬期に入る前の準備 ……………………… 6-7
出発の前に ………………………………… 6-8
雪道を走行するとき ……………………… 6-9
駐車するとき ……………………………… 6-10
タイヤチェーンを装着するとき ………… 6-12

外装のお手入れ

塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

- 駐車、車の保管は風通しのよい車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。
  - 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールタールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。
  - ほこりや泥でひどく汚れたとき。
- ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明に従ってください。



80J302

- 飛び石の傷や、引っかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

注 記

塗装面の傷を補修するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。不適切な塗料を使用すると、塗装がはがれる原因となります。

洗車のときのご注意

⚠注意

- **車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。**
- **洗車したあとはブレーキの効きが悪くなることがあります。**
  → 2-16ページ（水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認）

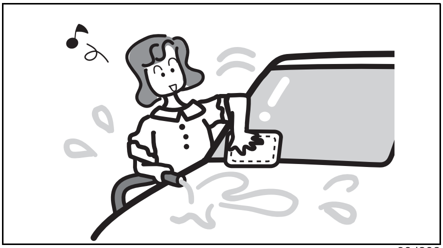
注 記

エンジンルームに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品が故障する原因となります。

手洗い洗車をするときは

1. 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のような柔らかいものを使って汚れを洗い落とします。
2. 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。
3. 柔らかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。

6



80J303

自動洗車機を使うときは

注 記

- **ドアミラーを格納し、アンテナを取り外してください。洗車機にひっかかり、ドアミラーやアンテナを損傷するおそれがあります。**
- **ルーフエンドスポイラー装備車は、自動洗車機での洗車を避けてください。洗車機にひっかかり、スポイラーを損傷するおそれがあります。**
- **自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。**

高圧洗浄機を使うときは

洗車ノズルを車体から十分に離してください。

注 記

- **洗車ノズルを車体に近づけすぎたり、バンパーなどの開口部に向けたりすると、車体や部品の変形や損傷の原因となります。**
- **洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどの開閉部分に向けると、車内に水が入るおそれがあります。**

フロントウインドーガラスの手入れ

油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

注 記

フロントワイパーは運転席側から順に起こし、助手席側から順にもどしてください。助手席側を先に起こす、または運転席側を先にもどすと、ワイパー同士があたって傷つきの原因となります。

アルミホイール（タイプ別装備）の手入れ

6-2 ページの「**手洗い洗車をするときは**」をお読みください。

注 記

- **酸性、アルカリ性の洗剤を使用しないでください。塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。**
- **硬いブラシや砂入り石けんを使用しないでください。傷つきの原因となります。**

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼった柔らかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーや柔らかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

⚠警告

車内に水などをかけないでください。オーディオ（タイプ別装備）やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

注 記

- **次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。しみ、変色、変形、強度低下などの原因となります。**
  - **ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤**
  - **酸性、アルカリ性の洗剤**
  - **漂白剤や染料**
- **色物の革製品・毛皮・ビニールなどを長時間、放置しないでください。内装の変色や変質の原因となります。**

アドバイス

液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのもののご使用をおすすめします。

布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ

1. 中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。
2. 真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をふき取ります。
3. 残った水分をふき取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

バックウインドーガラスの室内側の手入れ

熱線や端子を傷つけないように、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿ってふいてください。

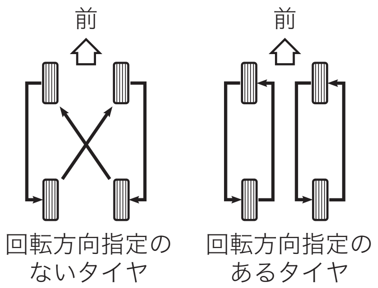
タイヤの交換

タイヤのローテーション

タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約**5,000 km**走行ごとに行なってください。（次の図参照）

- 車載ジャッキでタイヤのローテーションを行なうときは、応急用スペアタイヤ（タイプ別装備）などを使用して1輪ずつ交換します。
  →　**7-6ページ（ジャッキアップ）**
- タイヤパンク応急修理セット装備車には、応急用スペアタイヤが装備されていないため、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

6



注意

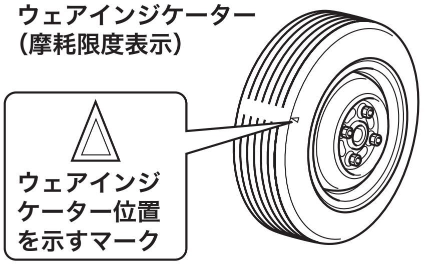
- **応急用スペアタイヤ（タイプ別装備）は、通常の走行には使用しないでください。**
- **回転方向指定のあるタイヤをローテーションするときは、回転方向を逆にしないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。**

アドバイス

回転方向指定のあるタイヤは、タイヤの側面に回転方向を示すマークがあります。

タイヤ交換するときは

- 指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出る場合は、タイヤのバランスを点検してください。
- 取り付ける前にタイヤの摩耗状態を点検してください。ウェアインジケーター（溝の深さが 1.6 mm 浅い部分）が現れて溝の一部が消えていたら、他のタイヤと交換してください。



警告

指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。(冬用タイヤも同様です)

- **ABS および ESP®（タイプ別装備）の場合、正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、正常に作動しない場合があります。**
- **4WD　車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。**

携帯リモコンの電池交換

⚠警告

電池および取り外した部品は、お子さまが誤って飲み込まないよう注意してください。

⚠注意

故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **濡れた手で電池交換しない**
- **電池以外の端子や電子部品に触れない**
- **端子を曲げない**
- **油や異物を付着させない**

アドバイス

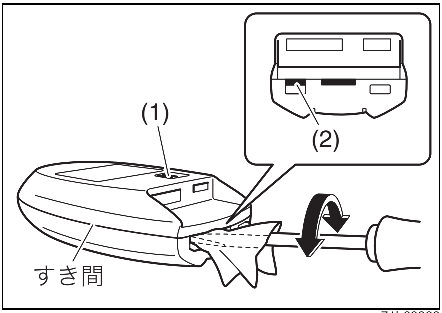
- 電池交換の際、携帯リモコンを破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。
- 電池は、スズキ販売店や家電量販店・ホームセンターなどでご購入ください。

使用電池	リチウム電池CR2032

1 携帯リモコンからキーを取り出します。
→ **3-2ページ（キー）**

2 携帯リモコンのケースを分割します。

- ケースは、ロック解除レバー（1）側を上にします。（内部ユニットの落下防止のため）
- 傷つき防止のため、マイナスドライバー（市販品）に布などをかぶせます。リモコンの側面左側にある溝（2）へ差し込み、ケースを分割します。このとき、ケースの合わせ部分のすき間へつめを差し込むと、分割しやすくなります。



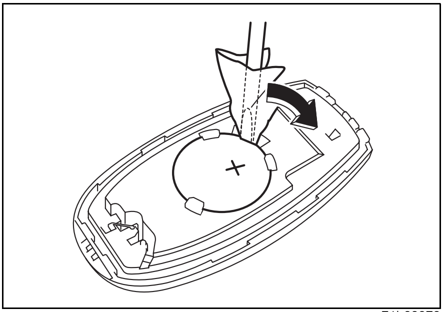
71L60060

注 記

- **ケースを分割するときは、ロック解除レバー（1）側を下にしないでください。内部ユニットが落下して破損するおそれがあります。**
- **ドライバーで、内部ユニットを破損しないよう注意してください。**

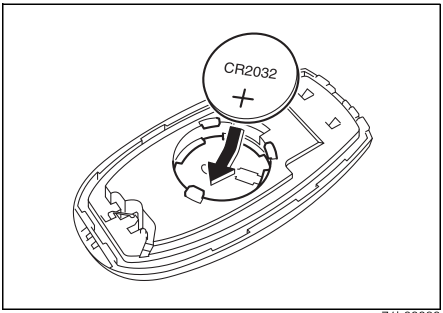
3 電池を交換します。

- 古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。



71L60070

- 電池は、＋極を上にして取り付けます。



71L60080

4 ケースを組み付けます。

- ケースの合わせ部分のすきまが均等になるように確実にはめ込みます。

5 キーを格納します。

6 携帯リモコンが正常に作動するか確認します。

冬期に入る前の準備

ウインドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

〈スズキ純正ウォッシャー液の場合〉

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通　常	原液1に水3	約−7℃
温暖地の冬期	原液1に水2	約−10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	約−20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約−50℃

バッテリー

バッテリーの液量や比重を点検してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーではエンジンがかかりにくくなります。

→ **2-3ページ**
（バッテリーの液面を点検する）

冷却水

エンジン内部の腐食および凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。

スノーブレード（別売り）

スノーブレード（降雪地用ワイパーブレード）は、金属部分をゴムでおおって雪の付着を少なくするものです。
標準装備のワイパーブレードでは、降雪時に雪が付着し、ふき取りにくくなることがありますので、必要に応じて交換してください。

⚠注意

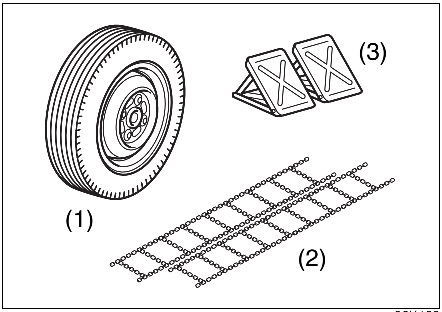
高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなることがあります。その場合には、車のスピードを落としてください。

アドバイス

雪の降らない時季は、通常のワイパーブレードの使用をおすすめします。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

雪道や凍結路を走行するために必要です。



82K139

(1) 冬用タイヤ　(2) タイヤチェーン
(3) 輪止め

出発の前に

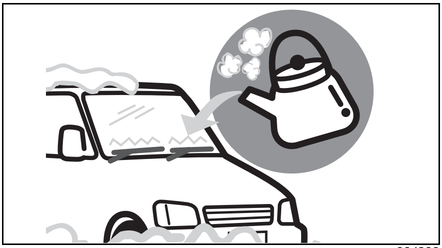
屋根に積もった雪

出発の前に取り除いてください。走行時に落下して、視界をさまたげるおそれがあります。

80J308

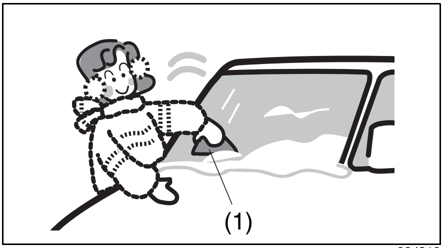
ワイパーの凍結

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にワイパーを作動させると、ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。


80J309

ガラス面の雪や霜

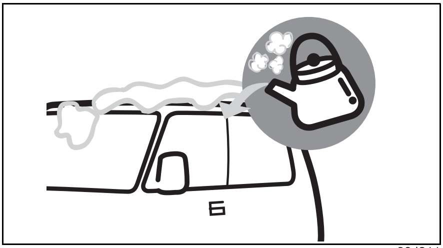
プラスチックの板（1）を使うと、ガラスを傷つけずに落とせます。



80J310

ドアの凍結

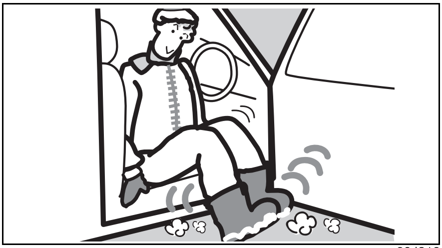
ぬるま湯をドアキーの穴を避けてかけます。ドアが開いたあとは水分をふき取ってください。凍結したまま無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、破損したりするおそれがあります。



80J311

靴に付着した雪

乗車するときによく落としてください。そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。



80J312

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

⚠注意

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。

80J039

6

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

雪道や凍結路では、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

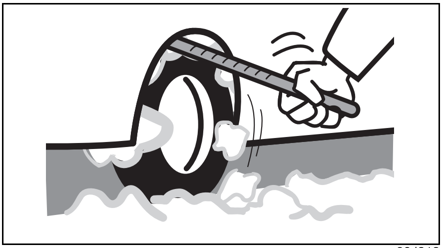
- 走行する地区の条例などにしたがって装着してください。

→ **6-5ページ（タイヤ交換するときは）**
→ **6-12 ページ（タイヤチェーンを装着するとき）**

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。



80J313

駐車するとき

パーキングブレーキ

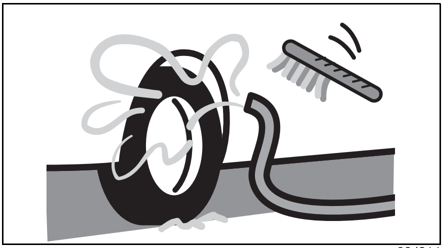
パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

- 長時間駐車するときは、パーキングブレーキをかけずに輪止め（市販品）をしてください。
  - オートマチック車 は、セレクトレバーを P に入れます。
  - マニュアル車 は、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。

凍結防止剤が散布してある道を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。とくに車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。
凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。

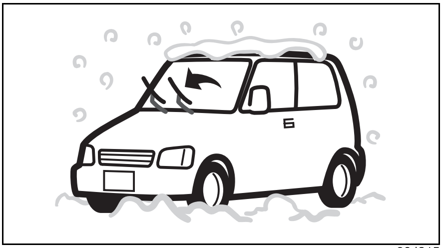


80J314

屋外に駐車するときは

注 記

- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを取り外してください。
  →　5-11ページ（アンテナの脱着）
- 駐車するときはワイパーアームを立ててください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）がガラスに凍結したりすることがあります。
  - フロントワイパーは運転席側から順に起こし、助手席側から順にもどしてください。助手席側を先に起こす、または運転席側を先にもどすと、ワイパー同士があたって傷つきの原因となります。

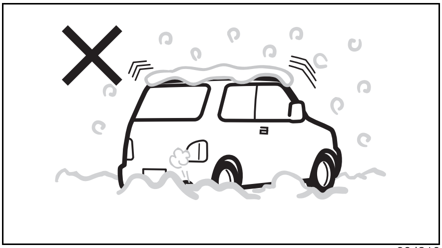


80J315

排気管のまわりが雪でおおわれたときは

⚠警告

排気管のまわりが雪でおおわれたままエンジンを回転させないでください。排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



80J316

6

タイヤチェーンを装着するとき

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠警告

- 適合品以外を装着しないでください。ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。
- 走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検してください。タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体に当たると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。

⚠注意

- タイヤチェーンを装着して走行するときは、安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控えめ（30 km/h 以下）にし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転をしたり、突起や穴を乗り越えたりしないでください。
- ABSおよびESP®（タイプ別装備）の場合、タイヤチェーンを装着すると正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、正常に作動しない場合があります。

注記

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、4WD 車の場合、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。

タイヤチェーンを装着する前に

■ タイヤチェーンは前輪に装着

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの 4WD です。後輪には装着しないでください。

■ 応急用スペアタイヤ（タイプ別装備）には装着できません

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪につけ、外した後輪の標準タイヤを前輪につけてから、タイヤチェーンを前輪に装着します。

■ ジャッキアップに適した安全な場所で装着

7-5 ページの「**タイヤ交換の準備**」の 1、2 をお読みください。

■ フルホイールキャップ（タイプ別装備）を外してから装着

フルホイールキャップの傷つき防止のため、キャップを外してからタイヤチェーンを装着します。キャップの外しかたは**7-6ページ**をお読みください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

注 記

アルミホイール装備車の場合、タイヤチェーンでホイールに傷がつくおそれがあります。

MEMO

7. 万一のとき

● パンク ……………………………… 7-2

● バッテリーあがり ………………… 7-18

● ヒューズ切れ ……………………… 7-20

● 電球切れ …………………………… 7-25

● オーバーヒート …………………… 7-31

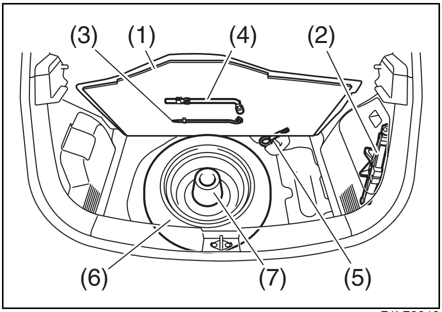
● その他 ……………………………… 7-32

工具、ジャッキ、応急用スペアタイヤの収納場所

標準車

荷室のフロアボード下と、荷室右側に収納されています。

- ラゲッジボードは、取り外すか持ち上げたままにします。
  → **5-56ページ（ラゲッジボード）**



(1) フロアボード　(2) ジャッキ
(3) ジャッキバー
(4) ホイールナットレンチ
(5) けん引フック
(6) 応急用スペアタイヤ
(7) スペーサー

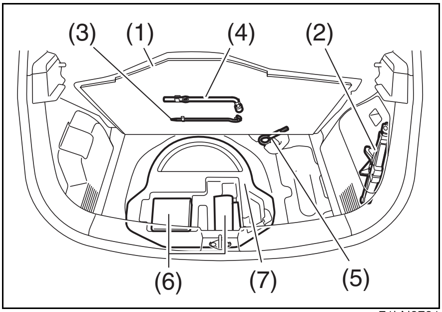
- 使用後は所定の位置に収納し、しっかり固定してください。

工具、ジャッキ、タイヤパンク応急修理セットの収納場所

スポーツ車

荷室のフロアボード下と、荷室右側に収納されています。

- ラゲッジボードは、取り外すか持ち上げたままにします。
  → **5-56ページ（ラゲッジボード）**



(1) フロアボード　(2) ジャッキ
(3) ジャッキバー
(4) ホイールナットレンチ
(5) けん引フック
(6) タイヤパンク応急修理セット
(7) 工具収納ケース

- 使用後は所定の位置に収納し、しっかり固定してください。

7

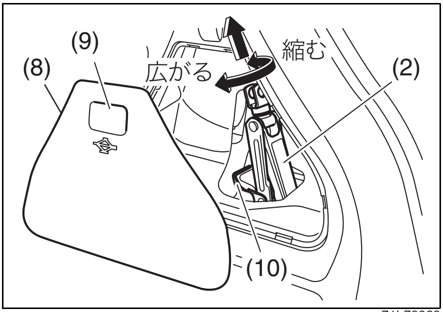
ジャッキの取り出しかた

1 荷室右側にあるふた（8）を外します。

- とっ手（9）部を手前に引きます。

2 ジャッキ（2）を縮めて取り出します。

- 縮めにくいときは、ジャッキバーを使ってください。



(10)ジャッキホルダー

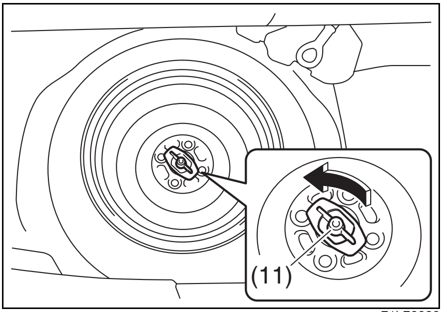
注 記

収納するときに、ジャッキバーなどで無理にジャッキを広げないでください。ジャッキホルダーが変形するおそれがあります。

応急用スペアタイヤの取り出しかた

標準車

フロアボードを持ち上げて、スペーサーを取り出し、固定用ナット（11）をゆるめて取り出します。



応急用スペアタイヤの取扱い

標準車

応急用スペアタイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するものです。パンクしたタイヤはただちに修理または交換し、できるだけ早く標準タイヤにもどしてください。応急用スペアタイヤは、標準タイヤに比べて空気圧が高く、幅が細く、直径がやや小さいため、次の事項を守ってください。

■ 定期的に点検する

⚠警告

空気圧や摩耗状態を定期的に点検してください。空気圧不足やタイヤの摩耗は、思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用スペアタイヤの空気圧は420 kPa（4.2 kgf/cm²）です。

■ 他の車のスペアタイヤを使わない

⚠警告

応急用スペアタイヤは、この車専用です。他の車に使用したり、他の車の応急用スペアタイヤをこの車に使用したりしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 装着したときの走行は

⚠注意

- ABS および ESP®（タイプ別装備）の場合、正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、正常に作動しない場合があります。
- 応急用スペアタイヤは、高速走行には適していません。やむをえず高速道路を走行する場合は、最低速度（法令では高速道路の最低速度は50 km/h です）に近い速度で走行してください。

注 記

- 4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤは、標準タイヤに比べ直径がやや小さいため、車高が少し低くなります。突起物などを乗り越えるときは、車体を接触させないように気をつけてください。

■ 前輪には使用しない

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの 4WD です。前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪の標準タイヤを前輪につけてください。

■ タイヤチェーンは装着できません

タイヤチェーンを装着した前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪の標準タイヤを前輪につけてからタイヤチェーンを再装着してください。

タイヤ交換の準備

スポーツ車には応急用スペアタイヤが装備されていません。交換用の標準タイヤが準備できない場合は、タイヤパンク応急修理セットをご使用ください。

→ **7-11 ページ（タイヤパンク応急修理セット）**

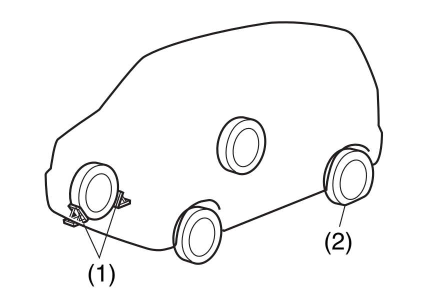
1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキレバーをしっかりとかけます。

- オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めます。
- マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。

必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

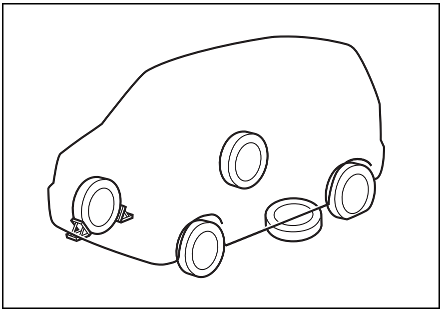
3 交換するタイヤ（2）と対角線の位置にあるタイヤの前後に、輪止め（1）（市販品）を置きます。



80J1245

4 工具、ジャッキを取り出します。標準車は応急用スペアタイヤを取り出し、スポーツ車は交換用の標準タイヤを準備します。同乗者がいるときや重い荷物をのせているときは、車からおろします。

- 万一ジャッキが外れたときに足などをはさまないために、取り出した応急用スペアや交換用の標準タイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。



80J323

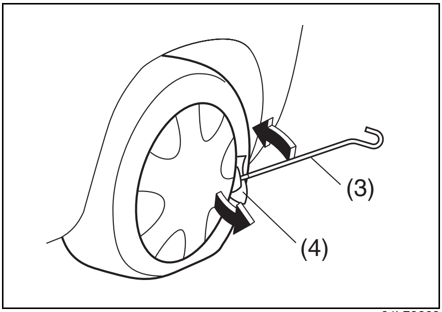
アドバイス

応急用スペアや交換用の標準タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

7

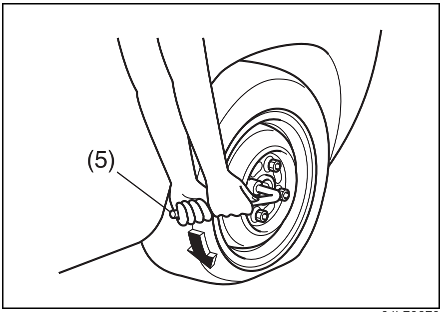
5 フルホイールキャップ（タイプ別装備）を外します。

- 傷つき防止のため、ジャッキバー（3）の先端に布（4）をあてがってホイールとキャップの間に差し込み、こじて外します。



64L70260

6 ホイールナットレンチ（5）でホイールナット（標準車４個、スポーツ車５個）を反時計方向にまわし、手でナットが軽くまわるくらいまでゆるめます。



64L70270

ジャッキアップ

ジャッキアップする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。

- オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めてください。
- マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れてください。

⚠警告

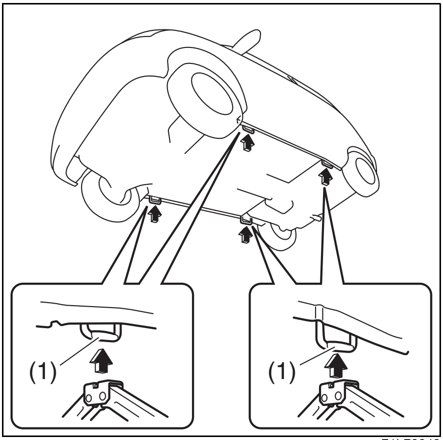
万一ジャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

- **地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。**
- **ジャッキは、タイヤ交換またはタイヤパンク修理だけに使用してください。**
- **ジャッキはこの車に付属のものを使用し、他の車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキを他の車に使用しないでください。**
- **ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。**
- **ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。**
- **ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。**
- **ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下に物をはさまないでください。**
- **複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。**

7

1 ジャッキバー取り付け部を手でまわしてジャッキを広げ、ジャッキ頭部の凹み部を車載ジャッキ指定位置に軽く接触させます。

2 ジャッキ頭部を軽くゆすって、ジャッキ頭部の凹み部が指定位置にはまっているか確認します。

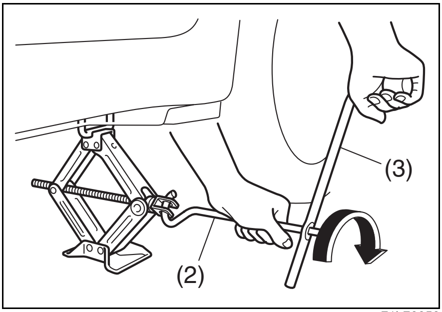


(1) 車載ジャッキ指定位置

3 ジャッキに、ジャッキバーとホイールナットレンチを取り付けます。（次の図参照）

- ジャッキバーは次の図のように、ホイールナットレンチの穴に差し込みます。

4 ホイールナットレンチをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。

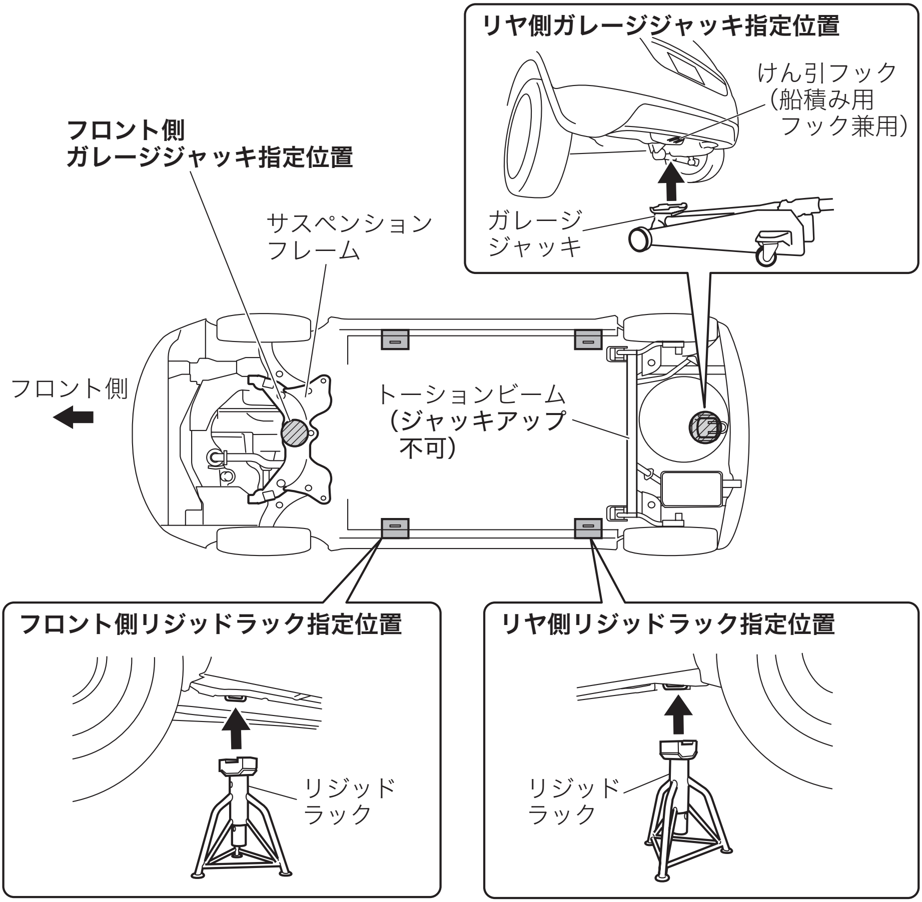


(2) ジャッキバー
(3) ホイールナットレンチ

7

ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは

ガレージジャッキおよびリジッドラック（市販品）の指定位置を下図に示します。詳細についてには、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



- 4WD車の場合、リヤデファレンシャルがジャッキアップ不可です。

⚠警告

- **必ず図に示す指定位置を守ってください。**
- **ジャッキアップした車体を保持する際は、必ずリジッドラックに掛け替えてください。**
- **フロント側またはリヤ側のみをジャッキアップする際は、必ず接地側のタイヤの前後に輪止め（市販品）を置いてください。**

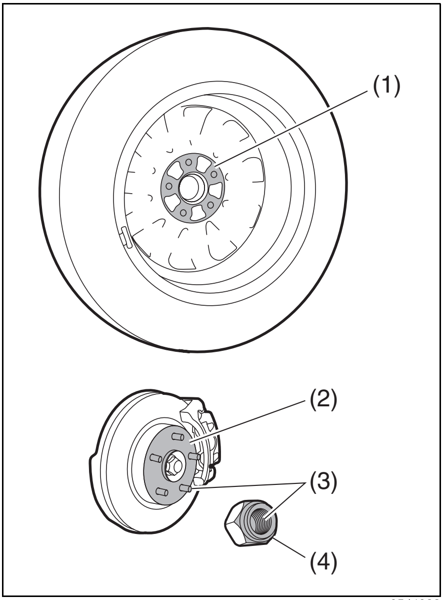
タイヤの取付け・取外し

1 ホイールナットを外して、タイヤを取り外します。外したタイヤは、車体の下に置きます。

アドバイス
タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

2 次の場所の汚れや異物を取り除きます。

- 交換するホイールの取付け面（1）
- 車体側の取付け面（ハブ面）（2）
- ボルトやホイールナットのねじ部（3）
- ホイールナットのテーパー面（4）
- ホイール穴のテーパー面（5）



65J4033

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

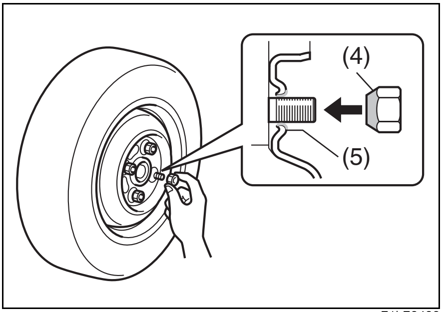
- このとき、ボルトやナットのねじ部、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

- **前記の場所に汚れや異物、つぶれや亀裂などの異常があると、走行中にホイールナットがゆるむことがあります。**
- **ナットやボルトに、オイルやグリスを付着させないでください。必要以上にナットを締め過ぎて、ボルトが折れるおそれがあります。**

3 ホイールナットのテーパー面（4）が、ホイール穴のテーパー面（5）に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。

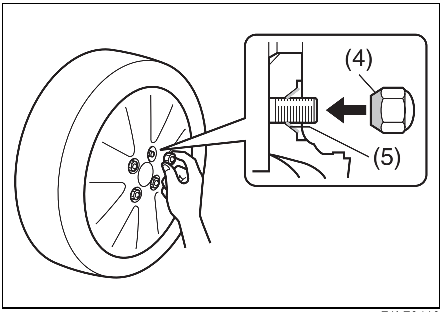
スチールホイール装備車



71L70400

7

アルミホイール装備車



71L70410

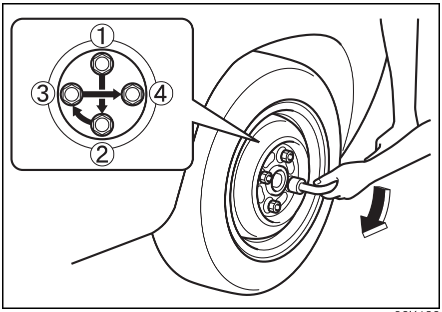
4 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。

5 ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットを次の図の順序で2～3回に分けて締め付けます。

締め付けトルク：85 N・m
(870 kgf・cm)

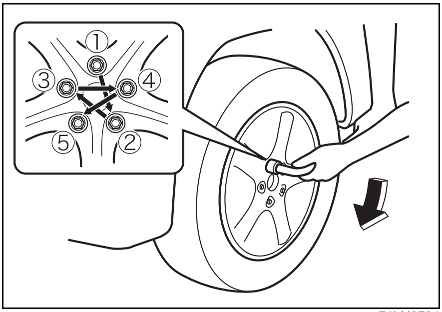
- ホイールナットレンチの柄の先端にかかる力は330 N（34 kgf）を目安にしてください。
- すべてのホイールナットが確実に締まっていることを確認してください。

標準車



82K132

スポーツ車



71LN0704

⚠警告

- **ホイールナットが確実に締まっていないと、ボルトやブレーキ部品を損傷したり、ホイールが外れたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。トルクレンチ（市販品）を使用せずにタイヤ交換した場合は、できるだけ早くスズキサービス工場で締め付けトルクの点検を受けてください。**
- **ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプや棒などを追加して締め付けたりすると、ナットを締め過ぎてボルトが損傷し、事故につながるおそれがあります。**

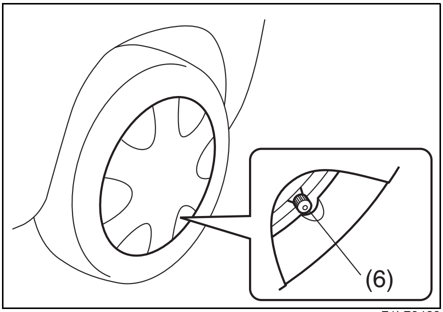
アドバイス

既定の締め付けトルクで締める場合は、トルクレンチ（市販品）のご使用をおすすめします。

7

6 フルホイールキャップ（タイプ別装備）を付けます。

- タイヤの空気注入口 (6) とキャップの切り欠き部分を合わせてから、確実に押し込みます。



71L70420

タイヤを交換したあとは

- 工具とジャッキを所定の位置に収納してください。
- 標準車の場合、パンクしたタイヤは、応急用スペアタイヤの収納場所に収納してください。このとき、ラゲッジシェルフ、フロアボードおよびスペーサーは、ラゲッジボードの上などに移動してください。
- タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないか確認してください。
- アルミホイール装備車は、タイヤを交換してから 1,000 km 程度走行したあとに、ホイールナットにゆるみがないか点検してください。

⚠ 警告

タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

スポーツ車がパンクしたときは

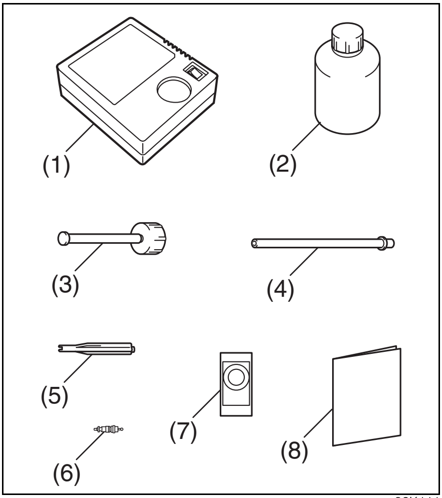
荷室のフロアボード下にあるタイヤパンク応急修理セットをお使いください。

→ **7-2 ページ（工具、ジャッキ、タイヤパンク応急修理セットの収納場所）**

タイヤパンク応急修理セット

スポーツ車

このセットは、標準タイヤがパンクしたときに応急的に使用するものです。パンクしたタイヤはすみやかにスズキサービス工場で修理または交換してください。



82K111

(1) エアコンプレッサー
(2) 修理剤ボトル　(3) 注入ホース
(4) 延長ホース（修理剤抜き取り用）
(5) コア回し
(6) バルブコア（予備）
(7) 速度制限シール
(8) セット付属の取扱説明書

⚠注意

- **応急修理剤は、飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用したときは、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。**
- **応急修理剤が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。**
- **保管するときは、お子さまが誤って手を触れないように所定の位置に収納してください。**

注 記

- **エアコンプレッサーは、自動車タイヤ専用です。その他の目的で使用しないでください。**
- **エアコンプレッサーは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。**
- **エアコンプレッサーを使用するときは、故障を防ぐため次のことをお守りください。**
  - **10分以上連続して使用しない**
  - **防水加工がされていないため、降雨時などは水がかからないようにする**
  - **砂やほこりなどを吸い込ませない**
  - **使用中に動作がおそくなったり、本体が熱くなったりしたときはすぐにスイッチをOFFにして、30分以上放置する**
  - **分解、改造などをしない**
  - **強い衝撃や圧力を加えない**

応急修理セットの点検

定期的に点検してください。

- 応急修理剤ボトルに表示されている有効期限の確認
  - 期限が切れる前に、新品と交換してください。
- アクセサリーソケット電源の確認
- エアコンプレッサー作動の確認
  - エンジンスイッチを ACC にし、エアコンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込んで行ないます。

タイヤの応急修理のしかた

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理できます。

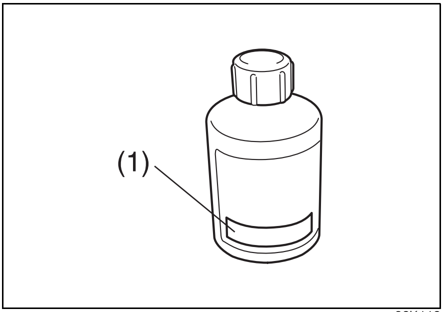
注 記

タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かないでください。タイヤの損傷が大きくなったり、そこからの空気漏れで修理時の空気充填ができなくなったりするおそれがあります。

■ 次のような場合はタイヤの応急修理ができません

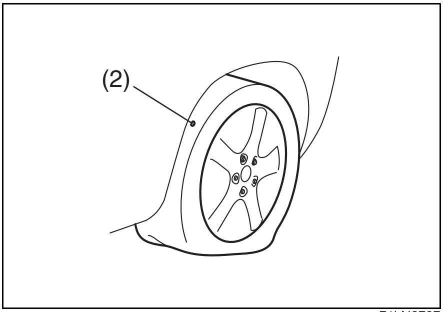
スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。（別冊の「**スズキ４輪車サービスネットワーク**」参照）

- 応急修理剤の有効期限（1）が切れている（有効期限はボトルのラベルに記載）



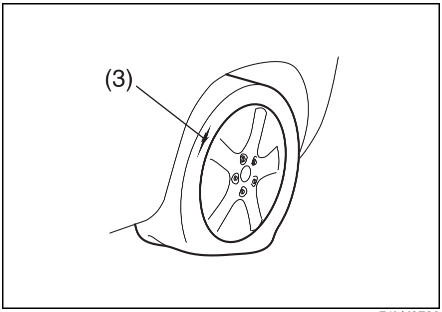
82K112

- タイヤの接地面に長さ 4 mm 以上の切り傷や刺し傷（2）がある



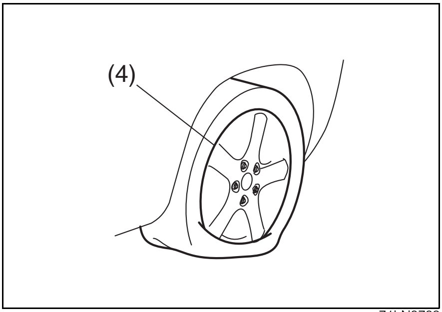
71LN0707

- タイヤの側面に傷（3）を受けている



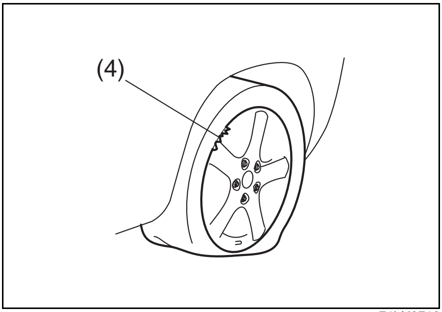
71LN0708

- タイヤの空気がほとんど抜けた状態で走行した
- タイヤがホイールリム（4）の外側へ完全に外れている



71LN0709

- ホイールリム（4）が破損または変形している



71LN0710

- タイヤが 2 本以上パンクしている（修理剤はタイヤ1本分です）

7

■ タイヤ応急修理のしかた

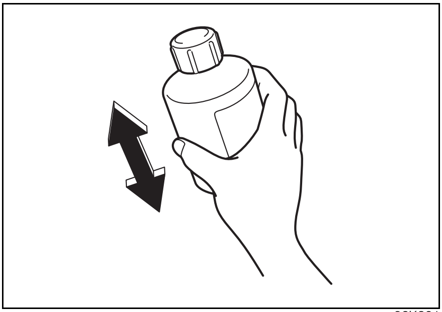
1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキレバーをしっかりとかけます。

- オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めます。
- マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをＲまたは１速に入れます。

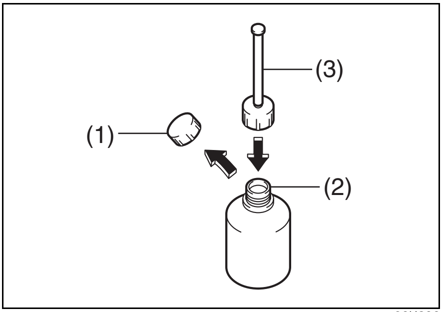
必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

3 同乗者がいるときや重い荷物をのせているときは、車からおろします。タイヤパンク応急修理セットを取り出し、注入ホースをねじ込む前に、修理剤ボトルをよく振ります。



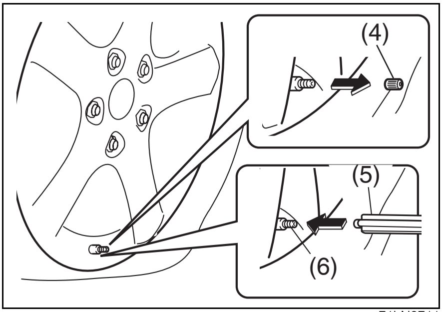
82K301

4 修理剤ボトルのキャップ（1）を外し、中ぶた（2）を外さずに注入ホース（3）をねじ込みます。



82K302

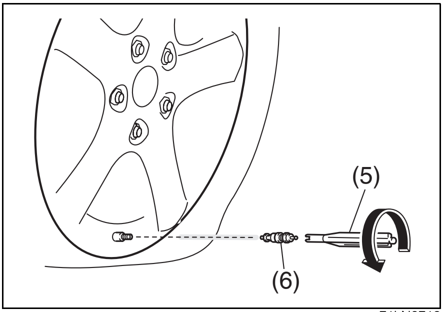
5 タイヤバルブからキャップ（4）を反時計方向にまわして外します。
コア回し（5）の後ろ（凸部）でバルブ内のバルブコア（6）を押し、タイヤに残った空気を完全に抜きます。



71LN0711

6 コア回し（5）でバルブコア（6）を反時計方向にまわして外します。

- バルブコアは再使用します。汚れないようにきれいなところへ保管します。

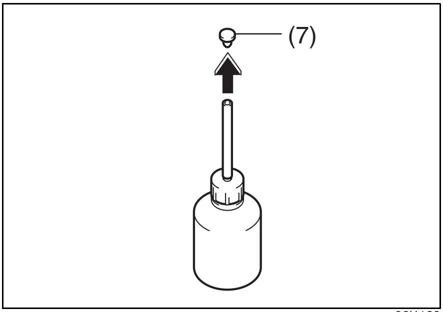


71LN0712

注意

バルブコアを外すとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。

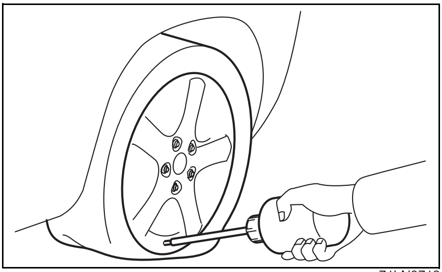
7 注入ホースの栓（7）を外し、ホースの先端をタイヤバルブに差し込みます。



82K120

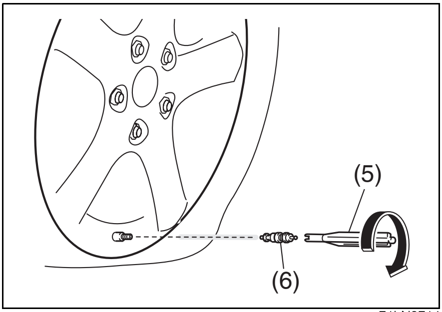
8 修理剤ボトルを逆さまにして持ち、手で何回も圧迫し、修理剤をすべてタイヤ内に注入します。

- 空になったボトルは、修理剤の抜き取りに必要なため、タイヤ交換または修理を依頼するときにスズキサービス工場にお渡しください。
- こぼれた修理剤は、ふき取るかそのまま乾燥させてからはがします。


71LN0713

9 注入ホースをタイヤバルブから引き抜き、コア回し（5）でバルブコア（6）をタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。

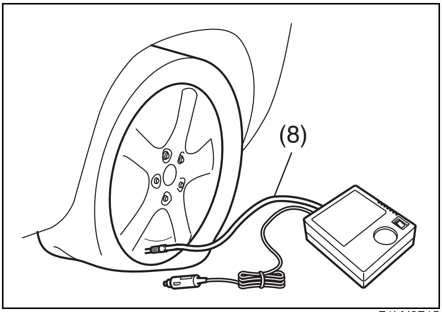
- 外しておいたバルブコアが汚れていたり紛失したりした場合は、タイヤパンク応急修理セット内にある予備のバルブコアをご使用ください。



71LN0714

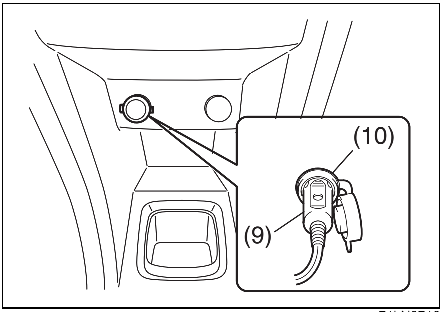
10 エアコンプレッサーの側面から、ホースを取り出します。

11 エアコンプレッサーのホース（8）先端の口金をタイヤバルブにねじ込みます。



71LN0715

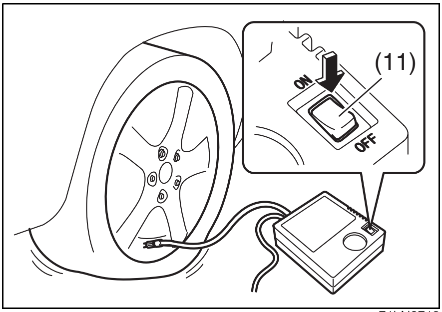
12 エアコンプレッサーのスイッチがOFF になっていることを確認します。電源プラグ（9）をアクセサリーソケット（10）に差し込み、エンジンスイッチを ACC にします。



71LN0716

13 エアコンプレッサーのスイッチ（11）を ON にし、空気を入れます。タイヤ空気圧が指定空気圧になるまで昇圧させます。

- 指定空気圧まで昇圧するには、約 5 分程度が必要です。5 分以内に十分昇圧しないときは、ジャッキでタイヤを地面から浮かせて手で 2～3 回以上まわし、修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ないます。
  → **7-6 ページ（ジャッキアップ）**
- タイヤがホイールリムから外れている場合は、空気がもれないようにリムとタイヤのすき間をなくすようにしてから、コンプレッサーを作動させます。（すき間がなくなれば空気圧が上がります。）
- 空気圧が十分高くならないときは、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理セットによる応急修理ができません。スズキ代理店や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。



71LN0718

- 空気を入れすぎたときは、コンプレッサーのホース先端の口金をゆるめて、空気を抜きます。

⚠注意

- **コンプレッサーを作動させているときは、タイヤの近くに立たないでください。万一バーストなどした場合に、けがのおそれがあります。**
- **タイヤがふくらむと、タイヤがリム部にはまり込みます。指などをはさまないように注意してください。**

注 記

- **コンプレッサーの起動・停止は、コンプレッサー本体のスイッチで行なってください。**
- **コンプレッサーは10分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。**

アドバイス

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで確認できます。

14 指定空気圧まで昇圧できたら、修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、コンプレッサーを収納し、ただちに走行します。スピードを控えめにして、急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはせず、慎重に運転してください。

15 約10分間または5 km程度走行したら、タイヤ空気圧をコンプレッサーの空気圧計で確認します。空気圧が130 kPa（1.3 kgf/cm^2）以上あれば、パンク応急修理の完了です。再度、指定空気圧に調整してください。

- コンプレッサーの空気圧計でタイヤ空気圧を測定するときは、ホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込んだあとに、一度スイッチを ON にしてコンプレッサーを作動させます。そのあと、すぐにスイッチを OFF にしてから、空気圧を確認します。
- 走行後、タイヤ空気圧が130 kPa未満に低下していた場合は、本修理セットによる応急修理ができていないことを示しています。走行を中止して、スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

⚠注意

必ず空気圧のチェックを行ない、応急修理の完了を確認してください。

16 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。十分注意して 80 km/h以下の速度で走行してください。

82K359

7

⚠警告

次のような場所には、速度制限シールを貼らないでください。
- **SRS　エアバッグの収納部。万一のときに、エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。**
- **警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置**

タイヤを応急修理したあとは

応急修理剤を使用したタイヤは、一時的に使用するものです。すみやかにスズキサービス工場で、タイヤ交換または修理してください。

- タイヤ交換または修理を依頼するときは、修理剤を使用したことを知らせてください。また、修理剤の抜き取りに必要なため、空になった修理剤ボトルを渡してください。
- ホイールは、付着した修理剤をふき取り、バルブコアを新しいものに交換すれば再使用できます。
- タイヤを修理・再使用するときは、付着した修理剤をふき取る必要があります。ただし、タイヤの損傷の程度によっては、再使用できない場合があります。
- 新しい修理剤はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

バッテリーあがりとは

次のようなときは、バッテリーがあがっています。

- エンジンをかけようとしてもスターターがまわらない。または、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ヘッドライトが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

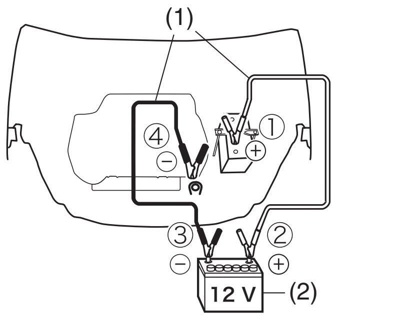
バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと、12 Vバッテリーを使用している他のバッテリー正常車があれば、エンジンの始動ができます。

1. 1 本目のブースターケーブルを①→②の順序で接続し、2 本目のブースターケーブルを③→④の順序で接続します。

①バッテリーあがり車の ⊕ 端子
②バッテリー正常車の ⊕ 端子
③バッテリー正常車の ⊖ 端子
④バッテリーあがり車のエンジン本体（エンジンハンガーフックなど）

7



71L70071

(1) ブースターケーブル
(2) 正常車のバッテリー

- ①〜④の数字は、ブースターケーブルを接続する順序を表しています。

2 バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。

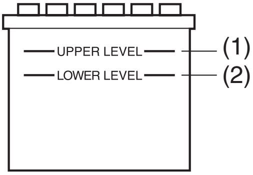
3 バッテリーあがり車のエンジンを始動します。

4 取り付けたときと逆の順序で、ブースターケーブルを外します。

5 お近くのスズキ販売店またはスズキ代理店でバッテリーを完全充電します。

警告

- **バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。**
  - **バッテリーを充電するときやブースターケーブルをつなぐときは、必ずバッテリー液面を確認してください。バッテリー液面が下限（2）以下のままで充電などすると、バッテリーの発熱や爆発のおそれがあります。また、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。**
    バッテリー補充液を上限（1）まで補給してから、充電などを行なってください。



80J1267

  - **充電は火気のない風通しのよいところで、すべてのバッテリーキャップを外して行なってください。**
  - **④の接続のときに、バッテリーがあがった車の ⊖ 端子につながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発のおそれがあります。バッテリーから離れたエンジン本体などに接続してください。**
  - **乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火のおそれがあります。**
- **バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。**

7

⚠注意

- **ブースターケーブルは確実に接続してください。エンジン始動時の振動などでブースターケーブルが外れると、ファンベルトや冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。**
- **ショート防止のため、ブースターケーブルの⊕端子は、バッテリーの⊕端子以外の部分（⊖端子、ボデー、ブラケットなど）と接触させないでください。**
- **オートマチック車 は押しがけができません。マニュアル車 も安全のため、押しがけをしないでください。**

バッテリーあがりを防ぐためには

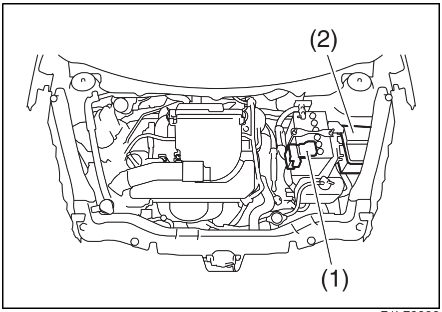
- エンジンを停止したままライトをつけたり、長時間ラジオ（タイプ別装備）などを聞いたりしないようにしましょう。
- 渋滞などで長時間アイドリングを続けている場合は、電装品の使用を極力避けてください。
  →　**2-3ページ**
  （バッテリーの液面を点検する）

ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

- ヒューズは、エンジンルーム内と運転席足元にあります。
- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

エンジンルーム内のヒューズ

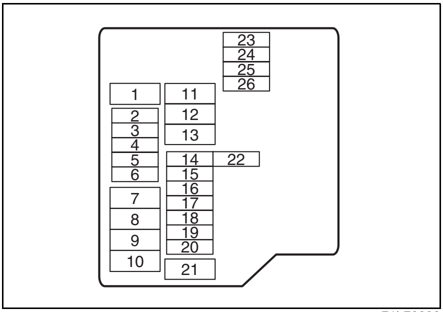


(1) メインヒューズボックス
(2) リレーボックス

7

■ リレーボックス内のヒューズ

ヒューズの表は、ボックスのふたの裏側にあります。

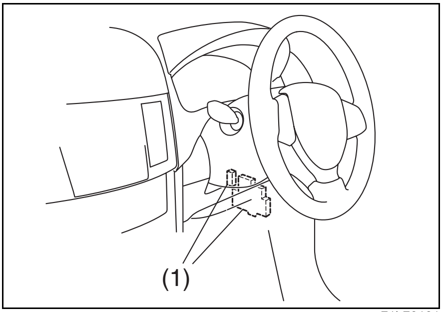


71L70090

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	IGN2	50A	始動装置2
2	ECM	―	―
3	AT/CVT	15A	CVT
4	DC DC2	30A	DCDCコンバーターNo2
5	CPRSR	10A	コンプレッサー
6	FI	15A	燃料噴射装置
7	―	―	―
8	P/S	60A	パワーステアリング
9	RDTR	30A	ラジエーター
10	―	―	―
11	BLW	30A	ブロワーファン
12	ST	30A	スターター
13	ABS1	40A	ABS/ESP® コントローラ
14	B/U	30A	バックアップ
15	DCDC	30A	DCDCコンバーターNo1
16	H/L	25A	ヘッドライト
17	ABS2	25A	ABS/ESP® コントローラ
18	―	―	―
19	FR FOG	20A	フロントフォグランプ
20	H/L2	7.5A	ヘッドライト
21	IGN	40A	イグニッションスイッチ
22	ST SIG2	7.5A	スターター
23	H/L L	15A	ヘッドライト（左）
24	H/L R	15A	ヘッドライト（右）
25	H/L HI L	15A	ヘッドライト上向き（左）
26	H/L HI R	15A	ヘッドライト上向き（右）

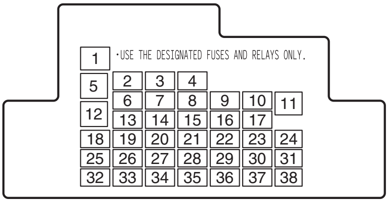
運転席足元のヒューズ



71L70101

(1) 運転席足元のヒューズ

ヒューズの表は、ヒューズカバーの表側にあります。



71L70111

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	BELT	30A	ー
2	注)P/W T	20A	パワーウインドータイマー機能
3	STL	20A	電動ハンドルロック
4	RR DEF	20A	リヤデフォッガー
5	CVT PUMP	15A	電動オイルポンプ
6	S/R	20A	ー
7	DEICER	15A	デアイサー
8	MRR HTR	10A	ドアミラーヒーター
9	ST SIG	7.5A	スターター
10	ACC 2	15A	アクセサリーソケット2
11	P/W	30A	パワーウインドー
12	CVT	15A	CVT
13	HAZ	10A	非常点滅表示灯
14	BCM	7.5A	BCM
15	IG COIL	15A	イグニッションコイル
16	ABS	10A	ABS
17	ACC	15A	アクセサリーソケット
18	A-STOP	10A	アイドリングストップコントローラー
19	HORN	15A	ホーン
20	STOP	10A	制動灯
21	A/B	10A	エアバッグ
22	BACK	10A	後退灯
23	WIP	15A	ワイパー
24	FR WIP	25A	ワイパーモーター

位置	表示	容量	接続先名称
25	DOME	7.5A	室内灯
26	—	—	—
27	RR FOG	7.5A	—
28	—	—	—
29	IG1 SIG	7.5A	エンジンスイッチ
30	RADIO 2	15A	—
31	ACC 3	10A	—
32	RADIO	15A	ラジオ
33	TAIL	10A	尾灯
34	D/L	20A	ドアロック
35	CRUISE	7.5A	クルーズコントロール
36	MTR	10A	メーター
37	IG2 SIG	7.5A	エンジンスイッチ
38	S/H	20A	シートヒーター

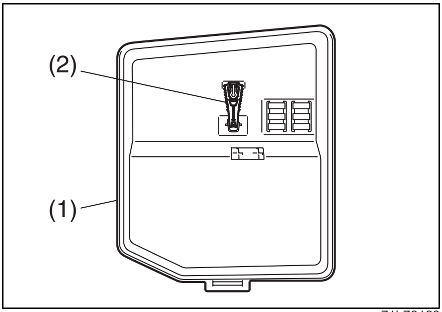
注）P/W Tのヒューズを外したり交換したりしたときは、はさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。
→ **3-20ページ（はさみ込み防止機構の初期設定のしかた）**

ヒューズの点検と交換

点検・交換のしかた

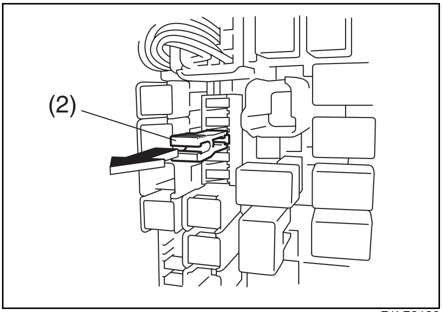
1. エンジンスイッチを LOCK （OFF）にします。

2. エンジンルーム内のリレーボックスカバー（1）を外し、カバー裏側にあるヒューズ抜き（2）を取り出します。



71L70120

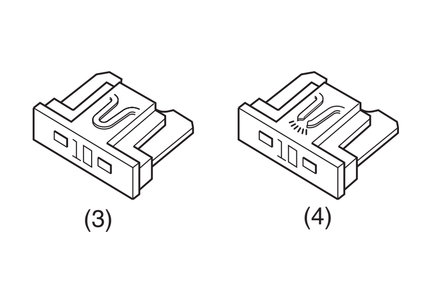
3. 故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズの表で確認します。ヒューズ抜き（2）をヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。



71L70130

4 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

- 交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。



71L70140

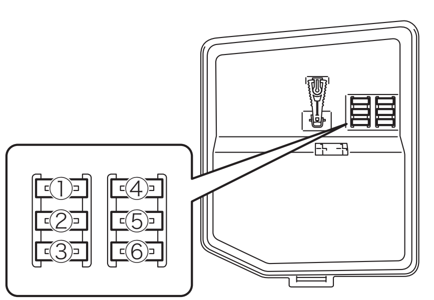
(3) 正常なヒューズの例
(4) 切れたヒューズの例

- ヒューズを点検または交換したあとは、ヒューズ抜きを所定の位置に格納し、しっかりカバーをしてください。

■ 予備ヒューズ

エンジンルーム内のリレーボックスカバーの裏側にあります。

- 予備ヒューズにないサイズや容量のヒューズを交換するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



71L70150

位置	容量	頭部の着色	個数
①	20A	黄色透明	1
②	25A	白色透明	1
③	30A	緑色透明	1
④	7.5A	茶色透明	1
⑤	10A	赤色透明	1
⑥	15A	青色透明	1

⚠警告

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

電球の点検

ライトやランプ、方向指示器／非常点滅表示灯などを点灯または点滅させて、電球切れがないか点検してください。

アドバイス

- 制動灯は他の人に見てもらうか、壁などを利用して点検してください。
- メーター内の方向指示器表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

ヘッドライトなどのレンズ内面のくもり

レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

ヘッドライトやリヤコンビネーションランプなどは、ランプ内外の温度差により一時的にレンズ内面がくもることがありますが、機能上の問題はありません。（窓ガラスがくもるのと同じ現象）

電球を交換するときは

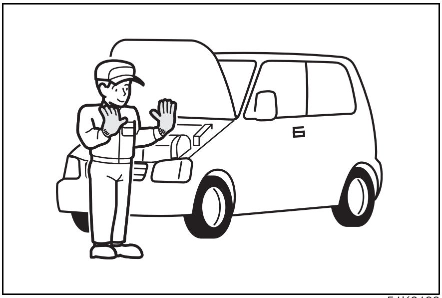
電球が切れているときは、ワット数および型式が同一の電球と交換してください。電球のワット数および型式は、サービスデータ（**8-4ページ**）をご覧ください。

- 電球を交換しても点灯しない、またはすぐ切れるときは電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠注意

電球を交換するときは、次のことをお守りください。

- **安全で平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。**
- **電球が十分に冷えてから行なってください。消灯直後は熱くなるため、やけどのおそれがあります。とくにハロゲン電球（ヘッドライトやフォグランプ）が高温になります。また、エンジンルーム内の電球は、エンジンが十分に冷えてから交換してください。**
- **ハロゲン電球は高圧ガスを封入しているため、とくに慎重に扱ってください。割れるとガラスが飛散して、けがのおそれがあります。**
- **車両の部品などで手や腕などをけがしないよう、長袖の上着と手袋を着用してください。**



51K0180

7

注 記

ハロゲン電球を扱うときは、油脂類が付着していない、きれいな手袋をはめてください。使用時電球が高温になるため、素手で扱ってガラス部分に油などが付着すると、発熱による早期電球切れを起こすおそれがあります。

ヘッドライト

■ ディスチャージ仕様車

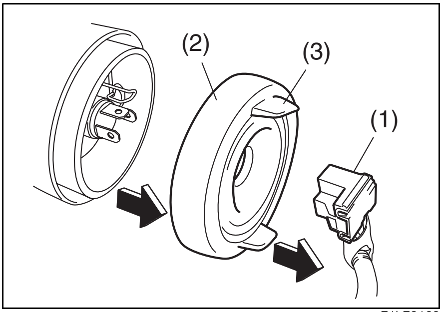
⚠ 警告

ディスチャージヘッドライトの電球交換は、絶対に行なわないでください。高電圧を使用しているため、感電のおそれがあります。交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ ハロゲン仕様車

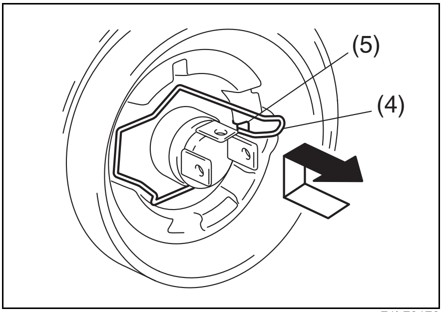
1 ボンネットを開けます。
→ **5-44ページ（ボンネット）**

2 カプラー（1）は、カプラー本体をしっかり持って車両後方へまっすぐ引いて外します。
ゴムカバー（2）は、ツマミ（3）を引いて外します。



71L70160

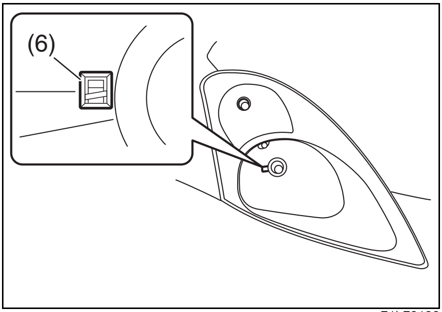
3 止め金（4）を図の矢印のように、押しながら上方にずらして固定フック（5）から外します。



71L70170

アドバイス

止め金の固定状態は、電球近くの穴（6）をとおして車両前方からも確認できます。



71L70180

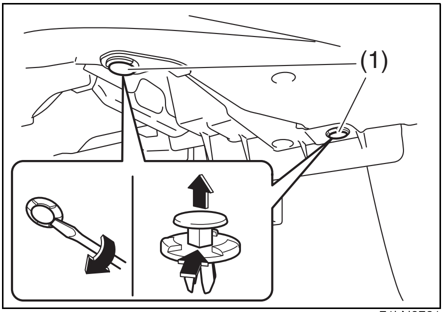
4 電球を外します。交換後は、外したときの逆の手順でもとにもどします。

フォグランプ

タイプ別装備

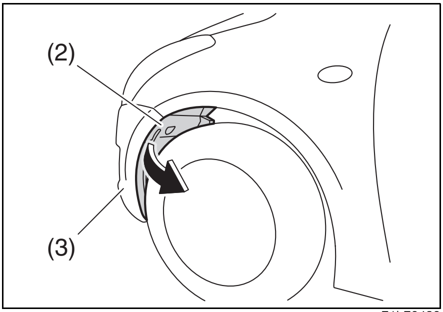
1 フェンダー内のカバーを一部外します。

- バンパー底部のクリップ２個（1）は、マイナスドライバー（市販品）でこじて外します。



71LN0721

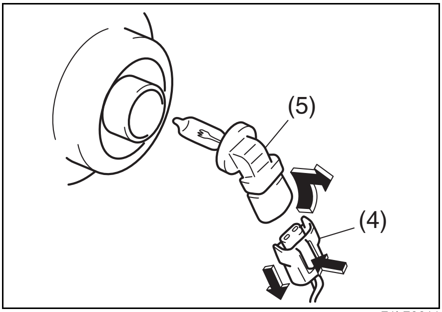
2 フェンダー内のカバーをめくって、内側から交換します。



71L70430

(2) フェンダー内のカバー
(3) バンパー

- カプラー（4）は、ツメを押しながら外します。
- 電球（ソケット一体式）(5）は、反時計方向にまわして外します。



71L70211

3 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

- フェンダー内のカバーは、バンパーの内側に入れます。

非分解式ランプ

次のランプは非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

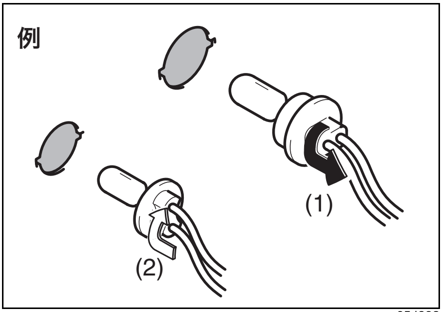
- 方向指示器／非常点滅表示灯（フェンダーまたはドアミラー）
- ルーフエンドスポイラー装備車のハイマウントストップランプ

その他の一般的な電球

電球ソケットおよび電球の取外し／取付けは、次の方法で行ないます。

■ 電球ソケットの取外し／取付け

- ソケットをランプ本体から取り外すとき（1）は、ソケットを反時計方向にまわして引き抜きます。
- 取り付けるとき（2）は、ソケットをランプ本体の切り欠きに合わせて差し込み、時計方向にまわします。

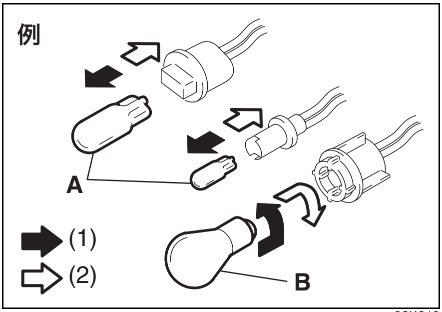


65J283

■ 電球の取外し／取付け

2つのタイプがあります。

- A のタイプは、図のように抜き差しするだけです。
- Bのタイプは、次のようになります。
  - 取り外すときは、電球を押しながら反時計方向にまわします。
  - 取り付けるときは、電球を押しながら時計方向にまわします。



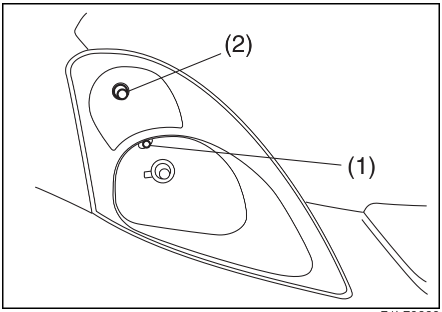
82K210

(1)取外し
(2)取付け

■ 車幅灯、方向指示器／非常点滅表示灯（前面）

ボンネットを開け、エンジンルーム内から交換します。

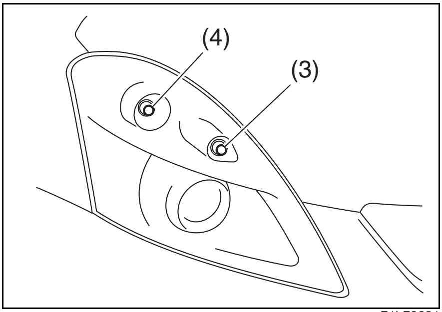
ハロゲンヘッドライト車



71L70220

(1)車幅灯（**A**タイプ）
(2)方向指示器／非常点滅表示灯（前面、**B**タイプ）

ディスチャージヘッドライト車



71L70231

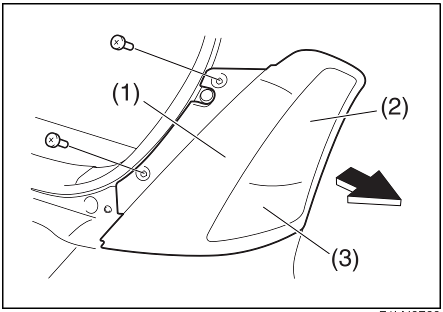
(3)車幅灯（**A**タイプ）
(4)方向指示器／非常点滅表示灯（前面、**A**タイプ）

■ リヤコンビネーションランプ

バックドアを開け、ランプ全体を外してから交換します。

- ボルト 2 個は、プラスドライバー（市販品）などで外します。
- ランプ本体は、車両の外側へスライドさせて外します。

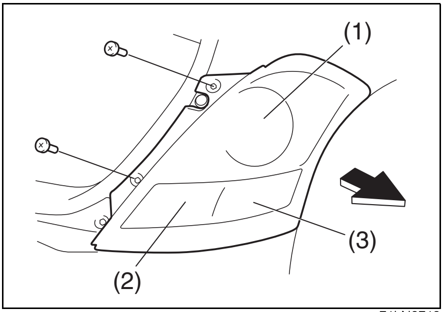
標準車



71LN0720

(1) 制動灯／尾灯（**B**タイプ）
(2) 方向指示器／非常点滅表示灯（後面、**B**タイプ）
(3) 後退灯（**B**タイプ）

スポーツ車



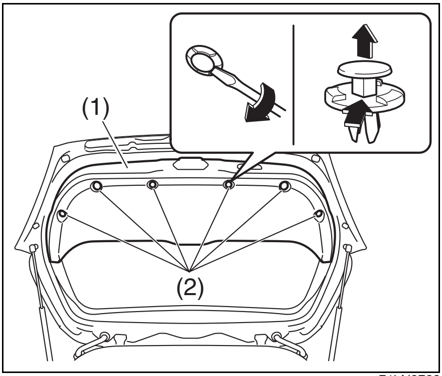
71LN0719

(1) 制動灯／尾灯（**B**タイプ）
(2) 方向指示器／非常点滅表示灯（後面、**B**タイプ）
(3) 後退灯（**A**タイプ）

■ 番号灯（Aタイプ）

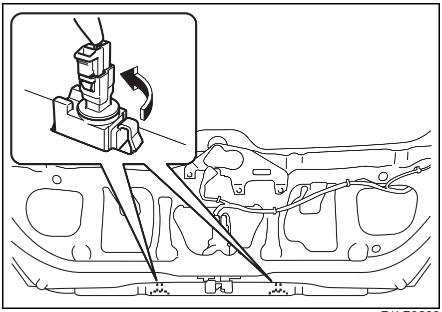
1 バックドアを開け、バックドアのトリム（1）を外します。

- 固定しているクリップ6個（2）は、マイナスドライバー（市販品）でこじて外します。



71LN0722

2 電球を外します。交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。



71L70260

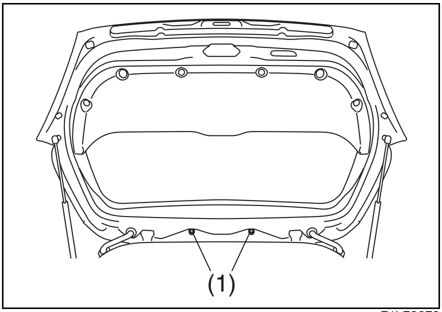
■ ハイマウントストップランプ（Aタイプ）※

ルーフエンドスポイラー非装備車

※ルーフエンドスポイラー装備車車のハイマウントストップランプは非分解式ランプです。

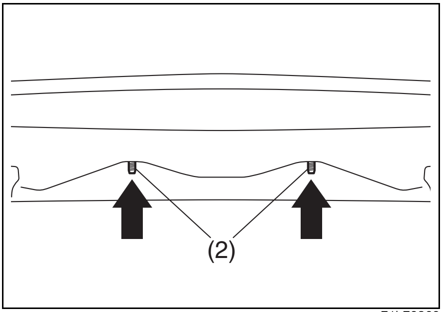
→　**7-27ページ（非分解式ランプ）**

1 バックドアを開け、ドアガラスの上側にある袋ナット２個（1）を、10 mmのスパナ（市販品）などで外します。



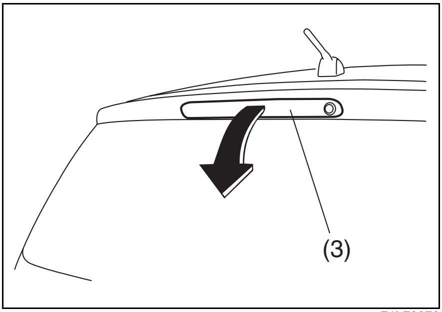
71L70270

2 袋ナットを外したら、ボルト（2）を車両の上方へ押し込みます。



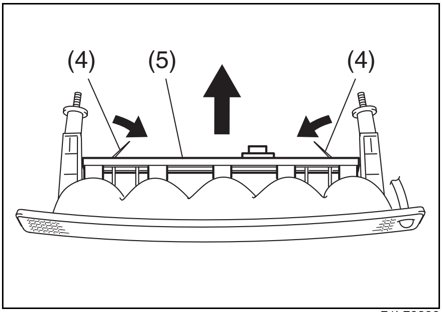
71L70360

3 バックドアを閉め、外側からハイマウントストップランプ（3）全体を引き出します。



71L70370

4 つめ（4）を内側に押して、バルブホルダー（5）を外します。



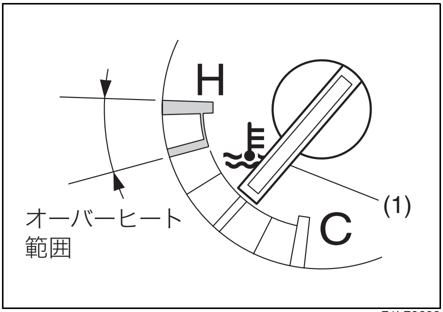
71L70380

5 バルブホルダーから電球を外します。交換後は、外したときの逆の手順でもとにもどします。

オーバーヒートとは

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の指針（1）がオーバーヒート範囲（赤色表示範囲）に入っている
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている



71L70280

オーバーヒートしたときは

1 車を安全な場所に止めます。

2 エンジンをかけたままでボンネットを開けて、エンジンルーム内の風通しをよくします。

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けずに次の手順を行なってください。
  →　**5-44ページ（ボンネット）**

⚠警告

エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどのおそれがあります。

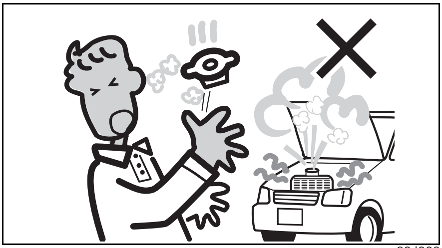
3 冷却ファンの作動を確認し、水温計の指針が下がるのを待ってエンジンを止めます。

- 冷却ファンが作動していないときや、水温計の指針が下がらないときは、ただちにエンジンを止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れを点検します。

⚠警告

ラジエーターキャップは、エンジンが十分に冷えてから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。



80J066

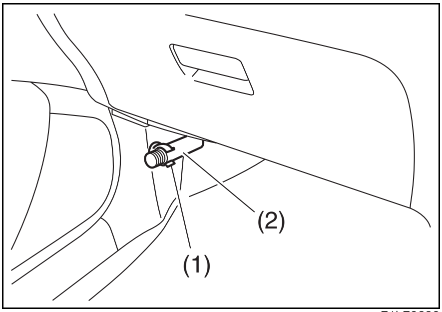
5 冷却水の量が不足しているときは補給します。

- 水漏れなどの異常があるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
- 冷却水がなく、やむをえず水だけを補給したときは、できるだけ早くスズキサービス工場で冷却水の点検または交換をしてください。

7

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元の左側面のホルダーに取り付けています。
- 点火すると約 5 分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。発炎筒はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。



(1) ホルダー　(2) 発炎筒

⚠警告

- **お子さまにはさわらせないでください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。**
- **必ずホルダーに保管してください。**
- **点火するときは、筒先を顔や身体に向けないでください。やけどのおそれがあります。**
- **ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因となります。**
- **トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅表示灯をご使用ください。**

故障したときは

故障したときの連絡先は

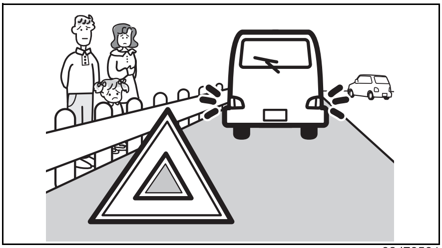
お買い求めのスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。スズキ代理店および JAF の連絡先は、別冊の「**スズキ 4 輪車サービスネットワーク**」をご覧ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

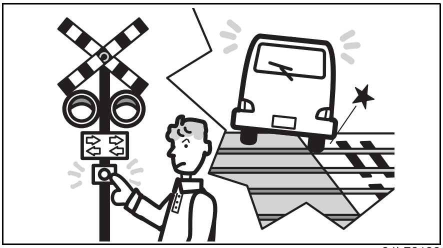
車を路肩などに止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。



全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

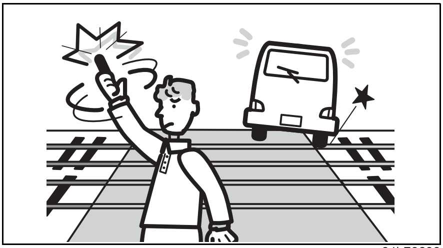
踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



64L70190

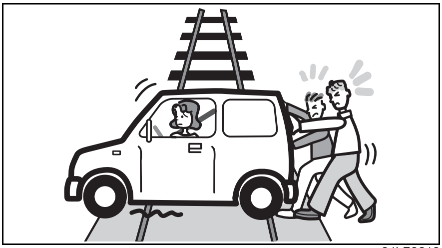
踏切の非常ボタンがわからないときは、発炎筒で列車に合図してください。



64L70200

エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などでエンストして動けなくなったときは、付近の人に押してもらって、車を安全な場所まで移動させてください。
このとき、オートマチック車 はセレクトレバーを N に入れます。マニュアル車 はチェンジレバーをN（ニュートラル）に入れます。



64L70210

アドバイス

マニュアル車、オートマチック車 ともエンジンスイッチを START の位置で保持して緊急避難的に車を動かすことはできません。

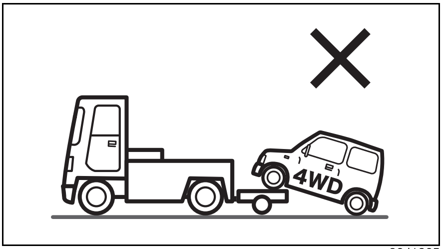
けん引してもらうときは

- レッカー車でけん引するとき、4WD車は必ず４輪を持ち上げてください。2WD車は4輪または駆動輪である前輪を持ち上げてください。
- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- エンジンがかかっていても車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置の故障が考えられます。けん引する前に、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

警告

4WD 車は、前輪だけまたは後輪だけを台車にのせた（車輪が回転できない）状態で絶対にけん引しないでください。車が台車から飛びだすなどの思いがけない事故につながるおそれがあります。また、駆動装置が破損する原因となります。

7



80J1265

ロープけん引

ロープをかける位置は

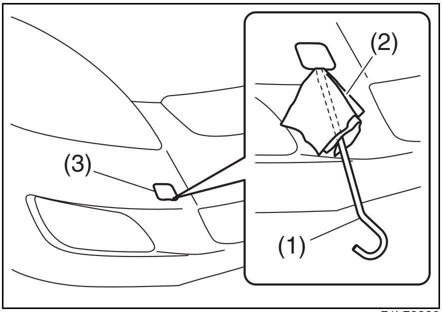
ロープは、けん引フックにかけます。

■ フロント側

1 工具（ジャッキバー、ホイールナットレンチ、けん引フック）を取り出します。

→ **7-2ページ（工具、ジャッキ、応急用スペアタイヤの収納場所）**
→ **7-2 ページ（工具、ジャッキ、タイヤパンク応急修理セットの収納場所）**

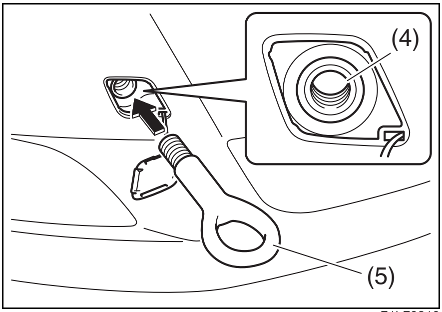
2 けん引フックカバー（3）の切り欠き部に、先端に布（2）をかぶせたジャッキバー（1）を差し込み、カバーをこじて外します。



71L70300

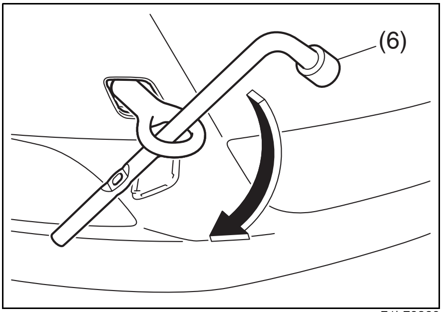
- 上図の車両は代表例です。お車のタイプにより異なります。

3 けん引フック差し込み口（4）にけん引フック（5）を差し込み、手でまわせなくなる程度まで締め付けます。



71L70310

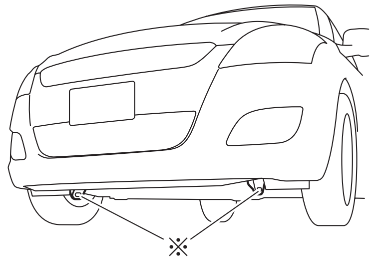
4 ホイールナットレンチ（6）でけん引フックをしっかり締め付けます。



71L70320

注 記

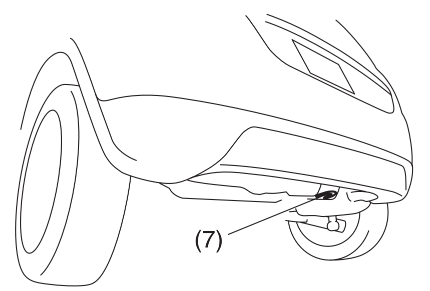
フロント側に装備されている※印のフックは、船積み専用フックです。けん引や積載車などで搬送するときには使用しないでください。フックや車体が破損するおそれがあります。



71L70390

■ リヤ側

この車を一時的に後ろに移動させるときや他車をけん引するときは、けん引フック（船積み用フック兼用）（7）にロープをかけます。



71L70330

- 上図の車両は代表例です。お車のタイプにより異なります。

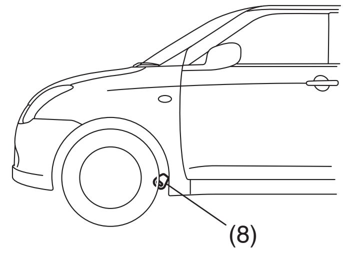
注 記

自車よりも重い車をけん引しないでください。また、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体、駆動装置が損傷するおそれがあります。

■ 積載車用のフックおよび取付け穴

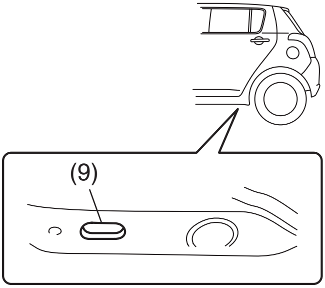
積載車などに載せて搬送する場合は、前輪後部の積載車用フック（8）および後輪前側の積載車用フックの取付け穴（長穴）（9）にロープをかけて固定します。

フロント側



71L70340

リヤ側



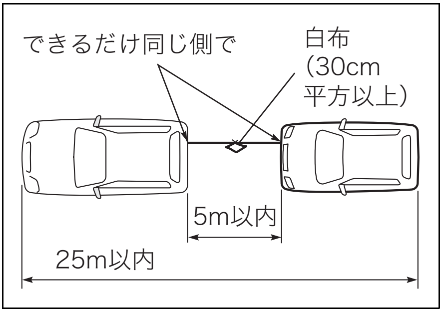
71L70350

ロープでけん引してもらうときは

1 けん引フックにロープをかけます。

- ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平にかけてください。

2 ロープの中間に白い布（30 cm平方以上）をつけます。



80J1266

3 エンジンはかけたままにします。

- エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを LOCK （OFF）以外の位置にします。
- ハンドルを左右にまわして、ハンドルロックが解除されているか確認します。

⚠警告

エンジンがかからない車の運転は

- **エンジンスイッチを LOCK （OFF）の位置にしないでください。ハンドルがロックされてまわせなくなります。**
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、いつもより強めにブレーキペダルを踏んでください。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。**

⚠注意

故障やバッテリーあがりなどでハンドルロックが解除できないときは、ロープでけん引しないでください。

4 オートマチック車 はセレクトレバーを N に入れます。

マニュアル車 はチェンジレバーをN（ニュートラル）に入れます。

アドバイス

オートマチック車 の場合、故障やバッテリーあがりなどで、エンジンスイッチを ON にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーを P から他の位置へ動かせないときは、**4-16 ページ**の手順でシフトロックを解除してください。

5 けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。

- 後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅表示灯を点滅させてください。

⚠警告

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープけん引をせず、レッカー車を依頼してください。エンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

注 記

- **けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。**
- **オートマチック車 をやむをえずロープでけん引してもらうときは、トランスミッション保護のため、速度30 km/h以下、走行距離30 km以内にしてください。**

万一、事故が起きたときは

処置のしかた

1 事故の続発を防ぐため、他の交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、エンジンを止めます。

2 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。

3 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。

4 相手方、事故の状況をメモします。

5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

外傷がなくても医師の診断を受けましょう

後遺症が出るおそれがあります。

MEMO

<table>
<tr><th colspan="2">項　　目</th><th colspan="4">デ　　ー　　タ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">燃料</td><td rowspan="2">使用燃料</td><td>標準車</td><td colspan="3">無鉛レギュラーガソリン</td></tr>
<tr><td>スポーツ車</td><td colspan="3">無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">タンク容量</td><td>2WD車</td><td colspan="3">42 L</td></tr>
<tr><td>4WD車</td><td colspan="3">40 L</td></tr>
<tr><td rowspan="7">エンジンオイル</td><td rowspan="3">グレード</td><td colspan="4">スズキエクスターF SL 5W-30</td></tr>
<tr><td colspan="4">スズキエクスターF SM／GF-4 0W-20</td></tr>
<tr><td colspan="4">適切なオイルのご使用方法については、2-30 ページの「エンジンオイルの規格/粘度」をお読みください。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">規定量</td><td colspan="2" rowspan="2">オイル交換時</td><td>1.2 L車</td><td>2.9 L</td></tr>
<tr><td>1.6 L車</td><td>3.7 L</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">オイル、オイルフィルター同時交換時</td><td>1.2 L車</td><td>3.1 L</td></tr>
<tr><td>1.6 L車</td><td>3.9 L</td></tr>
<tr><td rowspan="7">トランスミッションオイル</td><td rowspan="2">グレード</td><td>MT車</td><td colspan="3">スズキ4輪ギヤオイル 75W-80
(SAE 75W-80、API GL-4相当)</td></tr>
<tr><td>CVT車</td><td colspan="3">スズキCVTFグリーン1（1V）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">規定量</td><td rowspan="2">MT車</td><td>1.2 L車</td><td colspan="2">2.2 L</td></tr>
<tr><td>1.6 L車</td><td colspan="2">1.8 L</td></tr>
<tr><td rowspan="3">CVT車</td><td rowspan="2">1.2 L車</td><td>2WD車</td><td>5.6 L</td></tr>
<tr><td>4WD車</td><td>6.7 L</td></tr>
<tr><td colspan="2">1.6 L車</td><td>6.8 L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">トランスファーオイル（4WD車）</td><td>グレード</td><td colspan="4">スズキ4輪スーパーギヤオイル 75W-85
(SAE 75W-85、API GL-5相当)</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="4">0.65 L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リヤデファレンシャルオイル（4WD車）</td><td>グレード</td><td colspan="4">スズキ4輪スーパーギヤオイル 75W-85
(SAE 75W-85、API GL-5相当)</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="4">0.8 L</td></tr>
<tr><td rowspan="5">冷却水</td><td>グレード</td><td colspan="4">スズキ純正スーパーロングライフクーラント（青色）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">規定量</td><td rowspan="2">MT車</td><td>1.2 L車</td><td colspan="2">4.5 L</td></tr>
<tr><td>1.6 L車</td><td colspan="2">6.4 L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">CVT車</td><td>1.2 L車</td><td colspan="2">4.6 L</td></tr>
<tr><td>1.6 L車</td><td colspan="2">6.4 L</td></tr>
</table>

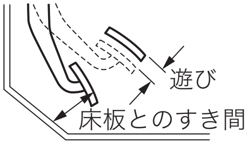
- 油脂類などの交換時期、規定の冷却水濃度は、「**メンテナンスノート**」をご覧ください。
- 指定外のCVTオイルは絶対に入れないでください。

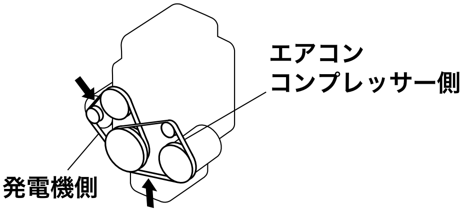
8

項目		データ		
ウォッシャー液	グレード	スズキ純正ウインドーウォッシャー液		
	タンク容量	2.5 L		
ブレーキ液、クラッチ液	グレード	スズキ純正ブレーキフルード(DOT-3)		
スパークプラグ	タイプ	1.2 L車	DENSO：ZXU20PR11（イリジウム）	
		1.6 L車	NGK：SILFR6A11（イリジウム）	
	電極のすき間	1.0～1.1 mm		
バッテリー	タイプ	アイドリングストップシステム非装備車		46B24L
		アイドリングストップシステム装備車		N-55
フロントブレーキ	ディスク厚さ(※)	リヤドラム仕様車	基準値（新品時）	20.0 mm
			限度値	18.0 mm
		リヤディスク仕様車	基準値（新品時）	22.0 mm
			限度値	20.0 mm
リヤブレーキ	ドラム内径(※)	リヤドラム仕様車	基準値（新品時）	200.0 mm
			限度値	202.0 mm
	ディスク厚さ(※)	リヤディスク仕様車	基準値（新品時）	9.0 mm
			限度値	8.0 mm

- 指定外のブレーキ液、クラッチ液は絶対に入れないでください。

※点検して限度値に達していたら、ディスクやドラムを新品に交換してください。なお、点検するには、ブレーキ装置の分解とマイクロメーターやキャリパーゲージによる測定が必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

<table>
<tr><th colspan="2">項　　　目</th><th colspan="4">デ　　ー　　タ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキ
ペダル</td><td>遊び</td><td colspan="4">1～8 mm</td></tr>
<tr><td>床板とのすき間</td><td colspan="4">68 mm以上〔踏み込み力 300 N（31 kgf）〕</td></tr>
<tr><td rowspan="3">クラッチ
ペダル</td><td>遊び</td><td colspan="4">5～10 mm</td></tr>
<tr><td>床板とのすき間</td><td colspan="4">25～55 mm（クラッチが切れたとき）</td></tr>
<tr><td colspan="5">

68H80040</td></tr>
<tr><td>パーキング
ブレーキレバー</td><td>引きしろ</td><td colspan="4">4～9 ノッチ〔操作力 200 N （20 kgf）〕</td></tr>
<tr><td rowspan="9">ファンベルト</td><td rowspan="9">たわみ量
〔100 N
（10 kgf）で
押したとき〕</td><td rowspan="4">エアコン
コンプレッサー側</td><td rowspan="2">1.2 L車</td><td>新品時</td><td>6～7 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>7～8 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1.6 L車</td><td>新品時</td><td>6.5～7.5 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>8～9 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="4">発電機側</td><td rowspan="2">1.2 L車</td><td>新品時</td><td>3～3.5 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>4～4.5 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1.6 L車</td><td>新品時</td><td>4～4.5 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>4.5～5.5 mm</td></tr>
<tr><td colspan="4">

63J80010</td></tr>
<tr><td>ハンドル</td><td>遊び</td><td colspan="4">0～30 mm（ホイール外周）</td></tr>
<tr><td>タイヤ</td><td>ローテーション時期</td><td colspan="4">5,000 km走行ごと</td></tr>
</table>

8

■ 電球の容量

名称			ワット数（型式）
ヘッドライト	ハロゲン車		60/55 W(H4)
	ディスチャージ車		35 W(D2S)
車幅灯			5 W(W5W)
方向指示器／非常点滅表示灯	前面	ハロゲン車	21 W(PY21W)
		ディスチャージ車	21 W(WY21W)
	側面(※)	フェンダー	5 W
		ドアミラー	LED
	後面		21 W(PY21W)
制動灯／尾灯			21/5 W(P21/5W)
後退灯		標準車	21 W(P21W)
		スポーツ車	16 W(W16W)
番号灯			5 W×2(W5W)
フロントマップランプ			5 W×2
室内灯			10 W
ラゲッジルームランプ			5 W
ハイマウントストップランプ		標準車	5 W×5(W5W)
		ルーフエンドスポイラー装備車（※）	LED
フォグランプ			55 W(H11)

※側面の方向指示器／非常点滅表示灯、ルーフエンドスポイラー装備車のハイマウントストップランプは、ランプ本体の交換となります。

■ タイヤ／ホイール

指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。

タイヤの空気圧

<table>
<tr><th>タイヤの種類</th><th>機種</th><th>タイヤサイズ</th><th colspan="2">空気圧</th></tr>
<tr><td rowspan="3">標準タイヤ</td><td rowspan="2">標準車</td><td rowspan="2">175/65R15 84H
185/55R16 83V</td><td>前輪</td><td>250 kPa(2.5 kgf/cm^2)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後輪</td><td rowspan="2">220 kPa(2.2 kgf/cm^2)</td></tr>
<tr><td>スポーツ車</td><td>195/45R17 81W</td></tr>
<tr><td rowspan="2">応急用スペアタイヤ</td><td rowspan="2">標準車</td><td>T125/70D17</td><td colspan="2" rowspan="2">420 kPa(4.2 kgf/cm^2)</td></tr>
<tr><td>T135/70D15</td></tr>
</table>

ホイールのサイズ

タイヤ	適合ホイール		
	リムサイズ	インセット	取付ピッチ円直径(PCD)
175/65R15 84H	15×5J	40 mm	100 mm
185/55R16 83V	16×6J	45 mm	100 mm
195/45R17 81W	17×6 1/2J	50 mm	114.3 mm

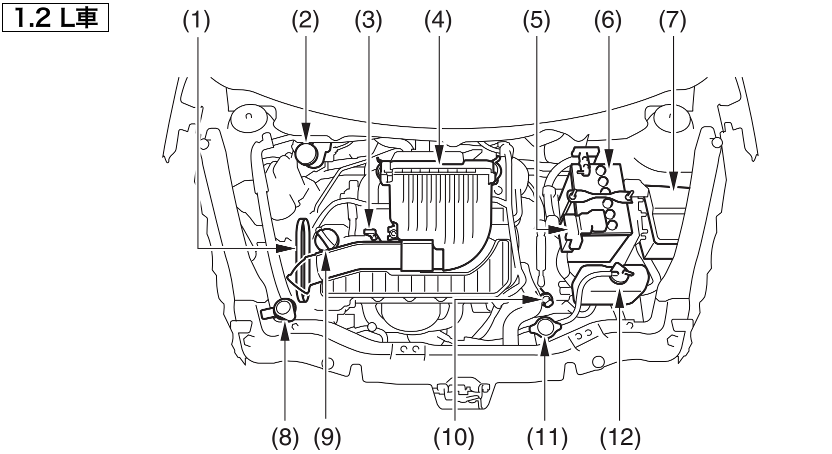
タイヤチェーン

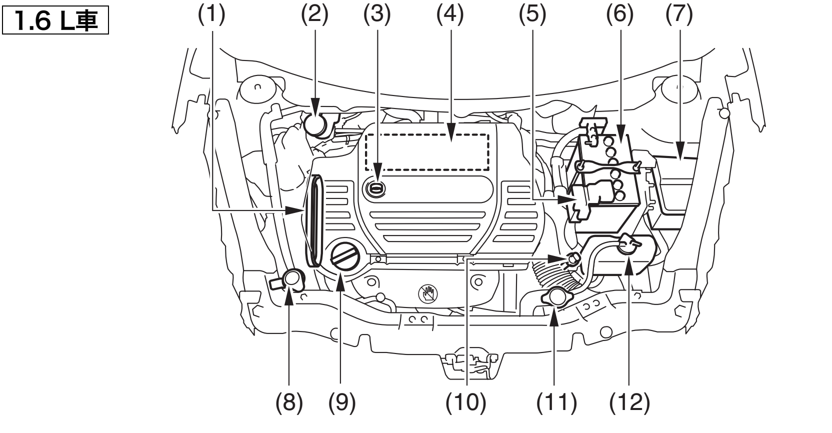
この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

8

エンジンルームをのぞいて

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。





71LN0801

太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

(1) ファンベルト
(2) **ブレーキフルードリザーバータンク(※)**
(3) **エンジンオイルレベルゲージ**
(4) エアクリーナー
(5) メインヒューズボックス
(6) **バッテリー**
(7) リレーボックス
(8) **ウォッシャータンク**
(9) エンジンオイルフィラーキャップ
(10) CVTオイルレベルゲージ
(11) ラジエーターキャップ
(12) **冷却水リザーバータンク**

※MT車の場合、クラッチオイルリザーバータンクは、ブレーキフルードリザーバータンクと共用になっています。

次の機能は、必ず初期設定してください

項目	機能	初期設定が必要なとき
パワーウインドー → **3-18ページ**	はさみ込み防止機能 → **3-20ページ**	バッテリー端子やヒューズ（**7-23 ページ**参照）を外すなどしたとき

こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます

セキュリティーアラーム以外の設定切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

項目	機能	初期設定（工場出荷時）	設定切替え時
キーレスプッシュスタートシステム	キーレスプッシュスタートシステムの各発信機の機能 → **2-27ページ**	あり	なし
	携帯リモコン電池消耗警告灯の点灯（約15秒間） → **3-12ページ**	あり	なし
	携帯リモコン検出範囲外警告ブザーの吹鳴（1回） → **4-6ページ、4-10ページ**	なし	あり
アンサーバック機能 → **3-9ページ**	非常点滅表示灯／室内灯による合図	非常点滅表示灯/室内灯	室内灯のみ
	車外ブザーによる合図	あり	なし
セキュリティアラーム → **3-15ページ**	セキュリティアラームモード	警報モード	警報なしモード
エコドライブインジケーター（タイプ別装備） → **3-69ページ**	エコドライブインジケーターの点灯	あり	なし
方向指示器スイッチ	レーンチェンジ機能の設定切替え → **3-79ページ**	3回点滅	1～4回点滅

MEMO

数字

4WD車の運転 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-25

A

ABS（アンチロックブレーキシステム）
　警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-64、4-30
　装置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-28
ACC表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-68、4-4

C

CDプレーヤー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-12
CRUISE表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-68
CVT（運転）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-20
CVT（セレクトレバー） ・・・・・・・・・・・ 4-14

E

EDR（イベントデータレコーダー）
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-58
ENG A-STOP OFFスイッチ・・・・・・ 4-39
ENG A-STOP警告灯 ・・・・・・・ 3-67、4-35
ENG A-STOPシステム
　（アイドリングストップシステム）
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-35
ENG A-STOP表示灯 ・・・・・・・ 3-69、4-35
ESP®・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-31
ESP® OFFスイッチ ・・・・・・・・・・・・・ 4-33
ESP® OFF表示灯・・・・・・・・・・・3-68、4-34
ESP®作動表示灯・・・・・・・・・・・3-68、4-32

I

IG ON表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3-68、4-4
ISOFIX ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-29
ISOFIXアンカー ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-29
ISOFIX対応チャイルドシート
　固定専用金具・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-29

M

M（マニュアル）モード表示 ・・3-71、4-17

R

R（リバース）ポジション
　警告ブザー ・・・・・・・・・・・・・・・2-22、4-20

S

S（スポーツ）モードスイッチ・・・・・・ 4-16
S（スポーツ）モード表示・・・・・3-71、4-17
SET表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-68
SRSエアバッグ警告灯
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-39、3-57、3-63
SRSエアバッグシステム ・・・・2-23、3-47

ア

アームレスト（ひじ掛け）・・・・・・・・・・ 5-56
アイドリングストップシステム
　（ENG A-STOPシステム）・・・・・・ 4-35
アクセサリーソケット ・・・・・・・・・・・ 5-49
アシストグリップ ・・・・・・・・・・・・・・・ 5-56
アルミホイール
　タイヤ交換の準備 ・・・・・・・・・・・・・・ 7-5
　タイヤチェーン ・・・・・・・・・・・・・・・ 6-12
アンサーバック機能 ・・・・・・・・・・・・・・ 3-9
アンテナ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-11

イ

イベントデータレコーダー
　(EDR) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-58
イモビライザー警告灯 ・・・・・・・ 3-66、4-3
イモビライザーシステム ・・・・・・・・・・ 4-3
インパネアッパーボックス ・・・・・・・ 5-50
インパネトレー ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-51
インパネボックス ・・・・・・・・・・・・・・・ 5-50
インフォメーションディスプレイ ・・・ 3-69

ウ

ウインドー
　ウインドーロックスイッチ ・・・・・3-19
　後席ウインドー ・・・・・・・・・・・・・・・・3-20
　バックウインドーガラスの
　　手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-4
　パワーウインドー ・・・・・・・・・・・・・3-18
　フロントウインドーガラスの
　　手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-3
ウェアインジケーター ・・・・・・・・・・・・ 6-5
ウォッシャー液 ・・・・・・・・・・6-7、8-2、8-6
ウォッシャースイッチ ・・・・・・・・・・・・3-79
運転席に座って ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-9

エ

エアコン、ヒーター
　オートエアコン ・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-4
　吹出し口 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-2
エコドライブ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-30
エコドライブインジケーター ・・・・・3-69
エンジンオイル
　・・・・・・・・・・・・・・2-29、2-30、3-65、8-1
エンジン回転計（タコメーター）・・・3-59
エンジン警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・3-65
エンジンスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-2
エンジンスイッチ照明 ・・・・・・・・・・・・ 4-5
エンジンスイッチもどし忘れ
　警告ブザー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4-12
エンジンのかけかた ・・・・・・・・・・・・・・ 4-8
エンジンフード（ボンネット）・・・・・5-44
エンジンブレーキ ・・・・・・・・・・・・・・・2-14
エンジンルームをのぞいて ・・・・・・・・ 8-6
エンジンをかけるときは ・・・・・・・・・2-11
エンジンを止めるときは ・・・・・・・・・4-10
エンスト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-33

オ

オイル（エンジンオイル）
　・・・・・・・・・・・・・・・ 2-29、2-30、3-65、8-1
応急用スペアタイヤ
　収納場所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-2
　取り出しかた、取扱い・・・・・・・・・・・・7-3
オーディオ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-10
オートエアコン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-4
オートマチック車
　運転・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-21
　セレクトレバー・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-14
オートライトシステム・・・・・・・・・・・ 3-75
オートレベリング警告灯・・・・・・・・・ 3-64
オーバーヒート・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-31
お子さま用シートの
　シートベルトによる固定・・・・・・・ 3-40
お子さま用シートの選択について
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-42
お子さまを乗せるときは・・・・・・・・・・・・2-5
オドメーター（積算距離計）・・・・・・・ 3-73

カ

外気導入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-7
外装のお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6-2
ガソリン（燃料）・・・・・・・・・・・・・ 2-21、8-1
可倒式アシストグリップ・・・・・・・・・ 5-56
仮眠するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-18
ガレージジャッキ・・・・・・・・・・・・・・・・・7-8
冠水した場所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-16
寒冷時の取扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6-7

キ

キースイッチ（エンジンスイッチ）・・・4-2
キーナンバープレート・・・・・・・・・・・・・3-2
キーレスエントリー・・・・・・・・・・・・・・・3-8
キーレスプッシュスタート
　システム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4-4
キックダウン・・・・・・・・・・・・・・ 4-19、4-23
キャップホルダー・・・・・・・・・・・・・・・ 5-44
ギヤポジション表示・・・・・・・・・・・・・ 3-71
給油・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-20、5-43、8-1

ク

空気圧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8-5
区間距離計（トリップメーター）・・・ 3-71
くもり取り（デフロスター）・・・・・・・・・5-8
くもり取り（リヤデフォッガー）・・・ 3-81
クラッチスタートシステム・・・・・・・・・4-9
クリープ現象・・・・・・・・・・・・・・2-22、4-19
クルーズコントロール・・・・・・・・・・・ 4-25
　CRUISE表示灯 ・・・・・・・・・・3-68、4-26
　スイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-26
　SET表示灯・・・・・・・・・・・・・・3-68、4-27
車のお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6-2
グローブボックス・・・・・・・・・・・・・・・ 5-51

ケ

警告灯・表示灯の見かた・・・・・・・・・・ 3-61
警告ブザー
　R（リバース）ポジション
　　警告ブザー・・・・・・・・・・・・2-22、4-20
　エンジンスイッチもどし忘れ
　　警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-12
　警告ブザーが鳴ったときは・・・・・・・1-9
　携帯リモコン検出範囲外
　　警告ブザー・・・・・・・・・・・・・ 4-6、4-10
　シートベルト警告ブザー・・・・・・・ 3-35
　パーキングブレーキ解除忘れ
　　警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-13
　ハンドルロック未作動
　　警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-12
　ライト消し忘れ警告ブザー・・・・・ 3-75
　リクエストスイッチ未作動
　　警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-13
携帯電話・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-13
携帯リモコン・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-10
携帯リモコン車外持ち出し警告・・・・・4-7
携帯リモコン電池消耗警告灯・・・・・ 3-12
携帯リモコン閉じ込み防止機能・・・ 3-14
携帯リモコンの電池交換・・・・・・・・・・・6-6
警報装置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-15
けん引・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-33

コ

工具 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-2
光軸調整ダイヤル ・・・・・・・・・・・・・・・3-77
後席シート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-28
航続可能距離 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-71
故障したときは ・・・・・・・・・・・・・・・・・7-32
コンソールボックス ・・・・・・・・・・・・・5-52

サ

サービスデータ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-1
サンバイザー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-46

シ

シートアンダートレー ・・・・・・・・・・・5-54
シートバックポケット ・・・・・・・・・・・5-54
シートヒーター（運転席・助手席）・・3-27
シートベルト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-34
シートベルト可変フォース
　リミッター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-40
シートベルト警告灯 ・・・・・・・・・・・・・3-62
シートベルト警告ブザー ・・・・・・・・・3-35
シートベルトプリテンショナー ・・・3-39
事故が起きたときは ・・・・・・・・・・・・・7-37
室内灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-47
シフトダウンの上限速度
　マニュアル車 ・・・・・・・・・・・・・・・・・4-13
シフトロック ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4-15
ジャッキ（収納場所）・・・・・・・・・・・・・ 7-2
ジャッキアップ
　（タイヤチェーン）・・・・・・・・・・・・・6-13
ジャッキアップ（パンクしたとき）・・ 7-6
集中ドアロック
　（パワードアロック）・・・・・・・・・・・・ 3-6
充電警告灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-66
樹脂部品などの手入れ ・・・・・・・・・・・・ 6-4
出発の前に ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-2
ジュニアシート ・・・・・・・ 2-6、3-40、3-52
瞬間燃費 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-71
ショッピングフック ・・・・・・・・・・・・・5-55

9

ス

水温計 ･･････････････････････････ 3-60
スタック（立ち往生） ･････････････ 2-16
ステアリングオーディオ
　スイッチ ･････････････････････ 5-41
スノーブレード ･････････････････ 6-8
スピードメーター（速度計） ･･････ 3-59
スペアタイヤ（応急用スペアタイヤ）
　収納場所 ･････････････････････ 7-2
　取り出しかた、取扱い ･･･････････ 7-3
スポーツ車がパンクしたときは ･･･ 7-11
スポーツ車のお子さま用シートの
　選択について ･････････････････ 3-42
スポーツモードスイッチ ･････････ 4-16
スポーツモード表示 ･････････････ 4-17

セ

積算距離計（オドメーター） ･･････ 3-73
セキュリティアラーム ･･･････････ 3-15
セキュリティアラーム
　インジケーター ･･･････････････ 3-17
セレクトレバー
　操作 ･････････････････････････ 4-14
セレクトレバー位置表示 ･････････ 3-71
洗車 ･･････････････････････････ 6-2
前照灯（ヘッドライト） ･･･････3-75、8-4
前席シート ･････････････････････ 3-25
前席シートヒータースイッチ ･････ 3-27

ソ

走行中の注意 ･･･････････････････ 2-12
速度計（スピードメーター） ･･････ 3-59

タ

タイマーロック機能 ･････････････ 3-9
タイヤ
　応急修理したあとは ･･･････････ 7-18
　応急修理のしかた ･････････････ 7-12
　空気圧 ･･･････････････････････ 8-5
　交換したあとは ･･･････････････ 7-11
　交換するときは･････････････････6-5
　交換の準備･････････････････････7-5
　チェーン･･････････････････ 6-12、8-5
　パンク応急修理セット･･････････ 7-11
　冬用タイヤ･････････････････････ 6-10
　ホイールのサイズ･･･････････････8-5
　ローテーション･･････････････6-4、8-3
　輪止め･･･････････････････ 2-17、6-8
タコメーター（エンジン回転計）･･･ 3-59
立ち往生（スタック）･････････････ 2-16
暖機運転････････････････････････ 2-31

チ

チェーン（タイヤチェーン）･･･ 6-12、8-5
チケットホルダー
　（サンバイザー）････････････････ 5-46
チャイルドシート･･････2-6、3-40、3-52
チャイルドシート固定専用金具･･･ 3-29
チャイルドプルーフ･･･････････････3-7
駐車するときは･･･････2-17、4-24、6-10

テ

デアイサースイッチ･･･････････････ 3-82
停止表示板･･･････････････････････ 7-32
ディスチャージヘッドライト
　････････････････････････ 7-26、8-4
デフロスター･････････････････････5-8
テレスコピック＆チルト
　ステアリング･･･････････････････ 3-24
電球
　電球の交換（ランプ類）･････････ 7-25
　電球の点検･････････････････････ 7-25
　ワット数（ランプ類）････････････8-4
点検････････････････････ 2-2、8-1、8-2
電源が切り替わらないときは･･･････4-6
電源の切替え･････････････････････4-5
電池交換（携帯リモコン）･･････････6-6

ト

ドア……3-3
ドアの開閉……3-2
ドアポケット……5-53
ドアミラー……3-22
ドアミラー角度調節スイッチ……3-22
ドアミラー格納スイッチ……3-23
ドアミラーヒータースイッチ……3-24
ドアロック解除機能……3-7
凍結防止剤……6-2、6-11
凍結路……6-9
時計(時計合わせ)……5-17
登降坂変速制御……4-20
トラクションコントロール……4-31
トランスミッション警告灯……3-66
トリップメーター(区間距離計)……3-71
ドリンクホルダー……5-52

ナ

内気循環……5-7
内装のお手入れ……6-4

ニ

日常点検……2-2

ネ

燃費
　瞬間燃費……3-71
　平均燃費……3-71
燃料……2-21、8-1
燃料給油口……5-43
燃料計……3-60
燃料残量警告灯……3-63
燃料タンク容量……8-1

ハ

パーキングブレーキ
　解除忘れ警告ブザー……4-13
　寒冷時の取扱い……6-10
　操作……4-12
　ブレーキ警告灯……3-62
ハイドロプレーニング現象……2-16
ハイマウントストップランプ
　……7-30、8-4
はさみ込み防止機構……3-20
発炎筒……7-32
バックウインドーガラスの
　室内側の手入れ……6-4
バックミラー(ルームミラー)……3-22
バッテリー……2-3
バッテリーあがり……7-18
パドルシフトスイッチ……4-17
バニティーミラー
　(サンバイザー)……5-47
ハロゲンヘッドライト……7-26、8-4
パワーウインドー……3-18
パワーステアリング警告灯……3-65
パワードアロック……3-6
パンク
　応急修理のしかた……7-12
　タイヤ交換……7-5
番号灯……7-29、8-4
半ドア警告灯……3-67
ハンドルロックが
　解除できないときは……4-3
ハンドルロック未作動警告ブザー
　……4-12

ヒ

ヒーター(エアコン)
　オートエアコン……5-4
　吹出し口……5-2
非常点滅表示灯……7-27、7-28、8-4
非常点滅表示灯スイッチ……3-79
必読！……2-2
ヒューズ切れ……7-20
日よけ(サンバイザー)……5-46
ヒルホールドコントロール……4-34

フ

ブースターケーブル ･･････････････ 7-18
フォグランプ ････････････････7-27、8-4
フォグランプスイッチ ･･････････････ 3-77
プッシュ表示灯 ･･･････････････････ 3-68
フットレスト ･････････････････････ 5-55
フューエルキャップ ･･････････････ 5-43
フューエルリッド ････････････････ 5-43
フルホイールキャップ(取付け) ･･･ 7-11
フルホイールキャップ(取外し) ････ 7-6
ブレーキ
　ブレーキアシスト ･･････････････ 4-31
　ブレーキ液 ････････････････････ 8-2
　ブレーキ警告灯 ････････････････ 3-62
　ブレーキ倍力装置 ･･ 2-14、4-11、7-36
フロントシート ･･････････････････ 3-25
フロントマップランプ ････････････ 5-49
フロントワイパー／ウォッシャー
　スイッチ ･･････････････････････ 3-79

ヘ

平均燃費 ･･････････････････････ 3-71
ペースメーカー ･･････････････････ 2-27
ヘッドライト(前照灯)
　･･････････････････････ 3-74、7-26、8-4
ヘッドライト上向き(ハイビーム)
　表示灯 ･･･････････････････････ 3-67
ヘッドレスト
　後席 ･････････････････････････ 3-28
　前席 ･････････････････････････ 3-26
ベビーシート ･････････ 2-6、3-40、3-52

ホ

ホイールキャップ(取付け)･･･････ 7-11
ホイールキャップ(取外し)･･････････7-6
ホイールサイズ･････････････････････8-5
方向指示器･････････････････ 7-27、8-4
方向指示器スイッチ･･････････････ 3-78
方向指示器表示灯･････････････････ 3-67
ホーンスイッチ･･････････････････ 3-81
ボンネット･･････････････････････ 5-44

マ

マニュアルモードの使いかた･････ 4-17
万一のとき･･････････････････････7-1

ミ

ミラー
　ドアミラー････････････････････ 3-22
　バニティーミラー･･････････････ 5-47
　ルームミラー･･････････････････ 3-22

メ

メーター
　インフォメーションディスプレイ
　　･･･････････････････････････ 3-69
　警告灯･表示灯の見かた････････ 3-61
　照明･･････････････････････････ 3-60
　メーターの見かた･･････････････ 3-59

ユ

油圧警告灯･･････････････････････ 3-65
雪道を走行するとき･･････････････6-9

ヨ

横風が強いときは･･･････････････ 2-15

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー・・・・・・・ 3-75
ライトスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-74
ラゲッジシェルフ（荷室カバー）・・ 5-58
ラゲッジボード・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-56
ラゲッジルームランプ・・・・・・・・・・・ 5-48
ラジエーターキャップ・・・・・・・ 7-31、8-6
ランプ
　室内灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-47
　電球の交換（ランプ類）・・・・・・・・・ 7-25
　ハイマウントストップランプ
　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-30、8-4
　番号灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-29、8-4
　非常点滅表示灯・・・・・・3-79、7-27、8-4
　フォグランプ・・・・・・・・3-77、7-27、8-4
　フロントマップランプ・・・・・・・・・ 5-49
　ヘッドライト・・・・・・・・3-74、7-26、8-4
　方向指示器・・・・・・・・・・3-78、7-27、8-4
　ラゲッジルームランプ・・・・・・・・・ 5-48
　リヤコンビネーションランプ
　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-29、8-4
　ワット数、型式（ランプ類）・・・・・・・・8-4

リ

リクエストスイッチ・・・・・・・・・・・・・ 3-12
リクエストスイッチ未作動
　警告ブザー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-13
リクライニングレバー・・・・・・・・・・・ 3-26
リジッドラック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-8
リバース（R）ポジション警告ブザー
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-22、4-20
リヤ（後席）シート・・・・・・・・・・・・・・・ 3-28
リヤコンビネーションランプ
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-29、8-4
リヤデフォッガースイッチ・・・・・・・ 3-81
リヤワイパー/ウォッシャースイッチ
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-80

ル

ルーフ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-59
ルーフアンテナ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-11
ルーフモールカバー・・・・・・・・・・・・・ 5-59
ルームミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-22
ルームランプ（室内灯）・・・・・・・・・・・ 5-47

レ

冷却水（ラジエーター液）
　オーバーヒート・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-31
　寒冷時の取扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-7
　規定量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-1
レーンチェンジ機能・・・・・・・・・・・・・ 3-79

ワ

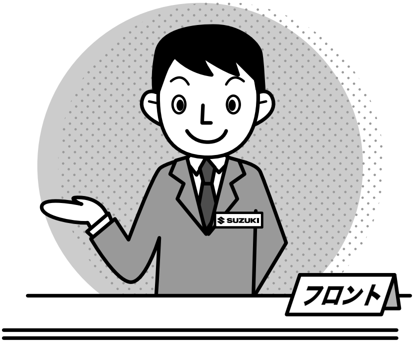
ワイパー
　寒冷時の取扱い・・・・・・・・・・・・6-8、6-11
　ワイパースイッチ・・・・・・・・・・・・・・ 3-80
ワックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-2

MEMO

お問い合わせ、ご相談は

お車のことや、車検・点検などのアフターサービスについてのお問い合わせやご相談がございましたら

まずは、お買い求めいただきましたスズキ販売店またはスズキ代理店にお尋ねください。



スズキ代理店にお問い合わせやご相談をいただくときは、別冊の「**スズキ4輪車サービスネットワーク**」に記載してありますお近くの代理店にお気軽にご連絡ください。
お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするため、あらかじめ、お手元に車検証をご準備いただき、次の事項をご確認のうえ、ご連絡願います。

①車名、車台番号、ナンバープレートの番号など
②ご購入年月日
③走行距離
④ご相談内容
⑤お客様のご住所、お名前、お電話番号